

**令和5年度
犯罪被害類型別等調査**

調査結果報告書

警察庁長官官房犯罪被害者等施策推進課

目次

第1章 調査概要.....	1
1-1. 調査の背景・目的.....	1
1-2. 企画分析会議.....	1
1-3. 調査方法.....	1
1-4. 調査期間.....	1
1-5. 調査対象.....	2
1-6. 調査項目.....	4
1-7. 回収結果.....	5
1-8. 報告書を読む際の留意点.....	7
1-9. 調査結果概要.....	9
第2章 調査結果.....	13
2-1. 回答者の基本属性.....	13
2-2. 被害の状況.....	22
2-3. 犯罪被害者等と一般対象者との比較.....	32
2-4. 犯罪被害類型別の特徴.....	39
2-5. 通報・相談状況.....	63
2-6. 児童虐待の被害状況.....	90
2-7. 配偶者暴力・ストーカー行為等の再被害の状況.....	94
2-8. 被害と加害者との関連.....	106
2-9. 被害の構造に関する考察.....	115
2-10. 加害者による損害賠償状況.....	121
2-11. 回復状況とその影響要因.....	130
2-12. 支援・制度の利用状況とニーズ.....	138
2-13. 犯罪被害者等からのコメント（自由回答）.....	155
第3章 付属資料（アンケート調査票）.....	157
3-1. スクリーニング調査票.....	157
3-2. 犯罪被害者等調査票.....	166
3-3. 一般対象者調査票.....	192

第1章 調査概要

1-1. 調査の背景・目的

本調査は、第4次犯罪被害者等基本計画に基づき、犯罪被害類型に応じて犯罪被害者等が置かれている状況等、犯罪被害者等が同一の加害者から再被害を受けている実態やそのおそれ等、犯罪被害者等が損害賠償を受けることができない状況の実態について調査を実施するものであり、同計画に盛り込まれた施策の更なる推進や、今後の各府省庁における施策の企画・立案等の検討に活用することを目的とする。

1-2. 企画分析会議

本調査の企画及び分析は、次の企画分析会議構成員による議論・検討に基づき実施した。企画分析会議は全4回開催された。

座長 辰野 文理（国士舘大学法学部教授）

委員 井野 敬子（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所行動医学研究部室長）

熊谷 明彦（弁護士）

齋藤 梓（上智大学総合人間科学部心理学科准教授）

島田 貴仁（科学警察研究所犯罪行動科学部犯罪予防研究室長）

白岩 祐子（埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科准教授）

中土 美砂（被害者支援都民センター犯罪被害相談員、交通事故被害者遺族）

関口 真美（警察庁長官官房参事官（犯罪被害者等施策担当））

（敬称略、所属及び役職名は、令和6年3月時点のものである）

1-3. 調査方法

一般生活者を対象に、インターネット上に公開した調査票に既存のモニターがアクセスして回答するインターネット調査（Web調査）によって実施した。

インターネット調査はスクリーニング調査及び本調査の2段階で実施した。まず、スクリーニング調査で、本調査における犯罪被害者やその家族・遺族の条件に適合しているか否かと犯罪等被害の類型を質問した。本調査の条件に適合した回答者を調査対象の「犯罪被害者等」、犯罪等被害を受けた経験がないとする回答者を「一般対象者」とし、犯罪被害者等及び一般対象者に本調査をそれぞれ実施した。

※倫理的配慮

本調査は、国士舘大学倫理委員会の承認を受けた（承認番号：R5-06）。調査の実施に当たり、協力が任意であること、得られた情報の目的外使用の禁止、調査への回答はいつでも中止できること等について、事前に画面上で説明し、同意を得られた人のみを対象とした。また、調査によって回答者が精神的な不調を感じた場合への対応として、調査票末尾に複数の相談先を記載した。

1-4. 調査期間

令和5年12月15日（金）～令和6年1月7日（日）

1-5. 調査対象

インターネットによる調査モニター（20歳以上）から抽出した、次のいずれかに当てはまる方を対象とした。

(1) 犯罪被害者等

過去に次のいずれかの犯罪等被害にあったと回答した本人又は遺族（遺族にあつては交通事故、暴力被害のみ）の方。

<犯罪被害類型>

1. 財産被害
2. 配偶者暴力
3. ストーカー行為等
4. 児童虐待
5. 性的な被害
6. 交通事故
7. 暴力被害

犯罪被害類型のそれぞれの定義は下表のとおり。

犯罪被害類型の定義

類型		定義
1. 財産被害	窃盗	以下のような形で、他人に金品を盗まれた。 <ul style="list-style-type: none"> ・スリ ・置き引き ・車上荒らし ・空き巣 など
	詐欺	以下のような形で、他人にだまされ、金品を奪われたり、損害を与えられたりした。 <ul style="list-style-type: none"> ・架空料金請求詐欺 ・オレオレ詐欺（振込詐欺） ・フィッシング詐欺 ・ロマンス詐欺 など
	強盗・恐喝等	以下のような形で、他人に金品を奪われた。 <ul style="list-style-type: none"> ・住居や店舗に押し入られる ・ひったくり ・カツアゲ など

<p>2. 配偶者暴力 (配偶者からの暴力 (DV))</p>	<p>配偶者 (夫や妻のこと。事実婚の関係にある方を含む) から以下のような暴力や心身に悪影響を及ぼす言動をされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 殴られる、蹴られる、物を投げつけられる、突き飛ばされる ・ 人格を否定するような暴言、交友関係や行き先・電話・メール・SNSなどの細かい監視、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫 ・ 生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害される ・ 嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像などを見せられる、避妊に協力しない など 				
<p>3. ストーカー行為等</p>	<p>以下のような、好意あるいはそれが満たされなかったことに対する恨みを持つ特定の他者からのつきまとい行為により、身体の安全や心の平穏が著しく害される不安を覚えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 望んでいない面会・交際・復縁を要求された ・ 謝罪、金銭など、応じなくてもよいことを要求された ・ 暴言や脅迫を受けた ・ 自宅や職場などに大量のメールやメッセージを送付されたり、連続の電話をされたりした ・ 自宅・職場・学校へ押しかけられたり、待ち伏せされたりした ・ 見ている、監視していると告げられた ・ 望んでいないプレゼントや嫌がらせをするための物を送付された ・ 中傷する文書をまかれたり、貼り紙をされたりした など 				
<p>4. 児童虐待</p>	<p>18歳になるまでの間に、同居する保護者から以下のような虐待を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あざや傷ができるような暴力を振るわれた ・ 性的な行為や接触をされた、あるいはさせられた ・ 1日以上食事を与えてもらえなかったり、長時間屋外に放置されたりした ・ 繰り返し大声で怒鳴られたり、話しかけても無視されたりした ・ 自分の目の前で父親または母親がその配偶者または親族に暴力を振るった など 				
<p>5. 性的な被害</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="368 1597 580 1688"> <p>痴漢等</p> </td> <td data-bbox="580 1597 1453 1688"> <p>以下のような形で、痴漢などの被害にあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 痴漢、盗撮、のぞき、露出にあった </td> </tr> <tr> <td data-bbox="368 1688 580 1912"> <p>無理矢理性交 (無理矢理にされたまたは同意のない性交など)</p> </td> <td data-bbox="580 1688 1453 1912"> <p>以下のような形で、無理矢理または同意なく性行為をされたり、性的な接触をされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無理矢理にまたは同意なく性交をされた (肛門性交、口腔性交、陰茎を除く身体の一部または物を挿入する場合を含む) ・ 無理矢理にまたは同意なく性的に身体を触られた、触らせられた </td> </tr> </table>	<p>痴漢等</p>	<p>以下のような形で、痴漢などの被害にあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 痴漢、盗撮、のぞき、露出にあった 	<p>無理矢理性交 (無理矢理にされたまたは同意のない性交など)</p>	<p>以下のような形で、無理矢理または同意なく性行為をされたり、性的な接触をされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無理矢理にまたは同意なく性交をされた (肛門性交、口腔性交、陰茎を除く身体の一部または物を挿入する場合を含む) ・ 無理矢理にまたは同意なく性的に身体を触られた、触らせられた
<p>痴漢等</p>	<p>以下のような形で、痴漢などの被害にあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 痴漢、盗撮、のぞき、露出にあった 				
<p>無理矢理性交 (無理矢理にされたまたは同意のない性交など)</p>	<p>以下のような形で、無理矢理または同意なく性行為をされたり、性的な接触をされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無理矢理にまたは同意なく性交をされた (肛門性交、口腔性交、陰茎を除く身体の一部または物を挿入する場合を含む) ・ 無理矢理にまたは同意なく性的に身体を触られた、触らせられた 				

6. 交通事故	けが (死亡した場合以外)	交通事故で治るまでに1週間以上かかるけがを負った。
	死亡 (死亡した場合)	交通事故で家族が死亡した。
7. 暴力被害	けが (暴力被害 (殺人未遂も 含む))	「2. 配偶者暴力」及び「4. 児童虐待」以外の暴力により、治るまでに1週間以上かかるけがを負った。
	死亡 (殺人等)	以下のような暴力犯罪(「6. 交通事故」のうち「死亡」を除く)で家族が死亡した。 ・殺人 ・傷害致死 ・強盗致死 など

なお、「財産被害」は、本調査から新たに追加した類型であり、それ以外の6つの類型は、平成29年度犯罪被害類型別調査と同様の定義としている。

(2)一般対象者

過去において犯罪等被害を受けた経験がないと回答した方(グラフ・表においては「一般」と記載)。

1-6. 調査項目

(1)スクリーニング調査

- 基本属性について
- 犯罪等被害の経験について
- 被害時の通報・相談について

(2)本調査

- 受けた被害について
- 被害時の通報・相談について
- 児童虐待の被害について
- 配偶者暴力、ストーカー行為等の被害について(再被害状況について)
- 被害によるけがの状況について
- 身体状態・精神状態について
- 被害による経済的な影響について
- 事件後から現在までの生活状況の変化について
- 事件後に受けた支援や使った制度について
- 事件後に関わった人から受けた言動について

1-7. 回収結果

配信（調査告知）数・・・508,190人

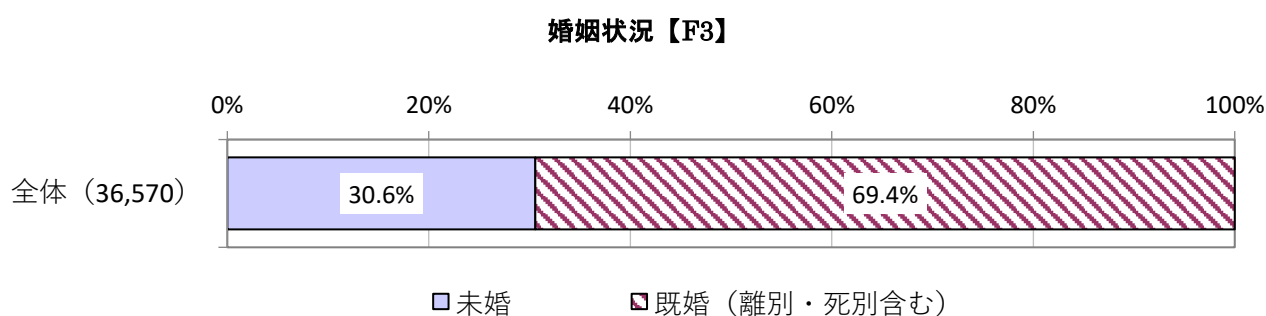
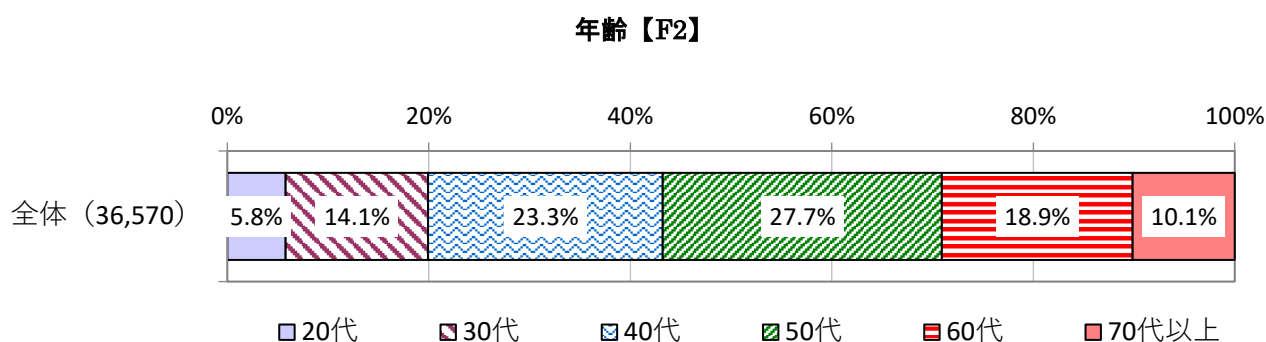
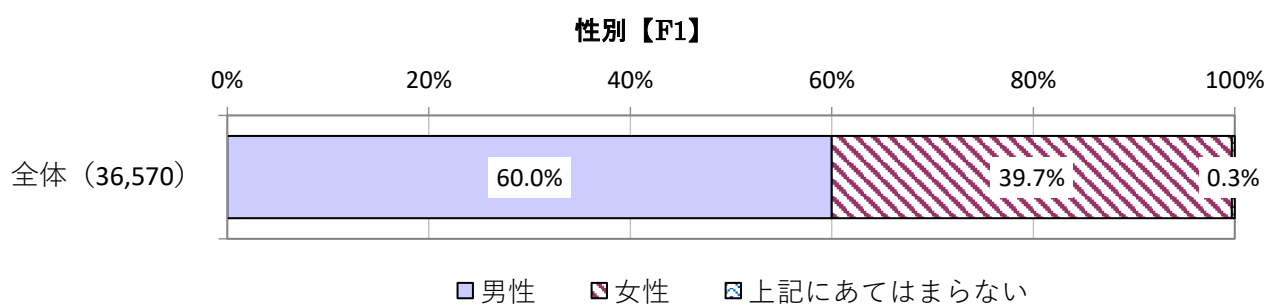
スクリーニング調査回答数・・・43,330人

スクリーニング調査有効回答数・・・40,066人

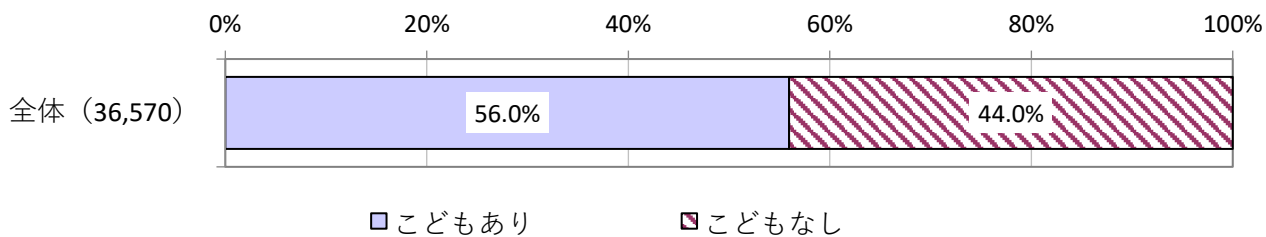
本調査有効回答数・・・1,670人

●スクリーニング調査回答者の概要

※各図表の「全体（36,570）」の数値は、スクリーニング調査回答数（43,330人）から、本件への回答協力を同意しなかった方及び調査の対象者年齢条件（20歳以上）を満たさなかった方を除いた数。



子の有無【F4】



職業【F5】

全体	会社勤務 (一般社員)	会社勤務 (管理職)	会社経営 (経営者・役員)	公務員・教 職員・非営 利団体職 員	派遣社員・ 契約社員	自営業(商 工サービ ス)	SOHO
36,570	9,298 (25.4%)	2,556 (7.0%)	723 (2.0%)	1,696 (4.6%)	2,330 (6.4%)	1,648 (4.5%)	351 (1.0%)
	農林漁業	専門職(弁 護士・税理 士・医療関 連)	パート・ア ルバイト	専業主婦・ 主夫	学生	無職	その他職 業
	166 (0.5%)	917 (2.5%)	5,373 (14.7%)	4,030 (11.0%)	362 (1.0%)	6,430 (17.6%)	690 (1.9%)

●本調査有効回答数の詳細

本調査有効回答数

回答者属性・犯罪被害類型		有効回答数	内訳
犯罪被害者等	財産被害	139	窃盗 80 詐欺 45 強盗・恐喝等 14
	配偶者暴力	114	—
	ストーカー行為等	125	—
	児童虐待	109	—
	性的な被害	119	痴漢等 90 無理矢理性交 29
	交通事故	104	けが 96 死亡 8
	暴力被害	109	けが 96 死亡 13
	(犯罪被害者等小計)	819	—
一般対象者	851	—	
合計	1,670	—	

1-8. 報告書を読む際の留意点

- 調査結果の数値は回答率(%)で示している。%の母数はその質問に回答した数又は分類別(類型別)の数で、「(○)」又は「N=○○」で表している。
- 割合は、一部を除き、小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位までを示している。よって、回答数が1つだけの質問であっても、回答比率の合計値が100.0%にならない場合がある。また、複数回答の質問は、回答比率の合計値が100.0%を超える場合がある。
- 回答者が設問に誤って回答していると考えられる場合があるが、その場合であっても、集計時の調整等を行っていない。
- 有効回答数が十分ではなく、統計上有意な数値であるとは言えないものについては、参考情報として位置付けている。
- 本文やグラフ・数表上の選択肢の表記に当たり語句を簡略化している場合がある。正確な表現は巻末にある調査票を参照のこと。
- 本調査における「犯罪被害者等」とは、「犯罪被害者等基本法」における「犯罪被害者等」を指す。すなわち、犯罪等により害を被った者及びその家族又は遺族を指し、加害者の別、害を被ることとなった犯罪等の種別、故意犯・過失犯の別、事件の起訴・不起訴の別、解決・未解決の別、犯罪等を受けた場所その他による限定を一切していない。
- K6について
調査結果において掲載されているK6とは、うつ病、不安障害に対するスクリーニング尺度である。2002年に米国のKesslerらが項目反応理論に基づき提案、日本語版は同年に名古屋市立大学大学院医学研究科教授の古川らが翻訳して¹、国民生活基礎調査でも用いられている。6つの設問の合計値(合計24)が高いほど精神健康に問題がある可能性が高くなり、合計値13点以上では重症精神障害の診断に該当する可能性が高いとされ、7~12点では軽度精神障害の可能性ありとされている。本調査では、アンケート調査票のQ34において、過去30日間に「神経過敏に感じた」、「絶望的だと感じた」、「そろそろ落ち着かなく感じた」、「気分が沈みこんで、何が起こっても気が晴れないように感じた」、「何をやるのも骨折りだと感じた」、「自分は価値のない人間だと感じた」の6つの設問に対する回答選択肢について、「全くない」=0、「少しだけ」=1、「ときどき」=2、「たいてい」=3、「いつも」=4とスコア化し、各回答のスコアを合算して得点を算出している。
- UCLA 孤独感尺度について
調査結果において掲載されているUCLA 孤独感尺度²とは、孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定するための尺度である。1978年にカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)のRussellが考案した尺度であり、本調査においては、「UCLA 孤独感尺度」の日本語版³の3項目短縮版⁴

¹ Furukawa TA, Kawakami N, Saitoh M, Ono Y, Nakane Y, Nakamura Y, Tachimori H, Iwata N, Uda H, Nakane H, Watanabe M, Naganuma Y, Hata Y, Kobayashi M, Miyake Y, Takeshima T & Kikkawa T (2008) The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. *International Journal of Methods in Psychiatric Research*, 17(3), 152-158.

² Russell DW. UCLA Loneliness Scale (Version 3): Reliability, Validity, and Factor Structure. *Journal of Personality Assessment*. 1996;66(1):20-40.

³ 舛田ゆづり, 田高悦子, 他: 高齢者における日本語版 UCLA 孤独感尺度(第3版)の開発とその信頼性・妥当性の検討, *日本地域看護学会誌*. 15(1): 25-32, 2012.

⁴ Arimoto A & Tadaka E: Reliability and validity of Japanese versions of the UCLA loneliness scale version 3 for use among mothers with infants and toddlers: a cross-sectional study. *BMC Women's Health*. 2019;19:105.

に基づき、3つの設問への回答をスコア化し、その合計スコアが高いほど孤独感が高いと評価する。本調査では、アンケート調査票のQ36において、「自分には人との付き合いがないとすることがある」、「自分は取り残されているとすることがある」、「自分は他の人たちから孤立していると感じることがある」の3つの設問に対する回答選択肢について、「決してない」=1、「ほとんどない」=2、「時々ある」=3、「常にある」=4とスコア化し、各回答のスコアを合算して得点を算出している。

1-9. 調査結果概要

【2-1】回答者の基本属性、【2-2】被害の状況については、それぞれ第2章を参照されたい。

【2-3】犯罪被害者等と一般対象者との比較

- 犯罪被害者等は、一般対象者と比較して、転居、休学・休職、中退・転校、辞職・転職、家族間不和、長期入院、別居・離婚等との回答比率が高く、生活や対人関係への影響がうかがえる。
- 犯罪被害者等は、一般対象者と比較して、過去30日間に身体上の問題を感じたとの回答比率が高く、一般対象者よりも高い割合で身体上の問題を抱えている。
- 犯罪被害者等は、一般対象者と比較して、過去30日間に精神的な問題や悩みを感じたとの回答比率、重症精神障害相当の状態に達している比率、孤独感を感じている比率が高い上、直近1年間で仕事や日常生活を行えなかったと感じた日数も多く、一般対象者よりも高い割合で精神的な問題を抱えている。
- 犯罪被害者等は、一般対象者と比較して、生活に困難を感じているとの回答比率が高い。

【2-4】犯罪被害類型別の特徴

- 事件と関連がある生活上の変化について、配偶者暴力は別居・離婚(36.0%)、ストーカー行為等(以下「ストーカー」という。)は中退・転校や辞職・転職(23.2%)、児童虐待は家庭間不和(31.2%)、交通事故、暴力被害は休学・休職(それぞれ25.0%、22.9%)が最も多くなっている。
- 過去30日間に身体上の問題を感じたとの回答比率は、暴力被害(45.9%)、配偶者暴力(40.4%)、児童虐待(38.5%)の順で高く、事件と関連があるとする割合は、ストーカー(55.5%)、性的な被害(38.7%)、暴力被害(36.0%)の順で高い。
- 過去30日間に精神的な問題や悩みを感じたとの回答比率は、配偶者暴力(51.8%)、暴力被害(49.5%)、児童虐待(45.9%)の順で高く、事件と関連があるとする割合は、児童虐待(58.0%)、ストーカー(54.2%)、配偶者暴力(50.8%)の順で高い。直近1年間で仕事や日常生活を行えなかったと感じた日数は、児童虐待(50.0日)、暴力被害(44.2日)の順で多い。
- 経済的状況について、配偶者暴力、暴力被害、児童虐待では、生活に困難を感じている割合が他類型と比較して高い傾向がみられる。

【2-5】通報・相談状況

- 警察への通報率は、交通事故(83.6%)が最も高く、次いで財産被害(62.5%)となっている。一方、児童虐待(3.7%)、性的な被害(10.9%)、配偶者暴力(15.7%)では低い。また、加害者と面識のある場合に通報率が低くなっている。
- 被害にあった際の相談状況について、犯罪被害者等全体で44.2%がどこにも(誰にも)相談していないと回答しており、その割合は、犯罪被害類型別にみると、児童虐待(84.4%)、性的な被害(51.3%)、配偶者暴力(50.9%)の順で高く、被害の時期別にみると、10年以上前(50.7%)、10年前から3年前の間(30.8%)、3年以内(25.5%)と近年になるほど低くなっている。最初に相談した相手・機関は、多くの類型で家族との回答比率が高い。
- 被害にあってから最初に通報・相談するまでに要した期間は、交通事故、性的な被害、財産被害、暴

力被害は1日未満との回答比率が高い。一方、ストーカーでは1週間以上1か月未満、児童虐待では3年以上との回答比率が高い。

- 警察に通報・相談しなかった理由について、児童虐待、性的な被害では低年齢であったため、配偶者暴力では警察に相談するほどの被害ではなかったからとの回答比率が最も高い。また、どこにも（誰にも）相談しなかった理由についても、児童虐待、性的な被害、配偶者暴力では同様の回答比率が高い。
- 警察を含む関係機関・団体に通報・相談しやすくなるための条件について、ストーカー、配偶者暴力、性的な被害、児童虐待では守秘性を重視する回答が多い。さらに、女性の場合は、男性に比べ、希望する性別の職員に対応してもらえること、周りの人に知られずに相談できることとの回答比率が高い。地方公共団体や民間の機関・団体等に対しては、無料相談できることとの回答も多い。
- 事件後に気持ちが傷つけられた相手について、児童虐待、配偶者暴力、暴力被害では家族・親族との回答比率が高く、配偶者暴力では加害者関係者との回答比率も高くなっている。また、事件後に精神的・情緒的に支えられた相手については、いずれの類型でも家族・親族、友人・知人との回答比率が高い。

【2-6】児童虐待の被害状況

- 児童虐待の加害者は、父（50.5%）、母（27.5%）が多くを占める。
- 自分以外に被害にあっていた人は、49.5%がいないと回答しており、被害者としては兄弟姉妹（38.5%）、母（27.5%）との回答比率が高い。
- 虐待に気づいていた人は、母（37.6%）、兄弟姉妹（28.4%）、祖父母（11.9%）の順で回答比率が高い。一方、気づいていた人がいないとの回答比率も35.8%と高くなっている。
- 虐待に気づいていた人の介入状況について、72.9%が介入者はいないと回答しており、介入者としては母（15.7%）、祖父母（5.7%）、兄弟姉妹（4.3%）の順で回答比率が高い。

【2-7】配偶者暴力・ストーカー行為等の再被害の状況

- 被害後の対処行動について、配偶者暴力では自衛のための行動はとっていない（36.0%）、別居・離婚した（34.2%）、ストーカーでは自分が相手に働きかけた（26.4%）、自分以外の人に相手に働きかけてもらった（25.6%）との回答比率が高い。
- 警察への通報率は、配偶者暴力で15.7%、ストーカーで32.0%、行政への相談率は、配偶者暴力で3.5%、ストーカーで1.6%となっている。また、通報・相談を受けて警察や行政がとった対応は、配偶者暴力では措置を希望しなかった（31.8%）、ストーカーでは警察が加害者を呼び出して警告した（33.3%）との回答比率が最も高い。
- 警察や行政に通報・相談した後に再被害を受ける不安を感じたとの回答比率は、配偶者暴力で95.5%、ストーカーで85.7%と非常に高くなっている。また、再被害を受けたとの回答比率は、配偶者暴力で63.6%、ストーカーで40.5%となっている。

【2-8】被害と加害者との関連

- 加害者の属性について、財産被害、交通事故では知らない人・わからない人、配偶者暴力では配偶者・交際相手、児童虐待では家族が大多数を占める。ストーカーでは知人・友人・職場・学校の関係者、

知らない人・わからない人、性的な被害では知らない人・わからない人、知人・友人・職場・学校の関係者の順に多く、暴力被害では加害者構成が多様である。また、配偶者暴力、児童虐待では、加害者が家族である場合に被害が長期化している傾向がうかがえる。

- 警察への通報率は、加害者が家族の場合（15.6%）に最も低く、知人・友人・職場・学校の関係者、配偶者・交際相手、知らない人・わからない人の順に高くなっている。また、加害者が家族の場合にはどこにも（誰にも）相談をしなかったとの回答も多い（72.7%）。
- 被害からの回復状況について、半分以上回復したとの回答比率は、加害者が家族の場合（62.6%）に最も低くなっている。

【2-9】被害の構造に関する考察

- 身体上の問題が事件に関係している、あるいは、精神的な問題が事件に大いに関係していると認識している回答者は、重症精神障害相当の状態に達している比率、孤独感を感じている比率、仕事や日常生活が行えなかった日数ともに高い数値となっている。
- 身体上の問題と事件が関係していると認識している回答者は、精神的な問題と事件が関連しているとの回答比率も高くなっており（逆も同様）、事件に関する身体上の問題と精神的な問題が相互に密接に関連していることがうかがえる。

【2-10】加害者による損害賠償状況

- 事件に関連して受領した給付、支給、賠償について、犯罪被害者等全体で79.9%がいずれも受けていないと回答しており、加害者からの賠償（加害者側保険の支払を除く）を受けたとの回答比率は3.1%にとどまっている。
- 加害者側との損害賠償に関する訴訟・交渉等について、犯罪被害者等全体で88.0%が訴訟・交渉等を行っていないと回答しており、その割合は、被害の時期別にみると、10年以上前（91.5%）、10年前から3年前の間（81.8%）、3年以内（76.5%）と近年になるほど低くなっている。訴訟・交渉等を行って賠償額が定まった回答者のうち賠償が支払われた割合は、半分以上支払われたとの回答比率が32.2%、全く支払われていないとの回答比率が18.6%となっている。
- 訴訟・交渉等を行っていない又は合意に至らなかった場合の加害者側の賠償の支払状況について、93.2%が支払なしと回答している。また、訴訟・交渉等を行わなかった理由は、手続がわからなかったから（32.5%）、加害者側と関わりたくないから（27.6%）との回答比率が高くなっている。

【2-11】回復状況とその影響要因

- 被害からの回復状況について、多くの類型で半分以上回復したとの回答が約8～9割を占める中、児童虐待は65.1%にとどまっており、児童虐待、暴力被害、配偶者暴力では、回復度が2割以下との回答比率が他の類型に比べて高い。
- 加害者との関係別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、加害者が無関係の人・知らない人、交際相手・元交際相手等の場合に高い一方、父、母等の場合には比較的低くなっている。また、加害者との面識がない回答者は、面識がある回答者と比較して、回復度が高い。
- 生活上の変化別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、学校や職場・地域の人々との関係が親

密になった、結婚した、こどもが生まれた、転居したなどとの回答がある場合に高くなっている。

- 経済的状況に関する意識別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、生活にとっても困っているとの回答の場合は59.1%であり、他の場合と比べて低くなっている。
- 相談の有無別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、相談経験がある場合が87.6%であるのに対し、相談経験のない場合は80.6%となっている。

【2-12】支援・制度の利用状況とニーズ

- 支援を受けた／制度を利用した機関・団体について、犯罪被害者等全体で74.8%がいずれの機関・団体の支援も受けていない／制度も使っていないと回答しており、その割合は、被害の時期別にみると、10年以上前（82.0%）、10年前から3年前の間（58.7%）、3年以内（56.1%）と近年になるほど低くなっている。支援を受けた／制度を利用した機関・団体は、警察（16.6%）が最も多く、次いで医療機関（3.3%）、弁護士会（2.7%）となっている。
- 被害直後に必要とした支援・配慮、現在必要としている支援・配慮は、ともに、どのような支援・配慮が必要かわからなかった（それぞれ46.0%、43.6%）との回答比率が最も高い。被害直後の具体的な支援・配慮としては、事件・被害に関する話を聞いてもらう（20.1%）、警察・検察との応対の手助け・付添い（12.5%）、精神的な支援（9.0%）の順で回答比率が高い。
- 総合的対応窓口について、犯罪被害者等における認知度は15.6%であり、一般対象者における認知度は2.8%である。利用状況は、犯罪被害者等全体で、窓口を知っていた方のうち、16.4%が利用したと回答している。犯罪被害者等における認知度及び利用率は、被害の時期別にみると、ともに近年になるほど高くなっている。

第2章 調査結果

2-1. 回答者の基本属性

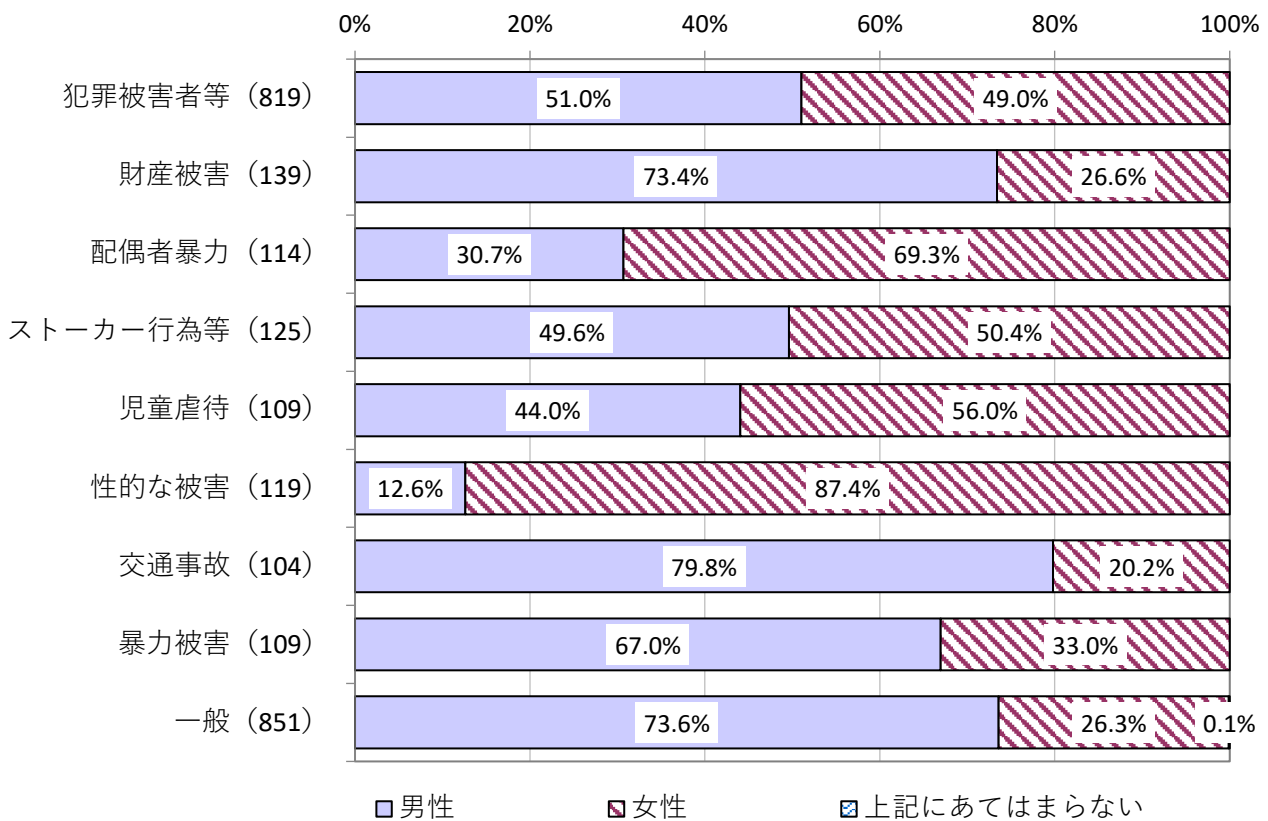
回答者の基本属性として、性別、年齢、婚姻状況、子の有無、職業、被害で亡くなった方との関係について分析する。

(1)性別

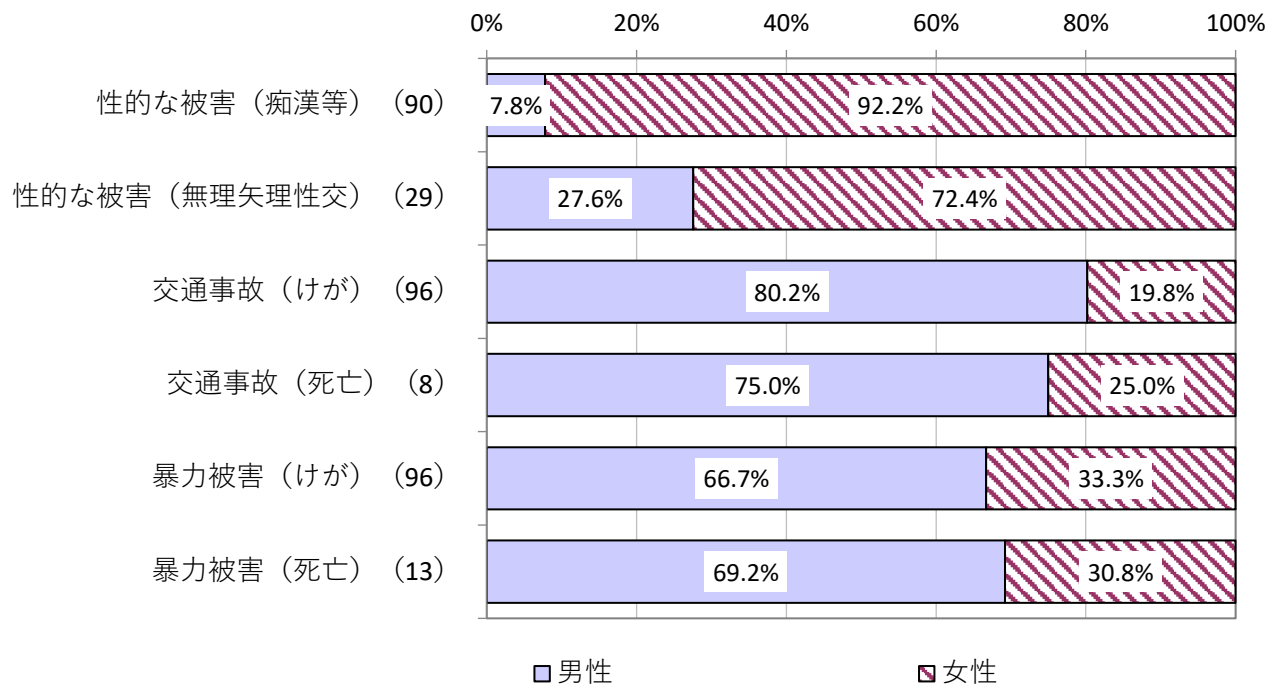
回答者の性別について、犯罪被害類型別にみると、女性が占める比率は、性的な被害（87.4%）、配偶者暴力（69.3%）、児童虐待（56.0%）、ストーカー（50.4%）で高い。一方、男性が占める比率は、交通事故（79.8%）、財産被害（73.4%）、暴力被害（67.0%）で高い。

一般対象者では、男性が73.6%、女性が26.3%となっている（図表1-1）。

図表 1-1 回答者属性別、性別【SC1/SC3、F1】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

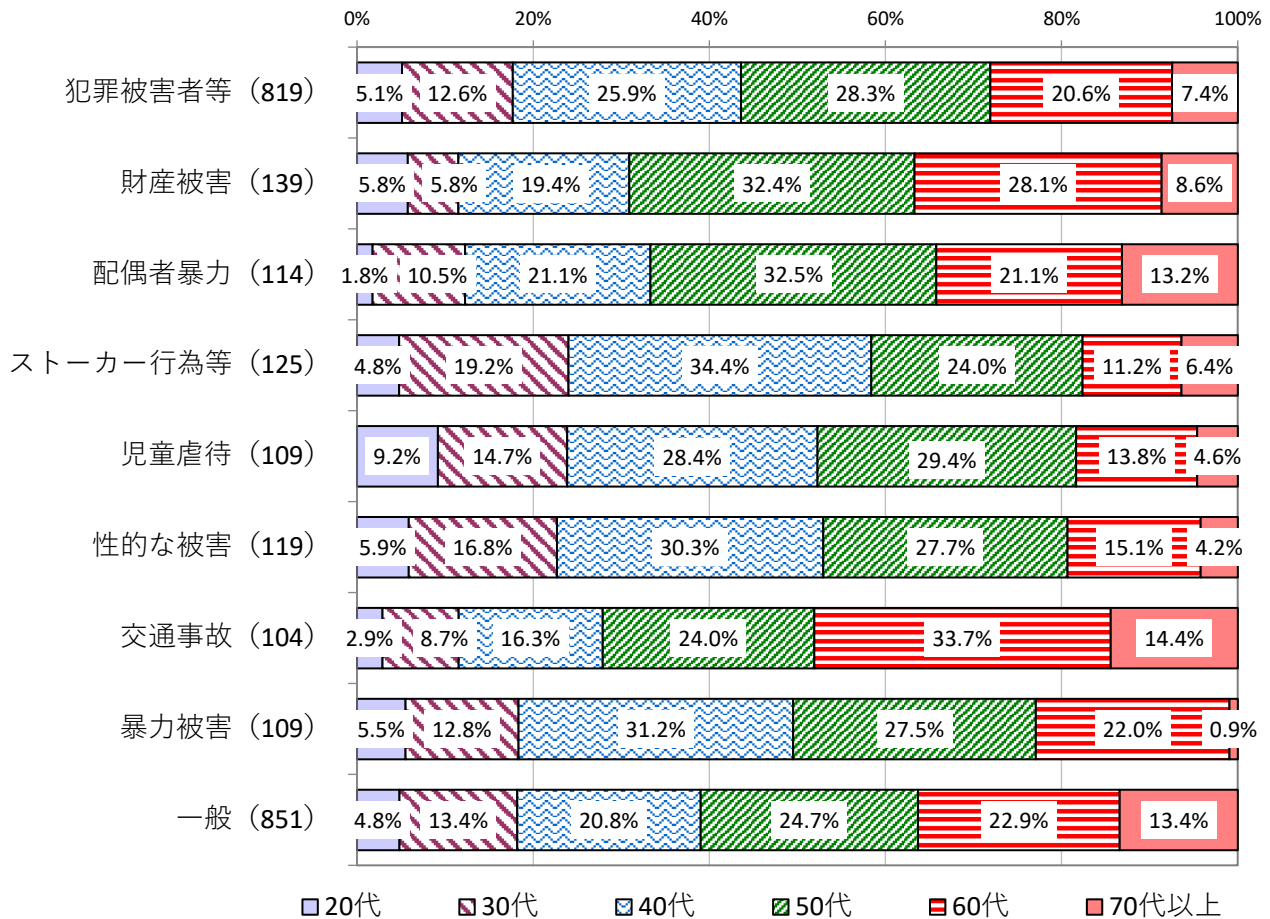


(2)年齢

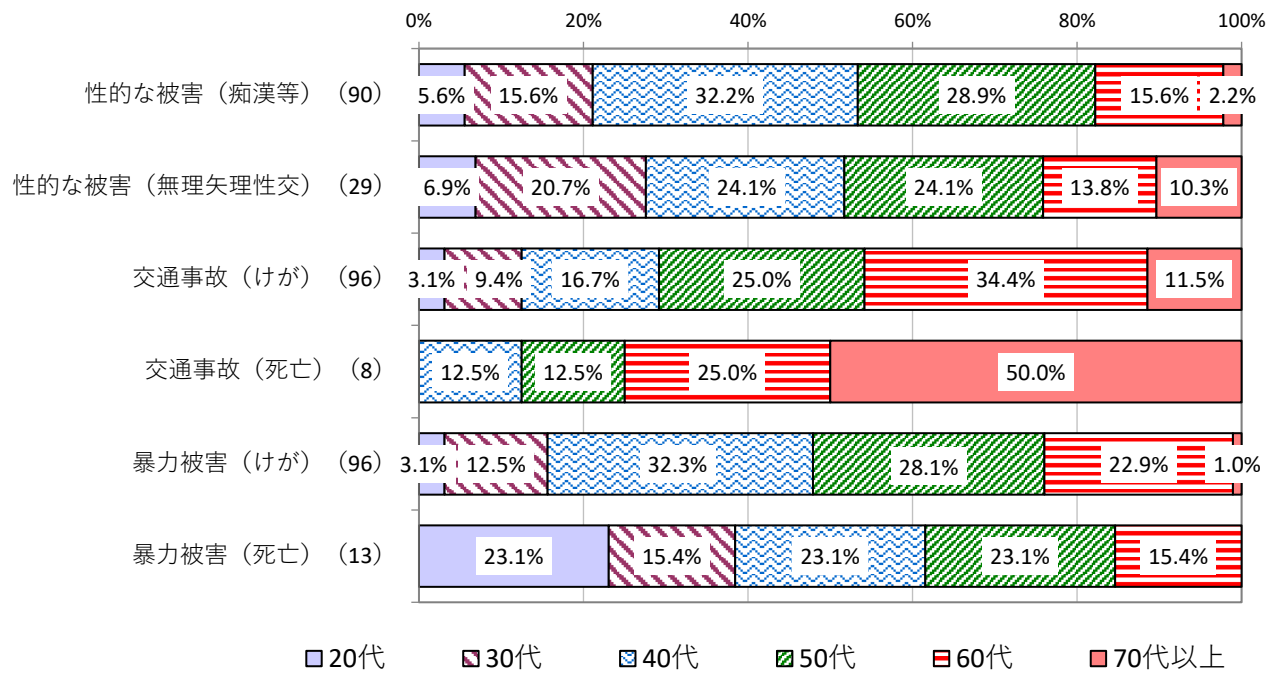
回答者の年齢について、犯罪被害類型別にみると、ストーカー、児童虐待、性的な被害、暴力被害で年齢が比較的若い一方、交通事故、財産被害、配偶者暴力は年齢が高い。

一般対象者では、各世代が比較的均等に回答している（図表 1-2）。

図表 1-2 回答者属性別、年齢【SC1/SC3、F2】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

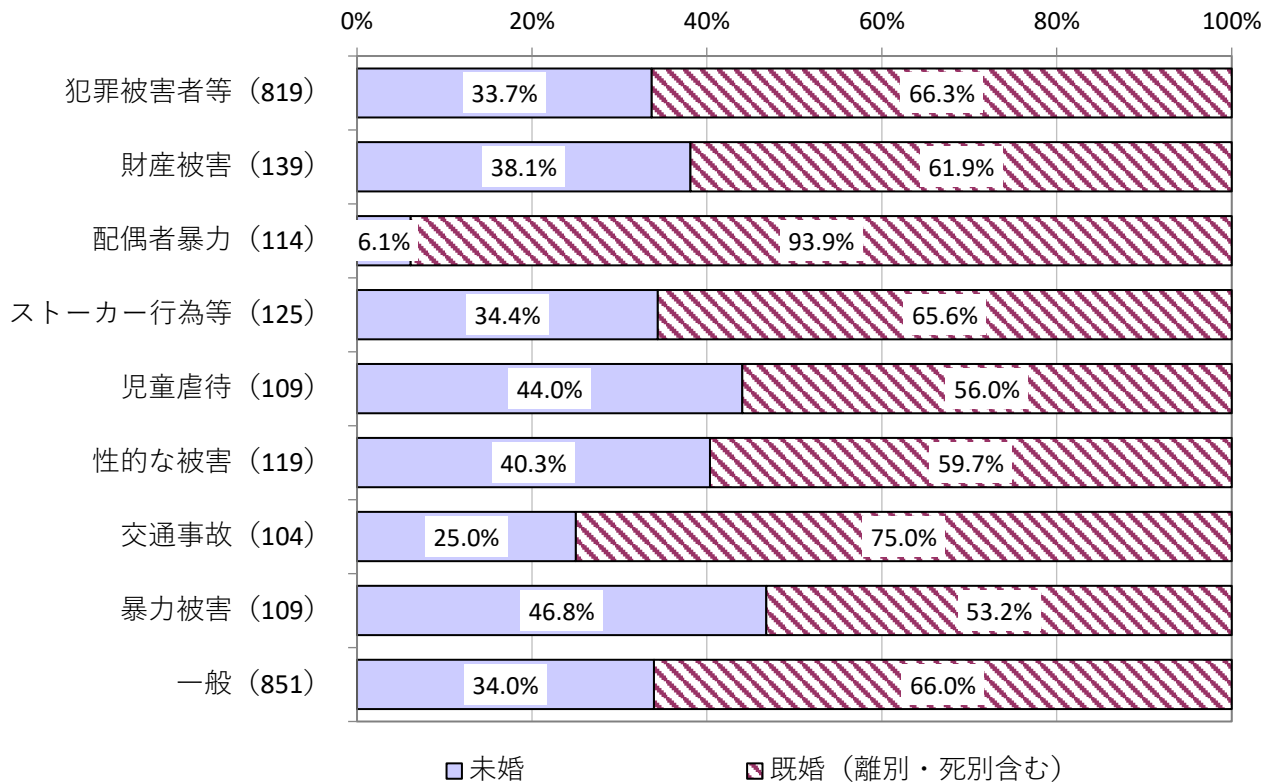


(3) 婚姻状況

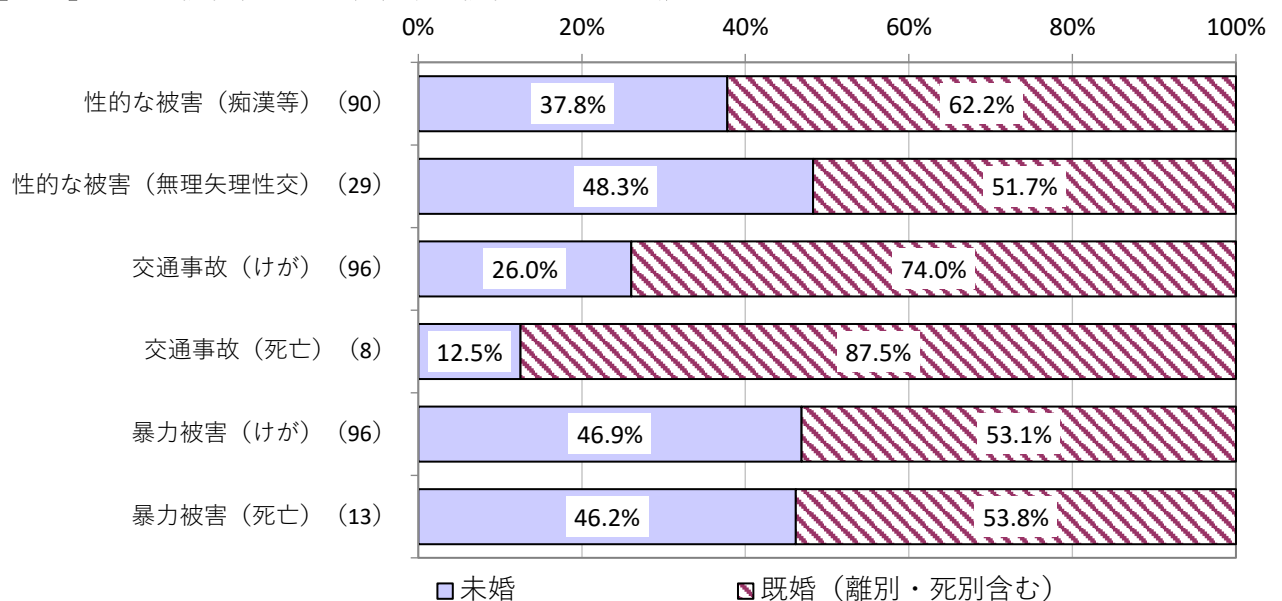
回答者の婚姻状況について、犯罪被害類型別にみると、未婚者が最も多いのは暴力被害（46.8%）であり、既婚者が最も多いのは配偶者暴力（93.9%）である。

一般対象者では、未婚者が34.0%、既婚者が66.0%となっている（図表1-3）。

図表 1-3 回答者属性別、婚姻状況【SC1/SC3、F3】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

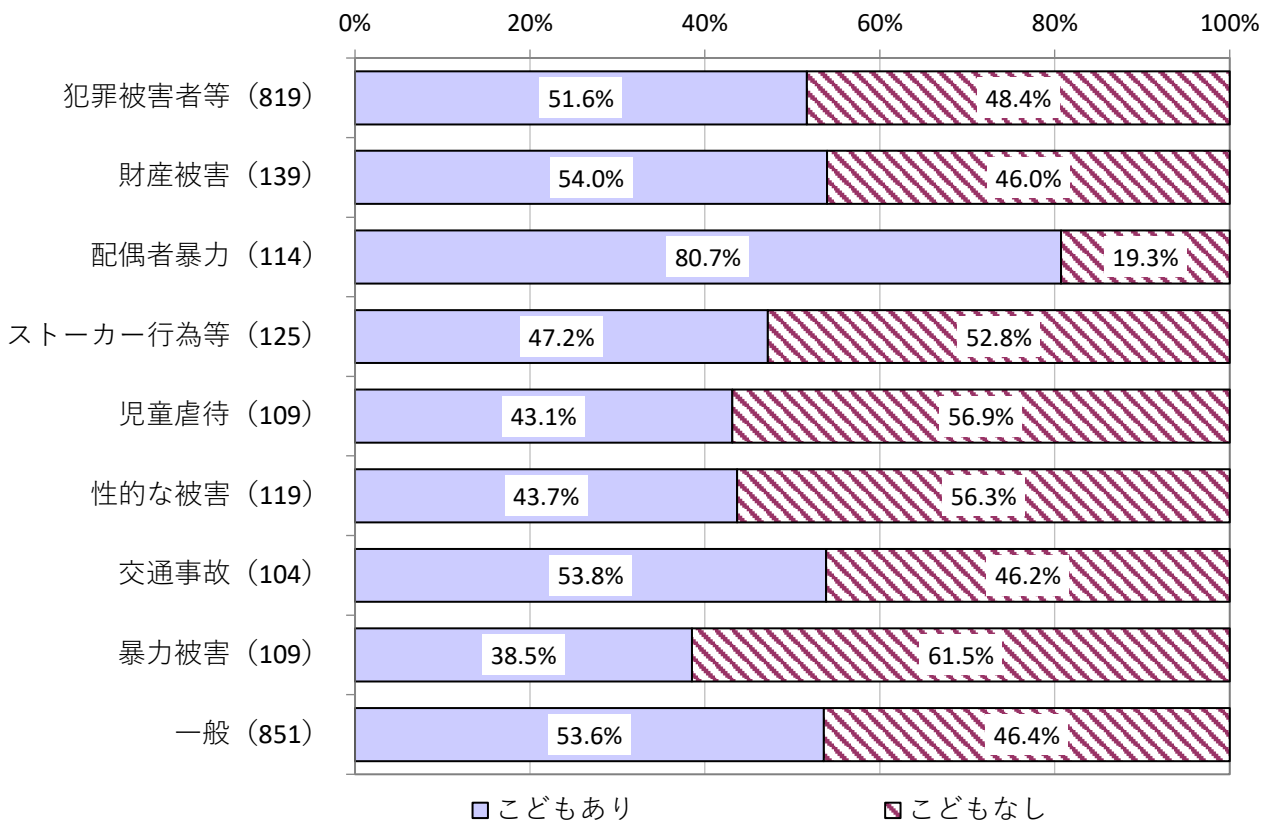


(4)子の有無

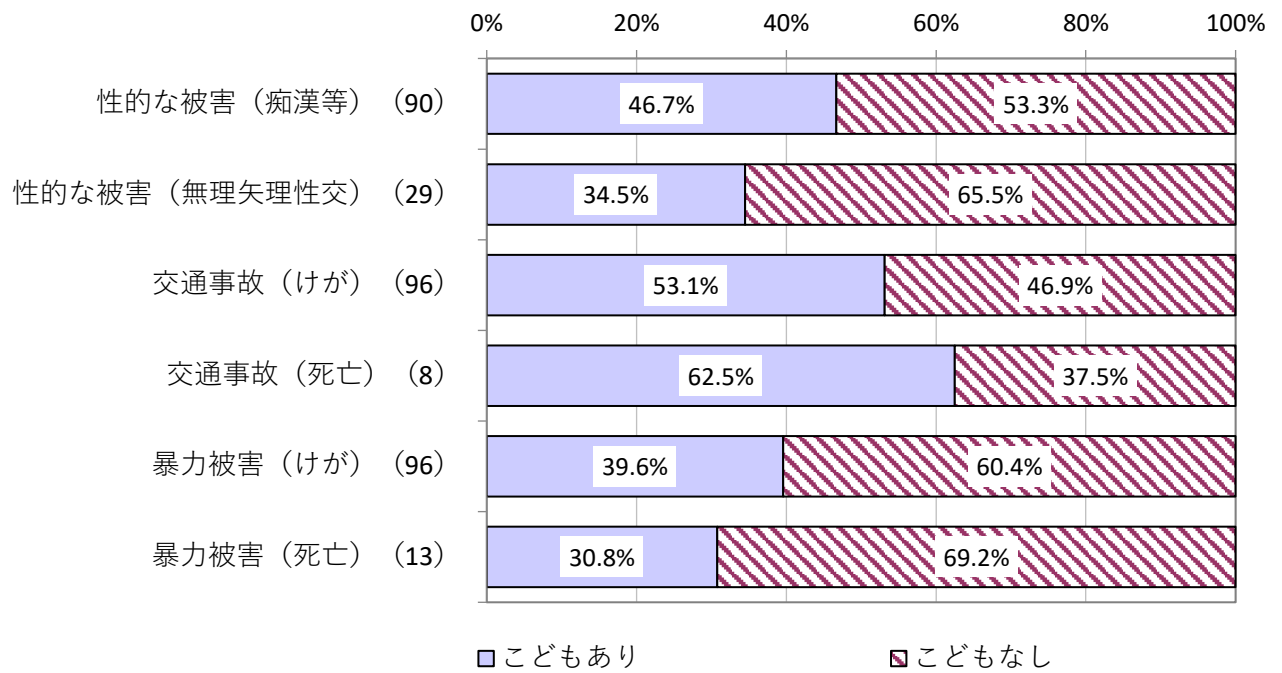
こどもの有無について、犯罪被害類型別にみると、こどもがいるとの回答が最も多いのは配偶者暴力(80.7%)、いないとの回答が最も多いのは暴力被害(61.5%)である。

一般対象者では、こどもがいるとの回答が53.6%、いないとの回答が46.4%である(図表1-4)。

図表 1-4 回答者属性別、子の有無【SC1/SC3、F4】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



(5)職業

回答者の職業について、犯罪被害類型別にみると、配偶者暴力では「パート・アルバイト」(21.9%)、児童虐待では「無職」(25.7%)、性的な被害では「専業主婦・主夫」(26.9%)との回答が最も多く、その他の類型は「会社勤務(一般社員)」との回答が最も多い。

一般対象者では、「無職」(24.7%)、「会社勤務(一般社員)」(24.6%)の順で回答が多くなっている(図表1-5)。

図表 1-5 回答者属性別、職業【SC1/SC3、F5】

	全体	会社勤務 (一般社員)	会社勤務 (管理職)	会社経営 (経営者・役員)	公務員・ 教職員・ 非営利団 体職員	派遣社 員・契約 社員	自営業 (商工 サービス)	SOHO
犯罪被害者等	819	172 (21.0%)	45 (5.5%)	14 (1.7%)	26 (3.2%)	62 (7.6%)	58 (7.1%)	14 (1.7%)
財産被害	139	35 (25.2%)	6 (4.3%)	3 (2.2%)	6 (4.3%)	14 (10.1%)	12 (8.6%)	2 (1.4%)
配偶者暴力	114	22 (19.3%)	5 (4.4%)	1 (0.9%)	2 (1.8%)	10 (8.8%)	4 (3.5%)	1 (0.9%)
ストーカー行為等	125	23 (18.4%)	13 (10.4%)	2 (1.6%)	6 (4.8%)	8 (6.4%)	7 (5.6%)	4 (3.2%)
児童虐待	109	17 (15.6%)	5 (4.6%)	4 (3.7%)	2 (1.8%)	6 (5.5%)	5 (4.6%)	2 (1.8%)
性的な被害	119	26 (21.8%)	4 (3.4%)	0 (0.0%)	2 (1.7%)	3 (2.5%)	6 (5.0%)	3 (2.5%)
交通事故	104	22 (21.2%)	7 (6.7%)	2 (1.9%)	5 (4.8%)	11 (10.6%)	13 (12.5%)	1 (1.0%)
暴力被害	109	27 (24.8%)	5 (4.6%)	2 (1.8%)	3 (2.8%)	10 (9.2%)	11 (10.1%)	1 (0.9%)
一般	851	209 (24.6%)	67 (7.9%)	22 (2.6%)	30 (3.5%)	52 (6.1%)	46 (5.4%)	10 (1.2%)

	農林漁業	専門職 (弁護士・ 税理士な ど・医療 関連)	パート・ア ルバイト	専業主 婦・主夫	学生	無職	その他職 業
犯罪被害者等	5 (0.6%)	22 (2.7%)	115 (14.0%)	120 (14.7%)	4 (0.5%)	149 (18.2%)	13 (1.6%)
財産被害	0 (0.0%)	1 (0.7%)	16 (11.5%)	13 (9.4%)	0 (0.0%)	30 (21.6%)	1 (0.7%)
配偶者暴力	0 (0.0%)	3 (2.6%)	25 (21.9%)	23 (20.2%)	0 (0.0%)	17 (14.9%)	1 (0.9%)
ストーカー行為等	1 (0.8%)	5 (4.0%)	15 (12.0%)	16 (12.8%)	2 (1.6%)	22 (17.6%)	1 (0.8%)
児童虐待	1 (0.9%)	5 (4.6%)	12 (11.0%)	17 (15.6%)	1 (0.9%)	28 (25.7%)	4 (3.7%)
性的な被害	1 (0.8%)	3 (2.5%)	21 (17.6%)	32 (26.9%)	1 (0.8%)	15 (12.6%)	2 (1.7%)
交通事故	2 (1.9%)	2 (1.9%)	12 (11.5%)	8 (7.7%)	0 (0.0%)	16 (15.4%)	3 (2.9%)
暴力被害	0 (0.0%)	3 (2.8%)	14 (12.8%)	11 (10.1%)	0 (0.0%)	21 (19.3%)	1 (0.9%)
一般	2 (0.2%)	15 (1.8%)	90 (10.6%)	79 (9.3%)	8 (0.9%)	210 (24.7%)	11 (1.3%)

【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

		全体	会社勤務(一般社員)	会社勤務(管理職)	会社経営(経営者・役員)	公務員・教職員・非営利団体職員	派遣社員・契約社員	自営業(商工サービス)	SOHO
性的な被害	痴漢等	90	20 (22.2%)	3 (3.3%)	0 (0.0%)	2 (2.2%)	2 (2.2%)	3 (3.3%)	2 (2.2%)
	無理矢理性交	29	6 (20.7%)	1 (3.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.4%)	3 (10.3%)	1 (3.4%)
交通事故	けが	96	21 (21.9%)	7 (7.3%)	2 (2.1%)	5 (5.2%)	10 (10.4%)	12 (12.5%)	1 (1.0%)
	死亡	8	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)
暴力被害	けが	96	23 (24.0%)	5 (5.2%)	2 (2.1%)	1 (1.0%)	10 (10.4%)	8 (8.3%)	1 (1.0%)
	死亡	13	4 (30.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)

		農林漁業	専門職(弁護士・税理士など・医療関連)	パート・アルバイト	専業主婦・主夫	学生	無職	その他職業
性的な被害	痴漢等	1 (1.1%)	2 (2.2%)	18 (20.0%)	27 (30.0%)	1 (1.1%)	7 (7.8%)	2 (2.2%)
	無理矢理性交	0 (0.0%)	1 (3.4%)	3 (10.3%)	5 (17.2%)	0 (0.0%)	8 (27.6%)	0 (0.0%)
交通事故	けが	2 (2.1%)	1 (1.0%)	10 (10.4%)	8 (8.3%)	0 (0.0%)	14 (14.6%)	3 (3.1%)
	死亡	0 (0.0%)	1 (12.5%)	2 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (25.0%)	0 (0.0%)
暴力被害	けが	0 (0.0%)	3 (3.1%)	12 (12.5%)	11 (11.5%)	0 (0.0%)	19 (19.8%)	1 (1.0%)
	死亡	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)

(6)被害で亡くなった方との関係

回答者と被害で亡くなった方との関係については、図表 1-6 のとおり。

図表 1-6 被害で亡くなった方との関係(複数回答) _交通事故、暴力被害【SC1/SC3、Q2】

		全体	配偶者	父	母	継父	継母	兄弟姉妹	子	祖父母	孫	その他
交通事故	死亡	8	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	3 (37.5%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)
暴力被害	死亡	13	0 (0.0%)	3 (23.1%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	3 (23.1%)	2 (15.4%)	2 (15.4%)

2-2. 被害の状況

回答者の受けた被害の状況として、加害者の属性、被害の時期、被害の継続期間、被害時の職業、被害時の同居状況、けが・後遺症の状況について分析する。

(1)加害者について

ア. 加害者との関係

加害者との関係について、犯罪被害類型別にみると、配偶者暴力では「配偶者、元配偶者」(84.2%)、ストーカーでは「職場、アルバイト先の関係者、通っていた学校の関係者」(24.0%)、「全く無関係の人、知らない人」(23.2%)、「交際相手、元交際相手」(20.8%)、「知人、友人」(15.2%)、児童虐待では「父」(50.5%)、「母」(27.5%)、交通事故、性的な被害、財産被害、暴力被害では「全く無関係の人、知らない人」(それぞれ88.5%、72.3%、50.4%、32.1%)との回答比率が高い(図表2-1)。

図表 2-1 犯罪被害類型別、加害者との関係【SC1/SC3、Q3】

	全体	父	母	継父	継母	母の交際相手	父の交際相手	兄弟姉妹	子
犯罪被害者等	819	68 (8.3%)	33 (4.0%)	4 (0.5%)	5 (0.6%)	0 (0.0%)	2 (0.2%)	10 (1.2%)	2 (0.2%)
財産被害	139	5 (3.6%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)
配偶者暴力	114	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ストーカー行為等	125	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
児童虐待	109	55 (50.5%)	30 (27.5%)	2 (1.8%)	4 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)
性的な被害	119	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)
交通事故	104	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
暴力被害	109	5 (4.6%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (6.4%)	2 (1.8%)

	祖父母	配偶者、元配偶者	交際相手、元交際相手	職場、アルバイト先の関係者、通っていた学校の関係者	知人、友人	SNSで出会った人	全く無関係の人、知らない人	わからない	その他
犯罪被害者等	4 (0.5%)	108 (13.2%)	45 (5.5%)	53 (6.5%)	43 (5.3%)	16 (2.0%)	315 (38.5%)	79 (9.6%)	32 (3.9%)
財産被害	0 (0.0%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)	5 (3.6%)	5 (3.6%)	5 (3.6%)	70 (50.4%)	38 (27.3%)	4 (2.9%)
配偶者暴力	0 (0.0%)	96 (84.2%)	6 (5.3%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	4 (3.5%)	2 (1.8%)
ストーカー行為等	1 (0.8%)	2 (1.6%)	26 (20.8%)	30 (24.0%)	19 (15.2%)	6 (4.8%)	29 (23.2%)	8 (6.4%)	3 (2.4%)
児童虐待	3 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	5 (4.6%)	5 (4.6%)
性的な被害	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	5 (4.2%)	9 (7.6%)	5 (4.2%)	86 (72.3%)	5 (4.2%)	5 (4.2%)
交通事故	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	92 (88.5%)	7 (6.7%)	2 (1.9%)
暴力被害	0 (0.0%)	8 (7.3%)	11 (10.1%)	10 (9.2%)	6 (5.5%)	0 (0.0%)	35 (32.1%)	12 (11.0%)	11 (10.1%)

【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

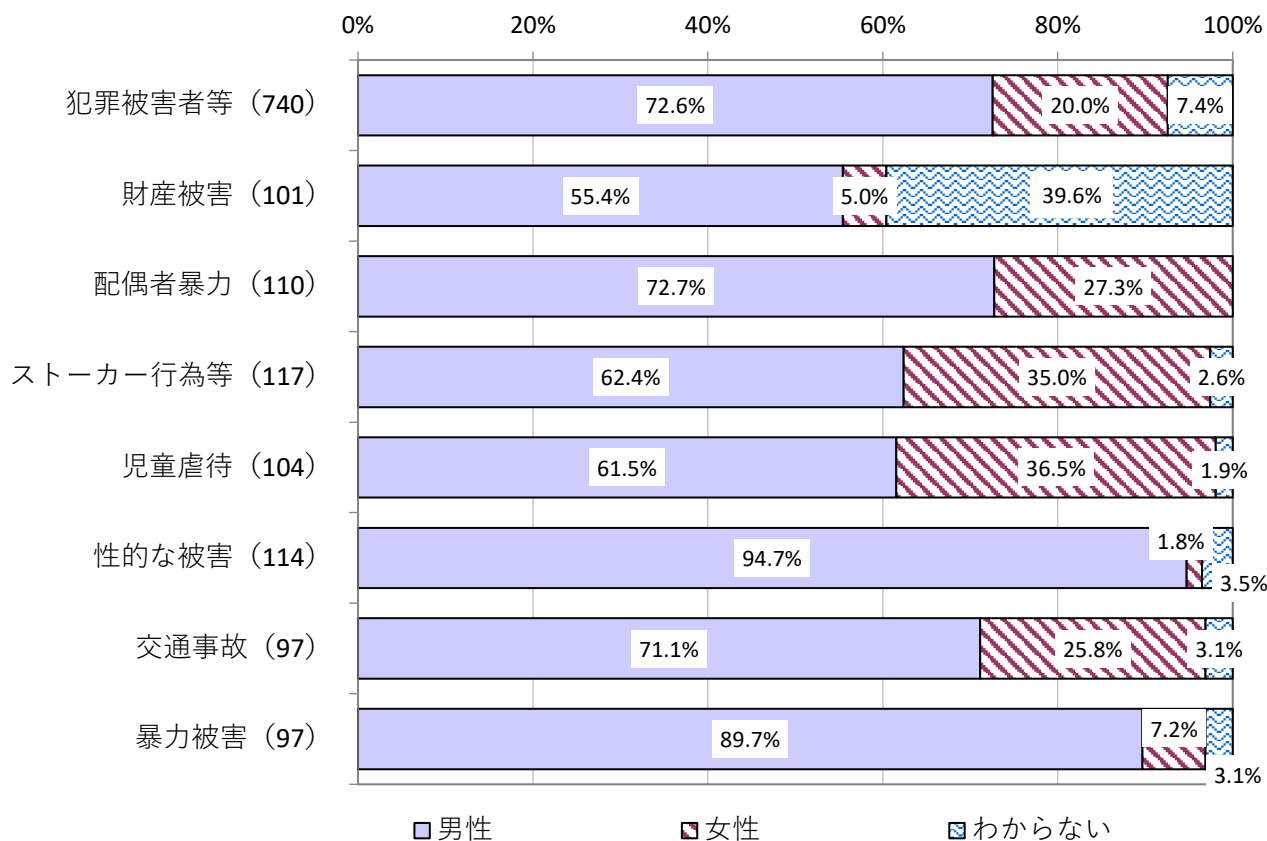
		全体	父	母	継父	継母	母の交際相手	父の交際相手	兄弟姉妹	子
性的な被害	痴漢等	90	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	無理矢理性交	29	1 (3.4%)	0 (0.0%)	1 (3.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.4%)	0 (0.0%)
交通事故	けが	96	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	死亡	8	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
暴力被害	けが	96	4 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (6.3%)	2 (2.1%)
	死亡	13	1 (7.7%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)

		祖父母	配偶者、元配偶者	交際相手、元交際相手	職場、アルバイト先の関係者、通っていた学校の関係者	知人、友人	SNSで出会った人	全く無関係の人、知らない人	わからない	その他
性的な被害	痴漢等	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.2%)	2 (2.2%)	1 (1.1%)	78 (86.7%)	4 (4.4%)	3 (3.3%)
	無理矢理性交	0 (0.0%)	1 (3.4%)	0 (0.0%)	3 (10.3%)	7 (24.1%)	4 (13.8%)	8 (27.6%)	1 (3.4%)	2 (6.9%)
交通事故	けが	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	87 (90.6%)	6 (6.3%)	1 (1.0%)
	死亡	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	5 (62.5%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)
暴力被害	けが	0 (0.0%)	8 (8.3%)	11 (11.5%)	10 (10.4%)	5 (5.2%)	0 (0.0%)	33 (34.4%)	10 (10.4%)	7 (7.3%)
	死亡	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	2 (15.4%)	2 (15.4%)	4 (30.8%)

イ. 加害者の性別

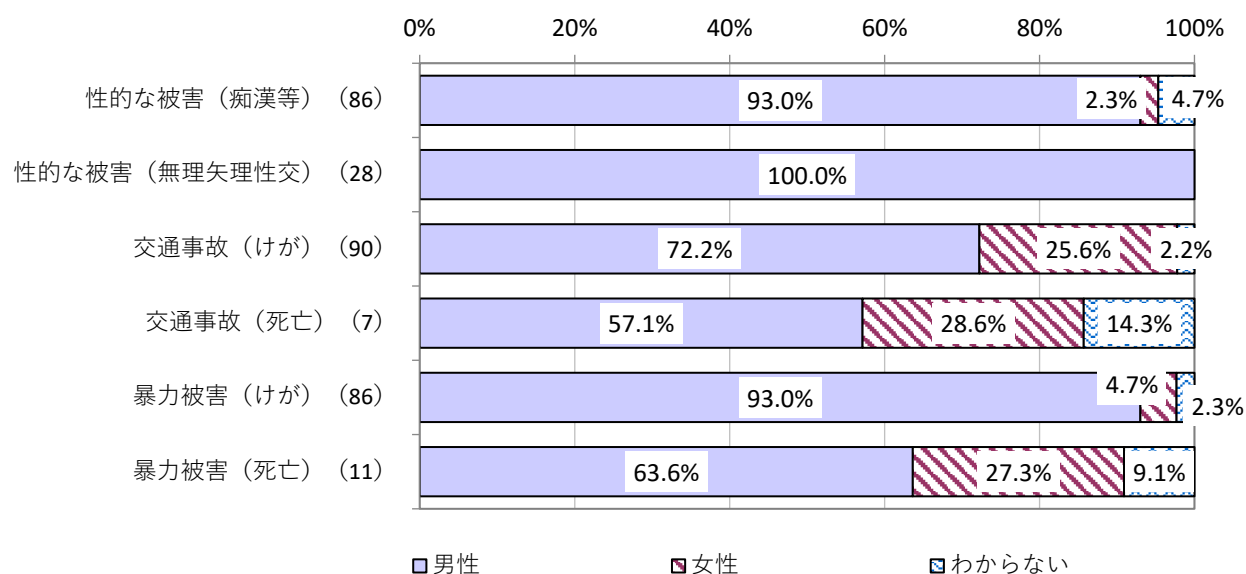
加害者の性別について、犯罪被害類型別にみると、全ての類型において男性が多いが、財産被害では「わからない」(39.6%)が多く、児童虐待、ストーカーでは女性も比較的多い(それぞれ36.5%、35.0%) (図表2-2)。

図表 2-2 犯罪被害類型別、加害者の性別【SC1/SC3、Q4】



※対象：Q3（加害者との関係）で「わからない」と回答した方（79人）を除く。

【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



(2)被害の時期

ア. 被害時の年齢

回答者又は家族が被害にあった時（被害が長期にわたって継続している場合には、被害が始まった時）の年齢について、犯罪被害類型別にみると、財産被害は23～29歳、40代（それぞれ20.9%）、配偶者暴力は30代（31.8%）、ストーカーは19～22歳（22.4%）、児童虐待は7～12歳（44.3%）、性的な被害は16～18歳（24.8%）、交通事故は30代（27.4%）、暴力被害は23～29歳（27.2%）との回答が最も多くなっている（図表2-3）。

図表 2-3 犯罪被害類型別、被害時の年齢【SC1/SC3、Q1】

	全体	0～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	19～22歳	23～29歳	30代	40代	50代	60歳以上
犯罪被害者等	641	39 (6.1%)	53 (8.3%)	38 (5.9%)	48 (7.5%)	74 (11.5%)	108 (16.8%)	94 (14.7%)	99 (15.4%)	47 (7.3%)	41 (6.4%)
財産被害	110	0 (0.0%)	1 (0.9%)	3 (2.7%)	7 (6.4%)	16 (14.5%)	23 (20.9%)	17 (15.5%)	23 (20.9%)	11 (10.0%)	9 (8.2%)
配偶者暴力	88	2 (2.3%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	1 (1.1%)	2 (2.3%)	19 (21.6%)	28 (31.8%)	23 (26.1%)	5 (5.7%)	7 (8.0%)
ストーカー行為等	107	0 (0.0%)	1 (0.9%)	3 (2.8%)	7 (6.5%)	24 (22.4%)	20 (18.7%)	17 (15.9%)	23 (21.5%)	4 (3.7%)	8 (7.5%)
児童虐待	70	28 (40.0%)	31 (44.3%)	7 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	2 (2.9%)
性的な被害	101	5 (5.0%)	14 (13.9%)	17 (16.8%)	25 (24.8%)	16 (15.8%)	10 (9.9%)	1 (1.0%)	4 (4.0%)	6 (5.9%)	3 (3.0%)
交通事故	73	2 (2.7%)	2 (2.7%)	3 (4.1%)	3 (4.1%)	7 (9.6%)	10 (13.7%)	20 (27.4%)	9 (12.3%)	10 (13.7%)	7 (9.6%)
暴力被害	92	2 (2.2%)	4 (4.3%)	4 (4.3%)	5 (5.4%)	9 (9.8%)	25 (27.2%)	11 (12.0%)	17 (18.5%)	10 (10.9%)	5 (5.4%)

※対象：Q1（被害時の年齢）で「わからない」と回答した方（178人）を除く。

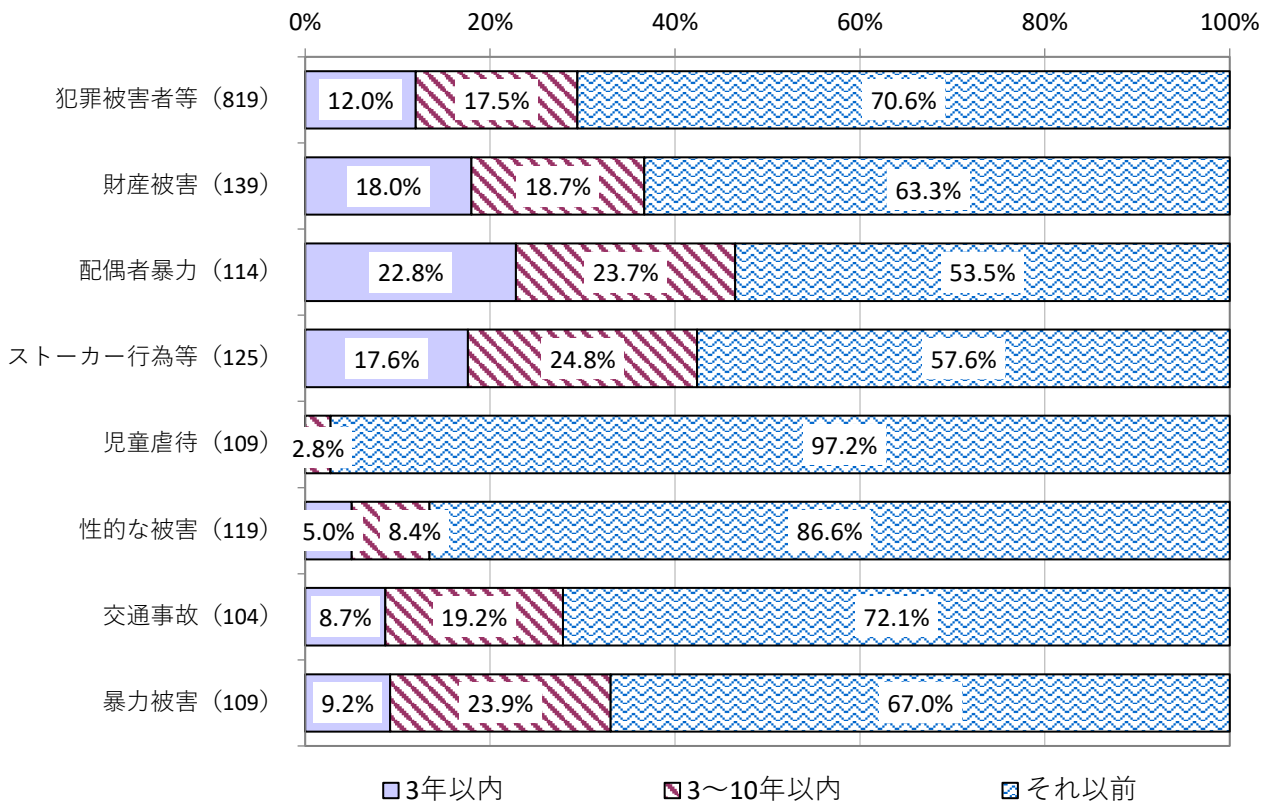
【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

		全体	0～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	19～22歳	23～29歳	30代	40代	50代	60歳以上
性的な被害	痴漢等	80	4 (5.0%)	11 (13.8%)	16 (20.0%)	22 (27.5%)	14 (17.5%)	7 (8.8%)	0 (0.0%)	2 (2.5%)	3 (3.8%)	1 (1.3%)
	無理矢理性交	21	1 (4.8%)	3 (14.3%)	1 (4.8%)	3 (14.3%)	2 (9.5%)	3 (14.3%)	1 (4.8%)	2 (9.5%)	3 (14.3%)	2 (9.5%)
交通事故	けが	67	2 (3.0%)	2 (3.0%)	3 (4.5%)	3 (4.5%)	7 (10.4%)	10 (14.9%)	17 (25.4%)	9 (13.4%)	8 (11.9%)	6 (9.0%)
	死亡	6	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)
暴力被害	けが	81	1 (1.2%)	3 (3.7%)	4 (4.9%)	5 (6.2%)	8 (9.9%)	23 (28.4%)	10 (12.3%)	15 (18.5%)	8 (9.9%)	4 (4.9%)
	死亡	11	1 (9.1%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (9.1%)	2 (18.2%)	1 (9.1%)	2 (18.2%)	2 (18.2%)	1 (9.1%)

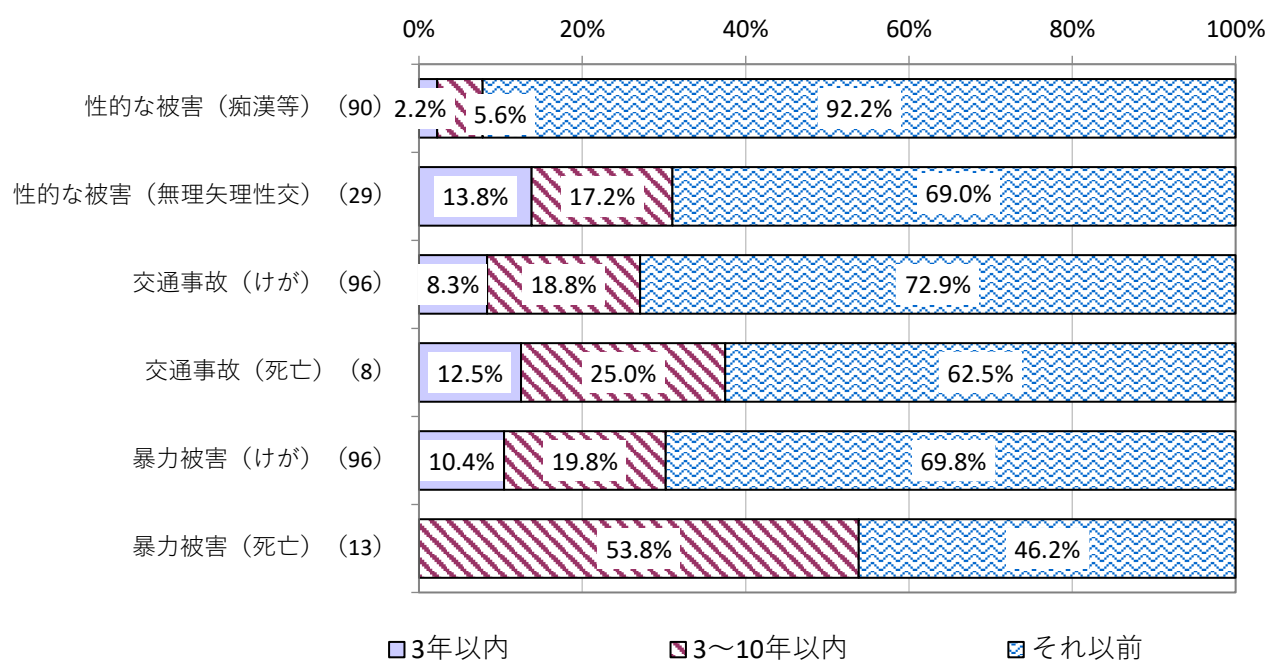
イ. 被害の時期

被害を経験した時期（被害に何度もあっている方は、最も深刻であった被害時期）について、犯罪被害類型別にみると、全ての類型において過去10年より前（「それ以前」）の回答が過半数を占め、特に児童虐待、性的な被害における回答比率が高い（それぞれ97.2%、86.6%）。ストーカー、暴力被害では「3～10年以内」（同24.8%、23.9%）との回答比率が比較的高く、配偶者暴力では「3年以内」（22.8%）との回答比率が比較的高い（図表2-4）。

図表 2-4 犯罪被害類型別、被害の時期【SC1/SC3、SC2】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



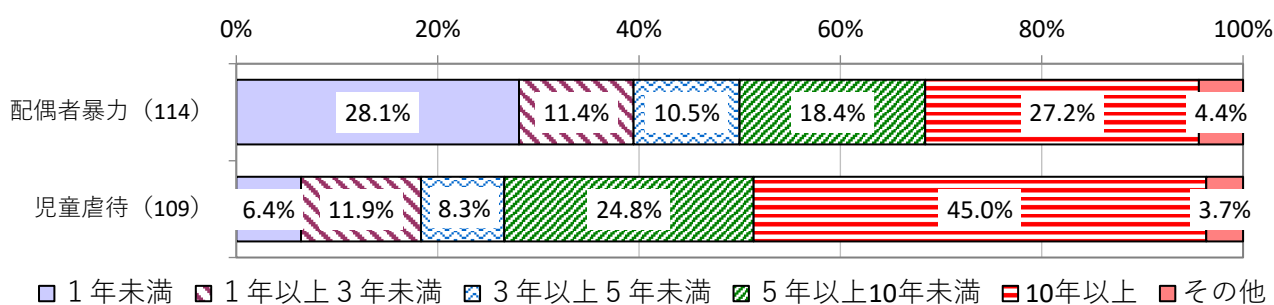
(3) 被害の継続期間

被害の継続期間については、配偶者暴力、児童虐待とそれ以外の類型を異なる選択肢にて尋ねた。

ア. 配偶者暴力、児童虐待

5年以上（「5年以上10年未満」と「10年以上」の和）との回答比率は、配偶者暴力では45.6%、児童虐待では69.8%となっている（図表2-5）。

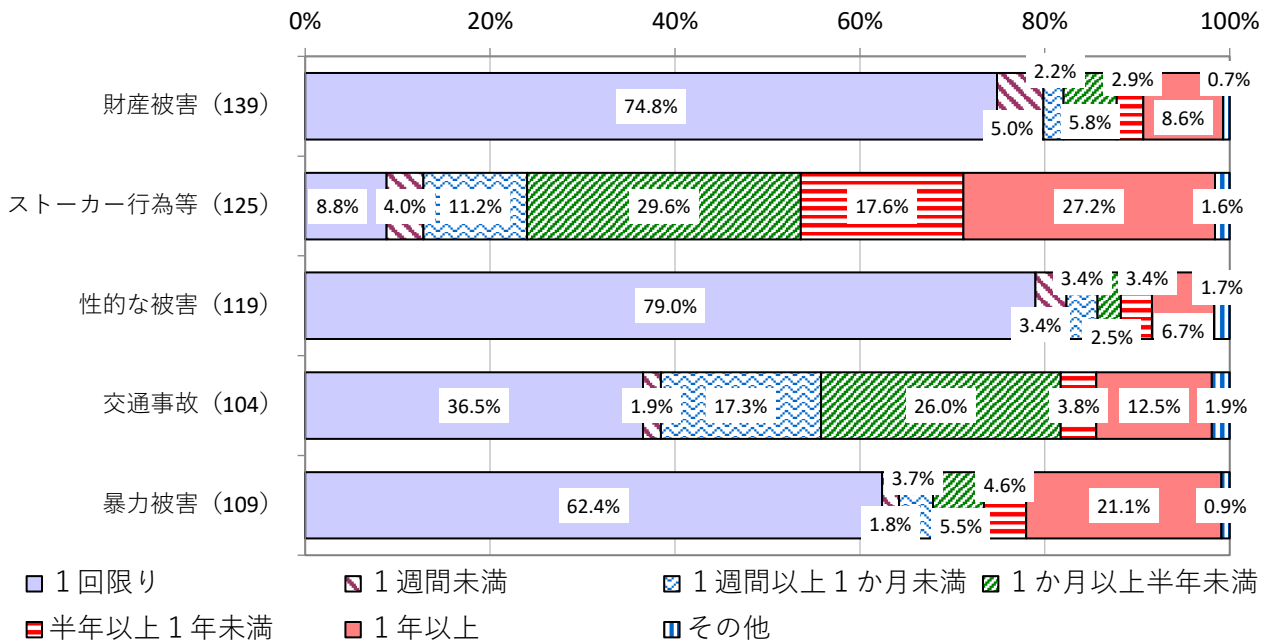
図表 2-5 被害の継続期間_配偶者暴力、児童虐待【SC1/SC3、Q5】



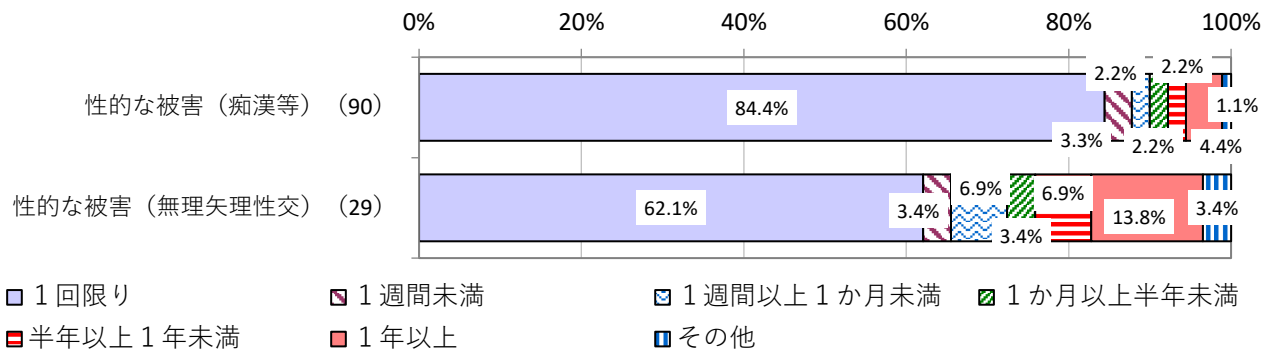
イ. 財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害

ストーカーでは1か月以上（「1か月以上半年未満」と「半年以上1年未満」と「1年以上」の和）との回答比率が74.4%となっている。一方、財産被害、性的な被害、交通事故、暴力被害では、「1回限り」との回答比率が最も高い（図表2-6）。

図表 2-6 被害の継続期間_財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害【SC1/SC3、Q5-2】



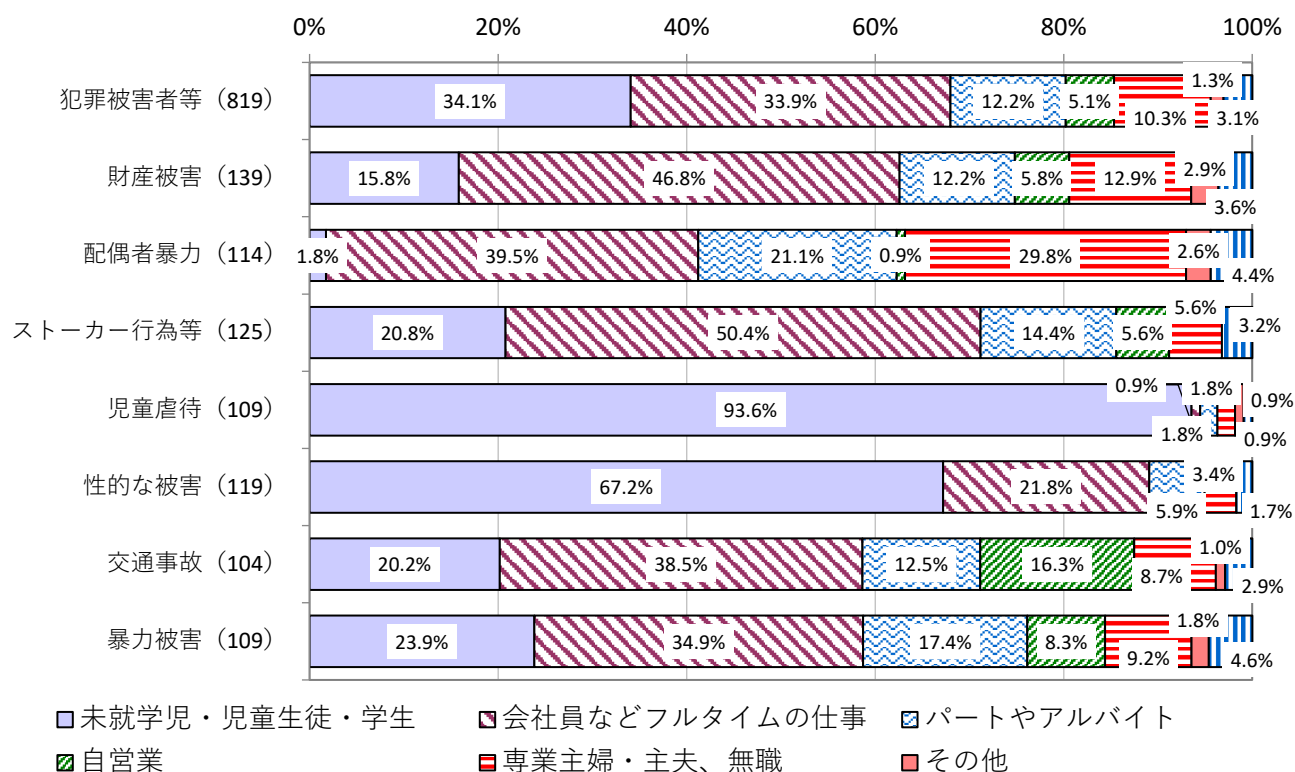
【参考】性的な被害の更なる内訳



(4)被害時の職業

被害時の職業について、犯罪被害類型別にみると、児童虐待では「未就学児・児童生徒・学生」である場合がほとんどを占めており、性的な被害では「未就学児・児童生徒・学生」に加え、「会社員などフルタイムの仕事」との回答が多くなっている。ストーカー、財産被害、交通事故、暴力被害では「会社員などフルタイムの仕事」との回答が多くなっており、配偶者暴力では、「会社員などフルタイムの仕事」に加え、「専業主婦・主夫、無職」「パートやアルバイト」との回答が多くなっている（図表 2-7）。

図表 2-7 犯罪被害類型別、被害時の職業【SC1/SC3、Q6】



(5)被害時の同居状況

被害時の同居相手について、犯罪被害類型別にみると、財産被害では「配偶者」「父」「母」、配偶者暴力では「配偶者」、ストーカー、暴力被害では「父」「母」、児童虐待、性的な被害では「父」「母」「兄弟姉妹」、交通事故では「配偶者」「母」との回答が多くなっている（図表 2-8）。

図表 2-8 犯罪被害類型別、被害時の同居相手（複数回答）【SC1/SC3、Q7】

	全体	配偶者	交際相手	父	母	継父	継母	兄弟姉妹	祖父母	その他の人	同居家族はいなかった
犯罪被害者等	819	246 (30.0%)	15 (1.8%)	337 (41.1%)	400 (48.8%)	7 (0.9%)	9 (1.1%)	240 (29.3%)	53 (6.5%)	54 (6.6%)	134 (16.4%)
財産被害	139	51 (36.7%)	4 (2.9%)	49 (35.3%)	58 (41.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	28 (20.1%)	4 (2.9%)	11 (7.9%)	24 (17.3%)
配偶者暴力	114	88 (77.2%)	2 (1.8%)	12 (10.5%)	13 (11.4%)	3 (2.6%)	4 (3.5%)	3 (2.6%)	1 (0.9%)	32 (28.1%)	10 (8.8%)
ストーカー行為等	125	33 (26.4%)	2 (1.6%)	43 (34.4%)	56 (44.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	23 (18.4%)	5 (4.0%)	1 (0.8%)	32 (25.6%)
児童虐待	109	1 (0.9%)	1 (0.9%)	81 (74.3%)	96 (88.1%)	2 (1.8%)	4 (3.7%)	80 (73.4%)	16 (14.7%)	1 (0.9%)	4 (3.7%)
性的な被害	119	6 (5.0%)	0 (0.0%)	81 (68.1%)	91 (76.5%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	62 (52.1%)	18 (15.1%)	0 (0.0%)	18 (15.1%)
交通事故	104	43 (41.3%)	2 (1.9%)	28 (26.9%)	37 (35.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (14.4%)	2 (1.9%)	5 (4.8%)	21 (20.2%)
暴力被害	109	24 (22.0%)	4 (3.7%)	43 (39.4%)	49 (45.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	29 (26.6%)	7 (6.4%)	4 (3.7%)	25 (22.9%)

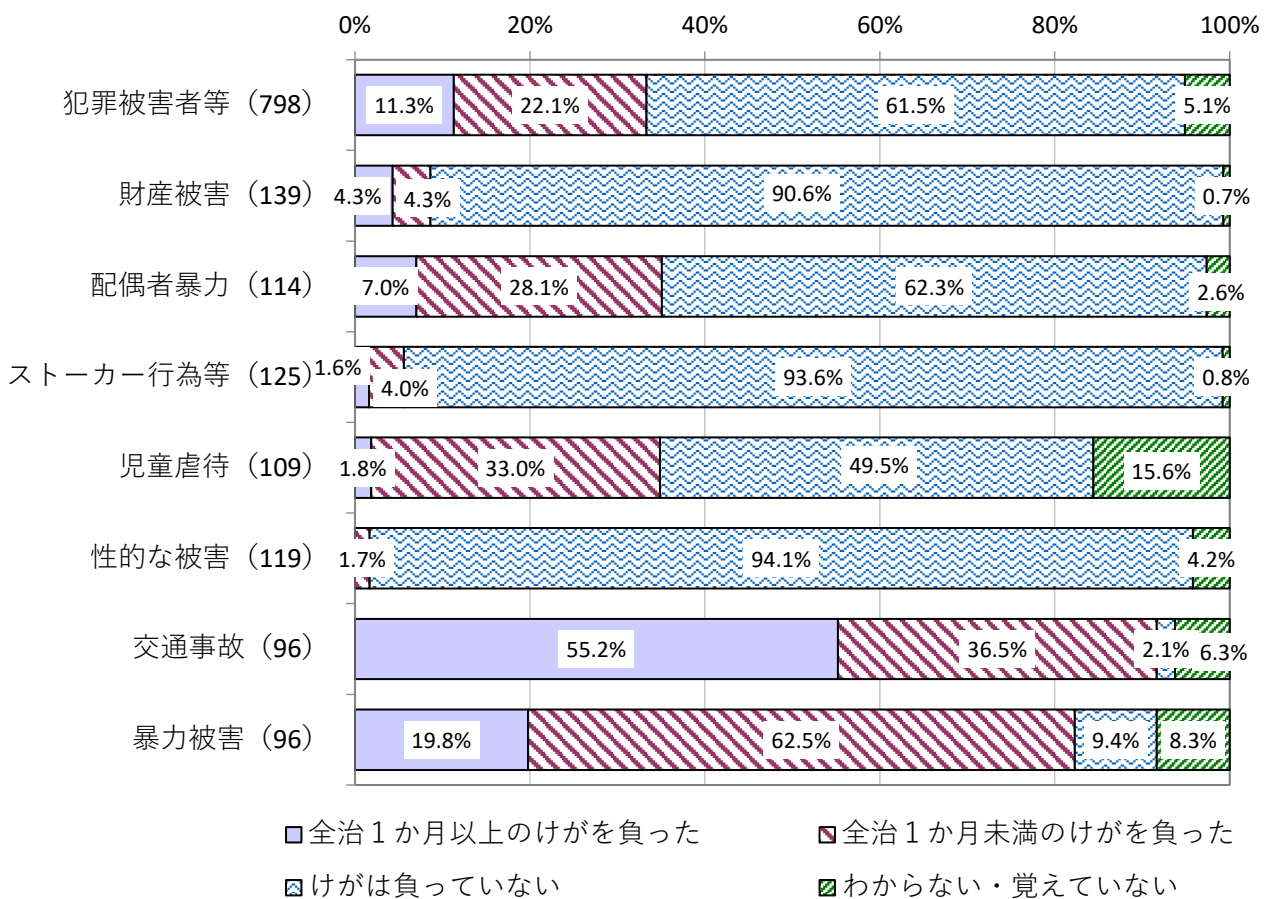
(6)けが・後遺症の状況

被害で負ったけがの状況について、犯罪被害類型別にみると、「全治1か月以上のけが」は交通事故で55.2%、暴力被害で19.8%、「全治1か月未満のけが」は暴力被害で62.5%、交通事故で36.5%、児童虐待で33.0%、配偶者暴力で28.1%となっている（図表2-9）。

後遺症の有無については、「後遺障害等級の認定がなされた後遺症がある」との回答比率は財産被害で33.3%、「後遺障害等級の認定はなされていないが、後遺障害がある」との回答比率は暴力被害で22.8%、児童虐待で18.4%、交通事故で18.2%となっている（図表2-10）。

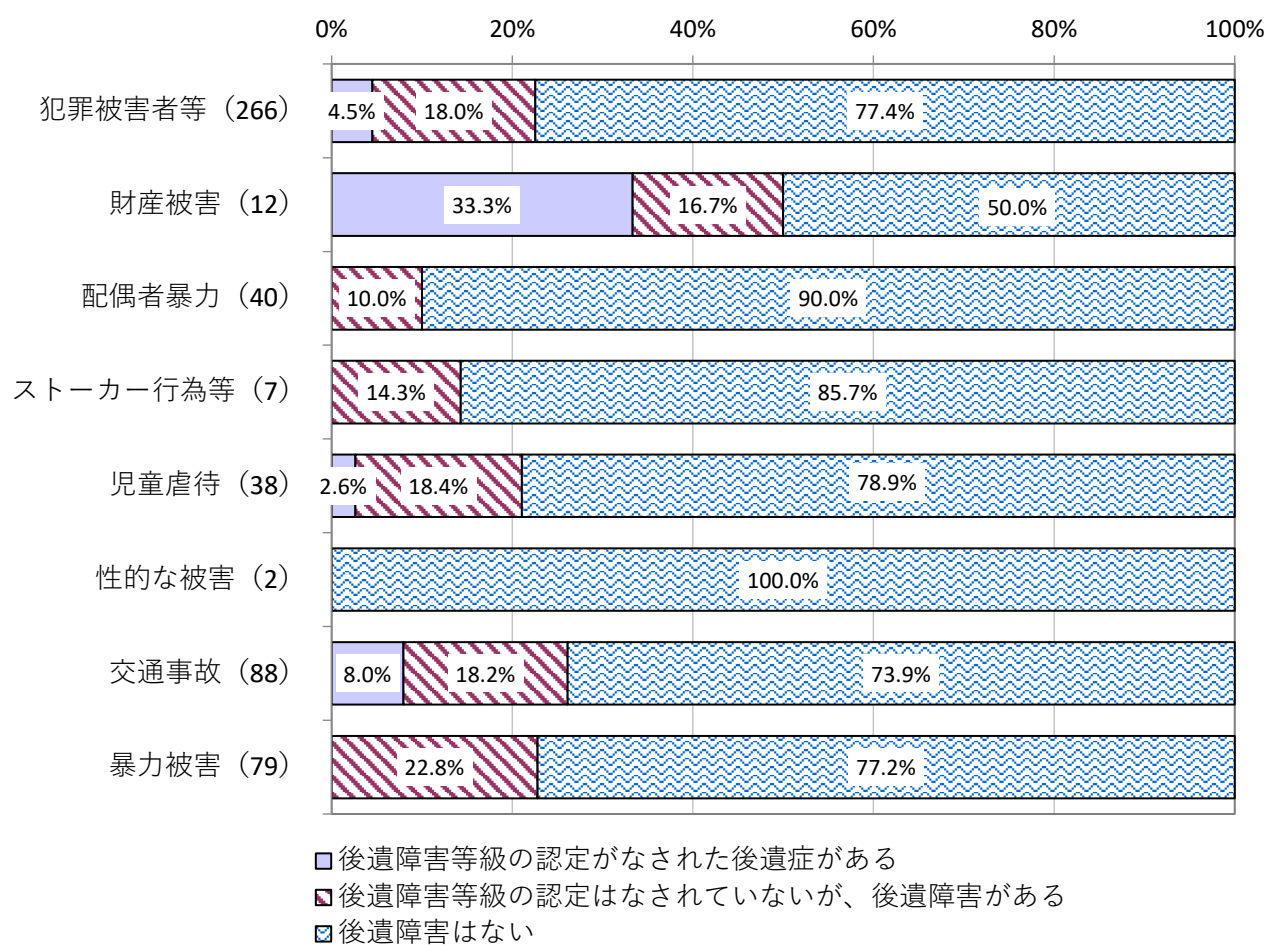
※ただし、本調査では、交通事故及び暴力被害については、自身が被害にあった場合、1週間以上のけがを負っていることを条件としているため、その他の犯罪被害類型と同列に比較はできない（「1-5.調査対象」参照）。

図表 2-9 犯罪被害類型別、けがの有無【SC1/SC3、Q26】



※対象：交通事故及び暴力被害のうち、死亡の場合（21人）を除く。

図表 2-10 犯罪被害類型別、後遺症の有無【SC1/SC3、Q27】



※対象：Q26（けがの有無）で「全治1か月以上のけがを負った」又は「全治1か月未満のけがを負った」と回答した方（266人）のみ。

2-3. 犯罪被害者等と一般対象者との比較

犯罪被害者等と一般対象者との比較として、生活上の変化、身体・精神・経済的状況等について分析する。

(1) 生活上の変化

生活上の変化について、犯罪被害者等には事件後から現在までの生活変化（出来事）、一般対象者には最近5年間程度の生活変化（出来事）を尋ねた。犯罪被害者等では、「自分が転居（引越し）をした」（17.0ポイント）、「学校または仕事をしばらく休んだ（休学、休職）」（15.7ポイント）、「学校または仕事を辞めた、変えた」（14.7ポイント）、「結婚した」（12.1ポイント）、「家族間で不和が起こった」（11.8ポイント）、「長期に通院したり入院したりするようなかげがや病気をした」（11.2ポイント）、「別居・離婚をした」（8.6ポイント）等において、一般対象者の回答比率を上回っている（括弧内は両者の差）（図表3-1）。

図表 3-1 回答者属性別、生活上の変化（複数回答）【Q50/P9】

	全体	学校または仕事を辞めた、変えた	学校または仕事をしばらく休んだ（休学、休職）	長期に通院したり入院したりするようなかげがや病気をした	自分が転居（引越し）をした	結婚した	別居・離婚をした	望まない妊娠をした	子どもが生まれた	同居している家族が結婚した
犯罪被害者等	819	209 (25.5%)	154 (18.8%)	121 (14.8%)	195 (23.8%)	110 (13.4%)	78 (9.5%)	19 (2.3%)	78 (9.5%)	40 (4.9%)
一般	851	92 (10.8%)	26 (3.1%)	31 (3.6%)	58 (6.8%)	11 (1.3%)	8 (0.9%)	1 (0.1%)	24 (2.8%)	6 (0.7%)

	同居している家族に子どもが生まれた	同居している家族の看護・介護が必要になった	家族が亡くなった	家族間の信頼が深まった	家族間で不和が起こった	学校や職場、地域の人々との関係が親密になった	学校や職場、地域の人々との関係が悪化した	その他	あてはまるものはない
犯罪被害者等	23 (2.8%)	32 (3.9%)	118 (14.4%)	37 (4.5%)	117 (14.3%)	18 (2.2%)	53 (6.5%)	14 (1.7%)	333 (40.7%)
一般	0 (0.0%)	19 (2.2%)	81 (9.5%)	22 (2.6%)	21 (2.5%)	11 (1.3%)	18 (2.1%)	4 (0.5%)	573 (67.3%)

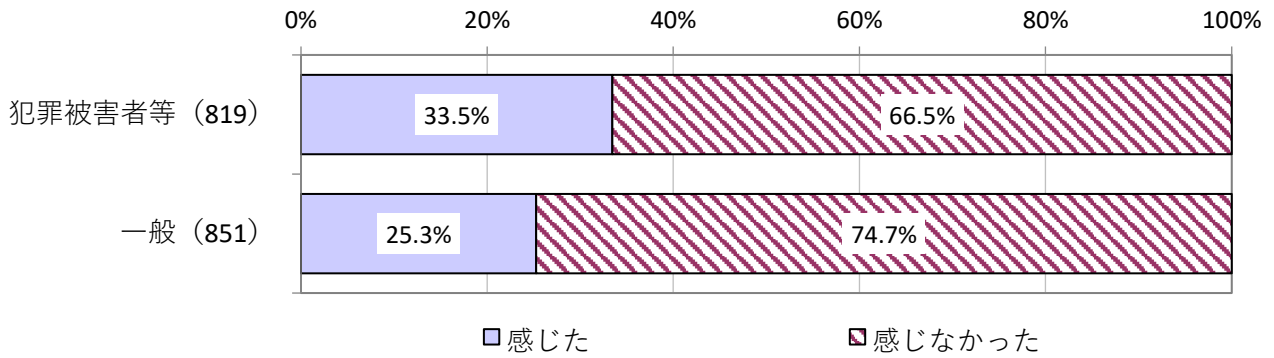
(2) 身体的状況

過去30日間における身体上の問題について、「感じた」との回答比率は犯罪被害者等（33.5%）の方が一般対象者（25.3%）よりも高くなっている（図表3-2）。

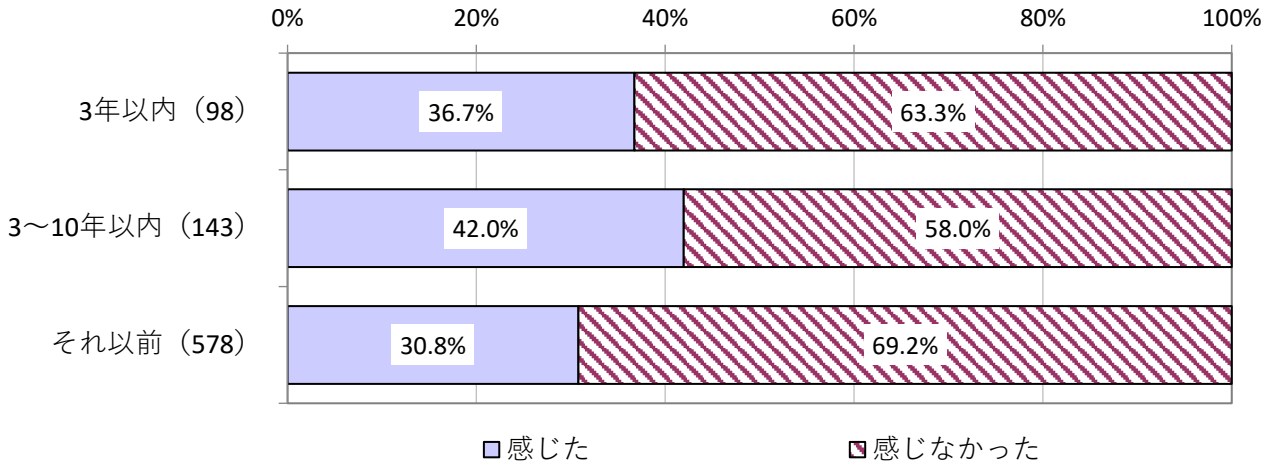
被害の時期別にみると、「感じた」との回答比率が最も高いのは「3～10年以内」（42.0%）となっている（図表3-3）。

身体上の問題への対処方法をみると、犯罪被害者等では「医療機関に通った（訪問診療を含む）」との回答比率が36.5%と、一般対象者（25.1%）より高くなっている（図表3-4）。

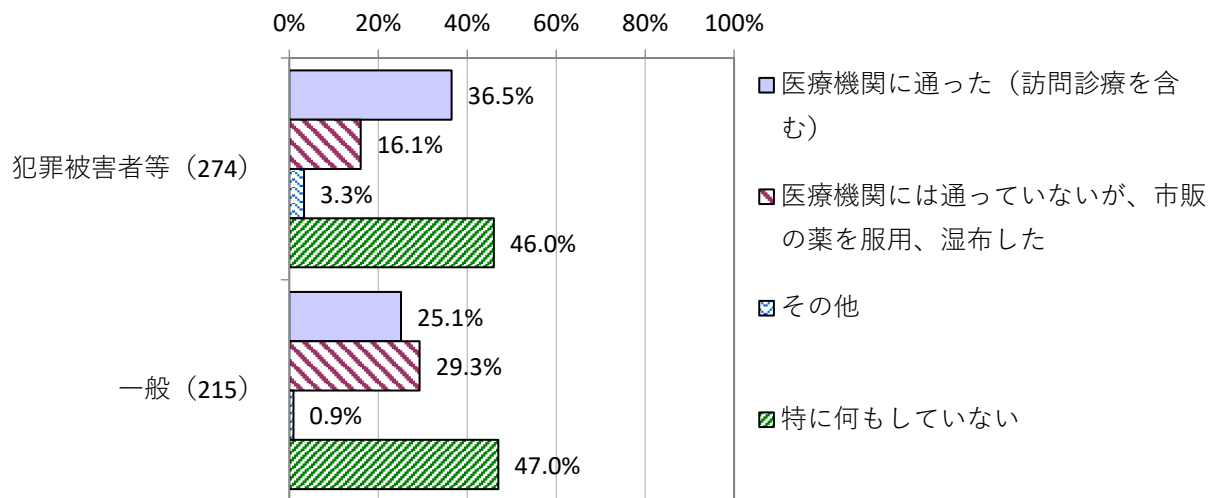
図表 3-2 回答者属性別、身体上の問題の有無【Q28/P3】



図表 3-3 被害の時期別、身体上の問題の有無_犯罪被害者等【SC2、Q28】



図表 3-4 回答者属性別、身体上の問題への対処方法（複数回答）【Q30/P4】



※対象：Q28 及び P 3（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（犯罪被害者等：274 人、一般：215 人）のみ。

(3)精神的状況

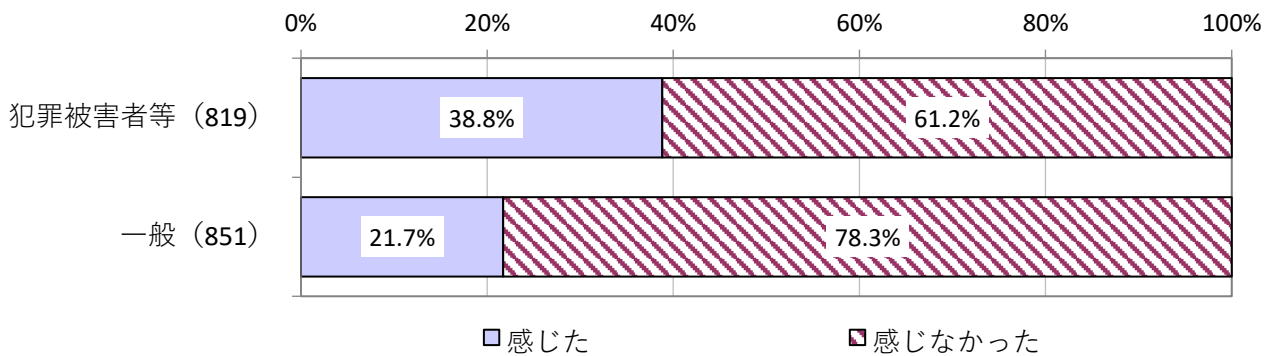
ア. 精神的な問題

過去30日間における精神的な問題や悩みについて、「感じた」との回答比率は犯罪被害者等（38.8%）の方が一般対象者（21.7%）よりも高くなっている（図表3-5）。

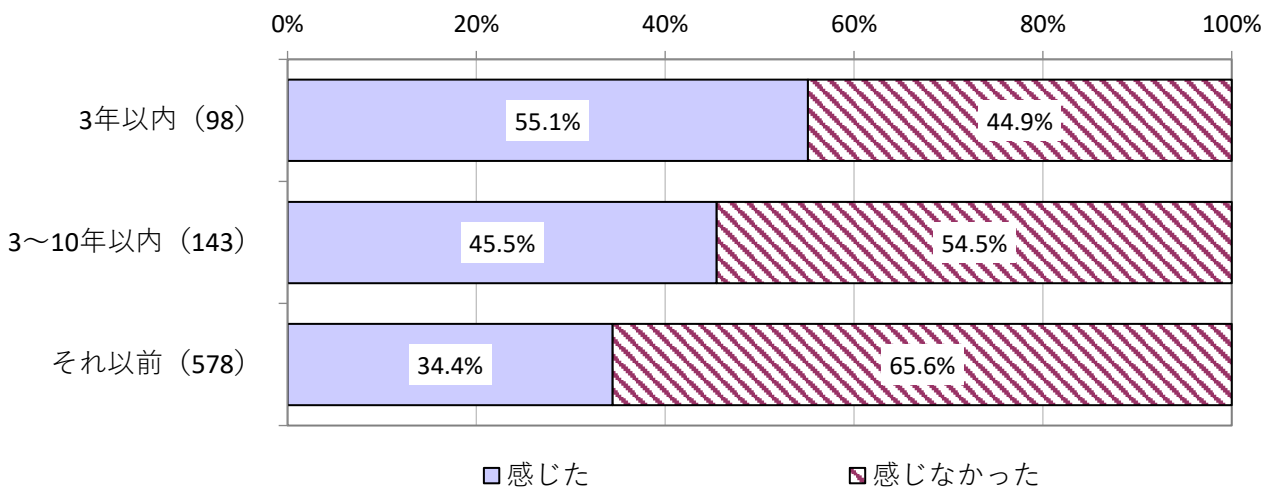
被害の時期別にみると、「感じた」との回答比率が、「3年以内」では55.1%、「3～10年以内」では45.5%、「それ以前」では34.4%と、期間が経過するほど低くなっている（図表3-6）。

精神的な問題への対処方法をみると、犯罪被害者等、一般対象者ともに、「特に何もしていない」（それぞれ56.6%、80.0%）との回答比率が最も高く、次いで「医療機関（精神科以外も含む）に通った（訪問診療を含む）」（同26.1%、11.9%）、「家族や知人に相談した」（同17.9%、8.1%）の順に高くなっている。また、犯罪被害者等では一般対象者より「医療機関（精神科以外も含む）に通った（訪問診療を含む）」で14.2ポイント、「家族や知人に相談した」で9.8ポイント、「公的機関や民間団体において、カウンセリングを受けたり相談をしたりした」で7.4ポイント上回っている（図表3-7）。

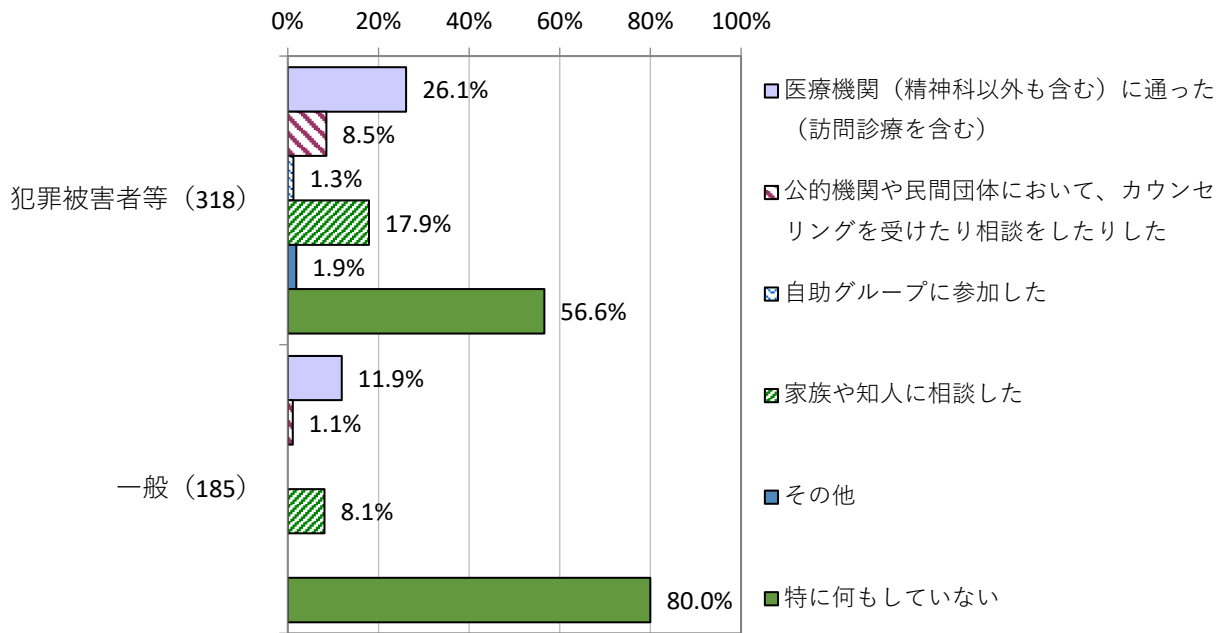
図表 3-5 回答者属性別、精神的な問題の有無【Q31/P5】



図表 3-6 被害の時期別、精神的な問題の有無_犯罪被害者等【SC2、Q31】



図表 3-7 回答者属性別、精神的な問題への対処方法（複数回答）【Q33/P6】

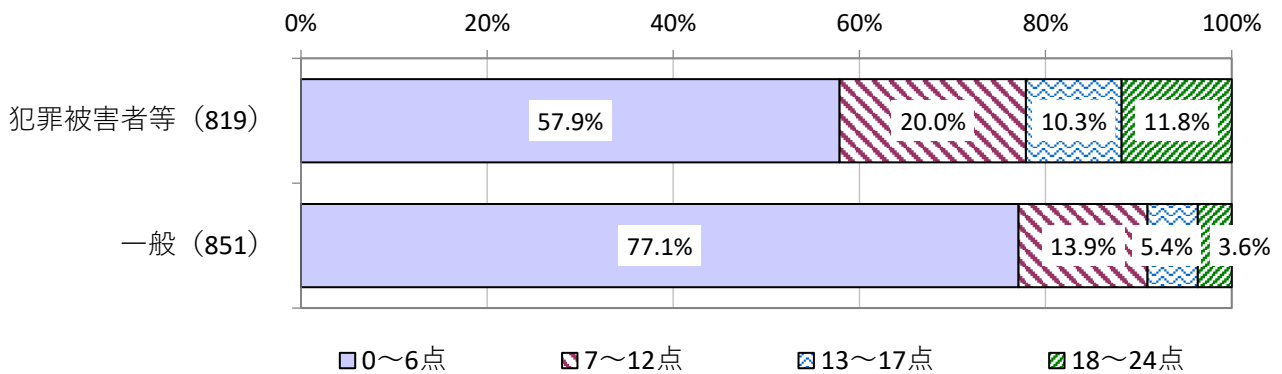


※対象：Q31 及び P5（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（犯罪被害者等：318人、一般：185人）のみ。

イ. 精神健康状態(K6)

精神健康状態について、K6の値で比べると、重症精神障害相当とされる13点以上の割合は、犯罪被害者等（22.1%）が一般対象者（9.0%）を13.1ポイント上回っている（図表3-8）。

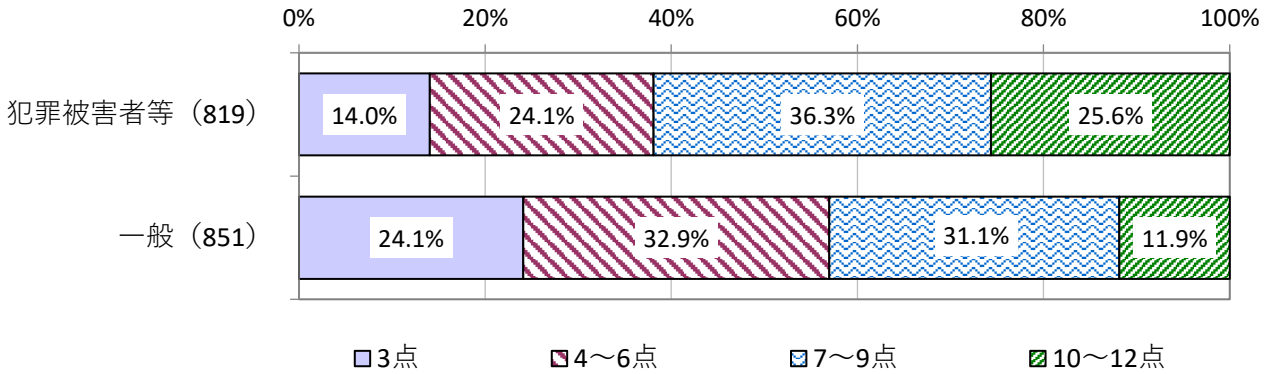
図表 3-8 回答者属性別、K6 得点【Q34/P1】



ウ. 孤独感尺度(UCLA)

孤独感について、UCLA 孤独感尺度（以下「UCLA」という。）の値で比べると、10 点以上の割合は、犯罪被害者等（25.6%）が一般対象者（11.9%）を 13.7 ポイント上回っている（図表 3-9）。

図表 3-9 回答者属性別、UCLA 得点【Q36/P2】



エ. 日常生活が行えなかったと感じた日数

直近1年間で心身の不調等により仕事や日常生活が行えなかったと感じた平均日数については、犯罪被害者等（28.9日）が一般対象者（7.5日）の約4倍に達している（図表 3-10）。

図表 3-10 回答者属性別、日常生活が行えなかったと感じた日数【Q35/P7】

回答者属性	平均日数
犯罪被害者等(N=819)	28.9日
一般(N=851)	7.5日

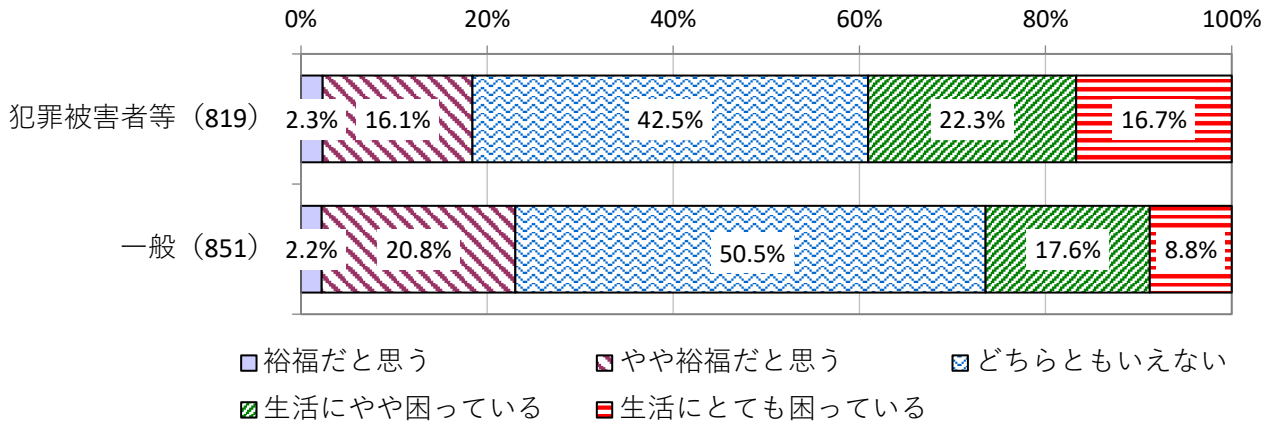
(4)経済的状況

ア. 生活の状況

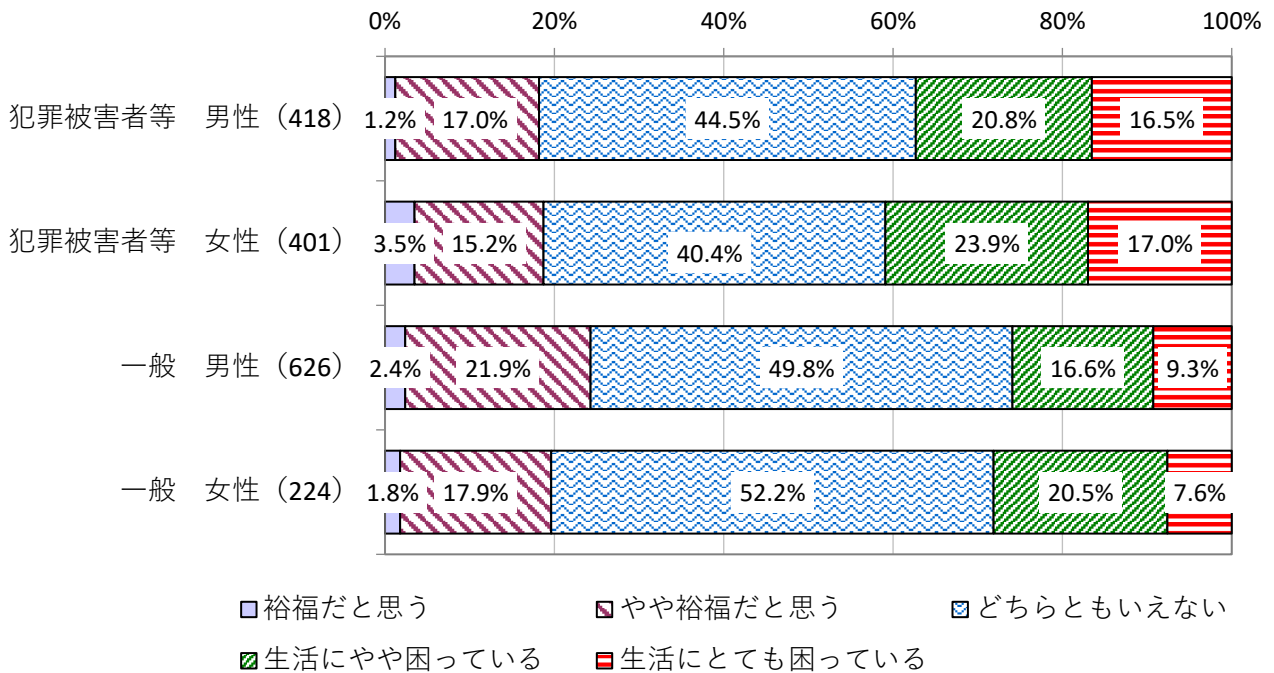
経済的状況に関する意識については、裕福（「裕福だと思う」と「やや裕福だと思う」の和）との回答比率は、犯罪被害者等が 18.4%と、一般対象者（23.0%）よりもやや低くなっている。一方、困っている（「生活にやや困っている」と「生活にとっても困っている」の和）との回答比率は、犯罪被害者等が 39.0%と、一般対象者（26.4%）よりも高くなっている（図表 3-11）。

回答者の性別ごとにみると、困っているとの回答比率は、犯罪被害者等では女性が 40.9%、男性が 37.3%、一般対象者では女性が 28.1%、男性が 25.9%と、いずれも女性の方がやや高くなっている（図表 3-12）。

図表 3-11 回答者属性別、経済的状況に関する意識【Q37/P10】



図表 3-12 性別、経済的状況に関する意識【F1、Q37/F1、P10】



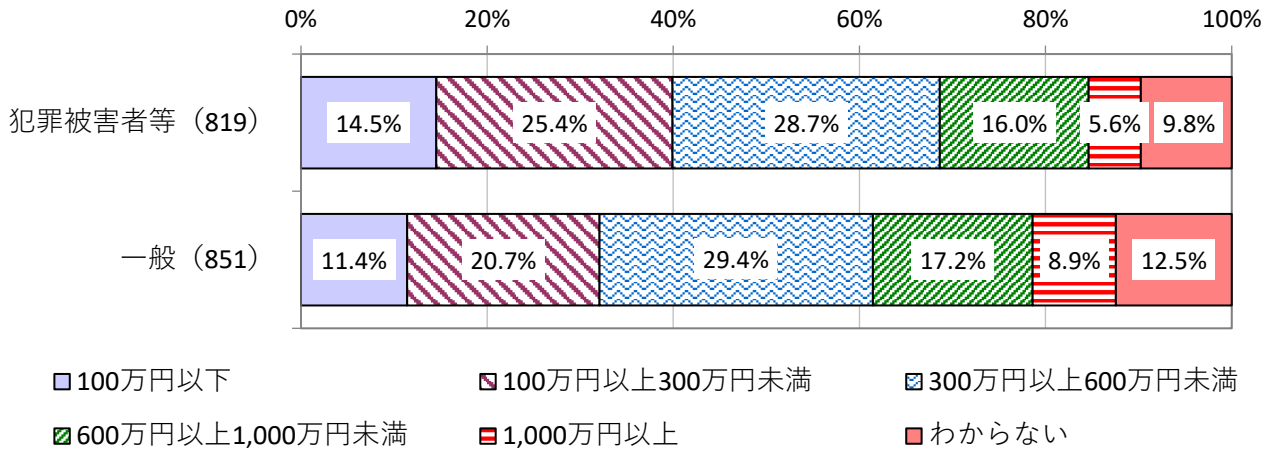
※対象：F1（性別）で「上記にあてはまらない」を選択した方（一般：1人）を除く。

イ. 年収

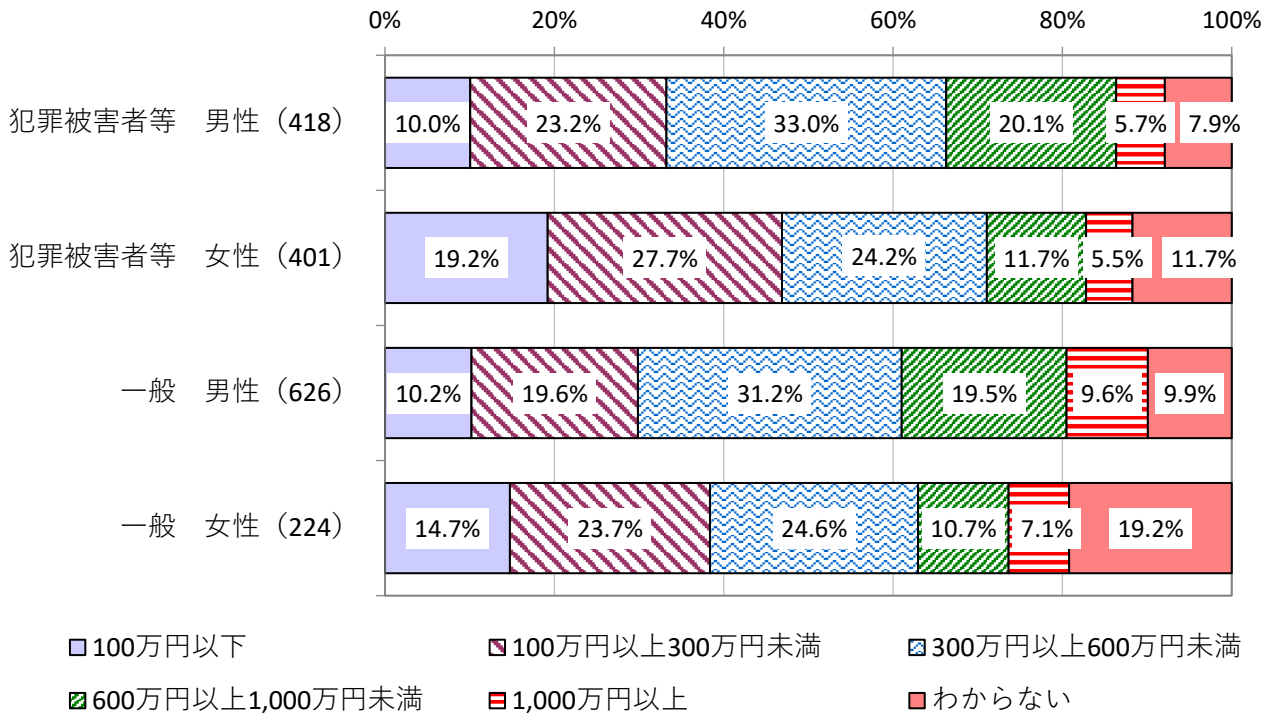
現在の世帯年収水準について、300万円未満（「100万円以下」と「100万円以上300万円未満」の和）との回答比率は、犯罪被害者等が39.9%と、一般対象者（32.1%）よりも高く、「1,000万円以上」との回答比率は、犯罪被害者等が5.6%と、一般対象者（8.9%）よりもやや低い（図表3-13）。

回答者の性別ごとにみると、犯罪被害者等、一般対象者ともに、300万円未満との回答比率が女性の方が男性よりも高い（図表3-14）。

図表 3-13 回答者属性別、現在の年収水準（世帯年収）【Q39/P11】



図表 3-14 性別、現在の年収水準（世帯年収）【F1、Q39/F1、P11】



※対象：F1（性別）で「上記にあてはまらない」を選択した方（一般：1人）を除く。

2-4. 犯罪被害類型別の特徴

犯罪被害類型別の特徴として、被害による生活上の変化、身体・精神・経済的状況、被害からの回復状況等について分析する。

(1) 生活上の変化

事件後から現在までに起こった、事件と関連がある生活上の変化について、犯罪被害類型別にみると、回答比率が最も高いのは、配偶者暴力では「別居・離婚をした」(36.0%)、ストーカーでは「学校または仕事を辞めた、変えた」(23.2%)、児童虐待では「家族間で不和が起こった」(31.2%)、交通事故、暴力被害では「学校または仕事をしばらく休んだ(休学、休職)」(それぞれ25.0%、22.9%)となっている(図表4-1)。

図表 4-1 犯罪被害類型別、事件と関連がある生活上の変化(複数回答)【SC1/SC3、Q50】

	全体	学校または仕事を辞めた、変えた	学校または仕事をしばらく休んだ(休学、休職)	長期に入院したり入院し続けるようなけがや病気をした	自分が転居(引越し)をした	結婚した	別居・離婚をした	望まない妊娠をした	子どもが生まれた	同居している家族が結婚した
犯罪被害者等	819	106 (12.9%)	107 (13.1%)	70 (8.5%)	85 (10.4%)	11 (1.3%)	54 (6.6%)	9 (1.1%)	7 (0.9%)	6 (0.7%)
財産被害	139	6 (4.3%)	8 (5.8%)	5 (3.6%)	4 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)
配偶者暴力	114	19 (16.7%)	8 (7.0%)	3 (2.6%)	18 (15.8%)	0 (0.0%)	41 (36.0%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)
ストーカー行為等	125	29 (23.2%)	12 (9.6%)	3 (2.4%)	20 (16.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)
児童虐待	109	22 (20.2%)	20 (18.3%)	11 (10.1%)	21 (19.3%)	7 (6.4%)	3 (2.8%)	3 (2.8%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)
性的な被害	119	5 (4.2%)	8 (6.7%)	5 (4.2%)	5 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
交通事故	104	4 (3.8%)	26 (25.0%)	25 (24.0%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
暴力被害	109	21 (19.3%)	25 (22.9%)	18 (16.5%)	15 (13.8%)	4 (3.7%)	8 (7.3%)	4 (3.7%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)

	同居している家族に子どもが生まれた	同居している家族の看護・介護が必要になった	家族が亡くなった	家族間の信頼が深まった	家族間で不和が起こった	学校や職場、地域の人々との関係が親密になった	学校や職場、地域の人々との関係が悪化した	その他	事件と関連があると思うものはない
犯罪被害者等	4 (0.5%)	5 (0.6%)	11 (1.3%)	20 (2.4%)	83 (10.1%)	5 (0.6%)	42 (5.1%)	14 (1.7%)	474 (57.9%)
財産被害	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)	3 (2.2%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)	4 (2.9%)	114 (82.0%)
配偶者暴力	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	5 (4.4%)	19 (16.7%)	1 (0.9%)	3 (2.6%)	1 (0.9%)	47 (41.2%)
ストーカー行為等	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	5 (4.0%)	6 (4.8%)	2 (1.6%)	6 (4.8%)	0 (0.0%)	68 (54.4%)
児童虐待	0 (0.0%)	3 (2.8%)	4 (3.7%)	2 (1.8%)	34 (31.2%)	0 (0.0%)	16 (14.7%)	2 (1.8%)	44 (40.4%)
性的な被害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (3.4%)	0 (0.0%)	4 (3.4%)	3 (2.5%)	91 (76.5%)
交通事故	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	2 (1.9%)	64 (61.5%)
暴力被害	3 (2.8%)	2 (1.8%)	4 (3.7%)	4 (3.7%)	17 (15.6%)	2 (1.8%)	10 (9.2%)	2 (1.8%)	46 (42.2%)

【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

		全体	学校または仕事を辞めた、変えた	学校または仕事をしばらく休んだ(休学、休職)	長期に通院したり入院したりするようけがや病気をした	自分が転居(引越し)をした	結婚した	別居・離婚をした	望まない妊娠をした	子どもが生まれた	同居している家族が結婚した
性的な被害	痴漢等	90 (2.2%)	2 (2.2%)	3 (3.3%)	1 (1.1%)	2 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	無理矢理性交	29 (10.3%)	3 (10.3%)	5 (17.2%)	4 (13.8%)	3 (10.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
交通事故	けが	96 (4.2%)	4 (4.2%)	26 (27.1%)	25 (26.0%)	2 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	死亡	8 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
暴力被害	けが	96 (19.8%)	19 (19.8%)	21 (21.9%)	17 (17.7%)	12 (12.5%)	2 (2.1%)	6 (6.3%)	3 (3.1%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)
	死亡	13 (15.4%)	2 (15.4%)	4 (30.8%)	1 (7.7%)	3 (23.1%)	2 (15.4%)	2 (15.4%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)

		同居している家族に子どもが生まれた	同居している家族の看護・介護が必要になった	家族が亡くなった	家族間の信頼が深まった	家族間で不和が起こった	学校や職場、地域の人々との関係が親密になった	学校や職場、地域の人々との関係が悪化した	その他	事件と関連があると思うものはない
性的な被害	痴漢等	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	2 (2.2%)	79 (87.8%)
	無理矢理性交	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (10.3%)	0 (0.0%)	3 (10.3%)	1 (3.4%)	12 (41.4%)
交通事故	けが	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	2 (2.1%)	58 (60.4%)
	死亡	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (75.0%)
暴力被害	けが	2 (2.1%)	1 (1.0%)	2 (2.1%)	2 (2.1%)	13 (13.5%)	1 (1.0%)	7 (7.3%)	2 (2.1%)	40 (41.7%)
	死亡	1 (7.7%)	1 (7.7%)	2 (15.4%)	2 (15.4%)	4 (30.8%)	1 (7.7%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)	6 (46.2%)

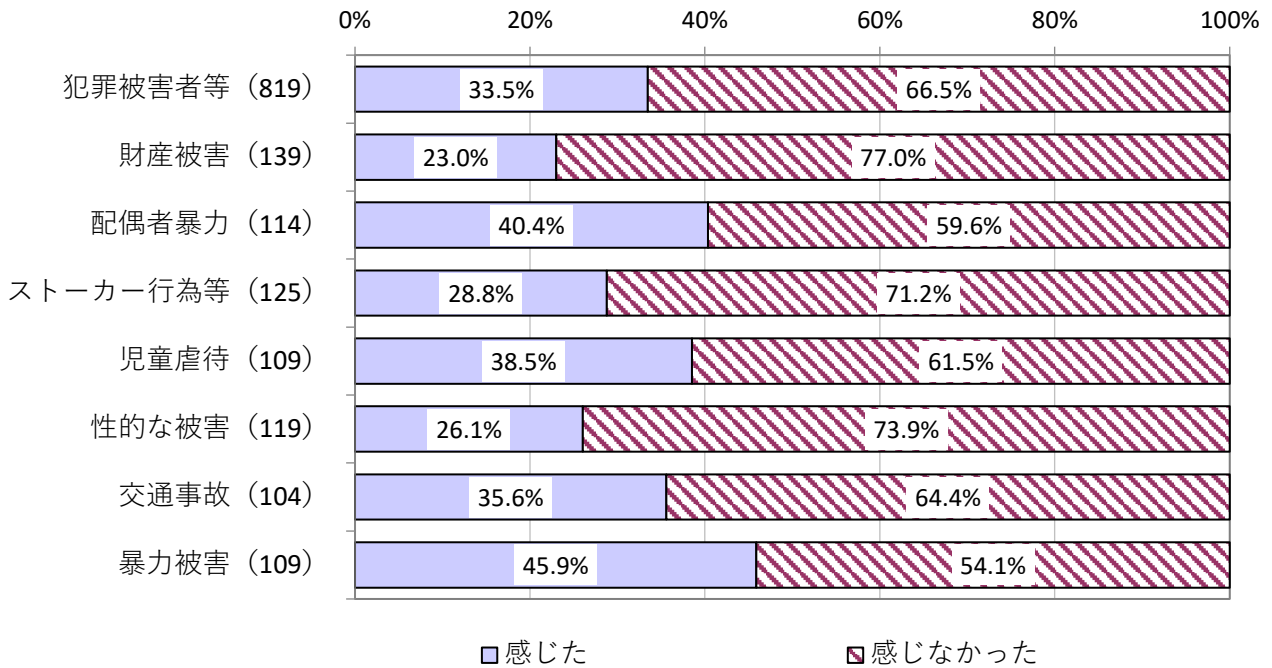
(2)身体的状況

過去30日間における身体上の問題について、犯罪被害類型別にみると、「感じた」との回答比率は、暴力被害(45.9%)で最も高く、次いで配偶者暴力(40.4%)、児童虐待(38.5%)となっている(図表4-2)。

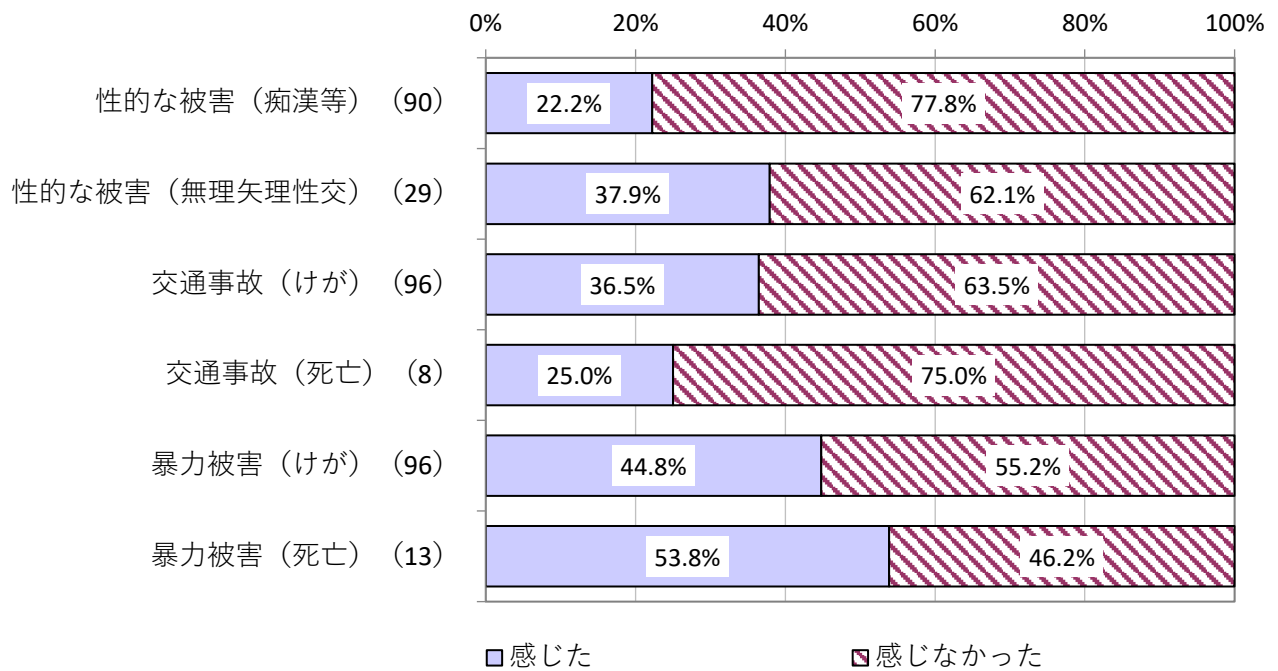
身体上の問題と事件との関係については、事件と関係している(「事件が大いに関係している」と「事件がある程度関係している」の和)との回答比率は、ストーカー(55.5%)が最も高く、次いで性的な被害(38.7%)、暴力被害(36.0%)、交通事故(35.1%)、配偶者暴力(34.8%)となっている(図表4-3)。

身体上の問題への対処方法としては、「医療機関に通った(訪問診療を含む)」との回答比率は交通事故(56.8%)、財産被害(50.0%)で高く、「特に何もしていない」との回答比率は性的な被害(61.3%)、児童虐待(59.5%)、配偶者暴力(54.3%)で高くなっている(図表4-4)。

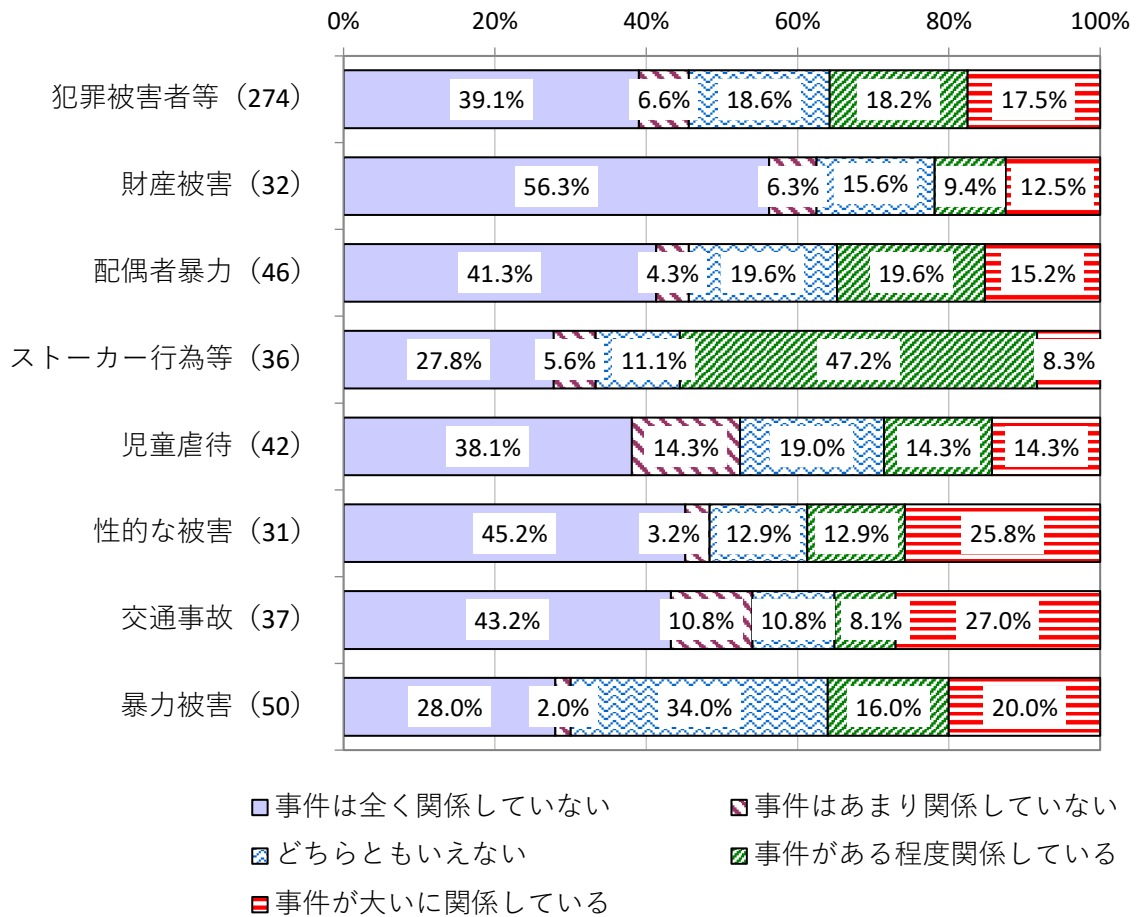
図表 4-2 犯罪被害類型別、身体上の問題の有無【SC1/SC3、Q28】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

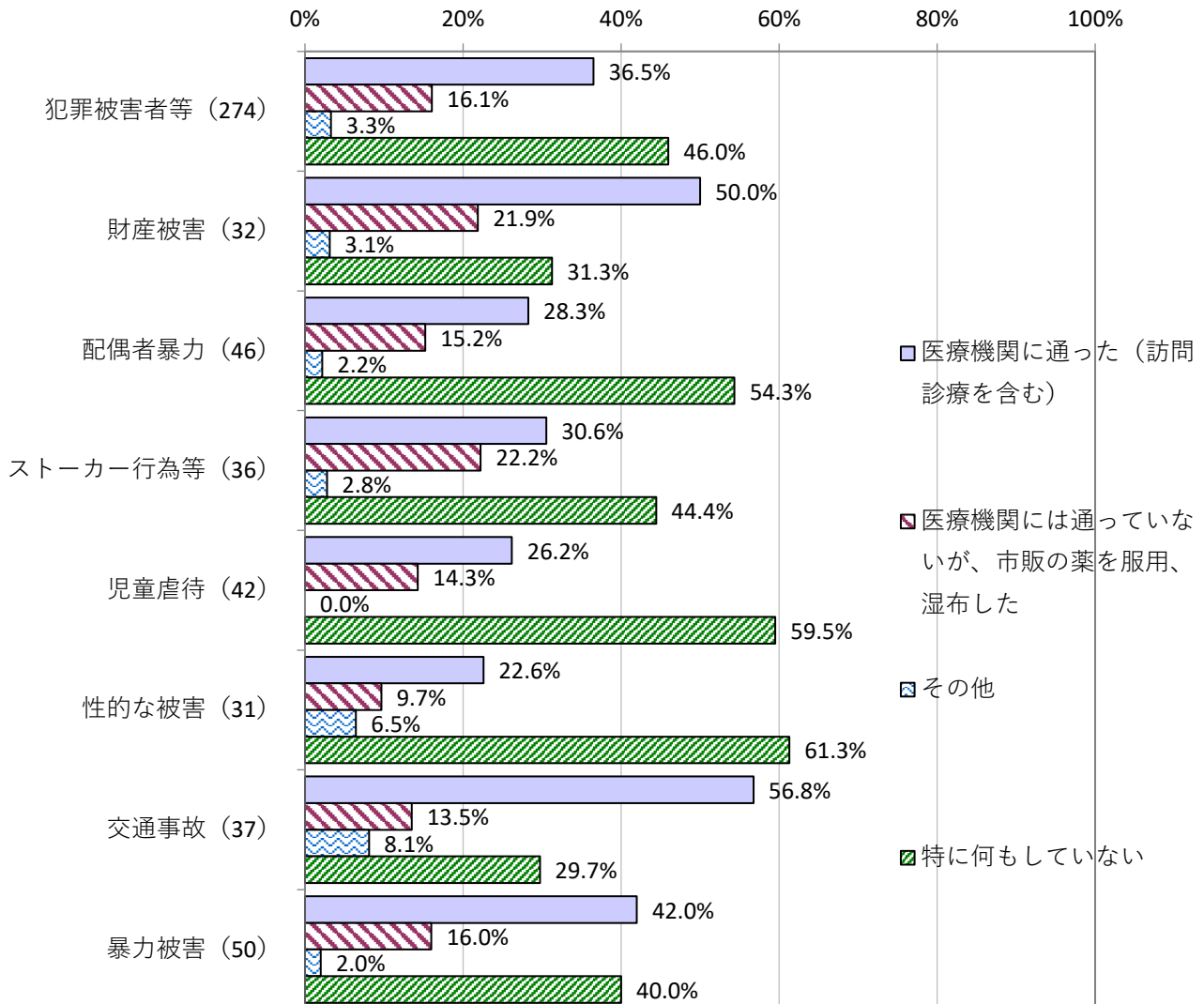


図表 4-3 犯罪被害類型別、身体上の問題と事件との関連【SC1/SC3、Q29】



※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（274人）のみ。

図表 4-4 犯罪被害類型別、身体上の問題への対処方法（複数回答）【SC1/SC3、Q30】



※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（274人）のみ。

（3）精神的状況

ア. 精神的な問題

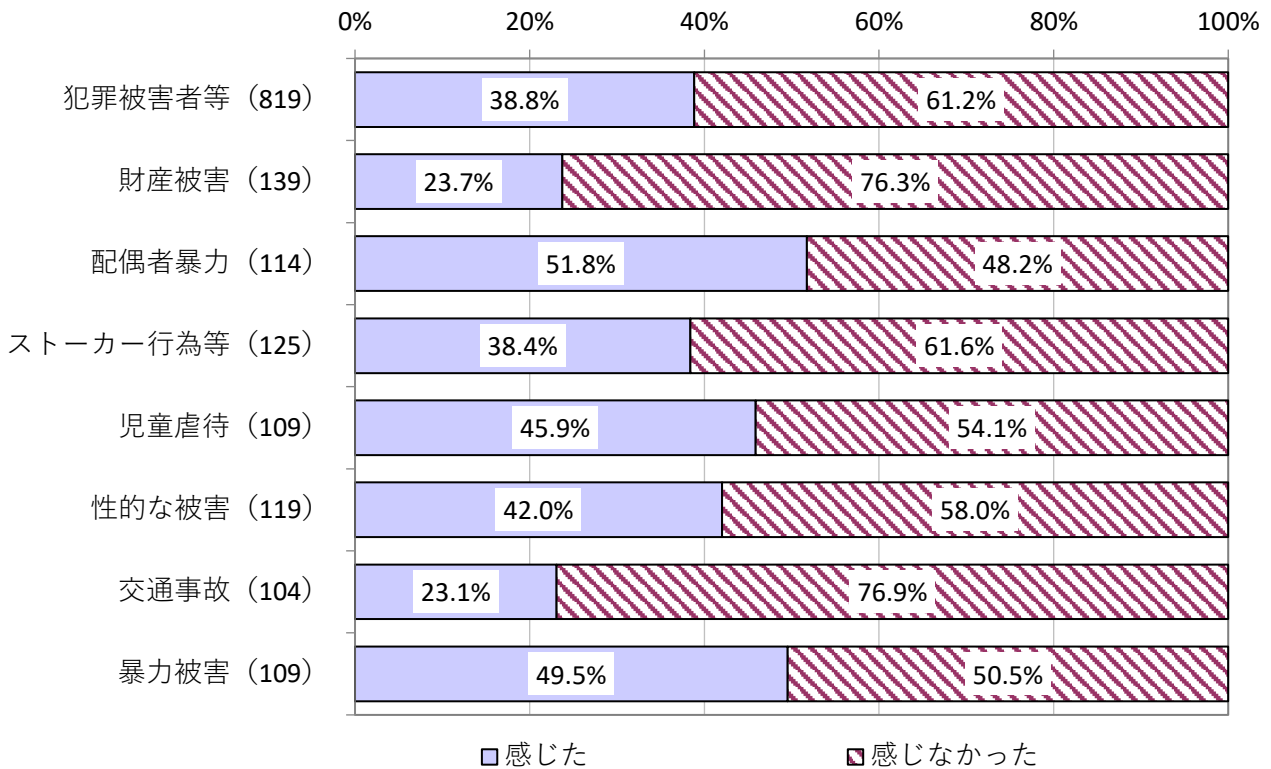
過去30日間における精神的な問題や悩みについて、犯罪被害類型別にみると、「感じた」との回答比率は、配偶者暴力（51.8%）が最も高く、次いで暴力被害（49.5%）、児童虐待（45.9%）、性的な被害（42.0%）となっている（図表4-5）。

精神的な問題と事件との関係については、事件と関係している（「事件が大いに関係している」と「事件がある程度関係している」の和）との回答比率は、児童虐待（58.0%）が最も高く、次いでストーカー（54.2%）、配偶者暴力（50.8%）、性的な被害（50.0%）となっている（図表4-6）。

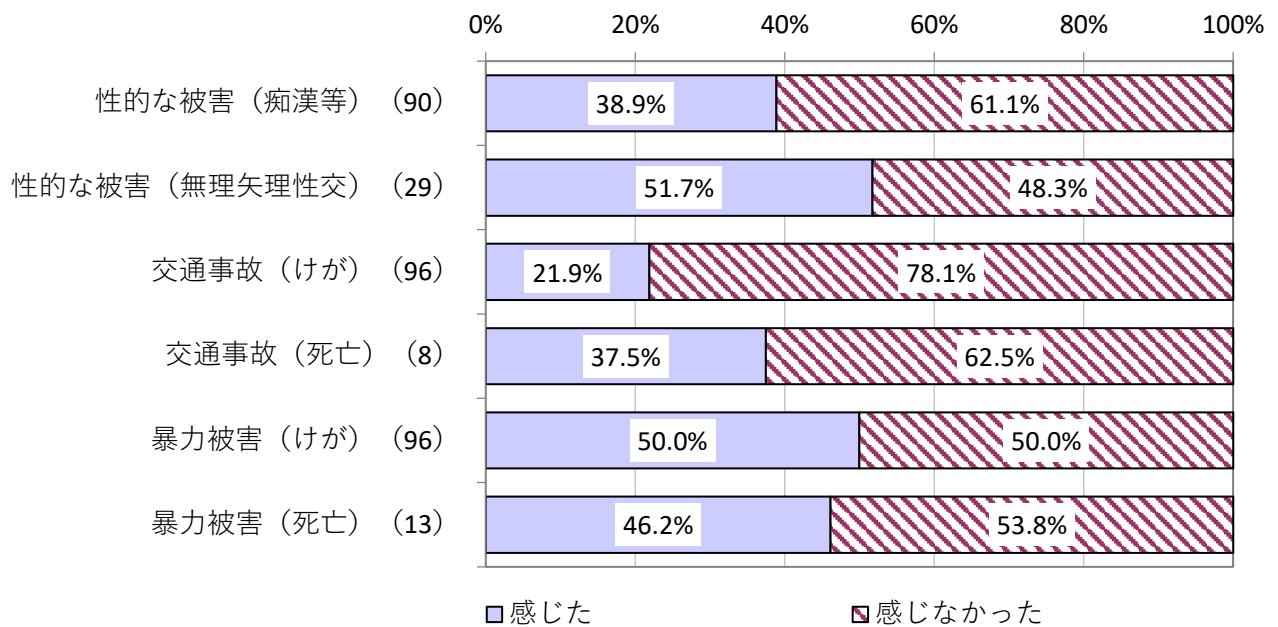
精神的な問題への対処方法としては、多くの犯罪被害類型で「特に何もしていない」との回答比率が最も高くなっている。「医療機関（精神科以外も含む）に通った（訪問診療を含む）」との回答比率は暴力被

害（35.2%）、児童虐待（32.0%）、ストーカー（31.3%）で、「家族や知人に相談した」との回答比率はストーカー（41.7%）で高くなっている（図表4-7）。

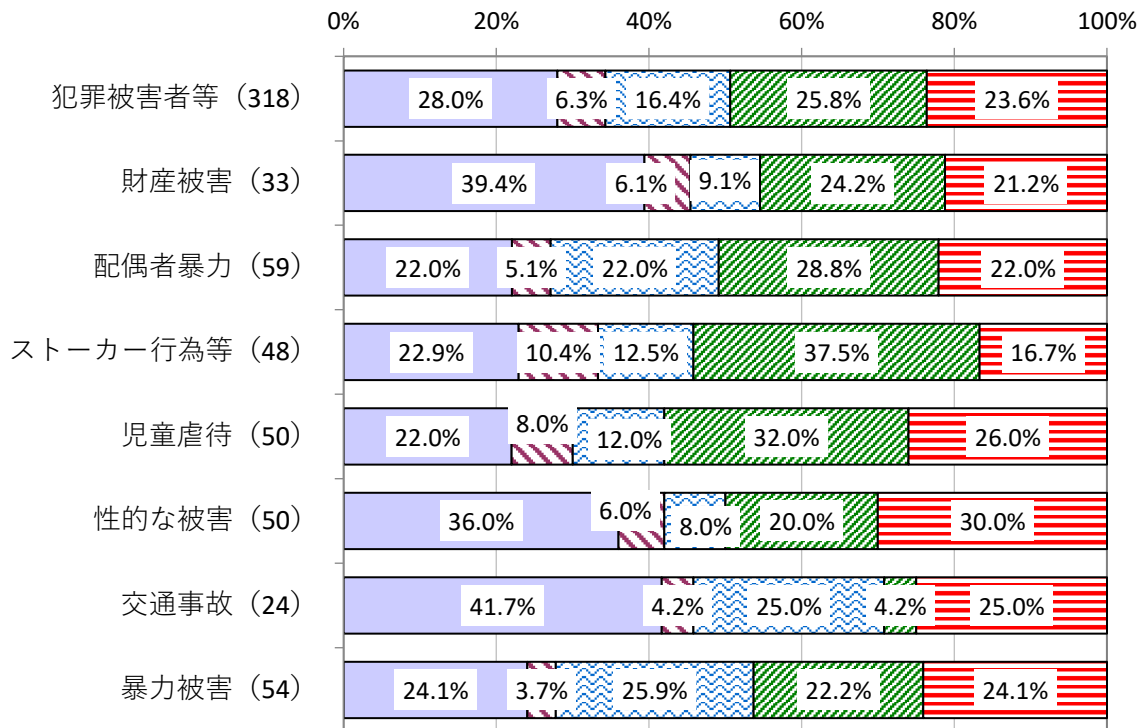
図表 4-5 犯罪被害類型別、精神的な問題の有無【SC1/SC3、Q31】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



図表 4-6 犯罪被害類型別、精神的な問題と事件との関連【SC1/SC3、Q32】



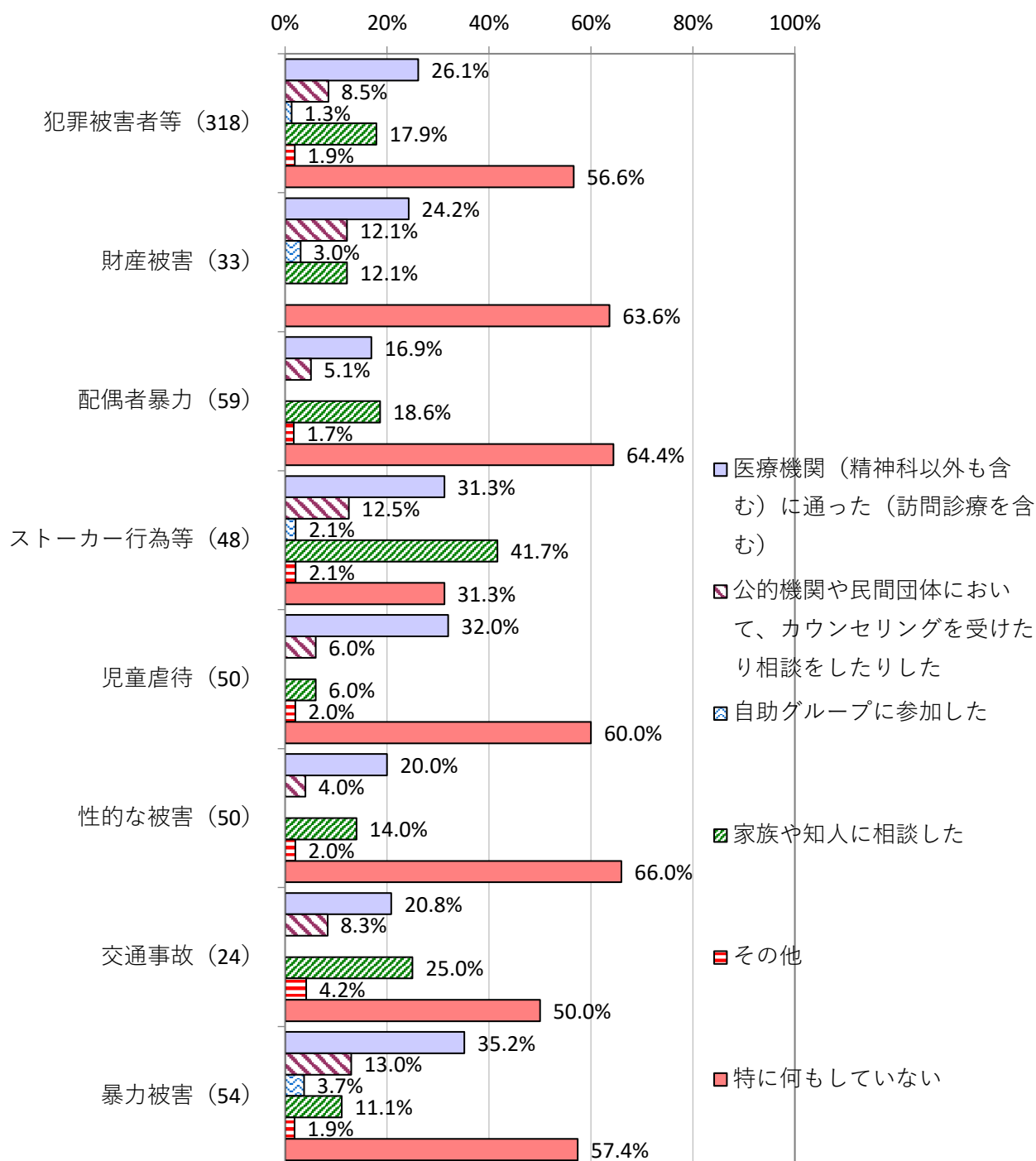
- 事件は全く関係していない
- ▨ 事件はあまり関係していない
- ▤ どちらともいえない
- ▧ 事件がある程度関係している
- ▩ 事件が大いに関係している

※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（318人）のみ。

【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

		全体	事件は全く関係していない	事件はあまり関係していない	どちらともいえない	事件がある程度関係している	事件が大いに関係している
性的な被害	痴漢等	35	14 (40.0%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	5 (14.3%)	10 (28.6%)
	無理矢理性交	15	4 (26.7%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	5 (33.3%)	5 (33.3%)
交通事故	けが	21	8 (38.1%)	1 (4.8%)	5 (23.8%)	1 (4.8%)	6 (28.6%)
	死亡	3	2 (66.7%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
暴力被害	けが	48	11 (22.9%)	2 (4.2%)	13 (27.1%)	11 (22.9%)	11 (22.9%)
	死亡	6	2 (33.3%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)

図表 4-7 犯罪被害類型別、精神的な問題への対処方法（複数回答）【SC1/SC3、Q33】



※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（318人）のみ。

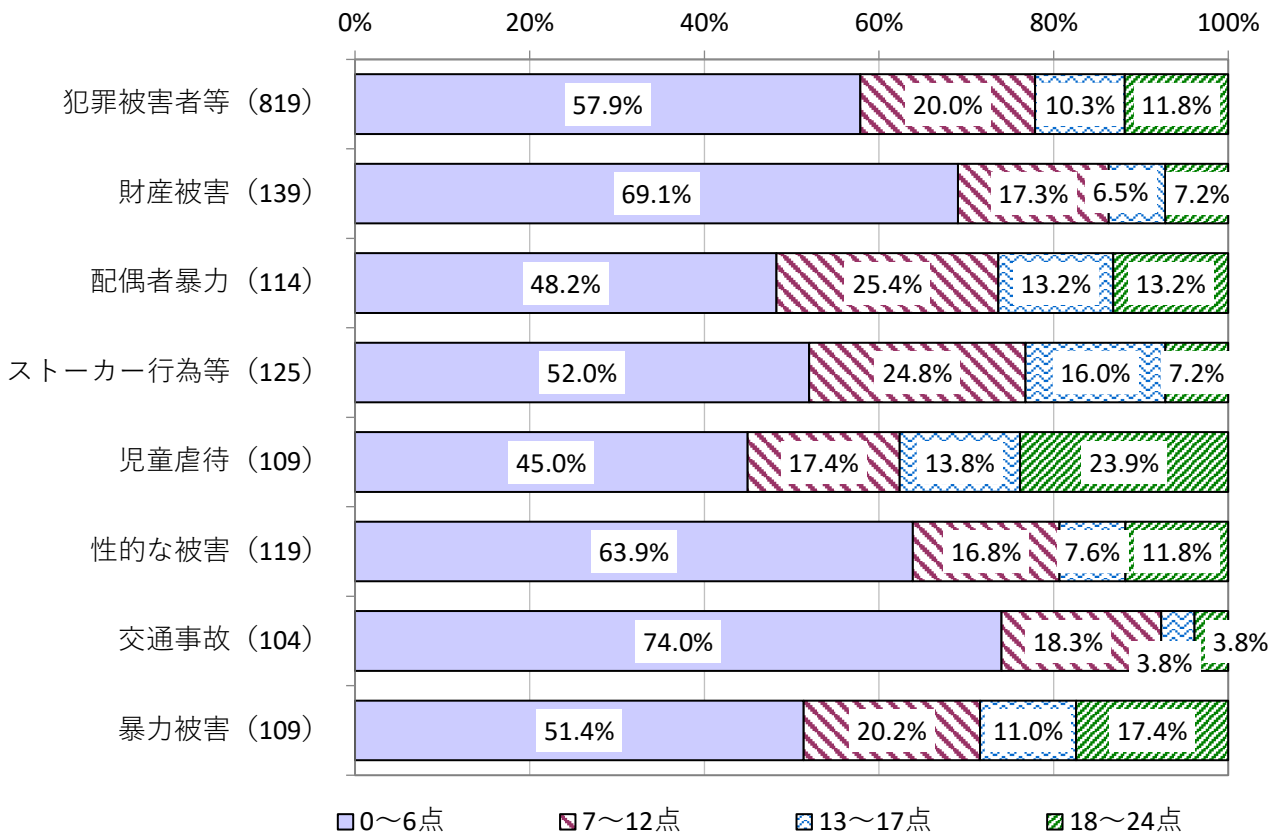
【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

		全体	医療機関(精神科以外も含む)に通った(訪問診療を含む)	公的機関や民間団体において、カウンセリングを受けたり相談をしたりした	自助グループに参加した	家族や知人に相談した	その他	特に何もしていない
性的な被害	痴漢等	35	4 (11.4%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	5 (14.3%)	1 (2.9%)	25 (71.4%)
	無理矢理性交	15	6 (40.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	8 (53.3%)
交通事故	けが	21	4 (19.0%)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	6 (28.6%)	1 (4.8%)	10 (47.6%)
	死亡	3	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)
暴力被害	けが	48	18 (37.5%)	6 (12.5%)	1 (2.1%)	6 (12.5%)	1 (2.1%)	27 (56.3%)
	死亡	6	1 (16.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (66.7%)

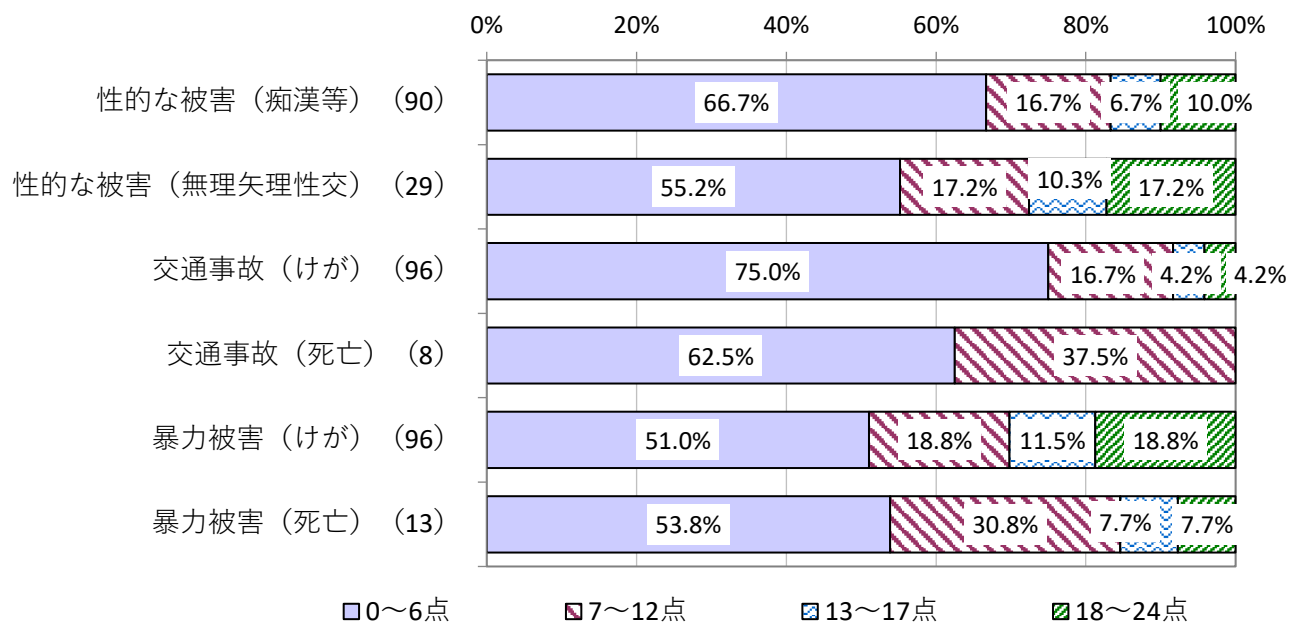
Ⅰ. 精神健康状態(K6)

精神健康状態について、犯罪被害類型別に K6 の値で比べると、重症精神障害相当とされる 13 点以上の割合は、児童虐待 (37.7%) で最も高く、次いで暴力被害 (28.4%)、配偶者暴力 (26.4%) となっている (図表 4-8)。

図表 4-8 犯罪被害類型別、K6 得点【SC1/SC3、Q34】



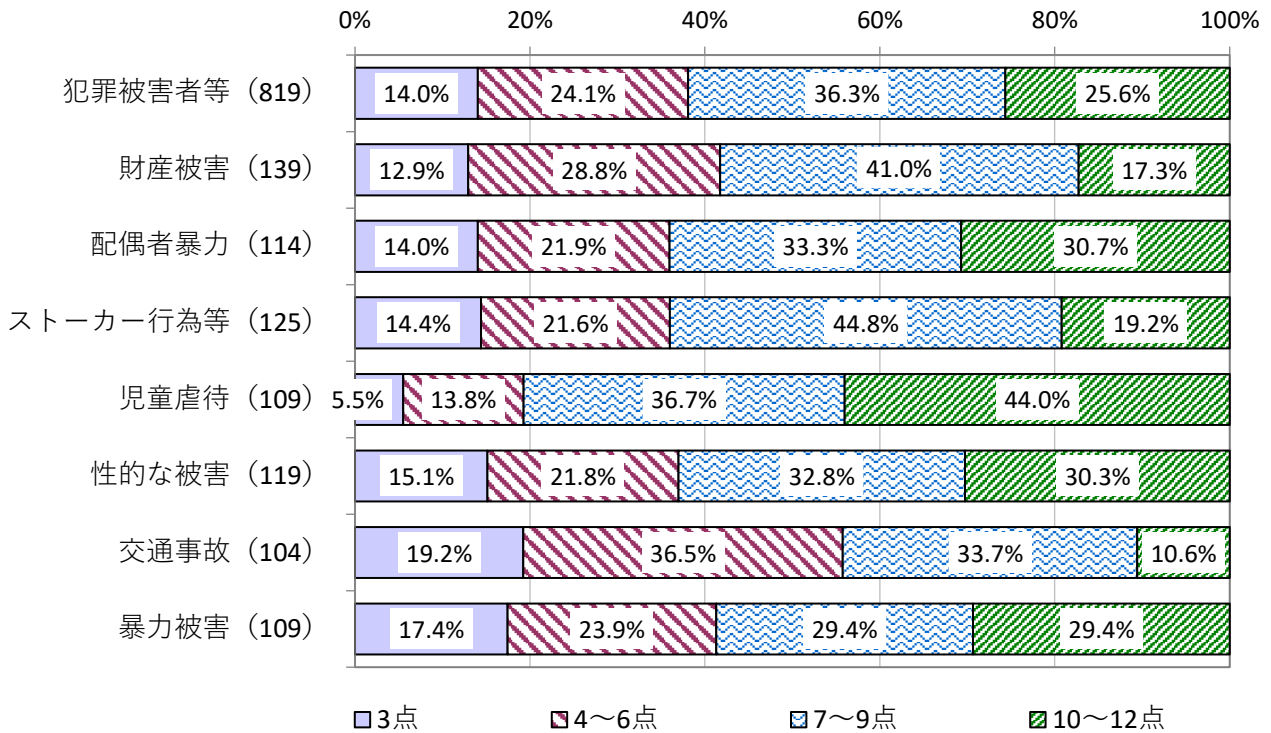
【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



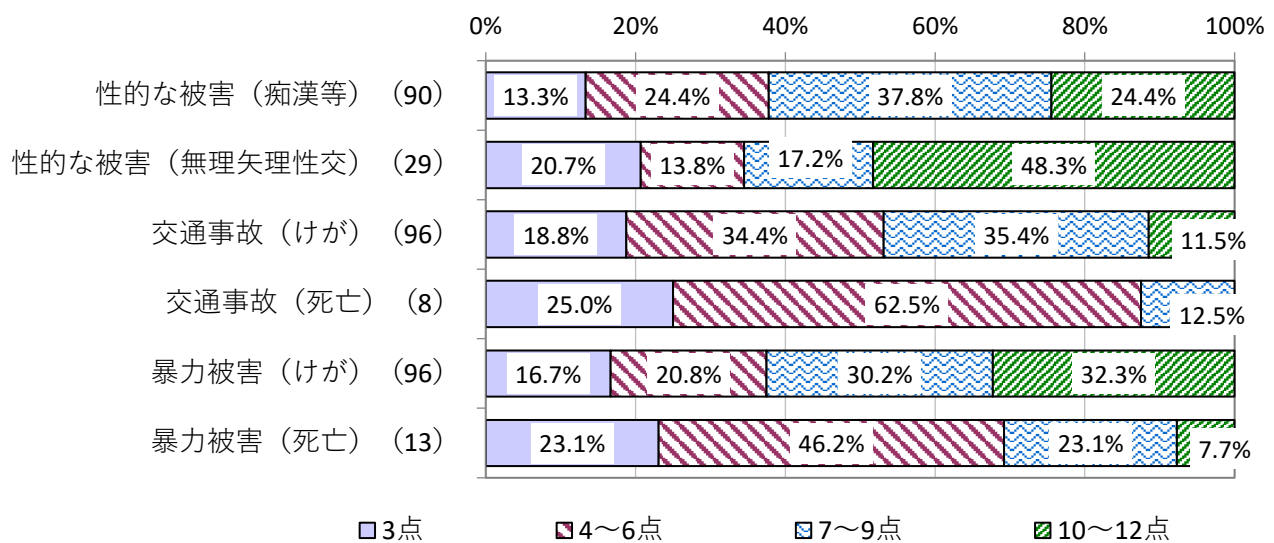
ウ. 孤独感尺度(UCLA)

孤独感について、犯罪被害類型別に UCLA の値で比べると、10点以上の割合は、児童虐待（44.0%）が最も高く、次いで配偶者暴力（30.7%）、性的な被害（30.3%）となっている（図表4-9）。

図表 4-9 犯罪被害類型別、UCLA 得点【SC1/SC3、Q36】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



エ. 日常生活が行えなかったと感じた日数

直近1年間で心身の不調等により仕事や日常生活が行えなかったと感じた平均日数について、犯罪被害類型別にみると、児童虐待（50.0日）が最も多く、次いで暴力被害（44.2日）、ストーカー（34.4日）、配偶者暴力（34.0日）となっている（図表4-10）。

図表 4-10 犯罪被害類型別、日常生活が行えなかったと感じた日数【SC1/SC3、Q35】

犯罪被害類型	平均日数
犯罪被害者等(N=819)	28.9日
財産被害(N=139)	10.2日
配偶者暴力(N=114)	34.0日
ストーカー行為等(N=125)	34.4日
児童虐待(N=109)	50.0日
性的な被害(N=119)	25.5日
交通事故(N=104)	7.3日
暴力被害(N=109)	44.2日

【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

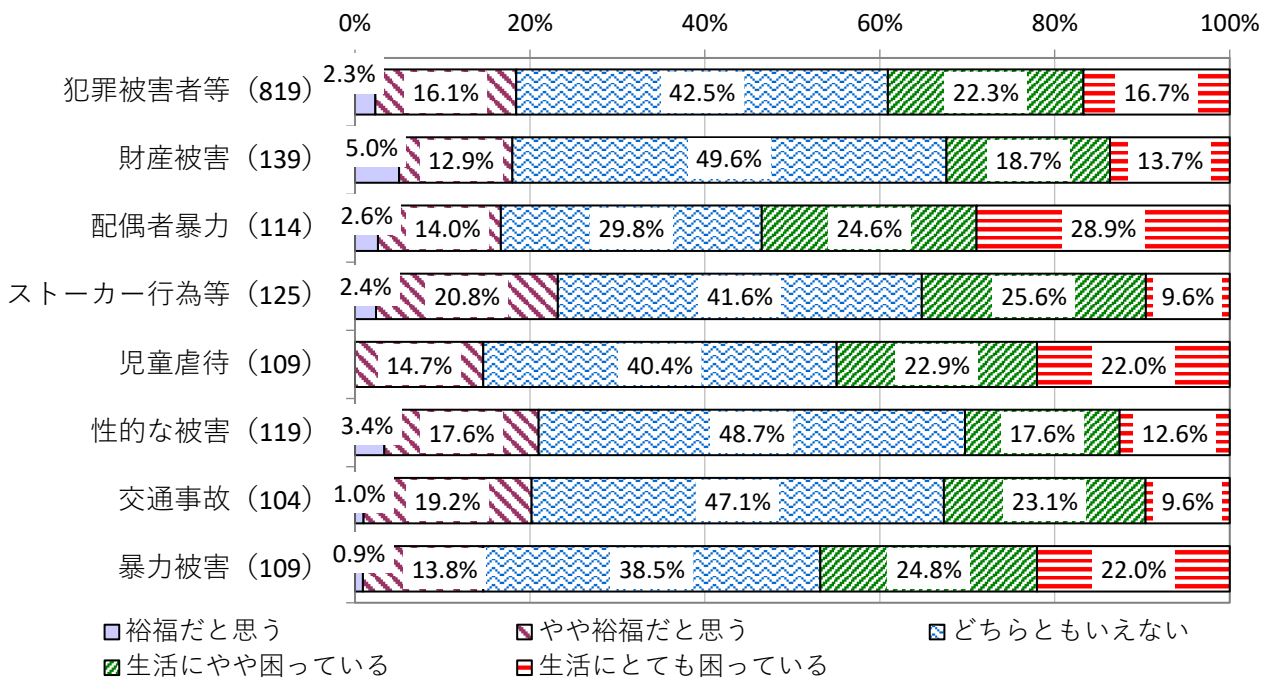
		平均日数
性的な被害	痴漢等(N=90)	16.9日
	無理矢理性交(N=29)	52.4日
交通事故	けが(N=96)	7.9日
	死亡(N=8)	0.0日
暴力被害	けが(N=96)	48.9日
	死亡(N=13)	9.6日

(4) 経済的状況

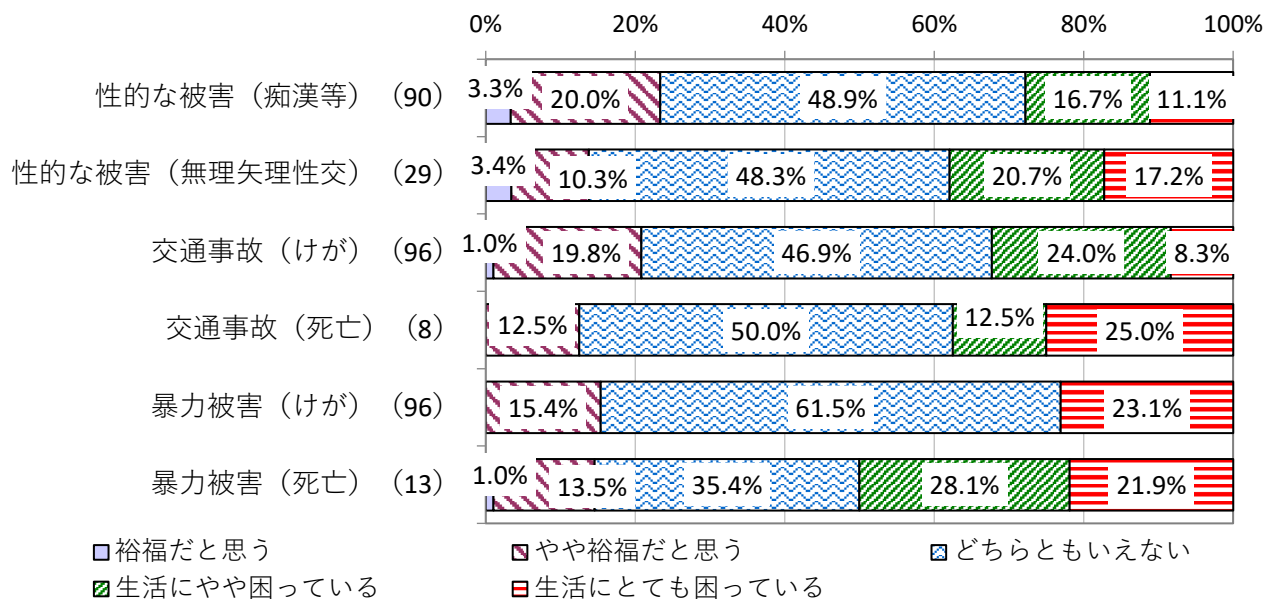
ア. 生活の状況

経済的状況に関する意識について、犯罪被害類型別にみると、裕福（「裕福だと思う」と「やや裕福だと思う」の和）との回答比率は、ストーカー（23.2%）が最も高く、次いで性的な被害（21.0%）、交通事故（20.2%）となっている。一方、困っている（「生活にとても困っている」と「生活にやや困っている」の和）との回答比率は、配偶者暴力（53.5%）が最も高く、次いで暴力被害（46.8%）、児童虐待（44.9%）となっている（図表4-11）。

図表 4-11 犯罪被害類型別、経済的状況に関する意識【SC1/SC3、Q37】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

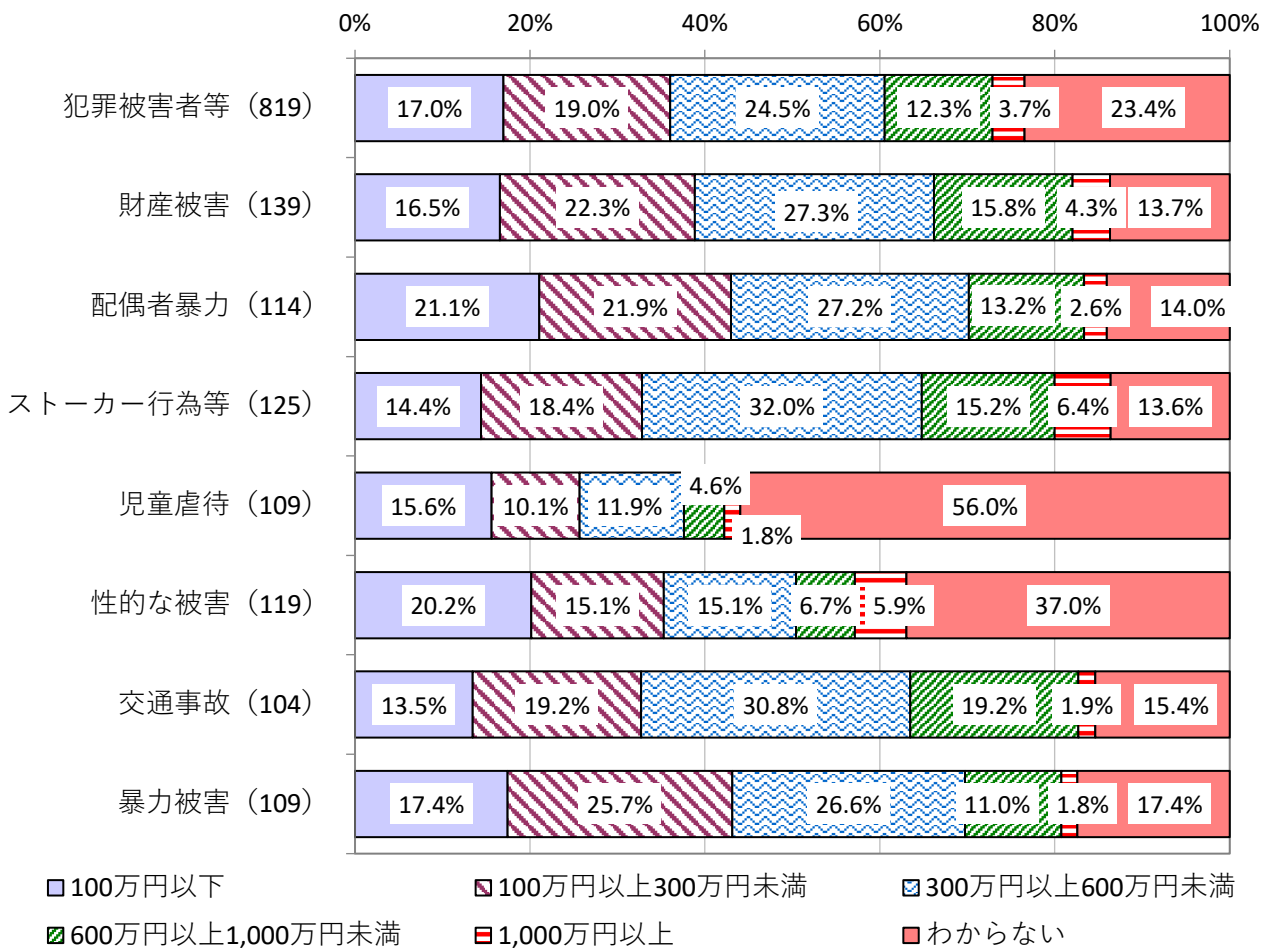


イ. 年収

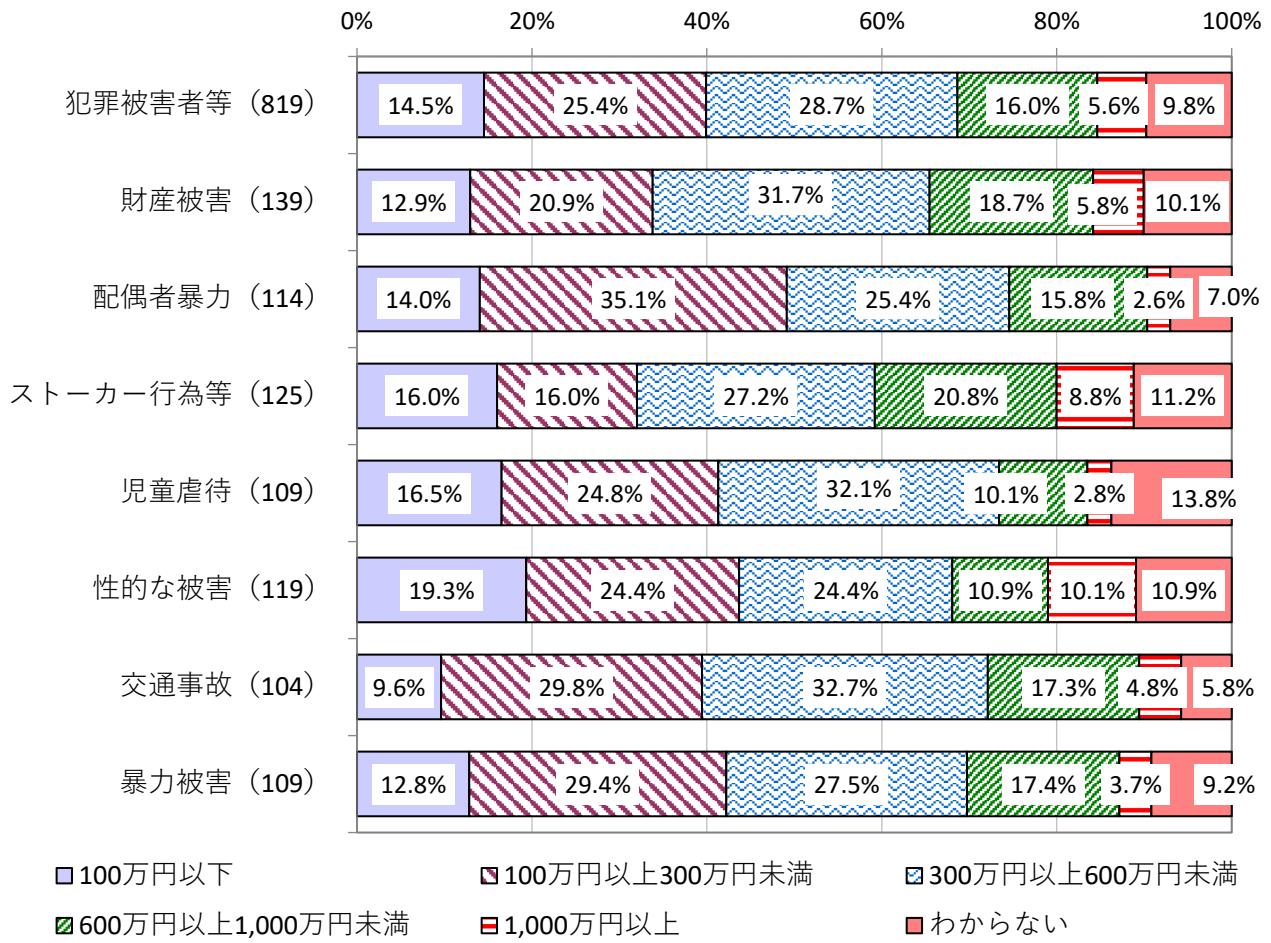
被害にあう前の世帯年収の水準について、犯罪被害類型別にみると、配偶者暴力、性的な被害では他の類型と比較して年収水準がやや低く、特に「100万円以下」との回答比率が比較的高くなっている。なお、児童虐待、性的な被害では「わからない」との回答比率も高い（図表4-12）。

現在の世帯年収の水準については、「100万円以下」との回答比率は性的な被害（19.3%）が最も高い（図表4-13）。

図表 4-12 犯罪被害類型別、被害にあう前の年収水準（世帯年収）【SC1/SC3、Q38】



図表 4-13 犯罪被害類型別、現在の年収水準（世帯年収）【SC1/SC3、Q39】



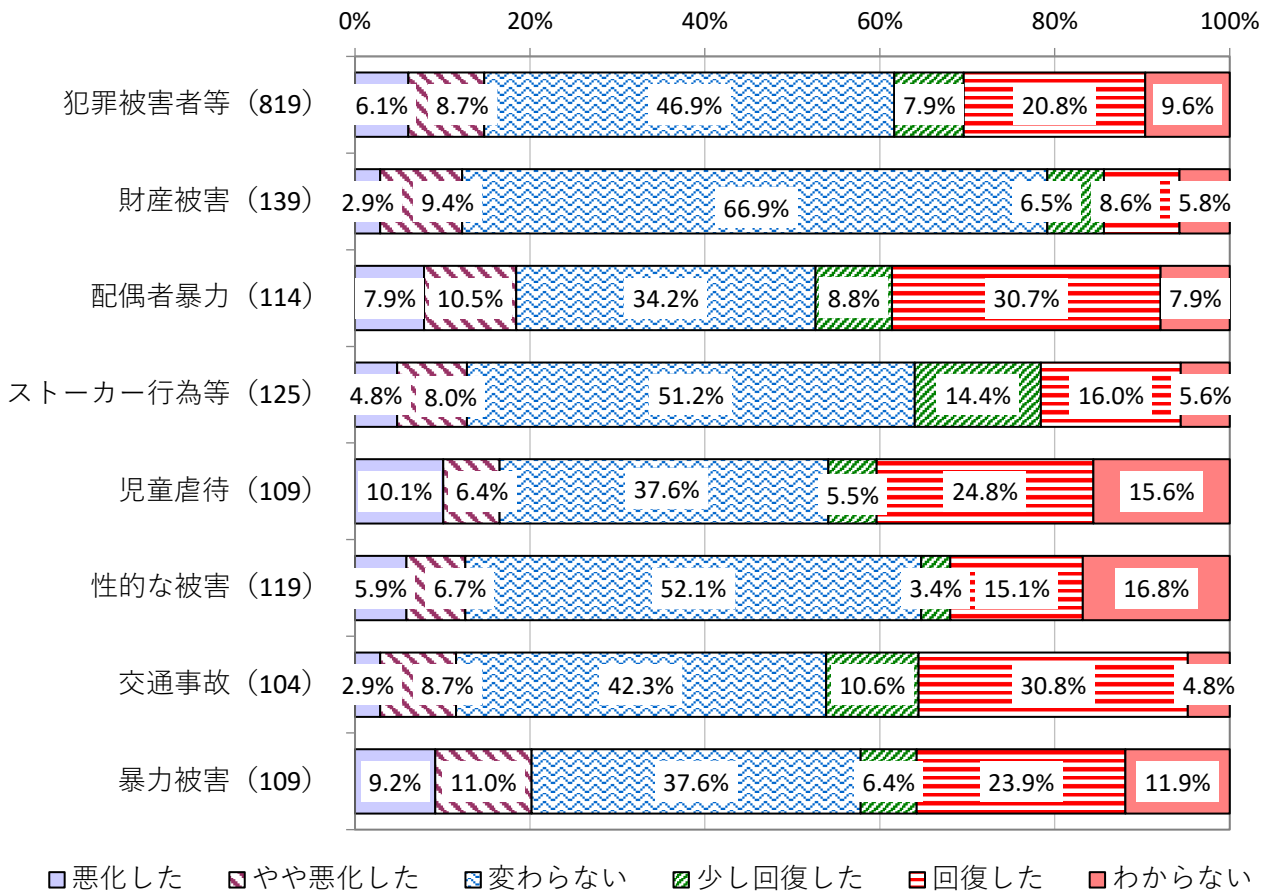
(5)被害からの回復状況

ア. 身体的状況の変化

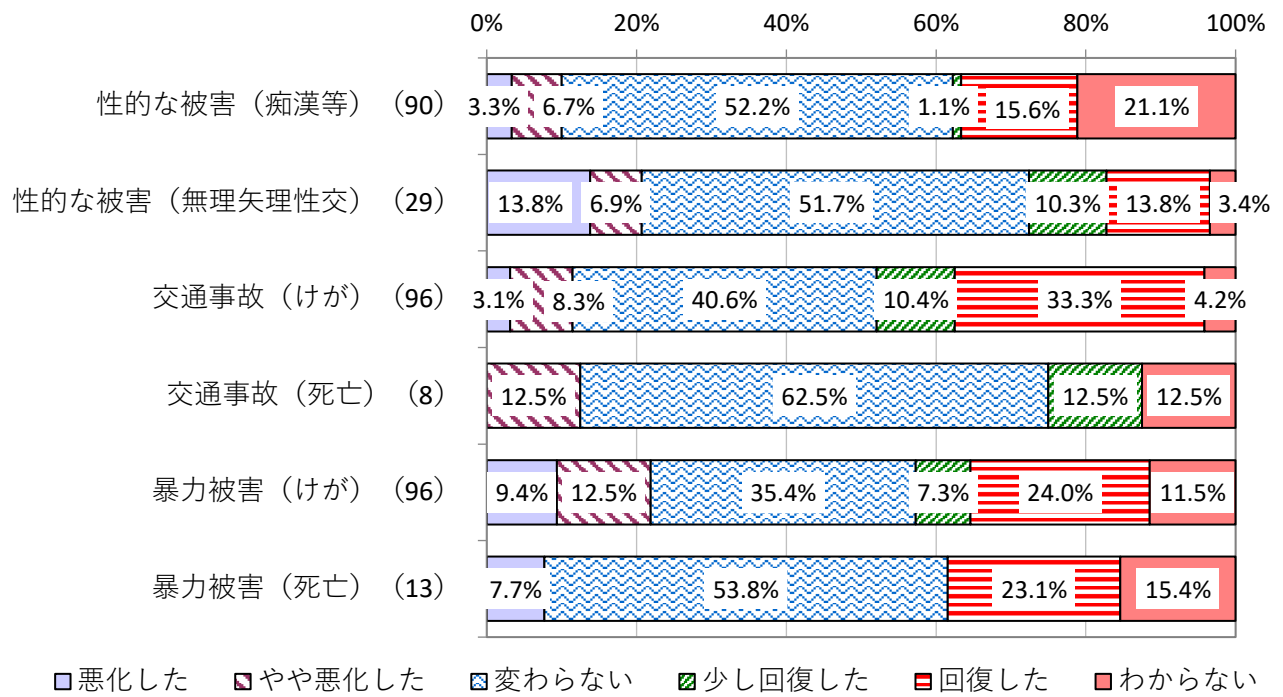
事件直後と現在の身体的な状況の変化について、犯罪被害類型別にみると、多くの類型で「変わらない」ないしは回復基調（「回復した」と「少し回復した」の和）との回答比率が高くなっている。一方、悪化基調（「悪化した」と「やや悪化した」の和）との回答比率は、暴力被害（20.2%）が最も高く、次いで配偶者暴力（18.4%）、児童虐待（16.5%）となっている。特に、児童虐待は、「悪化した」（10.1%）との回答比率が他の類型と比較し最も高くなっている（図表4-14）。

身体的な状況の悪化と事件の関連については、図表4-15のとおり。

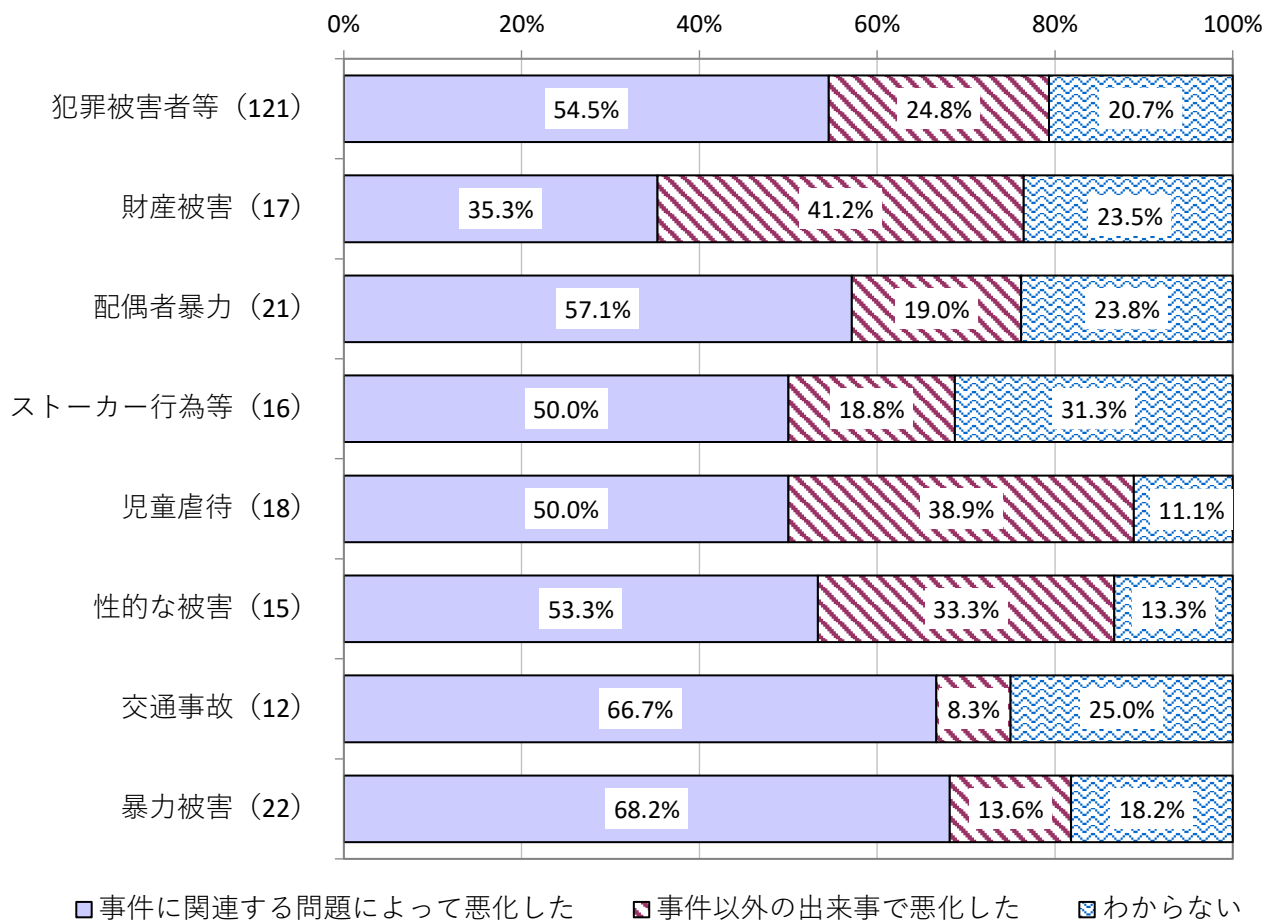
図表 4-14 犯罪被害類型別、事件直後と現在の状況変化_身体的状況【SC1/SC3、Q51】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



図表 4-15 犯罪被害類型別、状況の悪化と事件との関連_身体的状況【SC1/SC3、Q52】



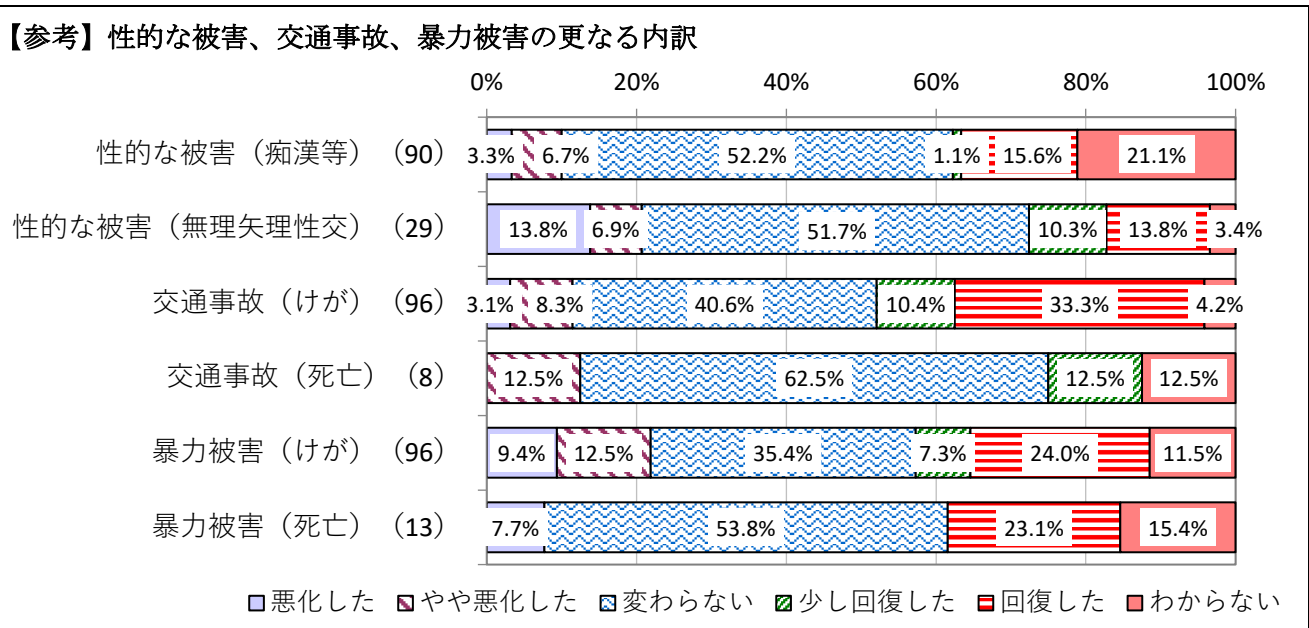
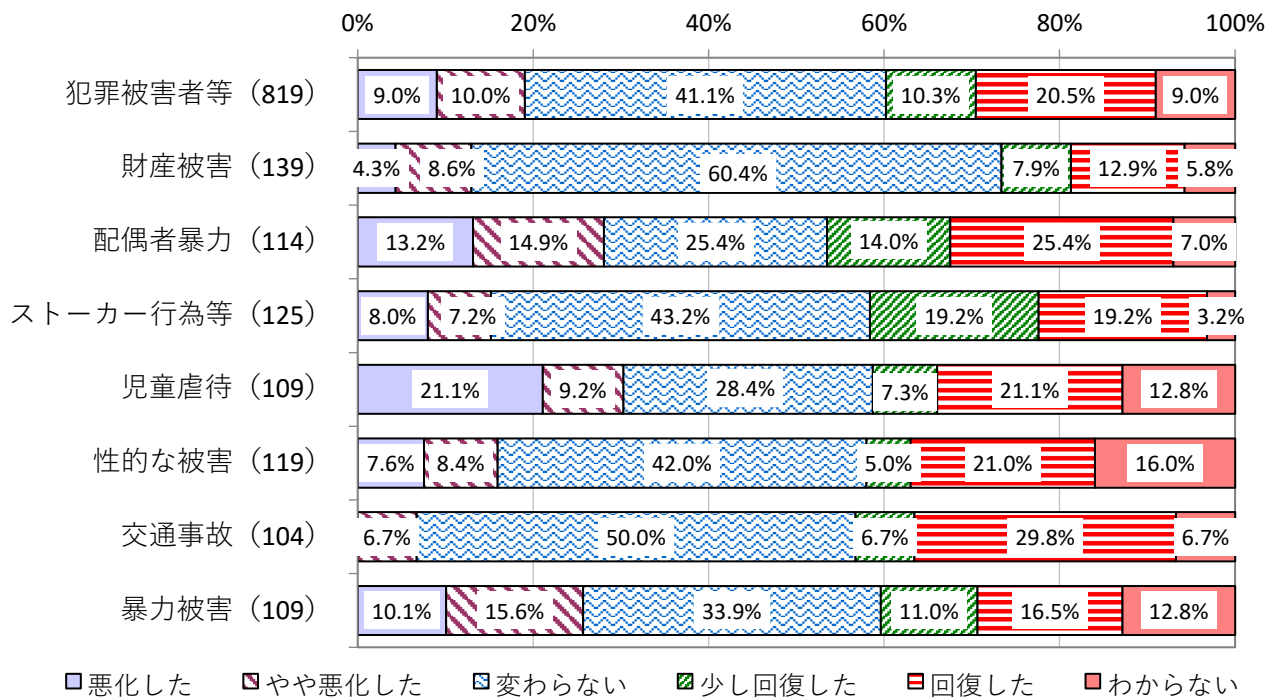
※対象：Q51（身体的な状況の変化）で「悪化した」「やや悪化した」と回答した方（121人）のみ。

イ. 精神的状況の変化

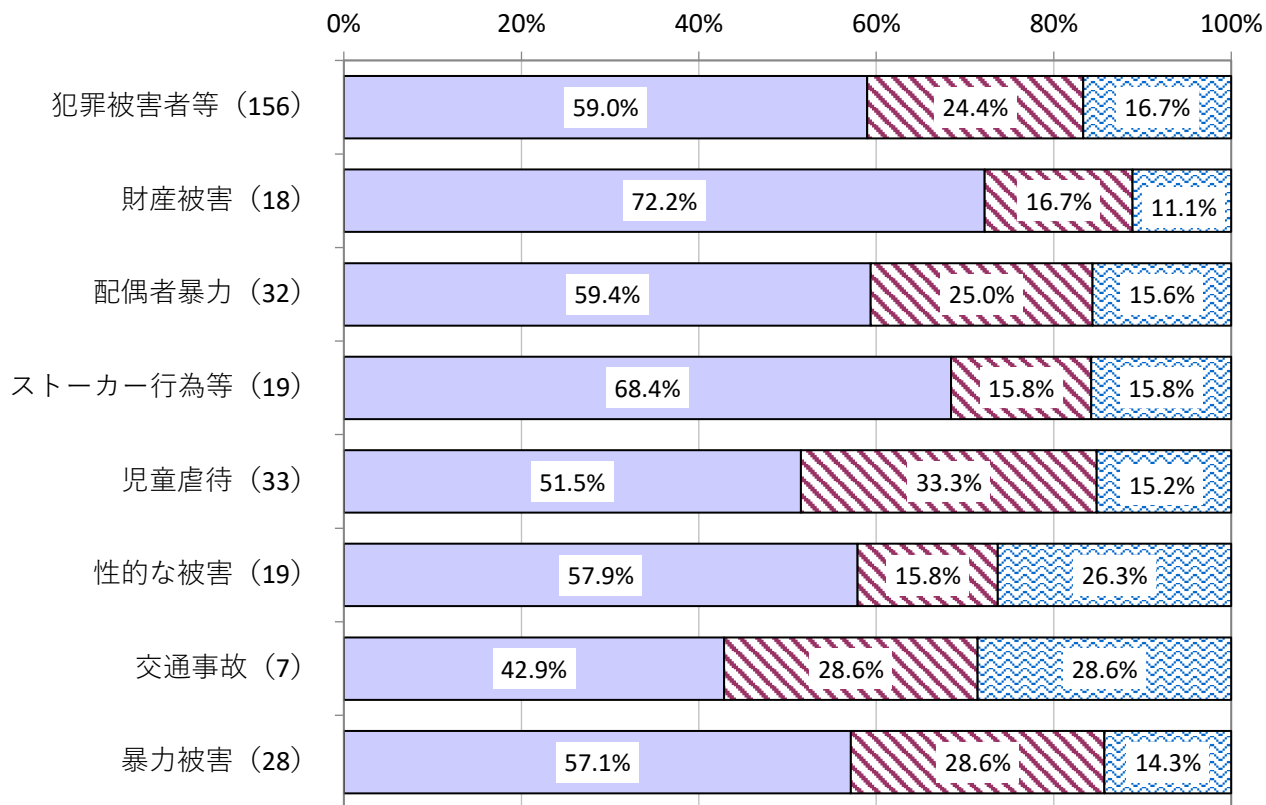
事件直後と現在の精神的な状況の変化について、犯罪被害類型別にみると、悪化基調（「悪化した」と「やや悪化した」の和）との回答比率は、児童虐待（30.3%）が最も高く、次いで配偶者暴力（28.1%）、暴力被害（25.7%）となっている（図表4-16）。

精神的な状況の悪化と事件の関連については、図表4-17のとおり。

図表 4-16 犯罪被害類型別、事件直後と現在の状況変化_精神的状況【SC1/SC3、Q51】



図表 4-17 犯罪被害類型別、状況の悪化と事件との関連_精神的状況【SC1/SC3、Q52】



□ 事件に関連する問題によって悪化した ■ 事件以外の出来事で悪化した ▨ わからない

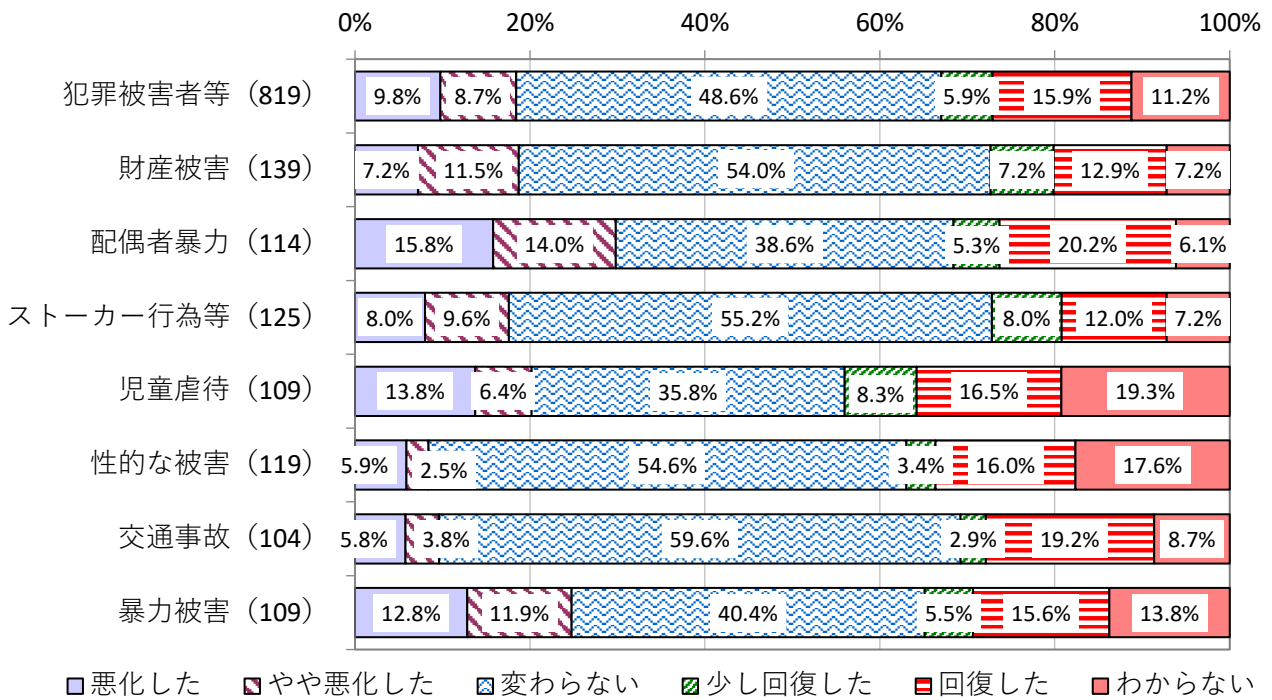
※対象：Q51（精神的な状況の変化）で「悪化した」「やや悪化した」と回答した方（156人）のみ。

ウ. 経済的状況の変化

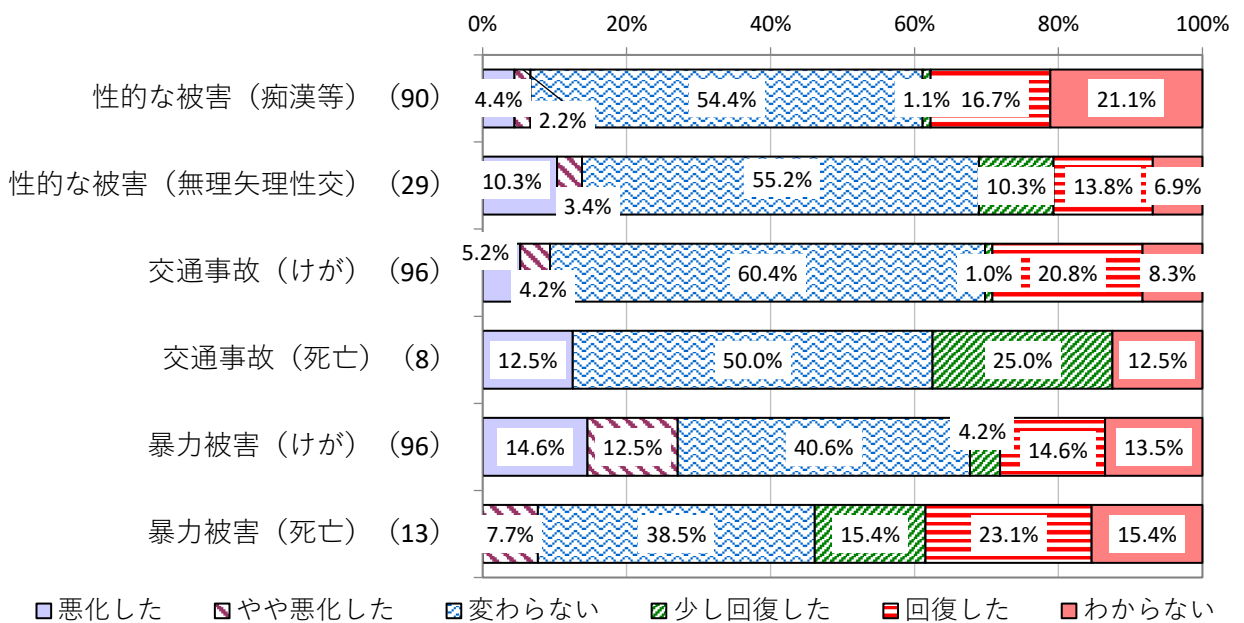
事件直後と現在の経済的状況の変化について、犯罪被害類型別にみると、悪化基調（「悪化した」と「やや悪化した」の和）との回答比率は、配偶者暴力（29.8%）が最も高く、次いで暴力被害（24.7%）となっている（図表4-18）。

経済的状況の悪化と事件の関連については、図表4-19のとおり。

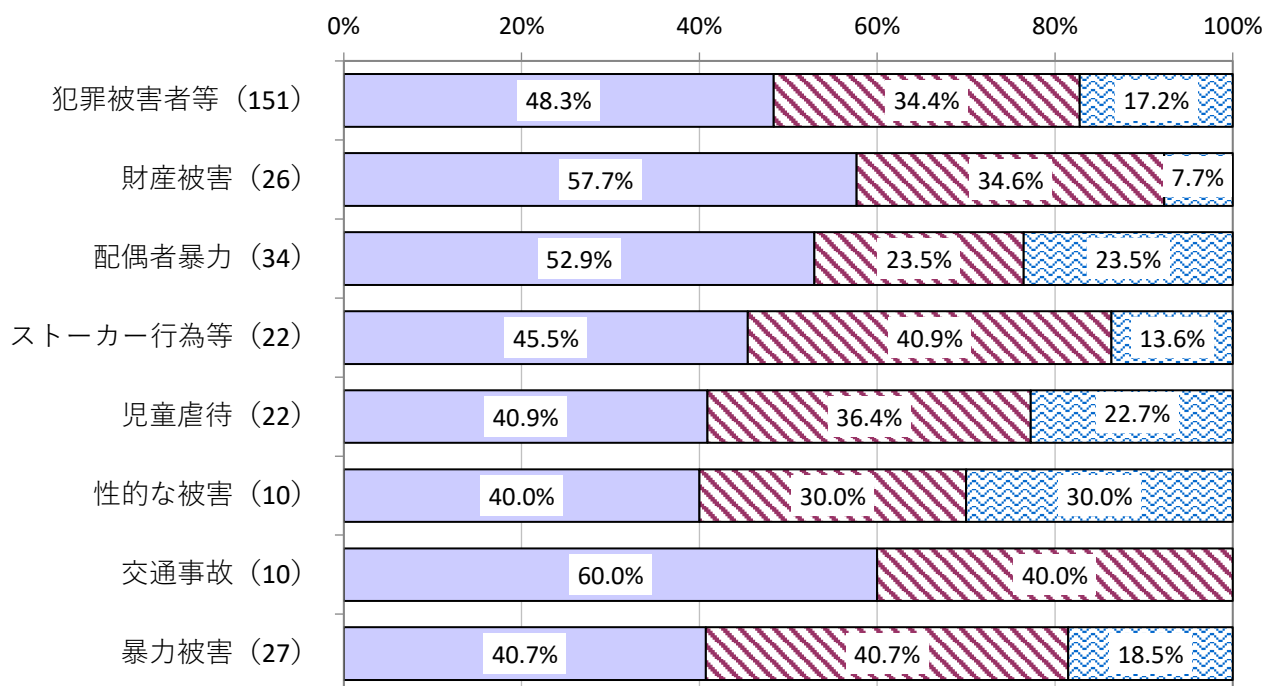
図表 4-18 犯罪被害類型別、事件直後と現在の状況変化_経済的状況【SC1/SC3、Q51】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



図表 4-19 犯罪被害類型別、状況の悪化と事件との関連_経済的状況【SC1/SC3、Q52】



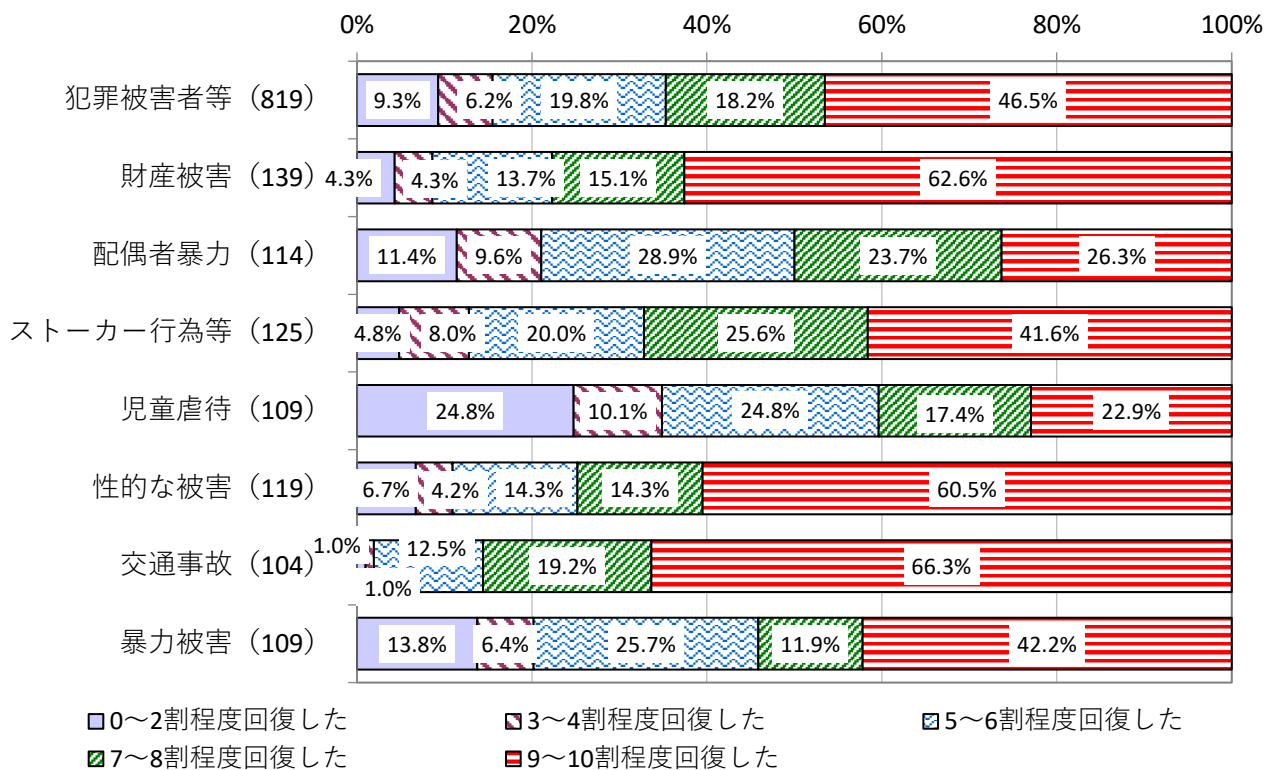
□ 事件に関連する問題によって悪化した ▨ 事件以外の出来事で悪化した ▩ わからない

※対象：Q51（経済的な状況の変化）で「悪化した」「やや悪化した」と回答した方（151人）のみ。

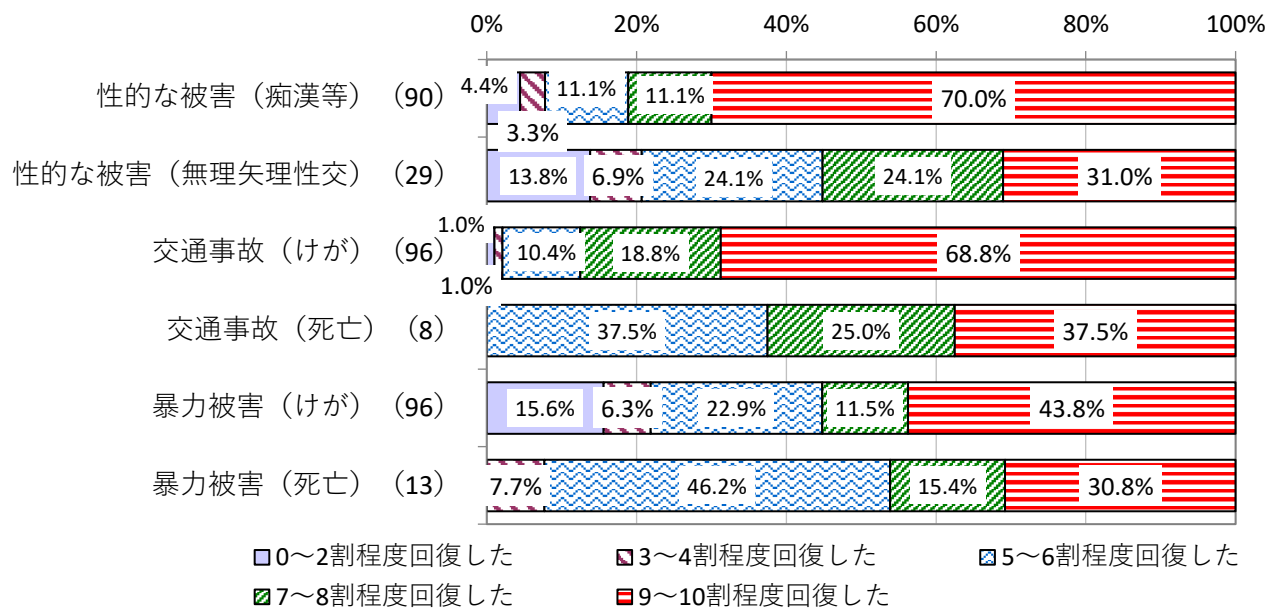
エ. 被害からの回復度

被害からの回復度（犯罪被害者等の主観的意見）について、犯罪被害類型別にみると、半分以上回復した（「5～6割程度回復した」と「7～8割程度回復した」と「9～10割程度回復した」の和）とする回答比率は、交通事故（98.0%）が最も高く、次いで財産被害（91.4%）、性的な被害（89.1%）となっており、最も低いのは児童虐待（65.1%）である。また、児童虐待、暴力被害、配偶者暴力では、「0～2割程度回復した」との回答比率がそれぞれ24.8%、13.8%、11.4%と、他の類型に比べて高くなっている（図表4-20）。

図表 4-20 犯罪被害類型別、被害からの回復度【SC1/SC3、Q53】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



2-5. 通報・相談状況

「被害の潜在化」に特に着目し、警察への通報状況、相談相手・機関、通報・相談までに要した期間、相談しなかった理由、相談しやすくなるための条件、事件後に傷つけられた、支えられたと感じた経験と対象等について分析する。

(1)警察への通報状況

ア. 警察への通報の有無

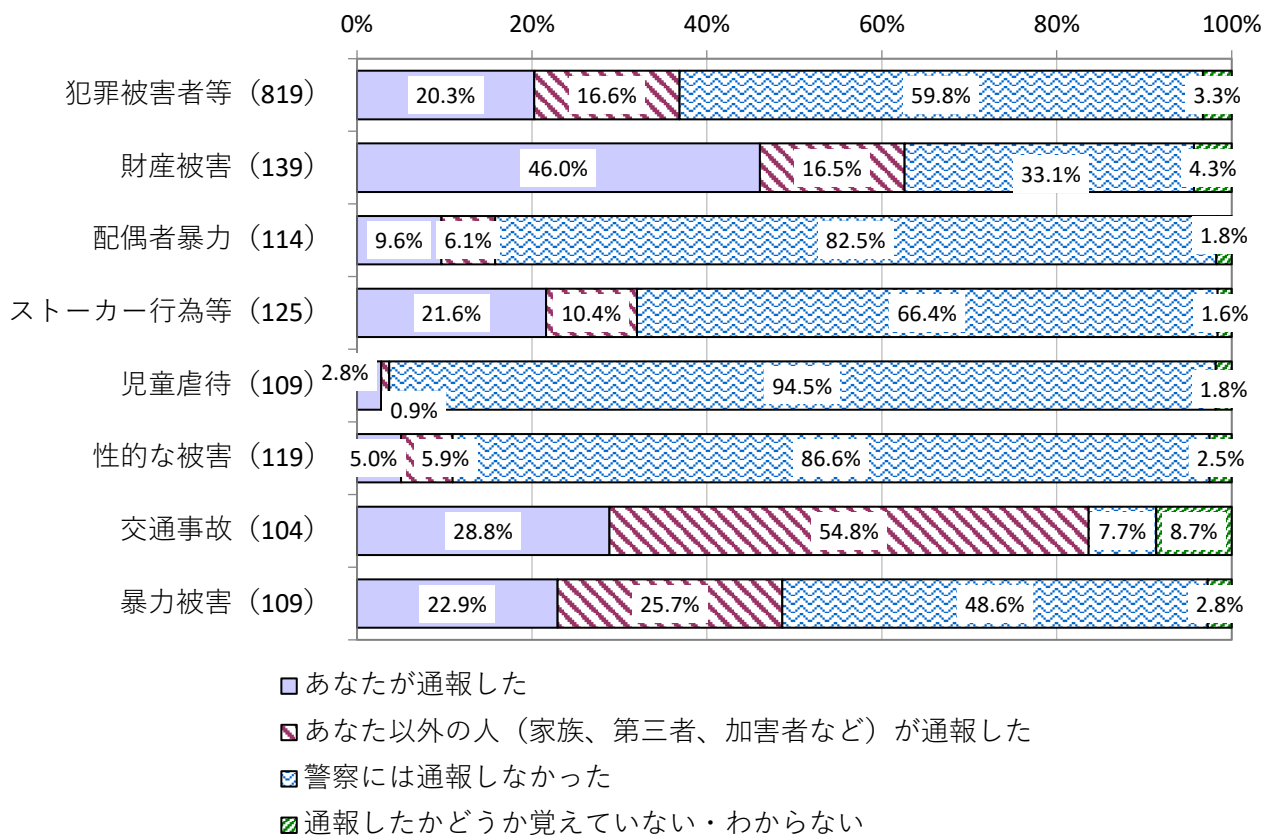
警察への通報の有無について、回答者又は家族が受けた被害を警察に通報した（「あなたが通報した」と「あなた以外の方が通報した」の和）との回答比率（＝警察への通報率）は、犯罪被害者等全体では36.9%で、犯罪被害類型別にみると、交通事故（83.6%）が最も高く、次いで財産被害（62.5%）となっている。一方、児童虐待（3.7%）、性的な被害（10.9%）、配偶者暴力（15.7%）では、その回答比率は低い（図表5-1）。

被害の時期別にみると、警察への通報率は、「3～10年以内」（53.9%）が最も高く、次いで「3年以内」（49.0%）、「それ以前」（30.7%）となっている（図表5-2）。

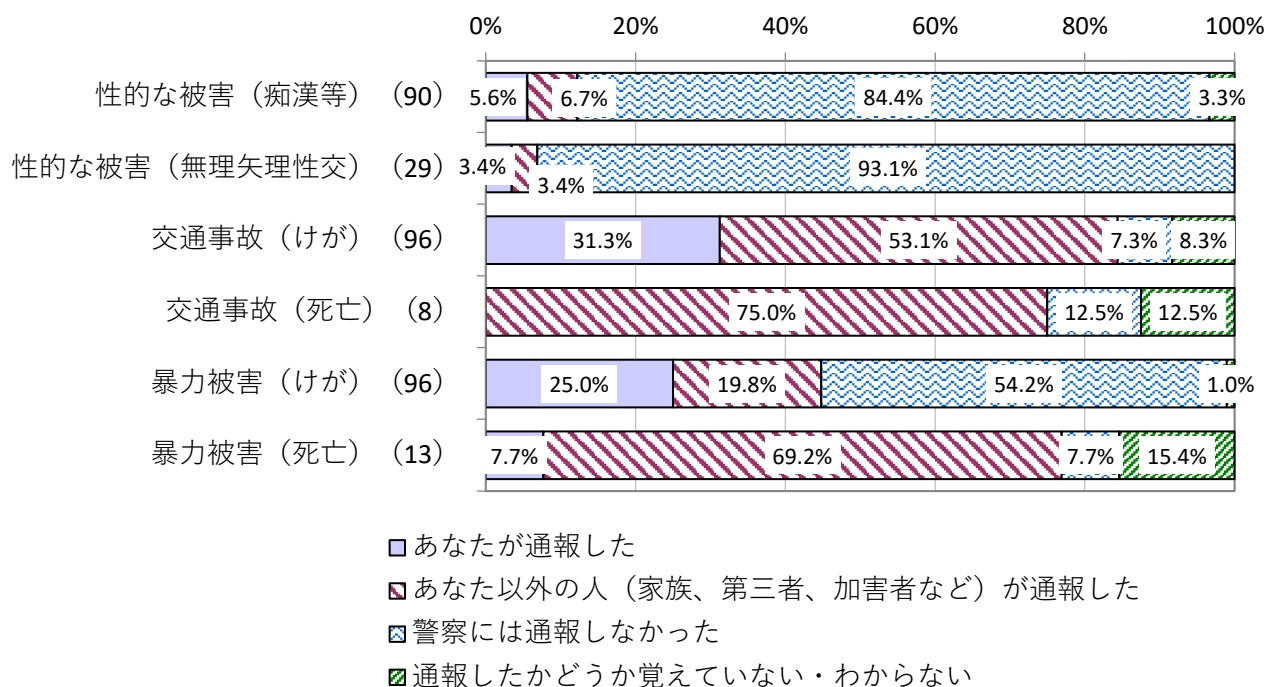
被害時の年齢別にみると、警察への通報率は、年齢が上がるほど高まる傾向がみられ、30代以降では約半数に及んでいる。また、「あなたが通報した」との回答比率は、0～15歳では低いが、16～18歳くらいから上昇しはじめている（図表5-3）。

加害者との面識の有無別にみると、警察への通報率は、「面識あり」が21.1%であるのに対し、「面識なし」は51.4%となっている（図表5-4）。

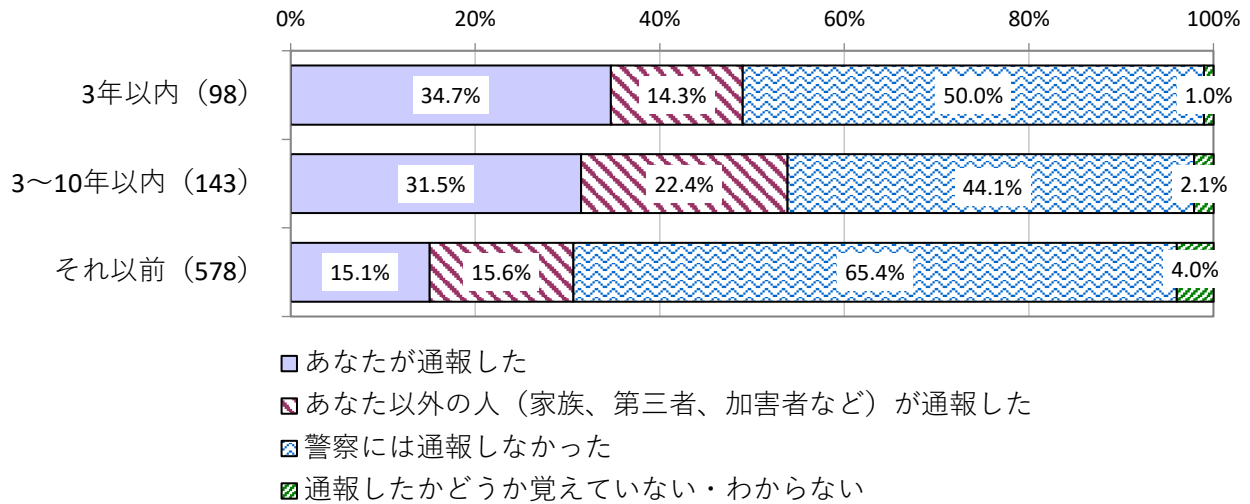
図表 5-1 犯罪被害類型別、警察への通報の有無【SC1/SC3、SC4】



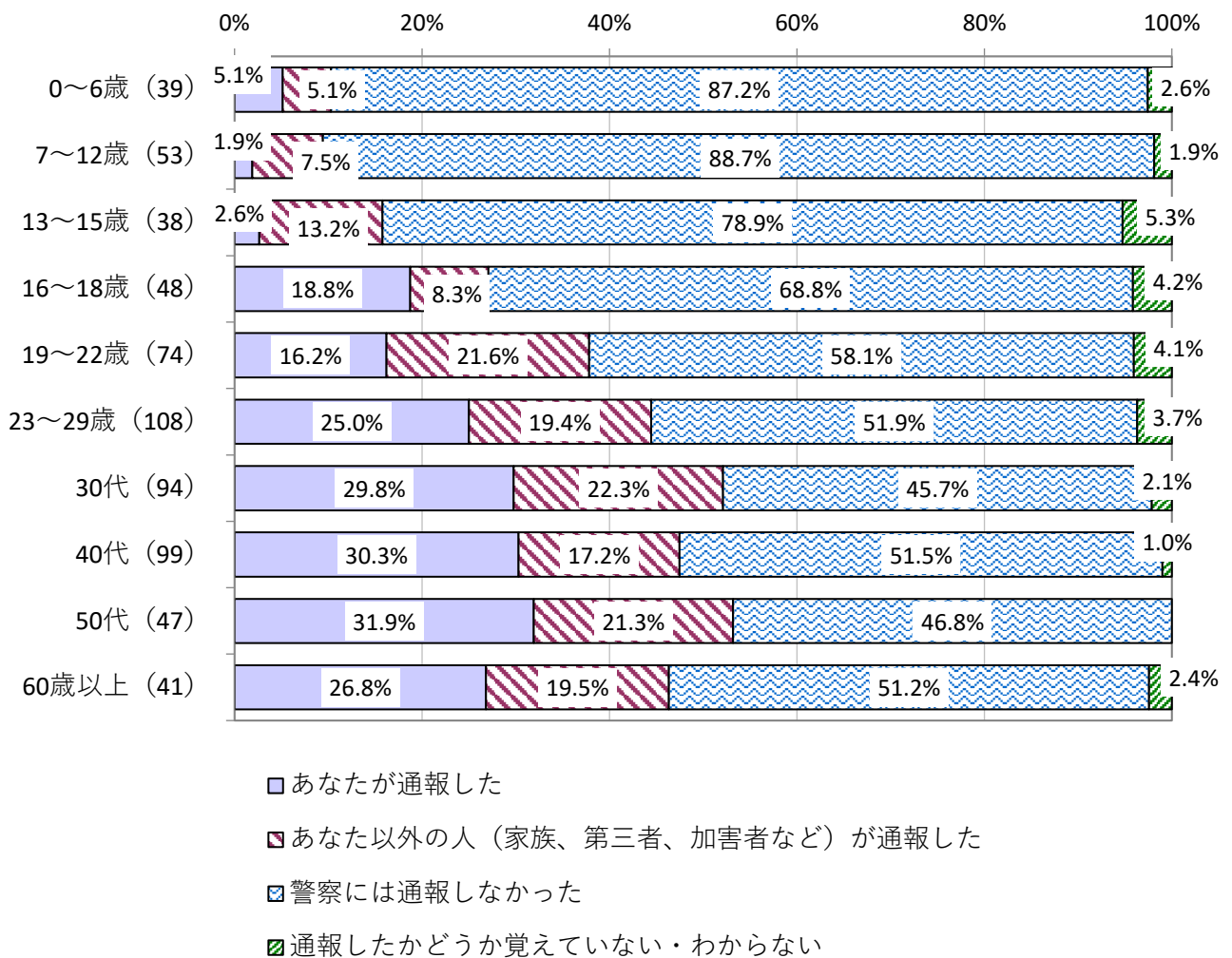
【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



図表 5-2 被害の時期別、警察への通報の有無【SC2、SC4】

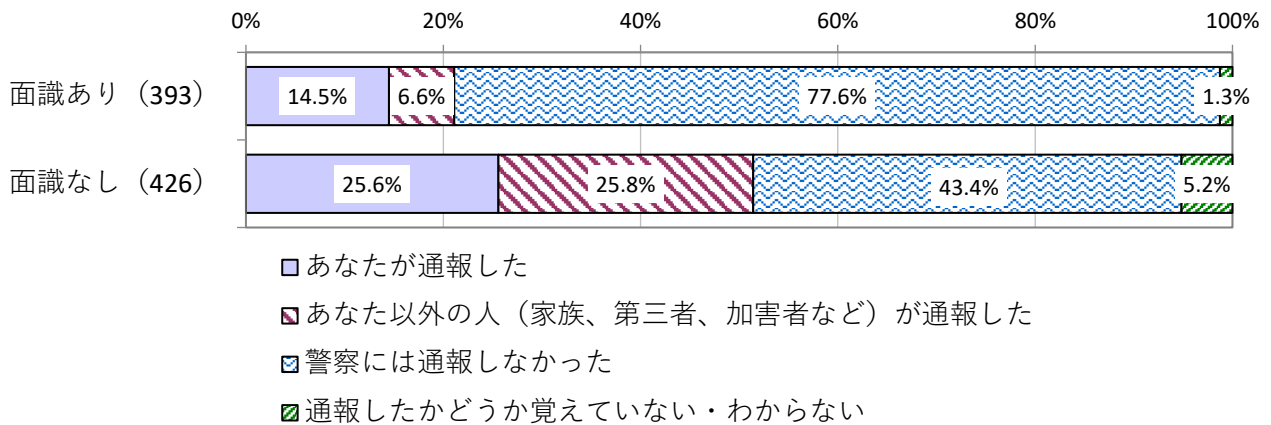


図表 5-3 被害時の年齢別、警察への通報の有無【Q1、SC4】



※対象：Q1（被害時の年齢）で「わからない」と回答した方（178人）を除く。

図表 5-4 加害者との面識の有無別、警察への通報の有無【Q3、SC4】



※面識あり：Q3（加害者との関係）で「全く無関係の人、知らない人」「わからない」「その他」以外を回答した方（393人）。

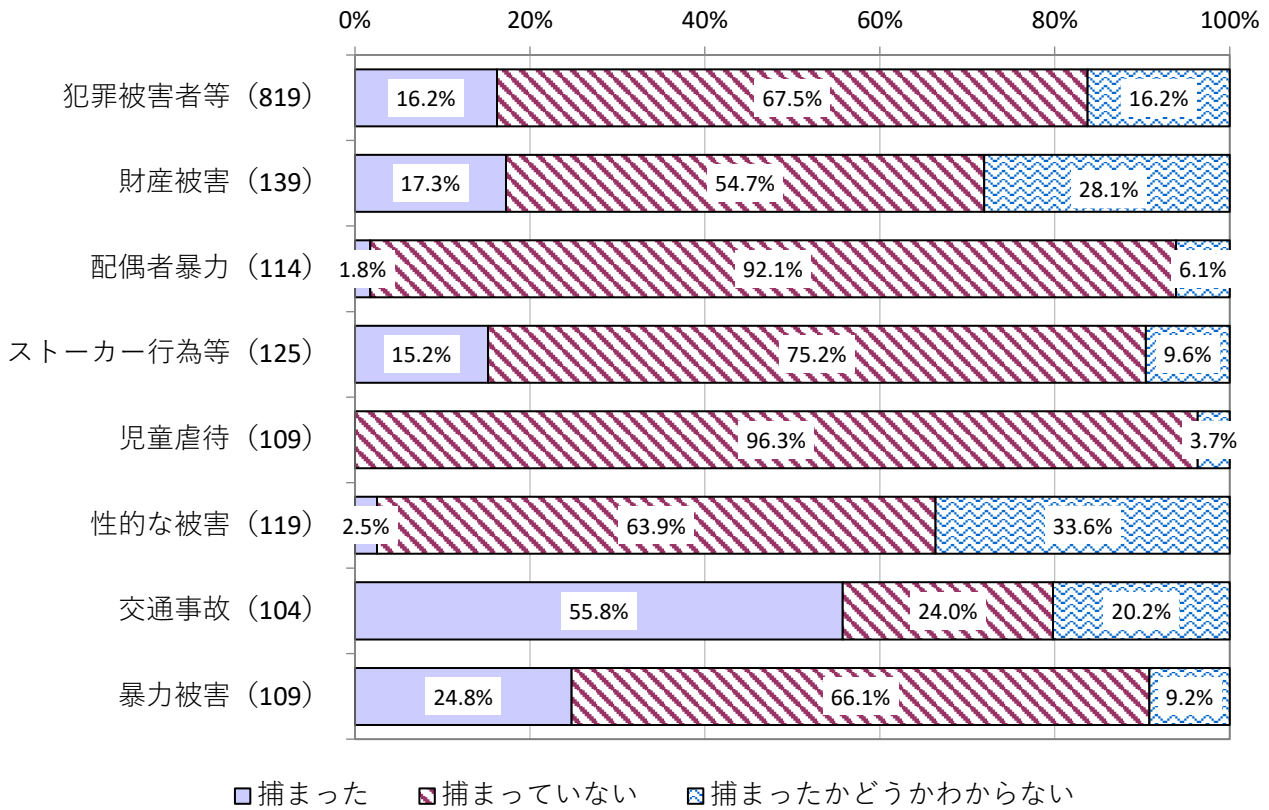
面識なし：Q3（加害者との関係）で「全く無関係の人、知らない人」「わからない」「その他」と回答した方（426人）。

※以降の同項目についての分類も同様。

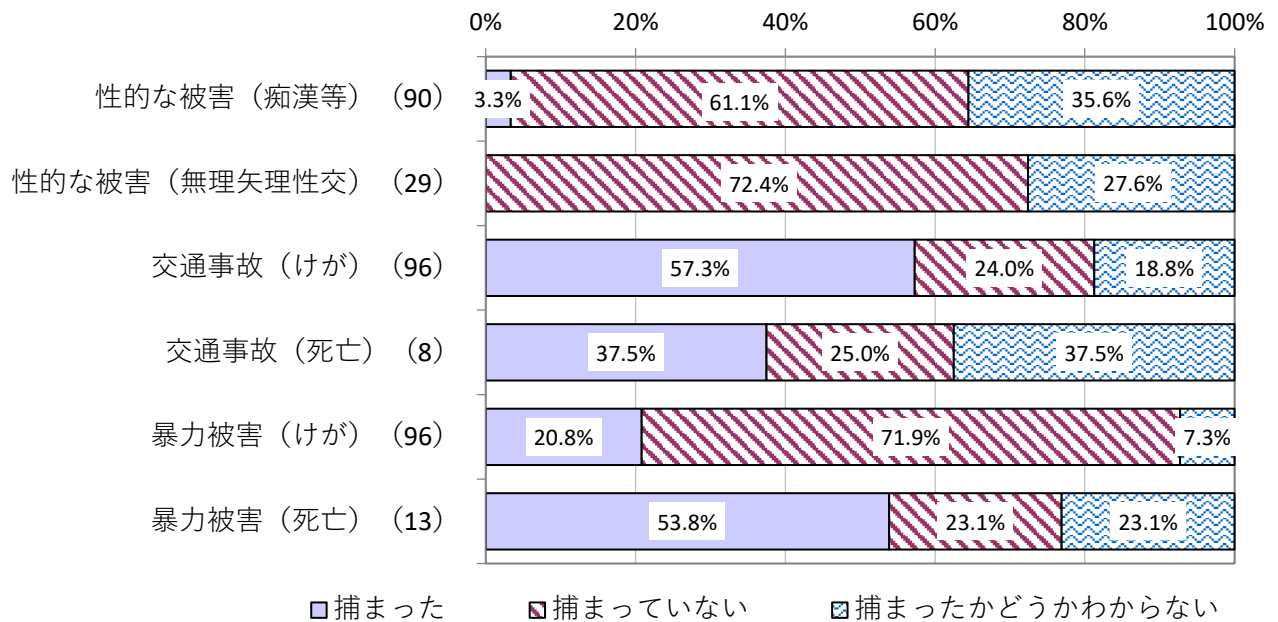
イ. 加害者の逮捕状況

加害者の逮捕状況について、犯罪被害類型別にみると、「捕まった」との回答比率は交通事故（55.8%）が最も高く、次いで暴力被害（24.8%）となっている。一方、児童虐待（0.0%）、配偶者暴力（1.8%）、性的な被害（2.5%）は、その回答比率が極端に低くなっている（図表5-5）。

図表 5-5 犯罪被害類型別、加害者の逮捕状況【SC1/SC3、SC6】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



(2)相談相手・機関

ア. 初めて被害にあった際の相談相手・機関

初めて被害にあった際の相談状況について、「相談なし」との回答比率は、犯罪被害者等全体では44.2%で、犯罪被害類型別にみると、児童虐待(84.4%)が最も高く、次いで性的な被害(51.3%)、配偶者暴力(50.9%)となっている。また、相談相手・機関については、「家族」との回答比率がストーカー(45.6%)、財産被害(45.3%)、交通事故(41.3%)、「友人・知人」との回答比率がストーカー(40.0%)、「専門機関」との回答比率が財産被害(30.9%)、暴力被害(29.4%)、交通事故(28.8%)で高くなっている(図表5-6)。

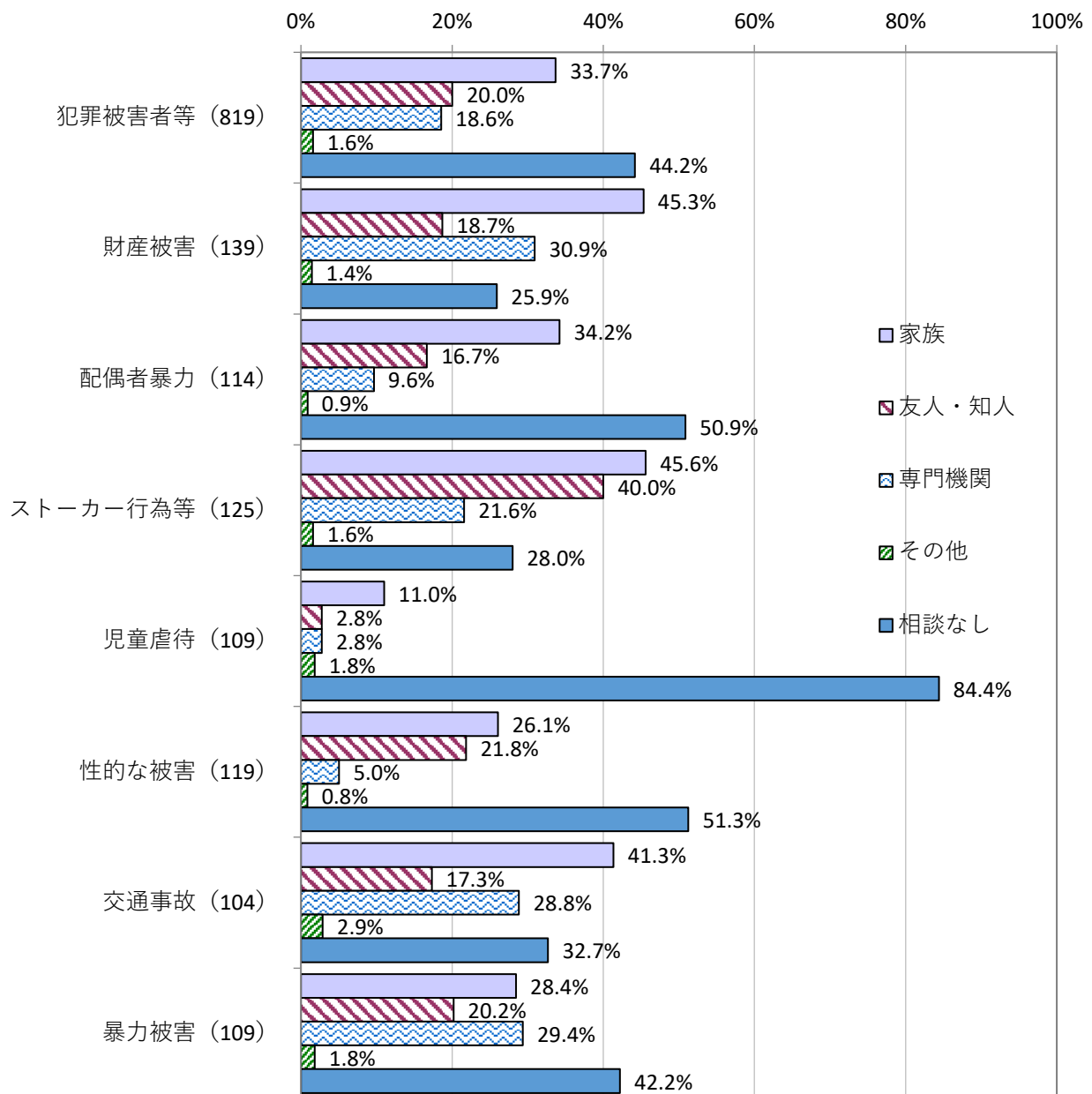
被害の時期別にみると、「相談なし」との回答比率が、「それ以前」(50.7%)、「3～10年以内」(30.8%)、「3年以内」(25.5%)と、近年になるほど低くなっている。相談相手・機関については、「家族」との回答比率が高く、「家族」「専門機関」との回答比率はともに近年になるほど高くなっている(図表5-7)。

被害時の年齢別にみると、多くの世代で「家族」との回答比率が高いが、0～12歳では「相談なし」との回答比率が非常に高く、23～29歳以降は「専門機関」との回答比率も比較的高くなっている(図表5-8)。

加害者との面識の有無別にみると、「相談なし」との回答比率は「面識あり」(51.9%)が「面識なし」(37.1%)より高く、「専門機関」との回答比率は「面識あり」(11.7%)が「面識なし」(24.9%)を下回っている(図表5-9)。

図表 5-6 犯罪被害類型別、初めて被害にあった際の相談相手・機関（複数回答）【SC1/SC3、SC5】

【5分類】



※5分類…【家族】父、母、配偶者、兄弟姉妹、それ以外の家族・親族／【友人・知人】勤務先の同僚・友人、勤務先の上司、学校などの友人、学校の先生・学生相談室・スクールカウンセラー、学校・勤務先以外の友人、交際相手／【専門機関】弁護士・日本司法支援センター（法テラス）、地方公共団体の総合的対応窓口、児童相談所、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、その他の行政機関・福祉機関の相談窓口、警察、民間の犯罪被害者支援団体、医療機関／【その他】／【相談なし】

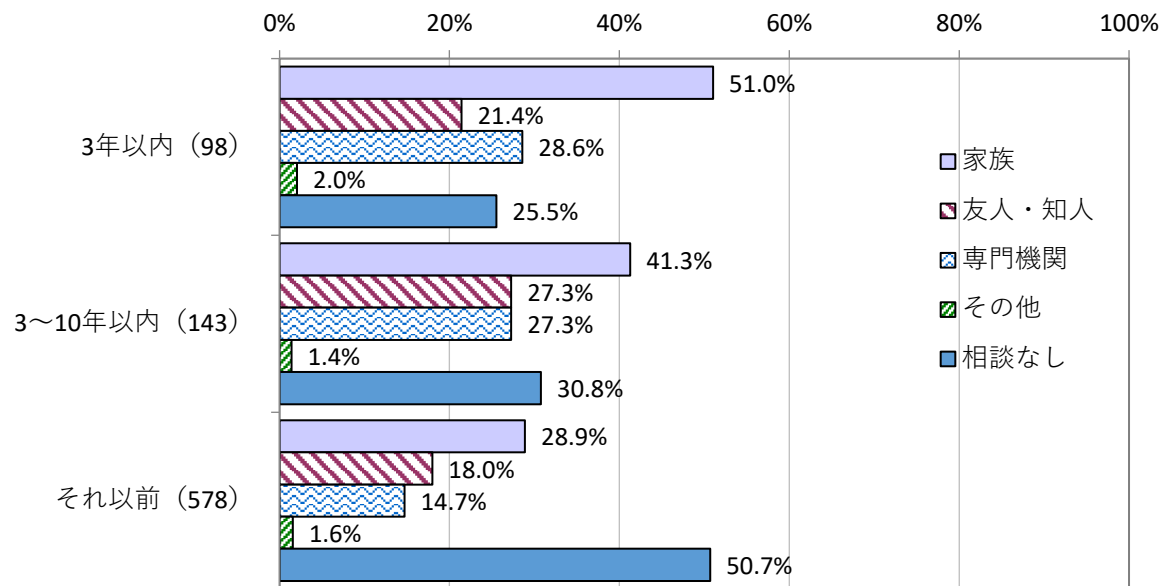
※以降の同項目についての分類も同様。

【21分類】

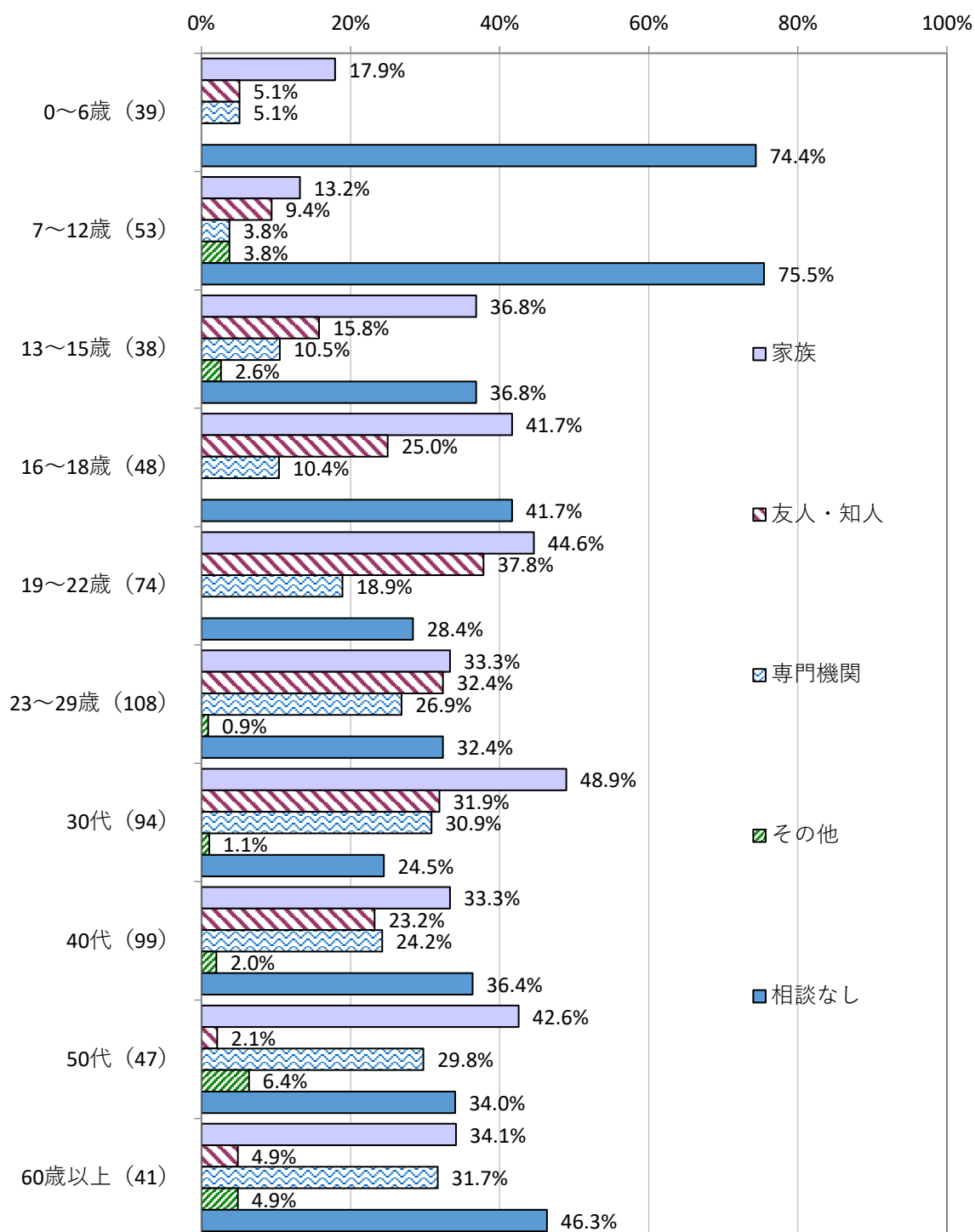
	全体	父	母	配偶者	兄弟姉妹	それ以外の家族・親族	勤務先の同僚・友人など	勤務先の上司など	学校などの友人	学校の先生・学生相談室・スクールカウンセラーなど	学校・勤務先以外の友人など
犯罪被害者等	819	100 (12.2%)	146 (17.8%)	90 (11.0%)	47 (5.7%)	24 (2.9%)	57 (7.0%)	42 (5.1%)	49 (6.0%)	8 (1.0%)	22 (2.7%)
財産被害	139	21 (15.1%)	25 (18.0%)	29 (20.9%)	8 (5.8%)	5 (3.6%)	11 (7.9%)	6 (4.3%)	9 (6.5%)	0 (0.0%)	4 (2.9%)
配偶者暴力	114	16 (14.0%)	26 (22.8%)	1 (0.9%)	13 (11.4%)	7 (6.1%)	6 (5.3%)	3 (2.6%)	5 (4.4%)	1 (0.9%)	5 (4.4%)
ストーカー行為等	125	19 (15.2%)	33 (26.4%)	26 (20.8%)	5 (4.0%)	3 (2.4%)	23 (18.4%)	13 (10.4%)	14 (11.2%)	0 (0.0%)	7 (5.6%)
児童虐待	109	1 (0.9%)	5 (4.6%)	0 (0.0%)	4 (3.7%)	3 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.8%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)
性的な被害	119	10 (8.4%)	25 (21.0%)	4 (3.4%)	7 (5.9%)	3 (2.5%)	7 (5.9%)	2 (1.7%)	11 (9.2%)	0 (0.0%)	2 (1.7%)
交通事故	104	17 (16.3%)	16 (15.4%)	23 (22.1%)	4 (3.8%)	1 (1.0%)	3 (2.9%)	10 (9.6%)	1 (1.0%)	2 (1.9%)	2 (1.9%)
暴力被害	109	16 (14.7%)	16 (14.7%)	7 (6.4%)	6 (5.5%)	2 (1.8%)	7 (6.4%)	8 (7.3%)	6 (5.5%)	4 (3.7%)	2 (1.8%)

	交際相手	弁護士・日本司法支援センター(法テラス)	地方公共団体の総合的対応窓口	児童相談所	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター	その他の行政機関・福祉機関の相談窓口	警察	民間の犯罪被害者支援団体	医療機関	その他	どこにも(誰にも)相談していない
犯罪被害者等	21 (2.6%)	25 (3.1%)	6 (0.7%)	3 (0.4%)	1 (0.1%)	6 (0.7%)	116 (14.2%)	7 (0.9%)	19 (2.3%)	13 (1.6%)	362 (44.2%)
財産被害	2 (1.4%)	6 (4.3%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	37 (26.6%)	3 (2.2%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)	36 (25.9%)
配偶者暴力	0 (0.0%)	1 (0.9%)	2 (1.8%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	5 (4.4%)	2 (1.8%)	4 (3.5%)	1 (0.9%)	58 (50.9%)
ストーカー行為等	8 (6.4%)	5 (4.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	21 (16.8%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	2 (1.6%)	35 (28.0%)
児童虐待	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	92 (84.4%)
性的な被害	8 (6.7%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (4.2%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	61 (51.3%)
交通事故	2 (1.9%)	7 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)	20 (19.2%)	0 (0.0%)	9 (8.7%)	3 (2.9%)	34 (32.7%)
暴力被害	1 (0.9%)	5 (4.6%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	26 (23.9%)	1 (0.9%)	5 (4.6%)	2 (1.8%)	46 (42.2%)

図表 5-7 被害の時期別、初めて被害にあった際の相談相手・機関（複数回答）【SC2、SC5】

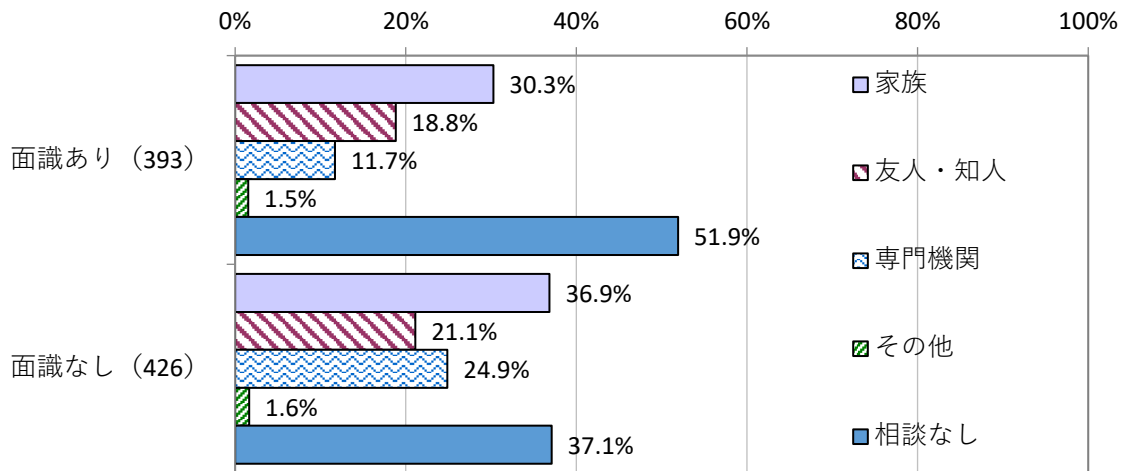


図表 5-8 被害時の年齢別、初めて被害にあった際の相談相手・機関（複数回答）【Q1、SC5】



※対象：Q1（被害時の年齢）で「わからない」と回答した方（178人）を除く。

図表 5-9 加害者との面識別、初めて被害にあった際の相談相手・機関（複数回答）【Q3、SC5】



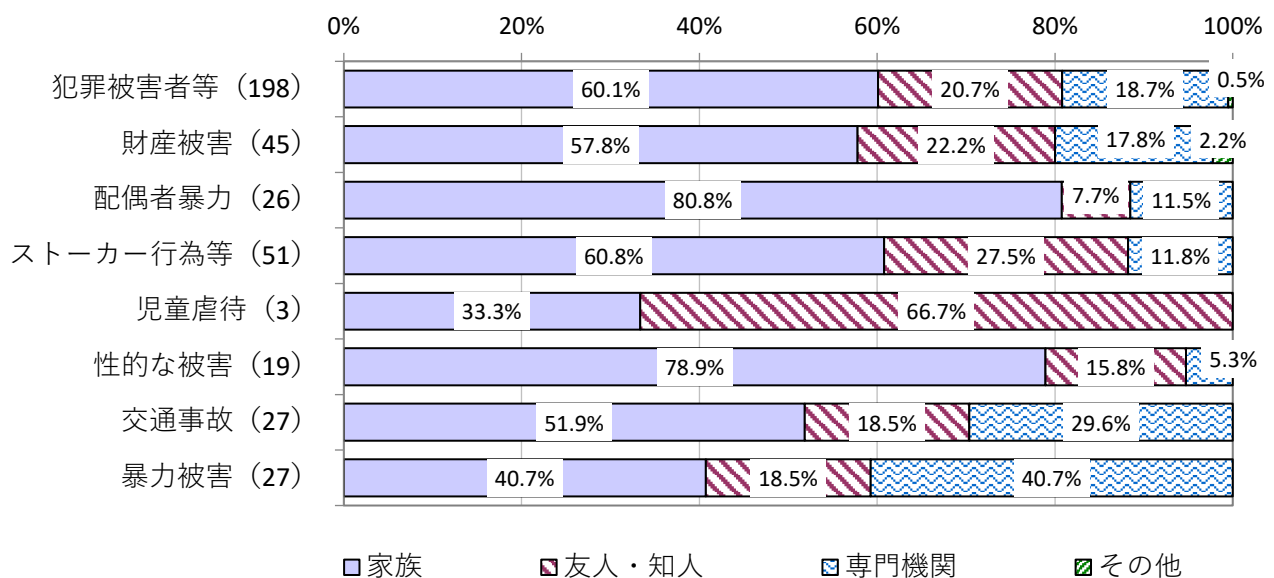
イ. 最初に相談した相手・機関

初めて被害にあった際に最初に相談した相手・機関について、犯罪被害類型別にみると、多くの類型で「家族」との回答比率が高い（図表 5-10）。

被害の時期別にみると、全ての時期で「家族」との回答比率が高い。「友人・知人」は、「3年以内」（5.3%）に対し、「3～10年以内」「それ以前」（それぞれ 20.0%、26.1%）の回答比率が高く、「専門機関」は、「3～10年以内」「それ以前」（同 15.6%、17.4%）に対し、「3年以内」（26.3%）の回答比率が高くなっている（図表 5-11）。

図表 5-10 犯罪被害類型別、初めて被害にあった際に最初に相談した相手・機関【SC1/SC3、Q9】

【4分類】



※対象：SC5（相談した相手・機関）で「どこにも（誰にも）相談していない」以外に複数選択した方（198人）のみ。

※4分類…【家族】父、母、配偶者、兄弟姉妹、それ以外の家族・親族／【友人・知人】勤務先と同僚・友人、勤務先の上司、学校などの友人、学校の先生・学生相談室・スクールカウンセラー、学校・勤務先以外の友人、交際相手／【専門機関】弁護士・日本司法支援センター（法テラス）、地方公共団体の総合的対応窓口、児童相談所、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、その他の行政機関・福祉機関の相談窓口、警察、民間の犯罪被害者支援団体、医療機関／【その他】

※以降の同項目についての分類も同様。

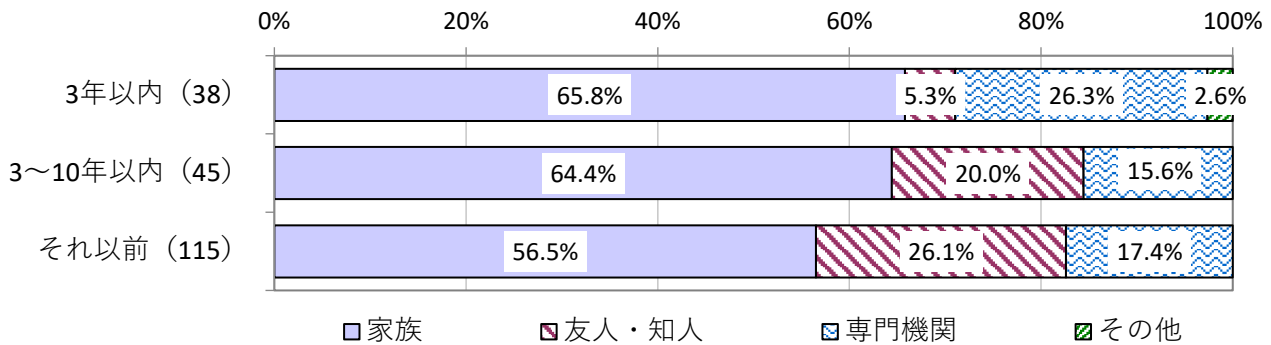
【20分類】

	全体	父	母	配偶者	兄弟姉妹	それ以外の家族・親族	勤務先と同僚・友人など	勤務先の上司など	学校などの友人	学校の先生・学生相談室・スクールカウンセラーなど	学校・勤務先以外の友人など
犯罪被害者等	198	22 (11.1%)	58 (29.3%)	24 (12.1%)	11 (5.6%)	4 (2.0%)	20 (10.1%)	2 (1.0%)	11 (5.6%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)
財産被害	45	7 (15.6%)	7 (15.6%)	8 (17.8%)	4 (8.9%)	0 (0.0%)	7 (15.6%)	0 (0.0%)	2 (4.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
配偶者暴力	26	3 (11.5%)	16 (61.5%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	1 (3.8%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ストーカー行為等	51	3 (5.9%)	17 (33.3%)	9 (17.6%)	1 (2.0%)	1 (2.0%)	6 (11.8%)	1 (2.0%)	2 (3.9%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)
児童虐待	3	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
性的な被害	19	2 (10.5%)	9 (47.4%)	0 (0.0%)	3 (15.8%)	1 (5.3%)	2 (10.5%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
交通事故	27	4 (14.8%)	4 (14.8%)	5 (18.5%)	1 (3.7%)	0 (0.0%)	2 (7.4%)	1 (3.7%)	1 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
暴力被害	27	3 (11.1%)	5 (18.5%)	2 (7.4%)	0 (0.0%)	1 (3.7%)	2 (7.4%)	0 (0.0%)	2 (7.4%)	1 (3.7%)	0 (0.0%)

	交際相手	弁護士・日本司法支援センター（法テラス）	地方公共団体の総合的対応窓口	児童相談所	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター	その他の行政機関・福祉機関の相談窓口	警察	民間の犯罪被害者支援団体	医療機関	その他
犯罪被害者等	6 (3.0%)	2 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	2 (1.0%)	26 (13.1%)	2 (1.0%)	4 (2.0%)	1 (0.5%)
財産被害	1 (2.2%)	1 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (13.3%)	1 (2.2%)	0 (0.0%)	1 (2.2%)
配偶者暴力	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)
ストーカー行為等	4 (7.8%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (7.8%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
児童虐待	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
性的な被害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
交通事故	1 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (22.2%)	0 (0.0%)	2 (7.4%)	0 (0.0%)
暴力被害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.7%)	1 (3.7%)	8 (29.6%)	0 (0.0%)	1 (3.7%)	0 (0.0%)

※対象：SC5（相談した相手・機関）で「どこにも（誰にも）相談していない」以外に複数選択した方（198人）のみ。

図表 5-1 1 被害の時期別、最初の相談相手・機関【SC2、Q9】



※対象：SC 5（相談した相手・機関）で「どこにも（誰にも）相談していない」以外に複数選択した方（198人）のみ。

(3) 通報・相談までに要した期間

被害にあってから最初に通報・相談するまでに要した期間について、犯罪被害類型別にみると、交通事故、性的な被害、財産被害、暴力被害は1日未満（「1時間未満」と「1時間以上1日未満」の和）との回答比率が高い。一方、配偶者暴力では「1日以上1週間未満」、ストーカーでは「1週間以上1か月未満」、児童虐待では「3年以上」との回答比率が高い（図表 5-1 2）。

被害の時期別にみると、1日未満との回答比率が、「それ以前」では52.9%、「3～10年以内」では41.4%、「3年以内」では35.6%と、近年になるほど低くなっている（図表 5-1 3）。

加害者との面識の有無別にみると、1日未満との回答比率が「面識なし」では69.4%となっている一方で、「面識あり」では17.0%となっている（図表 5-1 4）。

図表 5-1 2 犯罪被害類型別、最初に通報・相談するまでに要した期間【SC1/SC3、Q10】

	全体	1時間未満	1時間以上1日未満	1日以上1週間未満	1週間以上1か月未満	1か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上	わからない
犯罪被害者等	457	131 (28.7%)	87 (19.0%)	47 (10.3%)	40 (8.8%)	28 (6.1%)	14 (3.1%)	18 (3.9%)	20 (4.4%)	72 (15.8%)
財産被害	103	37 (35.9%)	28 (27.2%)	10 (9.7%)	9 (8.7%)	7 (6.8%)	4 (3.9%)	2 (1.9%)	1 (1.0%)	5 (4.9%)
配偶者暴力	56	3 (5.4%)	6 (10.7%)	9 (16.1%)	1 (1.8%)	4 (7.1%)	4 (7.1%)	6 (10.7%)	6 (10.7%)	17 (30.4%)
ストーカー行為等	90	10 (11.1%)	7 (7.8%)	14 (15.6%)	23 (25.6%)	13 (14.4%)	5 (5.6%)	4 (4.4%)	2 (2.2%)	12 (13.3%)
児童虐待	17	1 (5.9%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (17.6%)	4 (23.5%)	8 (47.1%)
性的な被害	58	23 (39.7%)	13 (22.4%)	5 (8.6%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	1 (1.7%)	1 (1.7%)	1 (1.7%)	13 (22.4%)
交通事故	70	35 (50.0%)	23 (32.9%)	2 (2.9%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (11.4%)
暴力被害	63	22 (34.9%)	10 (15.9%)	6 (9.5%)	6 (9.5%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)	2 (3.2%)	6 (9.5%)	9 (14.3%)

※対象：SC 5（相談した相手・機関）で「どこにも（誰にも）相談していない」と回答した方（362人）を除く。

【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

		全体	1時間未満	1時間以上1日未満	1日以上1週間未満	1週間以上1か月未満	1か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上	わからない
性的な被害	痴漢等	45	23 (51.1%)	11 (24.4%)	2 (4.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (20.0%)
	無理矢理性交	13	0 (0.0%)	2 (15.4%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	4 (30.8%)
交通事故	けが	66	34 (51.5%)	22 (33.3%)	2 (3.0%)	1 (1.5%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (9.1%)
	死亡	4	1 (25.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)
暴力被害	けが	56	20 (35.7%)	9 (16.1%)	5 (8.9%)	5 (8.9%)	2 (3.6%)	0 (0.0%)	2 (3.6%)	5 (8.9%)	8 (14.3%)
	死亡	7	2 (28.6%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)

図表 5-13 被害の時期別、最初に通報・相談するまでに要した期間【SC2、Q10】

	全体	1時間未満	1時間以上1日未満	1日以上1週間未満	1週間以上1か月未満	1か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上	わからない
3年以内	73	16 (21.9%)	10 (13.7%)	10 (13.7%)	9 (12.3%)	9 (12.3%)	2 (2.7%)	6 (8.2%)	3 (4.1%)	8 (11.0%)
3～10年以内	99	20 (20.2%)	21 (21.2%)	11 (11.1%)	14 (14.1%)	11 (11.1%)	5 (5.1%)	2 (2.0%)	3 (3.0%)	12 (12.1%)
それ以前	285	95 (33.3%)	56 (19.6%)	26 (9.1%)	17 (6.0%)	8 (2.8%)	7 (2.5%)	10 (3.5%)	14 (4.9%)	52 (18.2%)

※対象：SC5（相談した相手・機関）で「どこにも（誰にも）相談していない」と回答した方（362人）を除く。

図表 5-14 加害者との面識の有無別、最初に通報・相談するまでに要した期間【Q3、Q10】

	全体	1時間未満	1時間以上1日未満	1日以上1週間未満	1週間以上1か月未満	1か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上	わからない
面識あり	189	16 (8.5%)	16 (8.5%)	27 (14.3%)	28 (14.8%)	23 (12.2%)	11 (5.8%)	14 (7.4%)	16 (8.5%)	38 (20.1%)
面識なし	268	115 (42.9%)	71 (26.5%)	20 (7.5%)	12 (4.5%)	5 (1.9%)	3 (1.1%)	4 (1.5%)	4 (1.5%)	34 (12.7%)

※対象：SC5（相談した相手・機関）で「どこにも（誰にも）相談していない」と回答した方（362人）を除く。

(4)相談しなかった理由

ア. 警察に通報・相談しなかった理由

警察に通報・相談しなかった理由について、犯罪被害類型別にみると、ストーカー、財産被害、暴力被害では「どうせとりあってももらえないと思ったから」（それぞれ44.0%、33.3%、30.9%）、交通事故、配偶者暴力では「警察に相談するほどの被害ではないと思ったから」（同56.3%、40.0%）、児童虐待、性的な被害では「低年齢であったため、相談することを思い至らなかった」（同77.1%、35.2%）との回答比率が最も高くなっている（図表5-15）。

被害の時期別にみると、「3年以内」では「警察に相談するほどの被害ではないと思ったから」（44.9%）、「3～10年以内」では「どうせとりあってももらえないと思ったから」（43.1%）、「それ以前」では「低年齢であったため、相談することを思い至らなかった」（35.5%）との回答比率が最も高くなっている。なお、本調査の対象者は20歳以上であり、低年齢に相当する年齢で近年に被害にあった犯罪被害者等が含まれていないことが考えられるほか、児童虐待の犯罪被害者等は被害時に低年齢の割合が「それ以前」に多くなるとも考えられる（図表5-16）。

加害者との面識の有無別にみると、「面識あり」では「警察に相談できることだと思わなかったから」（35.4%）との回答比率が最も高く、次いで「低年齢であったため、相談することを思い至らなかった」（32.8%）となっている。「面識なし」では「警察に相談するほどの被害ではないと思ったから」（32.5%）が最も高く、次いで「どうせとりあってももらえないと思ったから」「低年齢であったため、相談することを思い至らなかった」（それぞれ25.6%）となっている（図表5-17）。

図表 5-15 犯罪被害類型別、警察に相談しなかった理由（複数回答）【SC1/SC3、Q8】

	全体	警察に相談できることだと思わなかったから	どうせとりあってももらえないと思ったから	手続などが大変だと思ったから・急いでおり時間がなかったから	周囲の目が気になるから	被害の話をするのがつらかったから	相手が処罰されてしまうかもしれないから	警察に相談するほどの被害ではないと思ったから	警察に相談してから物事が進むのか予想ができないから	低年齢であったため、相談することを思い至らなかった	その他
犯罪被害者等	511	146 (28.6%)	147 (28.8%)	54 (10.6%)	69 (13.5%)	53 (10.4%)	25 (4.9%)	150 (29.4%)	69 (13.5%)	153 (29.9%)	50 (9.8%)
財産被害	51	11 (21.6%)	17 (33.3%)	10 (19.6%)	4 (7.8%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	14 (27.5%)	4 (7.8%)	6 (11.8%)	9 (17.6%)
配偶者暴力	95	33 (34.7%)	32 (33.7%)	15 (15.8%)	20 (21.1%)	11 (11.6%)	8 (8.4%)	38 (40.0%)	18 (18.9%)	3 (3.2%)	8 (8.4%)
ストーカー行為等	84	26 (31.0%)	37 (44.0%)	10 (11.9%)	16 (19.0%)	10 (11.9%)	6 (7.1%)	35 (41.7%)	20 (23.8%)	8 (9.5%)	5 (6.0%)
児童虐待	105	43 (41.0%)	22 (21.0%)	1 (1.0%)	7 (6.7%)	7 (6.7%)	4 (3.8%)	14 (13.3%)	8 (7.6%)	81 (77.1%)	7 (6.7%)
性的な被害	105	18 (17.1%)	22 (21.0%)	10 (9.5%)	17 (16.2%)	16 (15.2%)	3 (2.9%)	31 (29.5%)	12 (11.4%)	37 (35.2%)	9 (8.6%)
交通事故	16	1 (6.3%)	0 (0.0%)	2 (12.5%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	9 (56.3%)	0 (0.0%)	4 (25.0%)	5 (31.3%)
暴力被害	55	14 (25.5%)	17 (30.9%)	6 (10.9%)	4 (7.3%)	8 (14.5%)	3 (5.5%)	9 (16.4%)	7 (12.7%)	14 (25.5%)	7 (12.7%)

※対象：SC4（警察に通報したか）で「警察には通報しなかった」「通報したかどうか覚えていない・わからない」と回答し、かつSC5（相談した相手・機関）で「警察」と回答しなかった方（511人）のみ。

【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

	全体	警察に相談できることだと思わなかったから	どうせとりあててもらえないと思ったから	手続などが大変だと思ったから・急いでおり時間がなかったから	周囲の目が気になるから	被害の話をするのがづらかったから	相手が処罰されてしまうかもしれないから	警察に相談するほどの被害ではないと思ったから	警察に相談してから物事がどのように進むのか予想ができないから	低年齢であったため、相談することを思い至らなかった	その他
性的な被害											
痴漢等	78	10 (12.8%)	14 (17.9%)	8 (10.3%)	8 (10.3%)	10 (12.8%)	0 (0.0%)	25 (32.1%)	9 (11.5%)	29 (37.2%)	6 (7.7%)
無理矢理性交	27	8 (29.6%)	8 (29.6%)	2 (7.4%)	9 (33.3%)	6 (22.2%)	3 (11.1%)	6 (22.2%)	3 (11.1%)	8 (29.6%)	3 (11.1%)
交通事故											
けが	14	1 (7.1%)	0 (0.0%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	1 (7.1%)	9 (64.3%)	0 (0.0%)	4 (28.6%)	3 (21.4%)
死亡	2	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)
暴力被害											
けが	52	14 (26.9%)	17 (32.7%)	6 (11.5%)	4 (7.7%)	7 (13.5%)	3 (5.6%)	9 (17.3%)	7 (13.5%)	12 (23.1%)	7 (13.5%)
死亡	3	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)

図表 5-16 被害の時期別、警察に相談しなかった理由（複数回答）【SC2、Q8】

	全体	警察に相談できることだと思わなかったから	どうせとりあててもらえないと思ったから	手続などが大変だと思ったから・急いでおり時間がなかったから	周囲の目が気になるから	被害の話をするのがづらかったから	相手が処罰されてしまうかもしれないから	警察に相談するほどの被害ではないと思ったから	警察に相談してから物事がどのように進むのか予想ができないから	低年齢であったため、相談することを思い至らなかった	その他
3年以内	49	11 (22.4%)	19 (38.8%)	6 (12.2%)	12 (24.5%)	8 (16.3%)	4 (8.2%)	22 (44.9%)	11 (22.4%)	2 (4.1%)	1 (2.0%)
3～10年以内	65	20 (30.8%)	28 (43.1%)	11 (16.9%)	13 (20.0%)	10 (15.4%)	5 (7.7%)	17 (26.2%)	11 (16.9%)	10 (15.4%)	7 (10.8%)
それ以前	397	115 (29.0%)	100 (25.2%)	37 (9.3%)	44 (11.1%)	35 (8.8%)	16 (4.0%)	111 (28.0%)	47 (11.8%)	141 (35.5%)	42 (10.6%)

※対象：SC 4（警察に通報したか）で「警察には通報しなかった」「通報したかどうか覚えていない・わからない」と回答し、かつ SC 5（相談した相手・機関）で「警察」と回答しなかった方（511人）のみ。

図表 5-17 加害者との面識の有無別、警察に相談しなかった理由（複数回答）【Q3、Q8】

	全体	警察に相談できることだと思わなかったから	どうせとりあててもらえないと思ったから	手続などが大変だと思ったから・急いでおり時間がなかったから	周囲の目が気になるから	被害の話をするのがづらかったから	相手が処罰されてしまうかもしれないから	警察に相談するほどの被害ではないと思ったから	警察に相談してから物事がどのように進むのか予想ができないから	低年齢であったため、相談することを思い至らなかった	その他
面識あり	308	109 (35.4%)	95 (30.8%)	31 (10.1%)	52 (16.9%)	36 (11.7%)	24 (7.8%)	84 (27.3%)	47 (15.3%)	101 (32.8%)	22 (7.1%)
面識なし	203	37 (18.2%)	52 (25.6%)	23 (11.3%)	17 (8.4%)	17 (8.4%)	1 (0.5%)	66 (32.5%)	22 (10.8%)	52 (25.6%)	28 (13.8%)

※対象：SC 4（警察に通報したか）で「警察には通報しなかった」「通報したかどうか覚えていない・わからない」と回答し、かつ SC 5（相談した相手・機関）で「警察」と回答しなかった方（511人）のみ。

イ. どこにも(誰にも)相談しなかった理由

どこにも(誰にも)相談しなかった理由について、犯罪被害類型別にみると、財産被害では「相談するほどのことではないと思った」「言っても何もしてくれない・役に立たないと思った」(それぞれ22.2%)、ストーカー、配偶者暴力では「相談するほどのことではないと思った」(同37.1%、34.5%)、児童虐待、性的な被害では「低年齢であったため、相談することを思い至らなかった」(同68.5%、31.1%)、交通事故では「特に理由はない」(44.1%)、暴力被害では「どこに相談すればよいかわからなかった」(26.1%)との回答比率が最も高くなっている(図表5-18)。

被害の時期別にみると、「3年以内」では「言っても何もしてくれない・役に立たないと思った」(32.0%)、「3～10年以内」では「どこに相談すればよいかわからなかった」(31.8%)、「それ以前」では「低年齢であったため、相談することを思い至らなかった」(31.1%)との回答比率が最も高くなっている。なお、本調査の対象者は20歳以上であり、低年齢に相当する年齢で近年に被害にあった犯罪被害者等が含まれていないことが考えられるほか、児童虐待の犯罪被害者等は被害時に低年齢の割合が「それ以前」に多くなるとも考えられる(図表5-19)。

加害者との面識の有無別にみると、「面識あり」では「低年齢であったため、相談することを思い至らなかった」(31.9%)との回答比率が最も高く、次いで「どこに相談すればよいかわからなかった」(27.5%)、「相談するほどのことではないと思った」(20.6%)となっている。「面識なし」では「相談するほどのことではないと思った」(22.2%)との回答比率が最も高く、次いで「特に理由はない」(21.5%)、「低年齢であったため、相談することを思い至らなかった」(19.0%)となっている(図表5-20)。

図表 5-18 犯罪被害類型別、どこにも（誰にも）相談しなかった理由（複数回答）【SC1/SC3、Q11】

	全体	どこに相談すればよいかわからなかった	自分が被害に あっていること に気付かなか った	相談するほど のことではない と思った	自分で解決で きると思った	被害について 誰かに話すこ とが恥ずかし かった	他人に知られ たくなかった	おおごとにし たくなかった
犯罪被害者等	362	84 (23.2%)	45 (12.4%)	77 (21.3%)	43 (11.9%)	45 (12.4%)	50 (13.8%)	54 (14.9%)
財産被害	36	7 (19.4%)	5 (13.9%)	8 (22.2%)	2 (5.6%)	2 (5.6%)	5 (13.9%)	4 (11.1%)
配偶者暴力	58	17 (29.3%)	6 (10.3%)	20 (34.5%)	13 (22.4%)	9 (15.5%)	9 (15.5%)	14 (24.1%)
ストーカー行為等	35	4 (11.4%)	4 (11.4%)	13 (37.1%)	11 (31.4%)	4 (11.4%)	6 (17.1%)	8 (22.9%)
児童虐待	92	26 (28.3%)	26 (28.3%)	9 (9.8%)	1 (1.1%)	8 (8.7%)	10 (10.9%)	11 (12.0%)
性的な被害	61	12 (19.7%)	2 (3.3%)	16 (26.2%)	2 (3.3%)	15 (24.6%)	18 (29.5%)	13 (21.3%)
交通事故	34	6 (17.6%)	1 (2.9%)	5 (14.7%)	7 (20.6%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)
暴力被害	46	12 (26.1%)	1 (2.2%)	6 (13.0%)	7 (15.2%)	6 (13.0%)	2 (4.3%)	3 (6.5%)

	言っても何も してくれない・ 役に立たない と思った	加害者からの 仕返しがか つた	加害者から相 談するなと脅さ れていた	自分が悪いと 思った、自分に 責任があると 思った	低年齢であっ たため、相談 することを思い 至らなかった	特に理由はな い	その他
犯罪被害者等	63 (17.4%)	40 (11.0%)	7 (1.9%)	35 (9.7%)	95 (26.2%)	48 (13.3%)	12 (3.3%)
財産被害	8 (22.2%)	1 (2.8%)	0 (0.0%)	4 (11.1%)	2 (5.6%)	4 (11.1%)	3 (8.3%)
配偶者暴力	14 (24.1%)	9 (15.5%)	2 (3.4%)	5 (8.6%)	0 (0.0%)	4 (6.9%)	2 (3.4%)
ストーカー行為等	5 (14.3%)	7 (20.0%)	2 (5.7%)	2 (5.7%)	1 (2.9%)	2 (5.7%)	0 (0.0%)
児童虐待	17 (18.5%)	13 (14.1%)	0 (0.0%)	15 (16.3%)	63 (68.5%)	7 (7.6%)	3 (3.3%)
性的な被害	9 (14.8%)	4 (6.6%)	1 (1.6%)	3 (4.9%)	19 (31.1%)	5 (8.2%)	2 (3.3%)
交通事故	1 (2.9%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	2 (5.9%)	1 (2.9%)	15 (44.1%)	2 (5.9%)
暴力被害	9 (19.6%)	6 (13.0%)	1 (2.2%)	4 (8.7%)	9 (19.6%)	11 (23.9%)	0 (0.0%)

※対象：SC5（相談した相手・機関）で「どこにも（誰にも）相談していない」と回答した方（362人）のみ。

図表 5-19 犯罪の時期別、どこにも（誰にも）相談しなかった理由（複数回答）【SC2、Q11】

	全体	どこに相談すればよいかわからなかった	自分が被害にあっていないことに気付かなかった	相談するほどのことではないと思った	自分で解決できると思った	被害について誰かに話すことが恥ずかしかった	他人に知られたくなかった	おおごとにしたくなかった
3年以内	25 (28.0%)	7 (28.0%)	2 (8.0%)	7 (28.0%)	7 (28.0%)	4 (16.0%)	4 (16.0%)	5 (20.0%)
3～10年以内	44 (31.8%)	14 (31.8%)	4 (9.1%)	12 (27.3%)	8 (18.2%)	5 (11.4%)	5 (11.4%)	4 (9.1%)
それ以前	293 (21.5%)	63 (21.5%)	39 (13.3%)	58 (19.8%)	28 (9.6%)	36 (12.3%)	41 (14.0%)	45 (15.4%)

	言っても何もしてくれない・役に立たないと思った	加害者からの仕返しが怖かった	加害者から相談するなど脅されていた	自分が悪いと思った、自分に責任があると思った	低年齢であったため、相談することを思い至らなかった	特に理由は無い	その他
3年以内	8 (32.0%)	7 (28.0%)	3 (12.0%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	5 (20.0%)	0 (0.0%)
3～10年以内	7 (15.9%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)	2 (4.5%)	4 (9.1%)	5 (11.4%)	1 (2.3%)
それ以前	48 (16.4%)	32 (10.9%)	3 (1.0%)	31 (10.6%)	91 (31.1%)	38 (13.0%)	11 (3.8%)

※対象：SC5（相談した相手・機関）で「どこにも（誰にも）相談していない」と回答した方（362人）のみ。

図表 5-20 加害者との面識の有無別、どこにも（誰にも）相談しなかった理由（複数回答）【Q3、Q11】

	全体	どこに相談すればよいかわからなかった	自分が被害にあっていないことに気付かなかった	相談するほどのことではないと思った	自分で解決できると思った	被害について誰かに話すことが恥ずかしかった	他人に知られたくなかった	おおごとにしたくなかった
面識あり	204 (27.5%)	56 (27.5%)	32 (15.7%)	42 (20.6%)	29 (14.2%)	26 (12.7%)	34 (16.7%)	38 (18.6%)
面識なし	158 (17.7%)	28 (17.7%)	13 (8.2%)	35 (22.2%)	14 (8.9%)	19 (12.0%)	16 (10.1%)	16 (10.1%)

	言っても何もしてくれない・役に立たないと思った	加害者からの仕返しが怖かった	加害者から相談するなど脅されていた	自分が悪いと思った、自分に責任があると思った	低年齢であったため、相談することを思い至らなかった	特に理由は無い	その他
面識あり	37 (18.1%)	31 (15.2%)	4 (2.0%)	24 (11.8%)	65 (31.9%)	14 (6.9%)	4 (2.0%)
面識なし	26 (16.5%)	9 (5.7%)	3 (1.9%)	11 (7.0%)	30 (19.0%)	34 (21.5%)	8 (5.1%)

※対象：SC5（相談した相手・機関）で「どこにも（誰にも）相談していない」と回答した方（362人）のみ。

(5)相談しやすくなるための条件

ア. 警察に通報・相談しやすくなるための条件

警察に通報・相談しやすくなるための条件について、犯罪被害者等全体では、「周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること」（37.2%）との回答比率が最も高く、次いで「相談窓口が近くにあること」（30.9%）となっている。犯罪被害類型別にみると、財産被害では「相談窓口が近くにあること」（31.4%）、ストーカー、配偶者暴力、性的な被害、児童虐待では「周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること」（それぞれ 51.2%、42.1%、40.0%、38.1%）との回答比率が最も高くなっている（図表 5-2 1）。

回答者の性別ごとにみると、「希望する性別の職員に対応してもらえること」「周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること」との回答比率は、女性が男性を同 19.2 ポイント、14.0 ポイント上回っている（図表 5-2 2）。

回答者の年齢層別にみると、20代は「メールやソーシャルメディア（X（旧 Twitter）や LINE など）で相談できること」、30～40代、60～70代以上は「周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること」、50代は「相談窓口が近くにあること」との回答比率が高くなっている（図表 5-2 3）。

被害の時期別にみると、全ての時期で「周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること」との回答比率が高くなっている。「3年以内」では「夜間や休日でも相談できること」との回答比率も同様に高い（図表 5-2 4）。

図表 5-2 1 犯罪被害類型別、警察に相談しやすくなるための条件（複数回答）【SC1/SC3、Q12】

全体	希望する性別の職員に対応してもらえること	周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること	メールやソーシャルメディア（X（旧 Twitter）や LINE など）で相談できること	相談窓口の場所や時間が日頃から広報・周知されること	相談窓口が近くにあること	夜間や休日でも相談できること	相談した後でカウンセリングも受けられること	その他	思いつくことはない
犯罪被害者等	511 98 (19.2%)	190 (37.2%)	103 (20.2%)	119 (23.3%)	158 (30.9%)	142 (27.8%)	107 (20.9%)	19 (3.7%)	162 (31.7%)
財産被害	51 5 (9.8%)	12 (23.5%)	9 (17.6%)	14 (27.5%)	16 (31.4%)	13 (25.5%)	5 (9.8%)	1 (2.0%)	15 (29.4%)
配偶者暴力	95 19 (20.0%)	40 (42.1%)	20 (21.1%)	16 (16.8%)	30 (31.6%)	30 (31.6%)	24 (25.3%)	2 (2.1%)	32 (33.7%)
ストーカー行為等	84 18 (21.4%)	43 (51.2%)	20 (23.8%)	20 (23.8%)	25 (29.8%)	27 (32.1%)	15 (17.9%)	3 (3.6%)	14 (16.7%)
児童虐待	105 19 (18.1%)	40 (38.1%)	21 (20.0%)	29 (27.6%)	38 (36.2%)	32 (30.5%)	29 (27.6%)	8 (7.6%)	33 (31.4%)
性的な被害	105 30 (28.6%)	42 (40.0%)	24 (22.9%)	26 (24.8%)	34 (32.4%)	24 (22.9%)	23 (21.9%)	3 (2.9%)	30 (28.6%)
交通事故	16 0 (0.0%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	2 (12.5%)	4 (25.0%)	2 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12 (75.0%)
暴力被害	55 7 (12.7%)	12 (21.8%)	8 (14.5%)	12 (21.8%)	11 (20.0%)	14 (25.5%)	11 (20.0%)	2 (3.6%)	26 (47.3%)

※対象：SC 4（警察に通報したか）で「警察には通報しなかった」「通報したかどうか覚えていない・わからない」と回答し、かつ SC 5（相談した相手・機関）で「警察」と回答しなかった方（511人）のみ。

図表 5-2 2 性別、警察に相談しやすくなるための条件（複数回答）【F1、Q12】

	全体	希望する性別の職員に対応してもらえること	周りの人に知られずに相談できること(個室での対応など)、プライバシーが守られること	メールやソーシャルメディア(X(旧Twitter)やLINEなどで相談できること	相談窓口の場所や時間が日頃から広報・周知されること	相談窓口が近くにあること	夜間や休日でも相談できること	相談した後でカウンセリングも受けられること	その他	思いつくことはない
男性	219	18 (8.2%)	64 (29.2%)	35 (16.0%)	49 (22.4%)	61 (27.9%)	56 (25.6%)	41 (18.7%)	7 (3.2%)	87 (39.7%)
女性	292	80 (27.4%)	126 (43.2%)	68 (23.3%)	70 (24.0%)	97 (33.2%)	86 (29.5%)	66 (22.6%)	12 (4.1%)	75 (25.7%)

※対象：SC 4（警察に通報したか）で「警察には通報しなかった」「通報したかどうか覚えていない・わからない」と回答し、かつ SC 5（相談した相手・機関）で「警察」と回答しなかった方（511人）のみ。

図表 5-2 3 年齢層別、警察に相談しやすくなるための条件（複数回答）【F2、Q12】

	全体	希望する性別の職員に対応してもらえること	周りの人に知られずに相談できること(個室での対応など)、プライバシーが守られること	メールやソーシャルメディア(X(旧Twitter)やLINEなどで相談できること	相談窓口の場所や時間が日頃から広報・周知されること	相談窓口が近くにあること	夜間や休日でも相談できること	相談した後でカウンセリングも受けられること	その他	思いつくことはない
20代	26	4 (15.4%)	5 (19.2%)	6 (23.1%)	3 (11.5%)	5 (19.2%)	5 (19.2%)	3 (11.5%)	0 (0.0%)	12 (46.2%)
30代	70	15 (21.4%)	33 (47.1%)	25 (35.7%)	20 (28.6%)	26 (37.1%)	22 (31.4%)	15 (21.4%)	3 (4.3%)	14 (20.0%)
40代	135	27 (20.0%)	53 (39.3%)	30 (22.2%)	33 (24.4%)	42 (31.1%)	39 (28.9%)	28 (20.7%)	5 (3.7%)	43 (31.9%)
50代	150	33 (22.0%)	54 (36.0%)	22 (14.7%)	40 (26.7%)	56 (37.3%)	47 (31.3%)	38 (25.3%)	7 (4.7%)	44 (29.3%)
60代	96	15 (15.6%)	32 (33.3%)	17 (17.7%)	20 (20.8%)	22 (22.9%)	22 (22.9%)	15 (15.6%)	4 (4.2%)	33 (34.4%)
70代以上	34	4 (11.8%)	13 (38.2%)	3 (8.8%)	3 (8.8%)	7 (20.6%)	7 (20.6%)	8 (23.5%)	0 (0.0%)	16 (47.1%)

※対象：SC 4（警察に通報したか）で「警察には通報しなかった」「通報したかどうか覚えていない・わからない」と回答し、かつ SC 5（相談した相手・機関）で「警察」と回答しなかった方（511人）のみ。

図表 5-2 4 被害の時期別、警察に相談しやすくなるための条件（複数回答）【SC2、Q12】

	全体	希望する性別の職員に対応してもらえること	周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること	メールやソーシャルメディア（X(旧Twitter)やLINEなど）で相談できること	相談窓口の場所や時間が日頃から広報・周知されること	相談窓口が近くにあること	夜間や休日でも相談できること	相談した後でカウンセリングも受けられること	その他	思いつくことはない
3年以内	49	10 (20.4%)	18 (36.7%)	11 (22.4%)	13 (26.5%)	13 (26.5%)	18 (36.7%)	13 (26.5%)	2 (4.1%)	13 (26.5%)
3～10年以内	65	13 (20.0%)	28 (43.1%)	14 (21.5%)	16 (24.6%)	18 (27.7%)	17 (26.2%)	15 (23.1%)	0 (0.0%)	17 (26.2%)
それ以前	397	75 (18.9%)	144 (36.3%)	78 (19.6%)	90 (22.7%)	127 (32.0%)	107 (27.0%)	79 (19.9%)	17 (4.3%)	132 (33.2%)

※対象：SC 4（警察に通報したか）で「警察には通報しなかった」「通報したかどうか覚えていない・わからない」と回答し、かつ SC 5（相談した相手・機関）で「警察」と回答しなかった方（511人）のみ。

イ. 地方公共団体や民間の相談機関・団体等に相談しやすくなるための条件

地方公共団体や民間の相談機関・団体等に相談しやすくなるための条件について、犯罪被害者等全体では、「無料で相談できること」（37.8%）との回答比率が最も高く、次いで「周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること」（37.3%）となっている。犯罪被害類型別にみると、財産被害では「相談窓口が近くにあること」（36.4%）、配偶者暴力では「無料で相談できること」（41.0%）、「周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること」（40.0%）、ストーカー、児童虐待では「周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること」（それぞれ 51.3%、40.7%）、性的な被害では「周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること」「相談窓口が近くにあること」（同 38.5%）、交通事故では「無料で相談できること」（29.5%）、暴力被害では「夜間や休日でも相談できること」（40.8%）との回答比率が高くなっている（図表 5-2 5）。

回答者の性別ごとにみると、「ア.警察に通報・相談しやすくなるための条件」と同様に、「希望する性別の職員に対応してもらえること」、「周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること」との回答比率は、女性が男性をそれぞれ 19.3 ポイント、11.7 ポイント上回っている（図表 5-2 6）。

回答者の年齢層別にみると、20～30 代、70 代以上は「周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること」、40 代は「周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること」「無料で相談できること」、50 代は「無料で相談できること」、60 代は「夜間や休日でも相談できること」との回答比率が高くなっている（図表 5-2 7）。

被害の時期別にみると、「3 年以内」「3～10 年以内」では「周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること」、「それ以前」では「無料で相談できること」との回答比率が最も高くなっている（図表 5-2 8）。

図表 5-25 犯罪被害類型別、地方公共団体や民間の相談機関・団体等に相談しやすくなるための条件

(複数回答) 【SC1/SC3、Q13】

	全体	希望する性別の職員に対応してもらえること	周りの人に知られずに相談できること(個室での対応など)、プライバシーが守られること	メールやソーシャルメディア(X(旧Twitter)やLINEなどで相談できること	相談窓口の場所や時間が日頃から広報・周知されること	相談窓口が近くにあること	夜間や休日でも相談できること	相談した後でカウンセリングも受けられること	無料で相談できること	その他	思いつくことはない
犯罪被害者等	762	169 (22.2%)	284 (37.3%)	159 (20.9%)	211 (27.7%)	260 (34.1%)	251 (32.9%)	166 (21.8%)	288 (37.8%)	14 (1.8%)	218 (28.6%)
財産被害	129	21 (16.3%)	43 (33.3%)	27 (20.9%)	35 (27.1%)	47 (36.4%)	42 (32.6%)	21 (16.3%)	46 (35.7%)	2 (1.6%)	33 (25.6%)
配偶者暴力	105	20 (19.0%)	42 (40.0%)	23 (21.9%)	29 (27.6%)	35 (33.3%)	29 (27.6%)	27 (25.7%)	43 (41.0%)	0 (0.0%)	33 (31.4%)
ストーカー行為等	117	36 (30.8%)	60 (51.3%)	33 (28.2%)	35 (29.9%)	47 (40.2%)	45 (38.5%)	27 (23.1%)	54 (46.2%)	0 (0.0%)	16 (13.7%)
児童虐待	108	22 (20.4%)	44 (40.7%)	23 (21.3%)	32 (29.6%)	40 (37.0%)	35 (32.4%)	28 (25.9%)	41 (38.0%)	5 (4.6%)	33 (30.6%)
性的な被害	117	40 (34.2%)	45 (38.5%)	33 (28.2%)	37 (31.6%)	45 (38.5%)	38 (32.5%)	32 (27.4%)	44 (37.6%)	2 (1.7%)	31 (26.5%)
交通事故	88	9 (10.2%)	17 (19.3%)	3 (3.4%)	21 (23.9%)	17 (19.3%)	22 (25.0%)	7 (8.0%)	26 (29.5%)	0 (0.0%)	40 (45.5%)
暴力被害	98	21 (21.4%)	33 (33.7%)	17 (17.3%)	22 (22.4%)	29 (29.6%)	40 (40.8%)	24 (24.5%)	34 (34.7%)	5 (5.1%)	32 (32.7%)

※対象：SC5（相談した相手・機関）で「弁護士・日本司法支援センター（法テラス）」、「地方公共団体の総合的対応窓口」、「児童相談所」、「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」、「その他の行政機関・福祉機関の相談窓口」、「民間の犯罪被害者支援団体」、「医療機関」と回答しなかった方（762人）のみ。

図表 5-26 性別、地方公共団体や民間の相談機関・団体等に相談しやすくなるための条件

(複数回答) 【F1、Q13】

	全体	希望する性別の職員に対応してもらえること	周りの人に知られずに相談できること(個室での対応など)、プライバシーが守られること	メールやソーシャルメディア(X(旧Twitter)やLINEなどで相談できること	相談窓口の場所や時間が日頃から広報・周知されること	相談窓口が近くにあること	夜間や休日でも相談できること	相談した後でカウンセリングも受けられること	無料で相談できること	その他	思いつくことはない
男性	387	49 (12.7%)	122 (31.5%)	57 (14.7%)	95 (24.5%)	121 (31.3%)	117 (30.2%)	67 (17.3%)	114 (29.5%)	4 (1.0%)	133 (34.4%)
女性	375	120 (32.0%)	162 (43.2%)	102 (27.2%)	116 (30.9%)	139 (37.1%)	134 (35.7%)	99 (26.4%)	174 (46.4%)	10 (2.7%)	85 (22.7%)

※対象：SC5（相談した相手・機関）で「弁護士・日本司法支援センター（法テラス）」、「地方公共団体の総合的対応窓口」、「児童相談所」、「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」、「その他の行政機関・福祉機関の相談窓口」、「民間の犯罪被害者支援団体」、「医療機関」と回答しなかった方（762人）のみ。

図表 5-27 年齢層別、地方公共団体や民間の相談機関・団体等に相談しやすくなるための条件

(複数回答) 【F2、Q13】

全体	希望する性別の職員に対応してもらえること	周りの人に知られずに相談できること(個室での対応など)、プライバシーが守られること	メールやソーシャルメディア(X(旧Twitter)やLINEなど)で相談できること	相談窓口の場所や時間が日頃から広報・周知されること	相談窓口が近くにあること	夜間や休日でも相談できること	相談した後でカウンセリングも受けられること	無料で相談できること	その他	思いつくことはない	
20代	34 (17.6%)	6 (35.3%)	12 (23.5%)	8 (20.6%)	7 (17.6%)	6 (20.6%)	7 (20.6%)	4 (11.8%)	11 (32.4%)	1 (2.9%)	10 (29.4%)
30代	97 (32.0%)	31 (47.4%)	46 (30.9%)	30 (29.9%)	29 (40.2%)	39 (35.1%)	34 (24.7%)	24 (45.4%)	44 (41.1%)	4 (4.1%)	21 (21.6%)
40代	205 (23.9%)	49 (39.0%)	80 (22.0%)	45 (29.3%)	60 (34.6%)	71 (33.7%)	69 (22.9%)	47 (39.0%)	80 (1.0%)	2 (1.0%)	54 (26.3%)
50代	211 (23.7%)	50 (36.5%)	77 (23.2%)	49 (31.3%)	66 (37.4%)	79 (37.0%)	78 (25.6%)	54 (41.7%)	88 (1.4%)	3 (1.4%)	62 (29.4%)
60代	156 (17.9%)	28 (30.1%)	47 (13.5%)	21 (23.1%)	36 (30.8%)	48 (32.7%)	51 (15.4%)	24 (30.1%)	47 (2.6%)	4 (2.6%)	50 (32.1%)
70代以上	59 (8.5%)	5 (37.3%)	22 (10.2%)	6 (22.0%)	13 (28.8%)	17 (20.3%)	12 (22.0%)	13 (30.5%)	18 (0.0%)	0 (0.0%)	21 (35.6%)

※対象：SC5（相談した相手・機関）で「弁護士・日本司法支援センター（法テラス）」、「地方公共団体の総合的対応窓口」、「児童相談所」、「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」、「その他の行政機関・福祉機関の相談窓口」、「民間の犯罪被害者支援団体」、「医療機関」と回答しなかった方（762人）のみ。

図表 5-28 被害の時期別、地方公共団体や民間の相談機関・団体等に相談しやすくなるための条件

(複数回答) 【SC2、Q13】

全体	希望する性別の職員に対応してもらえること	周りの人に知られずに相談できること(個室での対応など)、プライバシーが守られること	メールやソーシャルメディア(X(旧Twitter)やLINEなど)で相談できること	相談窓口の場所や時間が日頃から広報・周知されること	相談窓口が近くにあること	夜間や休日でも相談できること	相談した後でカウンセリングも受けられること	無料で相談できること	その他	思いつくことはない	
3年以内	82 (19.5%)	16 (40.2%)	33 (15.9%)	13 (26.8%)	22 (36.6%)	30 (26.8%)	22 (24.4%)	20 (35.4%)	29 (0.0%)	0 (0.0%)	17 (20.7%)
3~10年以内	126 (25.4%)	32 (46.8%)	59 (27.0%)	34 (31.7%)	40 (31.7%)	40 (34.9%)	44 (24.6%)	31 (43.7%)	55 (2.4%)	3 (2.4%)	19 (15.1%)
それ以前	554 (21.8%)	121 (34.7%)	192 (20.2%)	112 (26.9%)	149 (34.3%)	190 (33.4%)	185 (20.8%)	115 (36.8%)	204 (2.0%)	11 (2.0%)	182 (32.9%)

※対象：SC5（相談した相手・機関）で「弁護士・日本司法支援センター（法テラス）」、「地方公共団体の総合的対応窓口」、「児童相談所」、「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」、「その他の行政機関・福祉機関の相談窓口」、「民間の犯罪被害者支援団体」、「医療機関」と回答しなかった方（762人）のみ。

(6)事件後に傷つけられた、支えられたと感じた経験と対象

ア. 傷つけられたと感じた経験と対象

事件後に人々の言動や態度によって気持ちが傷つけられたと感じたことがあるか、ある場合その相手について、犯罪被害者等全体では「あてはまるものはない」との回答比率が70.6%となっており、犯罪被害類型別にみると、児童虐待、配偶者暴力、暴力被害では「家族、親族」（それぞれ55.0%、23.7%、20.2%）との回答比率が高く、配偶者暴力では「加害者関係者」（23.7%）も高くなっている（図表5-29）。

被害の時期別にみると、全ての時期で「家族、親族」「加害者関係者」との回答比率が高い（図表5-30）。

図表 5-29 犯罪被害類型別、事件後に受けた言動等で傷つけられた経験・相手
(複数回答)【SC1/SC3、Q62】

	全体	家族、親族	友人、知人	同じ職場、学校などに通っている人	学校や塾の先生	近所、地域の人	警察官・警察職員	検察官・検察庁職員	裁判官・裁判所職員	弁護士
犯罪被害者等	819	141 (17.2%)	61 (7.4%)	58 (7.1%)	36 (4.4%)	31 (3.8%)	55 (6.7%)	7 (0.9%)	9 (1.1%)	9 (1.1%)
財産被害	139	6 (4.3%)	5 (3.6%)	6 (4.3%)	2 (1.4%)	3 (2.2%)	9 (6.5%)	2 (1.4%)	1 (0.7%)	4 (2.9%)
配偶者暴力	114	27 (23.7%)	11 (9.6%)	7 (6.1%)	2 (1.8%)	4 (3.5%)	7 (6.1%)	1 (0.9%)	4 (3.5%)	0 (0.0%)
ストーカー行為等	125	10 (8.0%)	3 (2.4%)	7 (5.6%)	2 (1.6%)	2 (1.6%)	6 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
児童虐待	109	60 (55.0%)	17 (15.6%)	20 (18.3%)	19 (17.4%)	12 (11.0%)	12 (11.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)
性的な被害	119	12 (10.1%)	7 (5.9%)	3 (2.5%)	2 (1.7%)	1 (0.8%)	4 (3.4%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)
交通事故	104	4 (3.8%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (6.7%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)	2 (1.9%)
暴力被害	109	22 (20.2%)	17 (15.6%)	14 (12.8%)	9 (8.3%)	9 (8.3%)	10 (9.2%)	2 (1.8%)	1 (0.9%)	2 (1.8%)

	日本司法支援センター(法テラス)の職員	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターのスタッフ	地方公共団体の職員	児童相談所のスタッフ	医療機関のスタッフ	民間団体の人	報道関係者	世間の声	加害者関係者	あてはまるものはない
犯罪被害者等	7 (0.9%)	4 (0.5%)	9 (1.1%)	7 (0.9%)	11 (1.3%)	4 (0.5%)	10 (1.2%)	19 (2.3%)	104 (12.7%)	578 (70.6%)
財産被害	4 (2.9%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)	4 (2.9%)	8 (5.8%)	117 (84.2%)
配偶者暴力	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	3 (2.6%)	27 (23.7%)	67 (58.8%)
ストーカー行為等	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.6%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	3 (2.4%)	2 (1.6%)	12 (9.6%)	98 (78.4%)
児童虐待	1 (0.9%)	1 (0.9%)	2 (1.8%)	1 (0.9%)	4 (3.7%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	6 (5.5%)	27 (24.8%)	43 (39.4%)
性的な被害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	2 (1.7%)	7 (5.9%)	98 (82.4%)
交通事故	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (9.6%)	84 (80.8%)
暴力被害	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	3 (2.8%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	13 (11.9%)	71 (65.1%)

図表 5-30 被害の時期別、事件後に受けた言動等で傷つけられた経験・相手 (複数回答)【SC2、Q62】

	全体	家族、親族	友人、知人	同じ職場、学校などに通っている人	学校や塾の先生	近所、地域の人	警察官・警察職員	検察官・検察庁職員	裁判官・裁判所職員	弁護士
3年以内	98	15 (15.3%)	8 (8.2%)	6 (6.1%)	4 (4.1%)	3 (3.1%)	9 (9.2%)	4 (4.1%)	3 (3.1%)	5 (5.1%)
3~10年以内	143	26 (18.2%)	11 (7.7%)	10 (7.0%)	5 (3.5%)	4 (2.8%)	14 (9.8%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)
それ以前	578	100 (17.3%)	42 (7.3%)	42 (7.3%)	27 (4.7%)	24 (4.2%)	32 (5.5%)	1 (0.2%)	6 (1.0%)	3 (0.5%)

	日本司法支援センター(法テラス)の職員	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターのスタッフ	地方公共団体の職員	児童相談所のスタッフ	医療機関のスタッフ	民間団体の人	報道関係者	世間の声	加害者関係者	あてはまるものはない
3年以内	4 (4.1%)	2 (2.0%)	5 (5.1%)	3 (3.1%)	3 (3.1%)	2 (2.0%)	5 (5.1%)	7 (7.1%)	18 (18.4%)	63 (64.3%)
3~10年以内	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)	3 (2.1%)	20 (14.0%)	96 (67.1%)
それ以前	2 (0.3%)	2 (0.3%)	4 (0.7%)	3 (0.5%)	6 (1.0%)	2 (0.3%)	3 (0.5%)	9 (1.6%)	66 (11.4%)	419 (72.5%)

イ. 支えられたと感じた経験と対象

事件後に人々の言動や態度によって精神的・情緒的に支えられたと感じたことがあるか、ある場合その相手について、犯罪被害者等全体では「あてはまるものはない」との回答比率が52.7%となっており、犯罪被害類型別にみると、全ての類型で「家族、親族」「友人、知人」との回答比率が高く、ストーカー、交通事故では「同じ職場、学校などに通っている人」との回答比率も高くなっている（図表5-31）。

被害の時期別にみても、全ての時期で「家族、親族」「友人、知人」との回答比率が高くなっている（図表5-32）。

図表 5-3 1 犯罪被害類型別、事件後に受けた言動等で支えられた経験・相手

（複数回答）【SC1/SC3、Q62】

	全体	家族、親族	友人、知人	同じ職場、学校などに通っている人	学校や塾の先生	近所、地域の人の人	警察官・警察職員	検察官・検察庁職員	裁判官・裁判所職員	弁護士
犯罪被害者等	819	245 (29.9%)	209 (25.5%)	114 (13.9%)	39 (4.8%)	51 (6.2%)	78 (9.5%)	20 (2.4%)	17 (2.1%)	45 (5.5%)
財産被害	139	46 (33.1%)	34 (24.5%)	21 (15.1%)	4 (2.9%)	12 (8.6%)	23 (16.5%)	4 (2.9%)	5 (3.6%)	8 (5.8%)
配偶者暴力	114	43 (37.7%)	31 (27.2%)	9 (7.9%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	8 (7.0%)	0 (0.0%)	3 (2.6%)	6 (5.3%)
ストーカー行為等	125	50 (40.0%)	48 (38.4%)	26 (20.8%)	5 (4.0%)	7 (5.6%)	22 (17.6%)	3 (2.4%)	3 (2.4%)	7 (5.6%)
児童虐待	109	13 (11.9%)	19 (17.4%)	7 (6.4%)	8 (7.3%)	5 (4.6%)	1 (0.9%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)
性的な被害	119	21 (17.6%)	18 (15.1%)	9 (7.6%)	2 (1.7%)	3 (2.5%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.5%)
交通事故	104	41 (39.4%)	30 (28.8%)	23 (22.1%)	9 (8.7%)	10 (9.6%)	10 (9.6%)	3 (2.9%)	0 (0.0%)	13 (12.5%)
暴力被害	109	31 (28.4%)	29 (26.6%)	19 (17.4%)	9 (8.3%)	12 (11.0%)	13 (11.9%)	8 (7.3%)	6 (5.5%)	7 (6.4%)

	日本司法支援センター(法テラス)の職員	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターのスタッフ	地方公共団体の職員	児童相談所のスタッフ	医療機関のスタッフ	民間団体の人の人	報道関係者	世間の声	加害者関係者	あてはまるものはない
犯罪被害者等	19 (2.3%)	14 (1.7%)	17 (2.1%)	13 (1.6%)	60 (7.3%)	17 (2.1%)	10 (1.2%)	17 (2.1%)	13 (1.6%)	432 (52.7%)
財産被害	3 (2.2%)	4 (2.9%)	4 (2.9%)	6 (4.3%)	7 (5.0%)	5 (3.6%)	4 (2.9%)	2 (1.4%)	4 (2.9%)	72 (51.8%)
配偶者暴力	3 (2.6%)	1 (0.9%)	3 (2.6%)	1 (0.9%)	6 (5.3%)	2 (1.8%)	1 (0.9%)	3 (2.6%)	2 (1.8%)	52 (45.6%)
ストーカー行為等	8 (6.4%)	4 (3.2%)	3 (2.4%)	2 (1.6%)	7 (5.6%)	5 (4.0%)	0 (0.0%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	48 (38.4%)
児童虐待	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	3 (2.8%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	4 (3.7%)	0 (0.0%)	74 (67.9%)
性的な被害	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.5%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	2 (1.7%)	1 (0.8%)	84 (70.6%)
交通事故	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (3.8%)	1 (1.0%)	20 (19.2%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	3 (2.9%)	47 (45.2%)
暴力被害	4 (3.7%)	4 (3.7%)	2 (1.8%)	3 (2.8%)	14 (12.8%)	3 (2.8%)	3 (2.8%)	4 (3.7%)	3 (2.8%)	55 (50.5%)

図表 5-3 2 被害の時期別、事件後に受けた言動等で支えられた経験・相手（複数回答）【SC2、Q62】

	全体	家族、親 族	友人、知 人	同じ職 場、学校 などに 通ってい る人	学校や塾 の先生	近所、地 域の人	警察官・ 警察職員	検察官・ 検察庁職 員	裁判官・裁 判所職員	弁護士
3年以内	98	40 (40.8%)	29 (29.6%)	18 (18.4%)	6 (6.1%)	12 (12.2%)	21 (21.4%)	8 (8.2%)	9 (9.2%)	13 (13.3%)
3～10年以内	143	53 (37.1%)	49 (34.3%)	33 (23.1%)	7 (4.9%)	12 (8.4%)	22 (15.4%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	11 (7.7%)
それ以前	578	152 (26.3%)	131 (22.7%)	63 (10.9%)	26 (4.5%)	27 (4.7%)	35 (6.1%)	10 (1.7%)	6 (1.0%)	21 (3.6%)

	日本司法 支援セン ター(法テ ラス)の職 員	性犯罪・ 性暴力被 害者のた めのワン ストップ支 援セン ターのス タッフ	地方公共 団体の職 員	児童相談 所のス タッフ	医療機関 のスタッ フ	民間団体 の人	報道関係 者	世間の声	加害者関 係者	あてはま るものは ない
3年以内	9 (9.2%)	4 (4.1%)	1 (1.0%)	3 (3.1%)	13 (13.3%)	6 (6.1%)	1 (1.0%)	4 (4.1%)	3 (3.1%)	40 (40.8%)
3～10年以内	6 (4.2%)	5 (3.5%)	7 (4.9%)	5 (3.5%)	14 (9.8%)	5 (3.5%)	4 (2.8%)	6 (4.2%)	2 (1.4%)	61 (42.7%)
それ以前	4 (0.7%)	5 (0.9%)	9 (1.6%)	5 (0.9%)	33 (5.7%)	6 (1.0%)	5 (0.9%)	7 (1.2%)	8 (1.4%)	331 (57.3%)

2-6. 児童虐待の被害状況

児童虐待の被害状況として、加害者、自分以外の被害者、虐待に気づいていた人、介入してくれた人等について更に分析する。

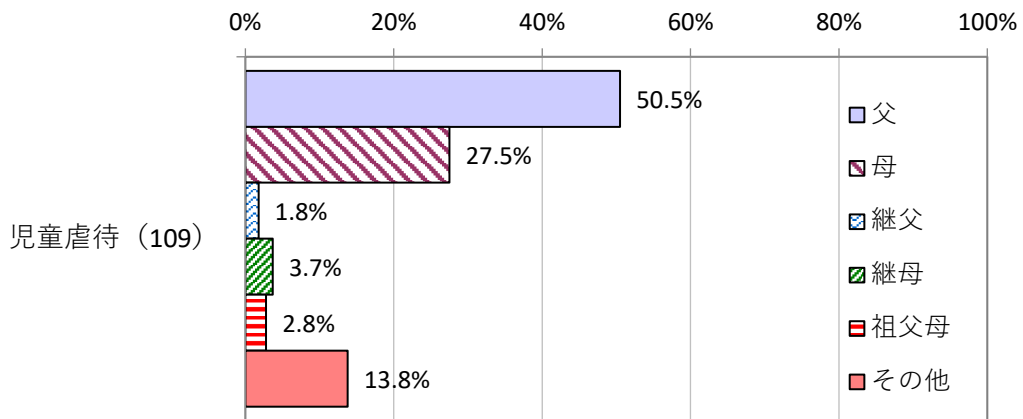
(1)加害者

児童虐待の加害者については、「父」(50.5%)、「母」(27.5%)が多くを占める(図表6-1)。

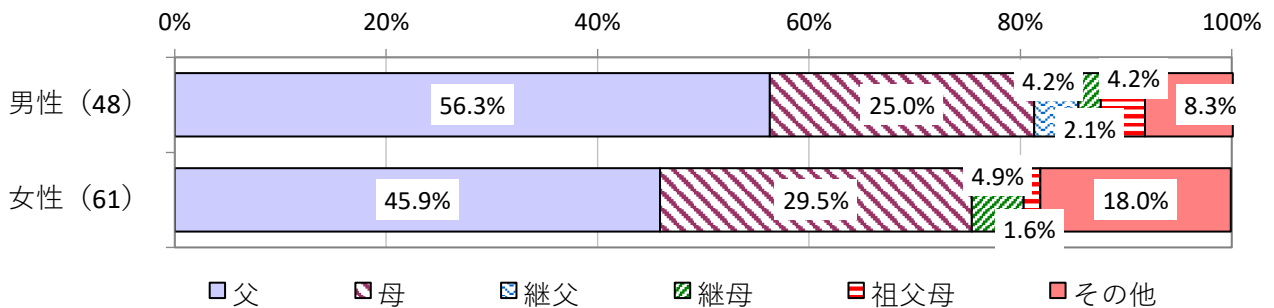
回答者の性別ごとにみると、男性では「父」が加害者である比率が56.3%と高くなっている。女性も男性と同様に「父」が加害者である比率が45.9%と高いが、「母」が加害者である比率は29.5%と男性(25.0%)よりもやや高い(図表6-2)。

被害時の年齢別については、図表6-3のとおり。

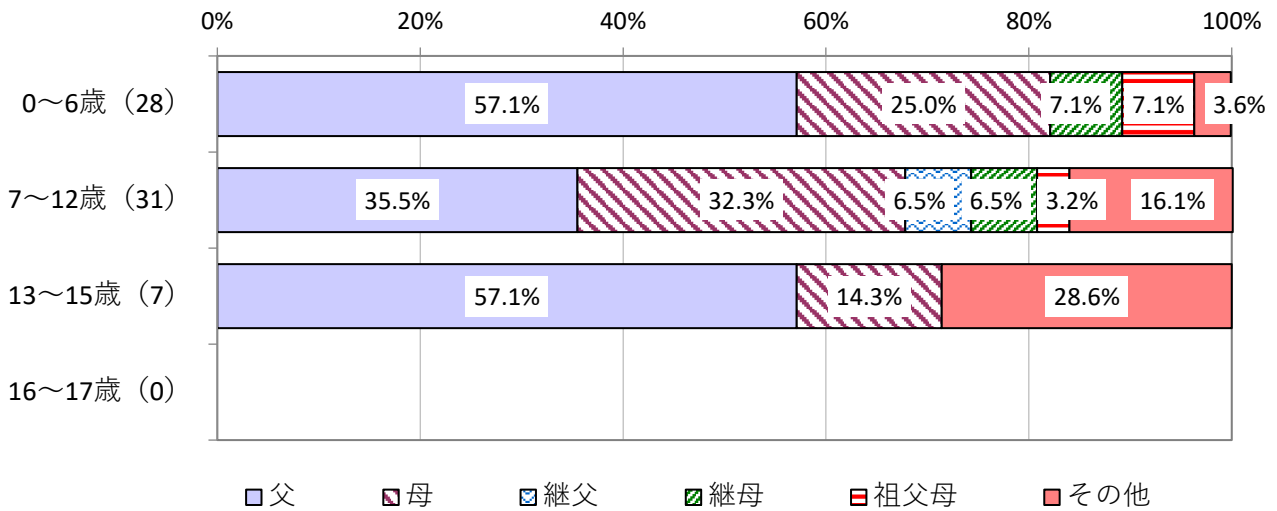
図表 6-1 加害者との関係_児童虐待【Q3】



図表 6-2 性別、加害者との関係_児童虐待【F1、Q3】



図表 6-3 被害時の年齢別、加害者との関係_児童虐待【Q1、Q3】

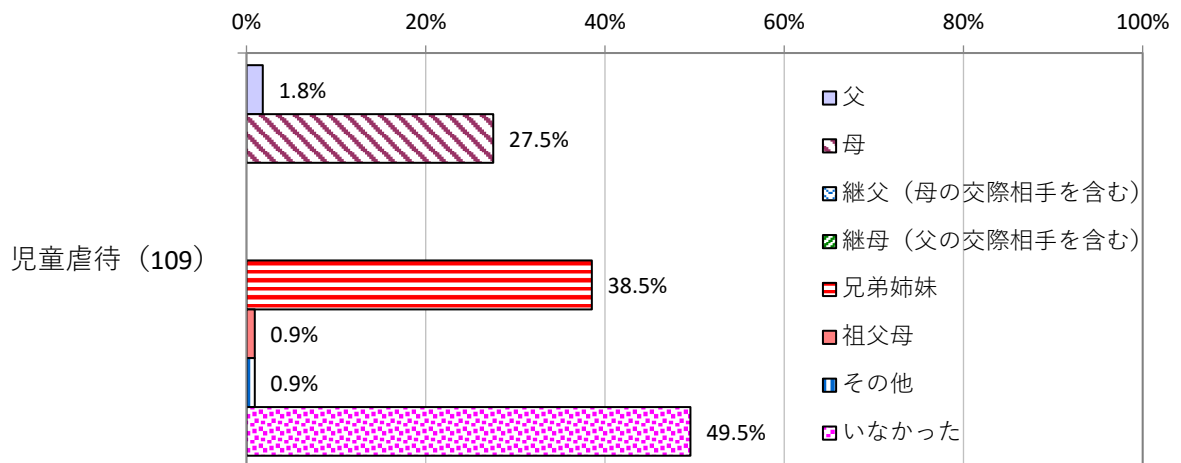


※対象：Q1（被害時の年齢）で18歳未満と回答した方（66人）のみ。

(2)自分以外の被害者

回答者以外に虐待の被害にあっていた人については、「いなかった」(49.5%)との回答比率が最も高い。被害にあっていた人がいる場合の中では、「兄弟姉妹」(38.5%)、「母」(27.5%)との回答比率が高い(図表6-4)。

図表 6-4 自分以外の被害者（複数回答）_児童虐待【Q14】

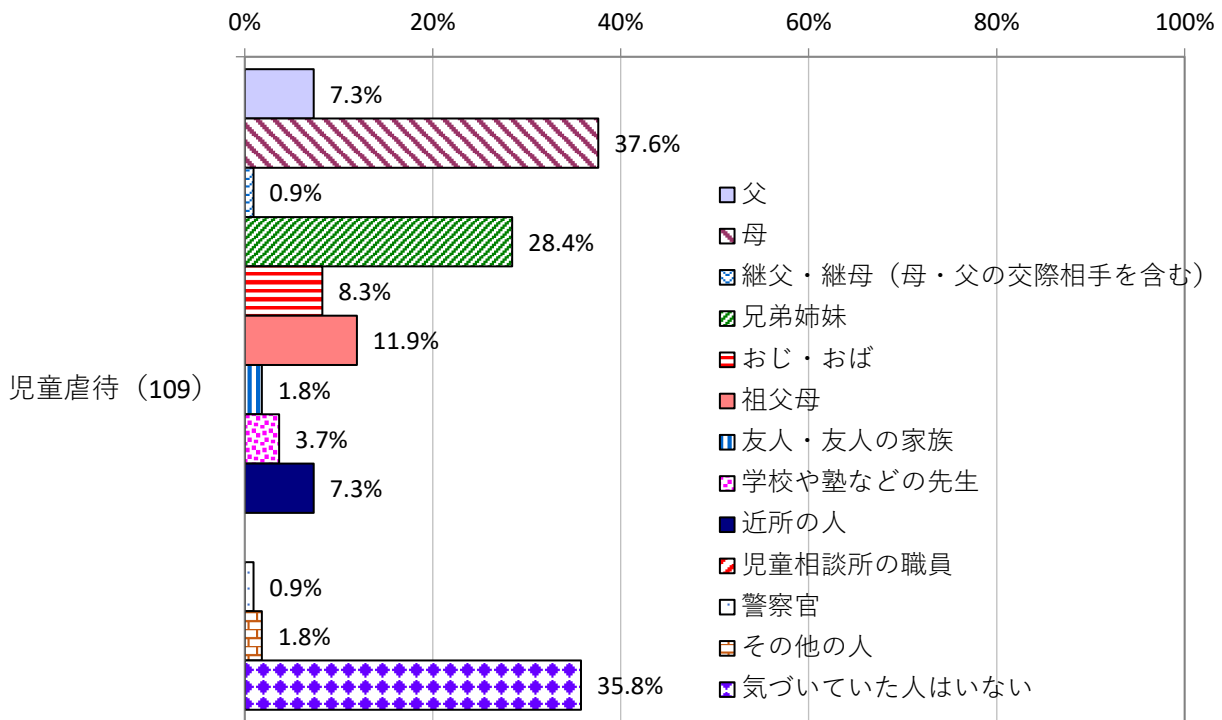


(3) 虐待に気づいていた人

回答者への虐待に気づいていた人については、「母」との回答比率が37.6%と最も高く、次いで「兄弟姉妹」(28.4%)、「祖父母」(11.9%)となっている。一方、「気づいていた人はいない」との回答比率も35.8%と高くなっている(図表6-5)。

回答者の性別ごとにみると、男女ともに「母」(それぞれ35.4%、39.3%)、「兄弟姉妹」(同27.1%、29.5%)との回答比率が高く、また、「気づいていた人はいない」との回答比率は女性の29.5%に対して男性は43.8%と高くなっている(図表6-6)。

図表 6-5 虐待に気づいていた人(複数回答) 児童虐待【Q15】



図表 6-6 性別、虐待に気づいていた人(複数回答) 児童虐待【F1、Q15】

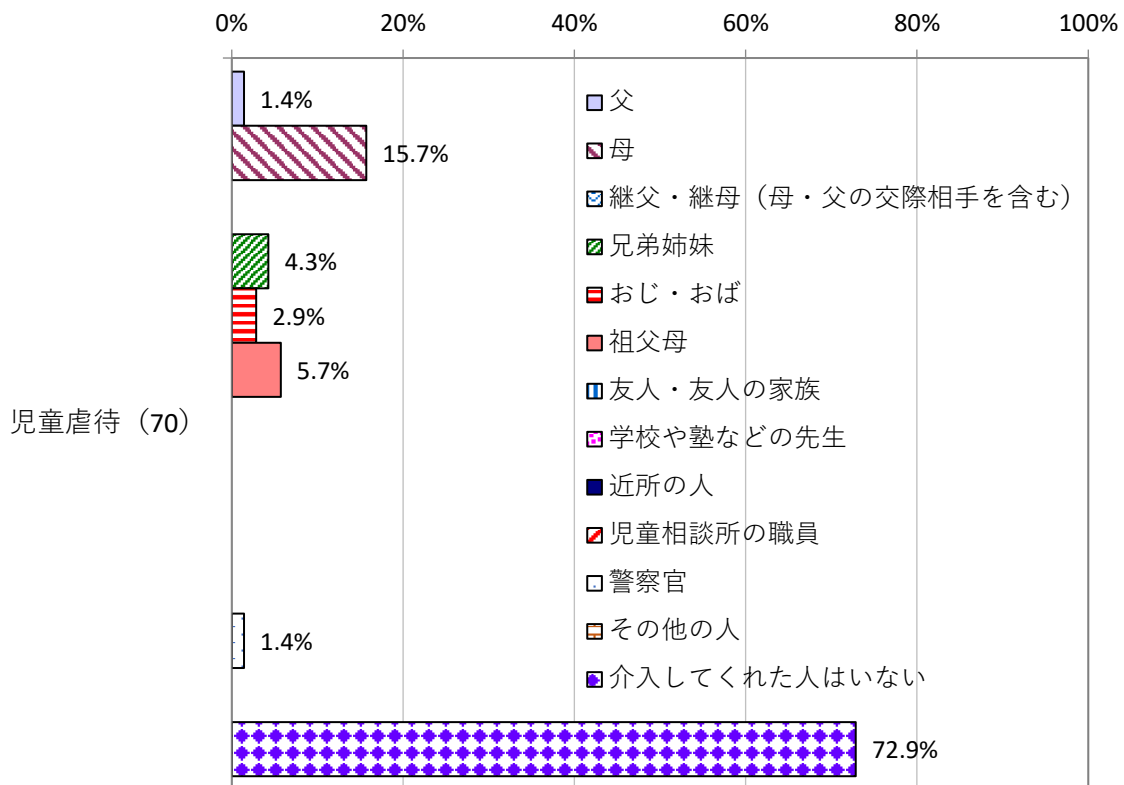
	全体	父	母	継父・継母	兄弟姉妹	おじ・おば	祖父母	友人・友人の家族	学校や塾などの先生	近所の人	児童相談所の職員	警察官	その他の人	気づいていた人はいない
男性	48	7 (14.6%)	17 (35.4%)	1 (2.1%)	13 (27.1%)	5 (10.4%)	4 (8.3%)	0 (0.0%)	3 (6.3%)	3 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	21 (43.8%)
女性	61	1 (1.6%)	24 (39.3%)	0 (0.0%)	18 (29.5%)	4 (6.6%)	9 (14.8%)	2 (3.3%)	1 (1.6%)	5 (8.2%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)	2 (3.3%)	18 (29.5%)

(4) 介入してくれた人

虐待に気づいていた人のうち、虐待を止めさせるために介入してくれた人がいたかについては、「介入してくれた人はいない」との回答比率が 72.9%と最も高い。介入してくれた人がいる場合の相手については、「母」(15.7%)、「祖父母」(5.7%) との回答比率が高くなっている(図表 6-7)。

回答者の性別と介入してくれた人の関係については、図表 6-8 のとおり。

図表 6-7 介入してくれた人(複数回答) 児童虐待【Q16】



※対象：Q15(虐待に気づいていた人はいたか)で「気づいていた人はいない」と回答した方(39人)を除く。

図表 6-8 性別、介入してくれた人(複数回答) 児童虐待【F1、Q16】

	全体	父	母	継父・継母	兄弟姉妹	おじ・おば	祖父母	友人・友人の家族	学校や塾などの先生	近所の人	児童相談所の職員	警察官	その他の人	介入してくれた人はいない
男性	27	1 (3.7%)	5 (18.5%)	0 (0.0%)	1 (3.7%)	1 (3.7%)	1 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	21 (77.8%)
女性	43	0 (0.0%)	6 (14.0%)	0 (0.0%)	2 (4.7%)	1 (2.3%)	3 (7.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	0 (0.0%)	30 (69.8%)

※対象：Q15(虐待に気づいていた人はいたか)で「気づいていた人はいない」と回答した方(39人)を除く。

2-7. 配偶者暴力・ストーカー行為等の再被害の状況

配偶者暴力及びストーカーの再被害（警察や行政に通報・相談した後に同じ加害者から再び被害にあうこと）の状況として、被害後の対処行動、警察・行政への通報・相談状況、再被害の有無・内容等について分析する。

(1)被害後の対処行動

被害後の対処行動については、配偶者暴力では「上記のような自衛のための措置はとっていない」（36.0%）、「別居・離婚をした」（34.2%）、ストーカーでは「あなた自身が相手に働きかけた」（26.4%）、「あなた以外の人に相手に働きかけてもらった」（25.6%）との回答比率が高くなっている（図表7-1）。

加害者の属性別にみると、「配偶者・交際相手」では「別居・離婚をした」（29.2%）、「知人、友人、職場・学校の関係者」では「あなた以外の人に相手に働きかけてもらった」（29.8%）、「知らない人・わからない人」では「あなた自身が相手に働きかけた」（21.4%）との回答比率がそれぞれ高い（図表7-2）。

図表 7-1 対処行動（複数回答）_配偶者暴力、ストーカー【Q17】

	全体	あなたが相手に働きかけた	あなた以外の人に相手に働きかけてもらった	電話番号やメールアドレスを変えた	SNSの自分のアカウントを変更・削除した	SNSの相手のアカウントをブロックした	通学または通勤時間を変えた	通学または通勤経路を変えた
配偶者暴力	114	30 (26.3%)	14 (12.3%)	1 (0.9%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)
ストーカー行為等	125	33 (26.4%)	32 (25.6%)	23 (18.4%)	9 (7.2%)	14 (11.2%)	17 (13.6%)	20 (16.0%)

	学校または仕事を辞めた、変えた	学校または仕事をしばらく休んだ(休学、休職)	実家や友人宅、シェルターなどに避難した	転居をした	別居・離婚をした	その他	上記のような自衛のための措置はとっていない
配偶者暴力	3 (2.6%)	1 (0.9%)	5 (4.4%)	5 (4.4%)	39 (34.2%)	6 (5.3%)	41 (36.0%)
ストーカー行為等	15 (12.0%)	4 (3.2%)	4 (3.2%)	17 (13.6%)	1 (0.8%)	6 (4.8%)	20 (16.0%)

図表 7-2 加害者の属性別、対処行動（複数回答）_配偶者暴力、ストーカー【Q3、Q17】

	全体	あなたが自身が相手に働きかけた	あなた以外の人に相手に働きかけてもらった	電話番号やメールアドレスを変えた	SNSの自分のアカウントを変更・削除した	SNSの相手のアカウントをブロックした	通学または通勤時間を変えた	通学または通勤経路を変えた
家族	5	3 (60.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)
配偶者・交際相手	130	36 (27.7%)	20 (15.4%)	8 (6.2%)	4 (3.1%)	4 (3.1%)	2 (1.5%)	3 (2.3%)
知人、友人、職場・学校の関係者	57	15 (26.3%)	17 (29.8%)	11 (19.3%)	6 (10.5%)	10 (17.5%)	7 (12.3%)	8 (14.0%)
知らない人・わからない人	42	9 (21.4%)	8 (19.0%)	4 (9.5%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	7 (16.7%)	7 (16.7%)
その他	5	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)

	学校または仕事を辞めた、変えた	学校または仕事をしばらく休んだ（休学、休職）	実家や友人宅、シェルターなどに避難した	転居をした	別居・離婚をした	その他	上記のような自衛のための措置はとっていない
家族	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)
配偶者・交際相手	6 (4.6%)	2 (1.5%)	5 (3.8%)	11 (8.5%)	38 (29.2%)	6 (4.6%)	38 (29.2%)
知人、友人、職場・学校の関係者	10 (17.5%)	2 (3.5%)	2 (3.5%)	7 (12.3%)	0 (0.0%)	2 (3.5%)	12 (21.1%)
知らない人・わからない人	1 (2.4%)	1 (2.4%)	2 (4.8%)	3 (7.1%)	1 (2.4%)	2 (4.8%)	9 (21.4%)
その他	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)

※【家族】父、母、継父、継母、母の交際相手、父の交際相手、兄弟姉妹、子、祖父母／【配偶者・交際相手】配偶者（事実婚・パートナーを含む）、元配偶者（事実婚・パートナーを解消した方を含む）、交際相手、元交際相手／【知人、友人、職場・学校の関係者】職場、アルバイト先の関係者、通っていた学校の関係者（上司、同僚、部下、取引先の相手、学校の教員など）、知人、友人、SNS で出会った人／【知らない人・わからない人】全く無関係の人、知らない人、わからない／【その他】

※以降の同項目についての分類も同様。

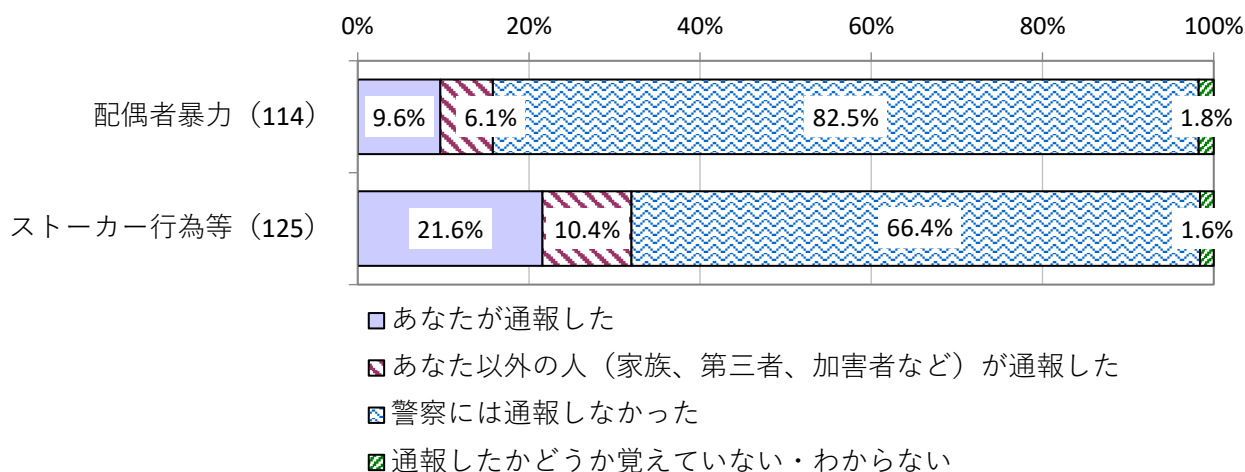
(2)警察・行政への通報・相談状況

A. 警察・行政への通報・相談の有無

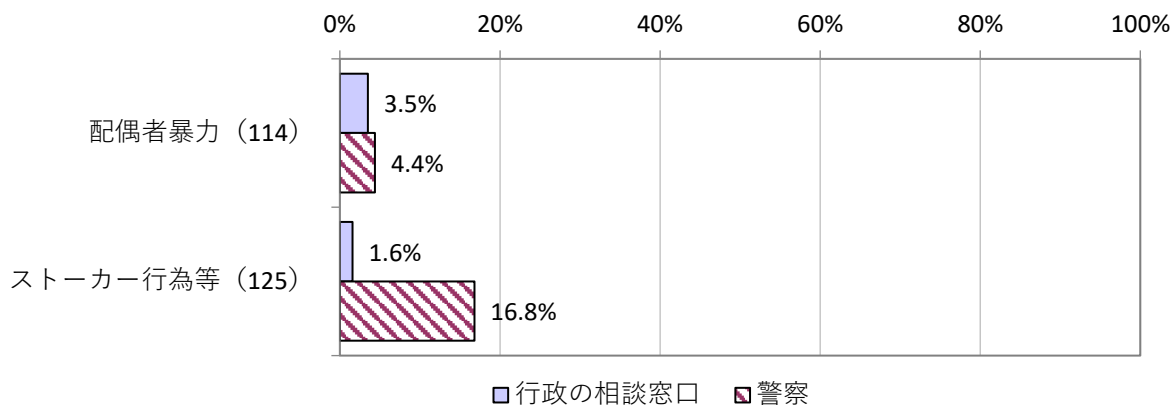
警察への通報の有無については、警察に通報した（「あなたが通報した」と「あなた以外の方が通報した」の和）との回答比率（＝警察への通報率）は、配偶者暴力で 15.7%、ストーカーで 32.0%となっている（図表 7-3）。

警察・行政への相談の有無については、「警察」に相談したとの回答比率は、配偶者暴力で 4.4%、ストーカーで 16.8%となっており、「行政の相談窓口」に相談したとの回答比率は、配偶者暴力で 3.5%、ストーカーで 1.6%となっている（図表 7-4）。

図表 7-3 警察への通報の有無_配偶者暴力、ストーカー【SC4】



図表 7-4 警察・行政へ相談したとの回答比率（複数回答）_配偶者暴力、ストーカー【SC5】



※【行政の相談窓口】地方公共団体の総合的対応窓口、児童相談所、性犯罪・性暴力被害のためのワンストップ支援センター、その他の行政機関・福祉機関の相談窓口

イ. 警察・行政の対応状況

警察や行政への通報・相談行為により、加害者に対して警察や行政がとった対応については、配偶者暴力では「上記のような措置は希望しなかった」(31.8%)、ストーカーでは「警察が加害者を呼び出して警告した」(33.3%)との回答比率が最も高くなっている(図表7-5)。

加害者の属性別にみると、「配偶者・交際相手」では、「上記のような措置は希望しなかった」(25.8%)との回答比率が最も高く、次いで「警察が加害者を呼び出して警告した」「上記のような措置を希望したが、これらの対応は行われなかった」となっている。また、「知人、友人、職場・学校の関係者」では「警察が加害者を呼び出して警告した」(58.3%)、「知らない人・わからない人」では「どのような対応が行われたかはわからない」(33.3%)との回答比率が高くなっている(図表7-6)。

図表 7-5 警察・行政の対応状況(複数回答) 配偶者暴力、ストーカー【Q18】

	全体	警察が加害者を呼び出して警告した	警察が加害者を逮捕・検挙した	ストーカー規制法に基づく書面(文書)警告が行われた	ストーカー規制法に基づく禁止命令が行われた	配偶者暴力防止法に基づく保護命令が行われた	その他の対応が行われた	上記のような措置を希望したが、これらの対応は行われなかった	上記のような措置は希望しなかった	どのような対応が行われたかはわからない
配偶者暴力	22	4 (18.2%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (22.7%)	7 (31.8%)	4 (18.2%)
ストーカー行為等	42	14 (33.3%)	5 (11.9%)	3 (7.1%)	6 (14.3%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	3 (7.1%)	7 (16.7%)	11 (26.2%)

※対象：SC4(警察に通報したか)で本人若しくは本人以外の方が通報したと回答した方、又はSC5(相談した相手・機関)で行政の相談窓口若しくは警察と回答した方(配偶者暴力：22人、ストーカー行為等：42人)のみ。

図表 7-6 加害者の属性別、警察・行政の対応状況(複数回答) 配偶者暴力、ストーカー【Q3、Q18】

	全体	警察が加害者を呼び出して警告した	警察が加害者を逮捕・検挙した	ストーカー規制法に基づく書面(文書)警告が行われた	ストーカー規制法に基づく禁止命令が行われた	配偶者暴力防止法に基づく保護命令が行われた	その他の対応が行われた	上記のような措置を希望したが、これらの対応は行われなかった	上記のような措置は希望しなかった	どのような対応が行われたかはわからない
家族	0	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
配偶者・交際相手	31	7 (22.6%)	1 (3.2%)	1 (3.2%)	2 (6.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (22.6%)	8 (25.8%)	6 (19.4%)
知人、友人、職場・学校の関係者	12	7 (58.3%)	2 (16.7%)	2 (16.7%)	4 (33.3%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	2 (16.7%)
知らない人・わからない人	21	4 (19.0%)	3 (14.3%)	0 (0.0%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	5 (23.8%)	7 (33.3%)
その他	0	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

※対象：SC4(警察に通報したか)で本人若しくは本人以外の方が通報したと回答した方、又はSC5(相談した相手・機関)で行政の相談窓口若しくは警察と回答した方(64人)のみ。

ウ. 警察・行政が対応した後の加害者の状況

警察・行政が対応した後の加害者の状況については、図表 7-7 のとおり。

図表 7-7 警察・行政が対応した後の加害者の状況_配偶者暴力、ストーカー【Q19】

	全体	懲役刑の判決を受けて刑務所に服役した	懲役刑の判決を受けたが執行猶予が付いた	罰金刑を科された	その他	特に何もなかった	わからない
配偶者暴力	6	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (100.0%)	0 (0.0%)
ストーカー行為等	21	2 (9.5%)	0 (0.0%)	1 (4.8%)	4 (19.0%)	9 (42.9%)	5 (23.8%)

※対象：SC 4（警察に通報したか）で本人若しくは本人以外の方が通報したと回答した方、又は SC 5（相談した相手・機関）で行政の相談窓口若しくは警察と回答した方（64 人）のうち、Q18（通報・相談による加害者への対応）で「警察が加害者を呼び出して警告した」「警察が加害者を逮捕・検挙した」「ストーカー規制法に基づく書面（文書）警告が行われた」「ストーカー規制法に基づく禁止命令が行われた」「配偶者暴力防止法に基づく保護命令が行われた」「その他の対応が行われた」と回答した方（配偶者暴力：6 人、ストーカー行為等：21 人）のみ。

エ. 警察・行政の対応を希望しなかった場合におけるその理由

警察・行政の対応を希望しなかった場合の理由については、図表 7-8 のとおり。

図表 7-8 警察・行政の対応を希望しなかった理由（複数回答）_配偶者暴力、ストーカー【Q20】

	全体	加害者からの仕返しが怖かったから	手続などが大変だと思ったから	周囲の目が気になるから・大ごとにしたくなかったから	相手との人間関係を終わらせたくなかったから	これらの措置をとるほどの被害ではないと思ったから	これらの措置をとってから物事がどのように進むのか予想がでないから	知らなかったから、そういうものがあると言われなかったから	その他
配偶者暴力	7	3 (42.9%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)
ストーカー行為等	7	2 (28.6%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	2 (28.6%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)

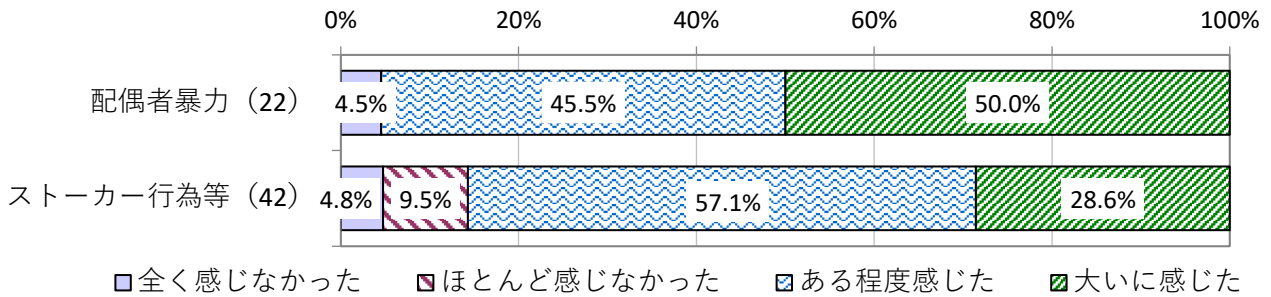
※対象：SC 4（警察に通報したか）で本人若しくは本人以外の方が通報したと回答した方、又は SC 5（相談した相手・機関）で行政の相談窓口若しくは警察と回答した方（64 人）のうち、Q18（通報・相談による加害者への対応）で「上記のような措置は希望しなかった」と回答した方（配偶者暴力：7 人、ストーカー行為等：7 人）のみ。

(3)再被害の有無・内容

ア. 再被害の不安

警察や行政に通報・相談した後に同じ加害者から再び何らかの被害(=再被害)を受ける不安を感じたかについては、「感じた」(「ある程度感じた」と「大いに感じた」の和)との回答比率は、配偶者暴力で95.5%、ストーカーで85.7%となっている(図表7-9)。

図表 7-9 再被害の不安_配偶者暴力、ストーカー【Q21】

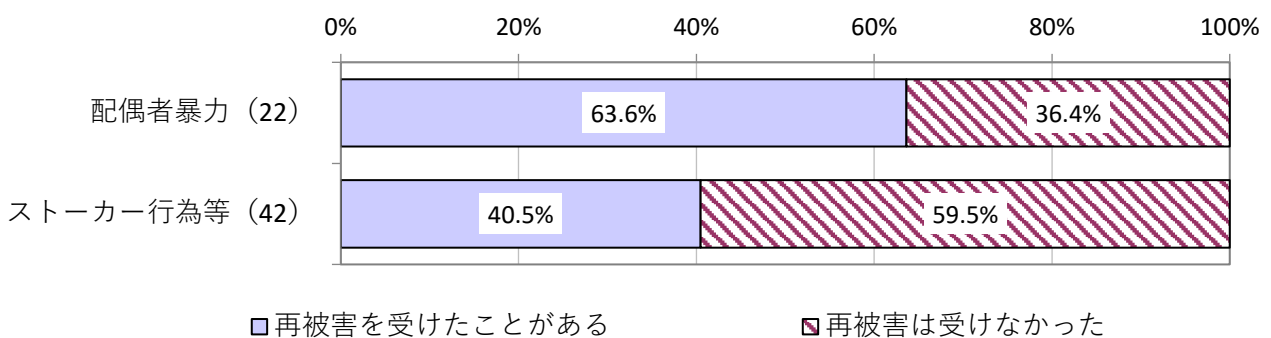


※対象：SC 4（警察に通報したか）で本人若しくは本人以外の方が通報したと回答した方、又は SC 5（相談した相手・機関）で行政の相談窓口若しくは警察と回答した方（配偶者暴力：22人、ストーカー行為等：42人）のみ。

イ. 再被害の有無

警察や行政に通報・相談した後の再被害について、「再被害を受けたことがある」との回答比率は、配偶者暴力で63.6%、ストーカーで40.5%となっている(図表7-10)。

図表 7-10 再被害の有無_配偶者暴力、ストーカー【Q22】

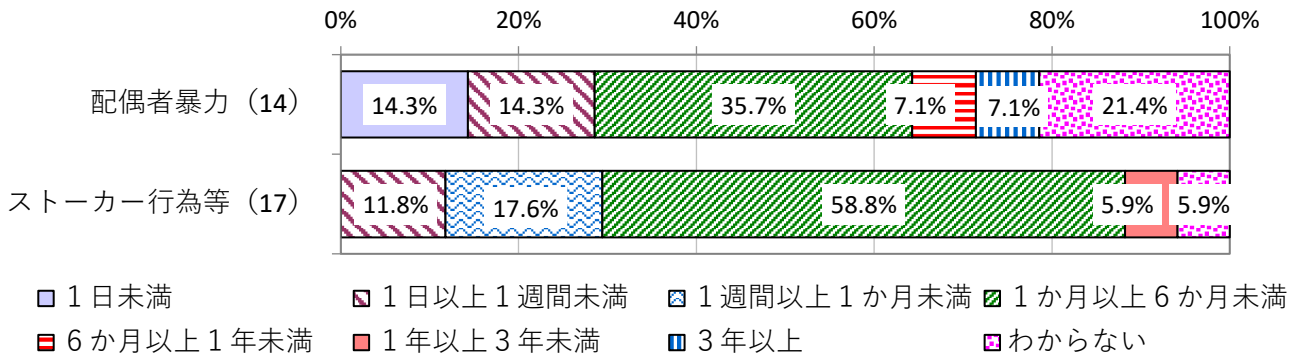


※対象：SC 4（警察に通報したか）で本人若しくは本人以外の方が通報したと回答した方、又は SC 5（相談した相手・機関）で行政の相談窓口若しくは警察と回答した方（配偶者暴力：22人、ストーカー行為等：42人）のみ。

ウ. 再被害を受けるまでの期間

再被害を受けるまでの期間については、図表7-11のとおり。

図表 7-11 再被害までの期間_配偶者暴力、ストーカー【Q23】

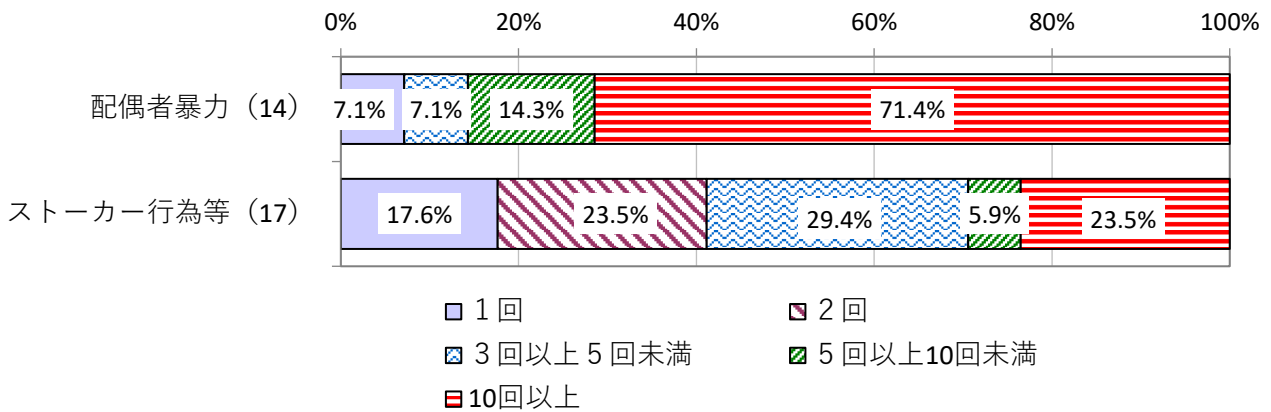


※対象：Q22（再被害の有無）で「ある」と回答した方（31人）のみ。

エ. 再被害の回数

再被害の回数については、図表7-12のとおり。

図表 7-12 再被害の回数_配偶者暴力、ストーカー【Q24】



※対象：Q22（再被害の有無）で「ある」と回答した方（31人）のみ。

オ. 再被害の相談状況

再被害に関する相談状況については、配偶者暴力では「どこにも（誰にも）相談していない」（36.4%）、ストーカーでは「母」「配偶者」（それぞれ 28.6%）との回答比率が最も高くなっている（図表 7-1 3）。

図表 7-1 3 再被害の相談状況（複数回答）_配偶者暴力、ストーカー【Q25】

	全体	父	母	継父	継母	配偶者	兄弟姉妹	子	それ以外の 家族・親族	勤務先の同 僚・友人など	勤務先の上 司など	学校などの 友人	学校の先生・ 学生相談室・ スクールカウ ンセラーなど
配偶者暴力	22	5 (22.7%)	6 (27.3%)	1 (4.5%)	2 (9.1%)	0 (0.0%)	3 (13.6%)	2 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	2 (9.1%)
ストーカー行為等	42	7 (16.7%)	12 (28.6%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	12 (28.6%)	3 (7.1%)	3 (7.1%)	2 (4.8%)	4 (9.5%)	5 (11.9%)	4 (9.5%)	0 (0.0%)

	学校・勤務先 以外の友人 など	交際相手	弁護士・日本 司法支援セ ンター(法テ ラス)	地方公共団 体の総合的 対応窓口	児童相談所	性犯罪・性暴 力被害者の ためのフン ストップ支援 センター	その他の行 政機関・福祉 機関の相談 窓口	警察	民間の犯罪 被害者支援 団体	医療機関	その他	どこにも(誰 にも)相談し ていない
配偶者暴力	2 (9.1%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	1 (4.5%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (18.2%)	2 (9.1%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	8 (36.4%)
ストーカー行為等	1 (2.4%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (23.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (7.1%)	9 (21.4%)

※対象：SC 4（警察に通報したか）で本人若しくは本人以外の方が通報したと回答した方、又は SC 5（相談した相手・機関）で行政の相談窓口若しくは警察と回答した方（配偶者暴力：22 人、ストーカー行為等：42 人）のみ。

カ. 再被害の影響

再被害の有無別による、身体上の問題と事件との関連については図表 7-1 4、精神的な問題と事件との関連については図表 7-1 5 のとおり。

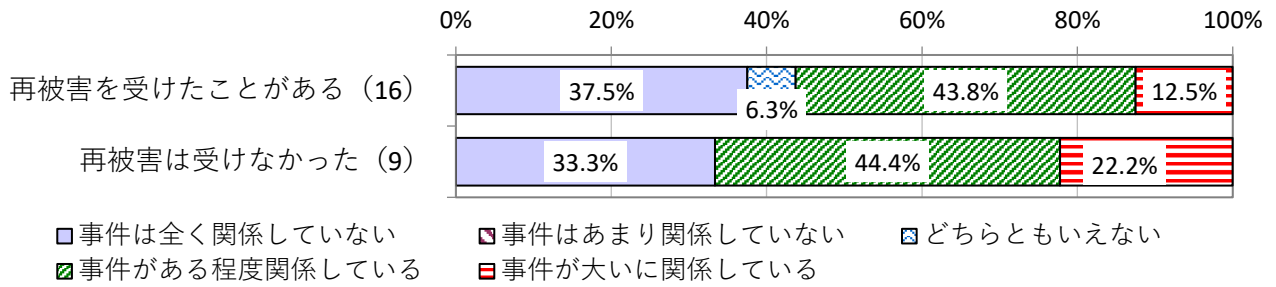
再被害の影響について、再被害の有無別で K 6 の重症精神障害相当の状態である 13 点以上の割合を比べると、「再被害を受けたことがある」（51.6%）が「再被害は受けなかった」（18.2%）を 33.4 ポイント上回っている（図表 7-1 6）。

再被害の有無別で UCLA の 10 点以上の割合を比べると、「再被害を受けたことがある」（25.8%）が「再被害は受けなかった」（12.1%）を 13.7 ポイント上回っている（図表 7-1 7）。

日常生活が行えなかったと感じた日数をみると、直近 1 年間で 31 日以上仕事や日常生活が行えなかった（「31～100 日」と「101 日以上」の和）との回答比率は、「再被害を受けたことがある」（25.8%）が「再被害は受けなかった」（12.1%）を 13.7 ポイント上回っている（図表 7-1 8）。

被害からの回復度をみると、回復度が半分以下（「0～2 割程度回復した」と「3～4 割程度回復した」の和）との回答比率は、「再被害を受けたことがある」（22.6%）が「再被害は受けなかった」（6.0%）を 16.6 ポイント上回っている（図表 7-1 9）。

図表 7-14 再被害の有無別、身体上の問題と事件との関連_配偶者暴力、ストーカー【Q22、Q29】

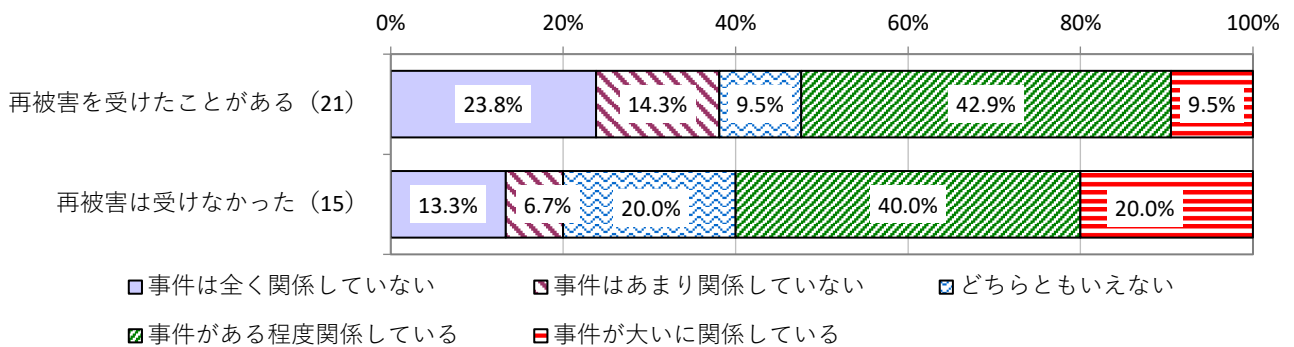


※対象：SC 4（警察に通報したか）で本人若しくは本人以外の方が通報したと回答した方、又は SC 5（相談した相手・機関）で行政の相談窓口若しくは警察と回答した方（64人）のうち、Q 28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（25人）のみ。

【参考】配偶者暴力、ストーカーの再被害の有無別の差異

		全体	事件は全く関係していない	事件はあまり関係していない	どちらともいえない	事件がある程度関係している	事件が大いに関係している
配偶者暴力	再被害を受けたことがある	10	4 (40.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	4 (40.0%)	1 (10.0%)
	再被害は受けなかった	3	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)
ストーカー行為等	再被害を受けたことがある	6	2 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (50.0%)	1 (16.7%)
	再被害は受けなかった	6	3 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (50.0%)	0 (0.0%)

図表 7-15 再被害の有無別、精神的な問題と事件の関連_配偶者暴力、ストーカー【Q22、Q32】

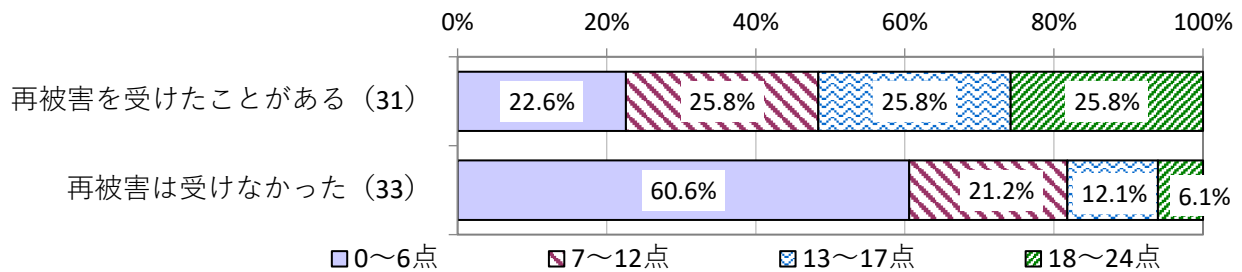


※対象：SC 4（警察に通報したか）で本人若しくは本人以外の方が通報したと回答した方、又は SC 5（相談した相手・機関）で行政の相談窓口若しくは警察と回答した方（64人）のうち、Q 31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（36人）のみ。

【参考】配偶者暴力、ストーカーの再被害の有無別の差異

		全体	事件は全く関係していない	事件はあまり関係していない	どちらともいえない	事件がある程度関係している	事件が大いに関係している
配偶者暴力	再被害を受けたことがある	11	3 (27.3%)	0 (0.0%)	1 (9.1%)	5 (45.5%)	2 (18.2%)
	再被害は受けなかった	6	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	2 (33.3%)
ストーカー行為等	再被害を受けたことがある	10	2 (20.0%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)	4 (40.0%)	0 (0.0%)
	再被害は受けなかった	9	1 (11.1%)	0 (0.0%)	3 (33.3%)	4 (44.4%)	1 (11.1%)

図表 7-16 再被害の有無別、K6 得点_配偶者暴力、ストーカー【Q22、Q34】

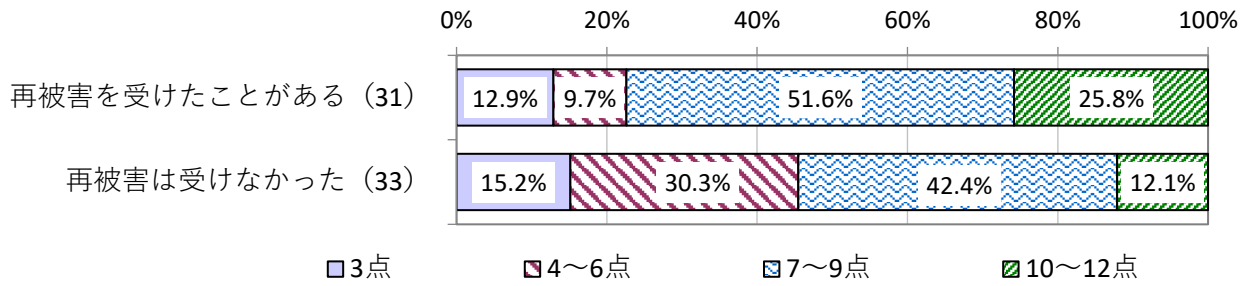


※対象：SC4（警察に通報したか）で本人若しくは本人以外の方が通報したと回答した方、又はSC5（相談した相手・機関）で行政の相談窓口若しくは警察と回答した方（64人）のみ。

【参考】配偶者暴力、ストーカーの再被害の有無別の差異

		全体	0～6点	7～12点	13～17点	18～24点
配偶者暴力	再被害を受けたことがある	14	3 (21.4%)	2 (14.3%)	3 (21.4%)	6 (42.9%)
	再被害は受けなかった	8	4 (50.0%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)
ストーカー行為等	再被害を受けたことがある	17	4 (23.5%)	6 (35.3%)	5 (29.4%)	2 (11.8%)
	再被害は受けなかった	25	16 (64.0%)	5 (20.0%)	3 (12.0%)	1 (4.0%)

図表 7-17 再被害の有無別、UCLA 得点_配偶者暴力、ストーカー【Q22、Q36】

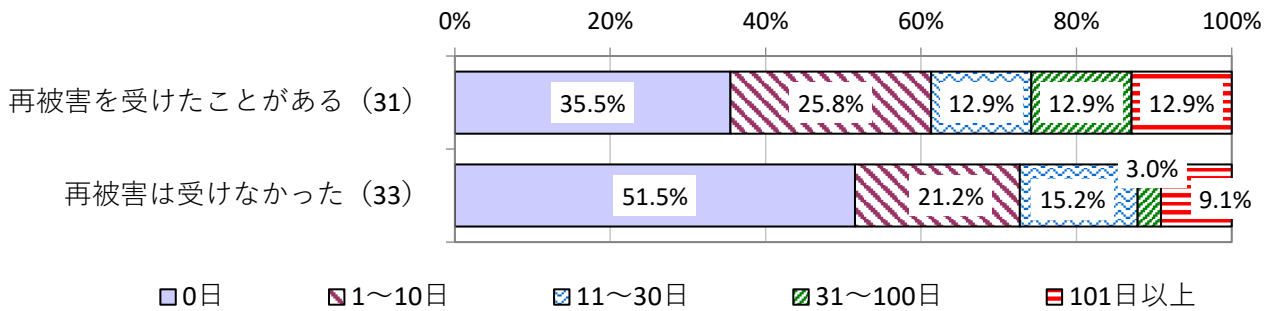


※対象：SC 4（警察に通報したか）で本人若しくは本人以外の方が通報したと回答した方、又は SC 5（相談した相手・機関）で行政の相談窓口若しくは警察と回答した方（64人）のみ。

【参考】配偶者暴力、ストーカーの再被害の有無別の差異

		全体	3点	4~6点	7~9点	10~12点
配偶者暴力	再被害を受けたことがある	14	2 (14.3%)	0 (0.0%)	5 (35.7%)	7 (50.0%)
	再被害は受けなかった	8	1 (12.5%)	2 (25.0%)	3 (37.5%)	2 (25.0%)
ストーカー行為等	再被害を受けたことがある	17	2 (11.8%)	3 (17.6%)	11 (64.7%)	1 (5.9%)
	再被害は受けなかった	25	4 (16.0%)	8 (32.0%)	11 (44.0%)	2 (8.0%)

図表 7-18 再被害の有無別、日常生活が行えなかったと感じた日数_配偶者暴力、ストーカー【Q22、Q35】

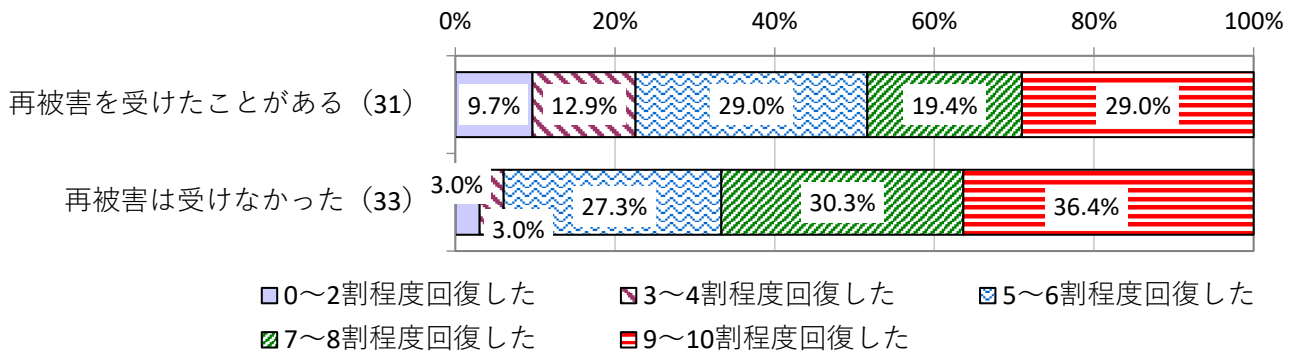


※対象：SC 4（警察に通報したか）で本人若しくは本人以外の方が通報したと回答した方、又は SC 5（相談した相手・機関）で行政の相談窓口若しくは警察と回答した方（64人）のみ。

【参考】配偶者暴力、ストーカーの再被害の有無別の差異

		全体	0日	1～10日	11～30日	31～100日	101日以上
配偶者暴力	再被害を受けたことがある	14	4 (28.6%)	5 (35.7%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)
	再被害は受けなかった	8	3 (37.5%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)
ストーカー行為等	再被害を受けたことがある	17	7 (41.2%)	3 (17.6%)	2 (11.8%)	3 (17.6%)	2 (11.8%)
	再被害は受けなかった	25	14 (56.0%)	5 (20.0%)	4 (16.0%)	0 (0.0%)	2 (8.0%)

図表 7-19 再被害の有無別、被害からの回復度_配偶者暴力、ストーカー【Q22、Q53】



※対象：SC4（警察に通報したか）で本人若しくは本人以外の方が通報したと回答した方、又はSC5（相談した相手・機関）で行政の相談窓口若しくは警察と回答した方（64人）のみ。

【参考】配偶者暴力、ストーカーの再被害の有無別の差異

		全体	0～2割程度回復した	3～4割程度回復した	5～6割程度回復した	7～8割程度回復した	9～10割程度回復した
配偶者暴力	再被害を受けたことがある	14	3 (21.4%)	1 (7.1%)	4 (28.6%)	3 (21.4%)	3 (21.4%)
	再被害は受けなかった	8	1 (12.5%)	0 (0.0%)	4 (50.0%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)
ストーカー行為等	再被害を受けたことがある	17	0 (0.0%)	3 (17.6%)	5 (29.4%)	3 (17.6%)	6 (35.3%)
	再被害は受けなかった	25	0 (0.0%)	1 (4.0%)	5 (20.0%)	8 (32.0%)	11 (44.0%)

2-8. 被害と加害者との関連

被害と加害者との関連として、被害の特徴と加害者属性との関連、加害者属性と被害者行動との関連、加害者属性と被害状況との関連等について分析する。

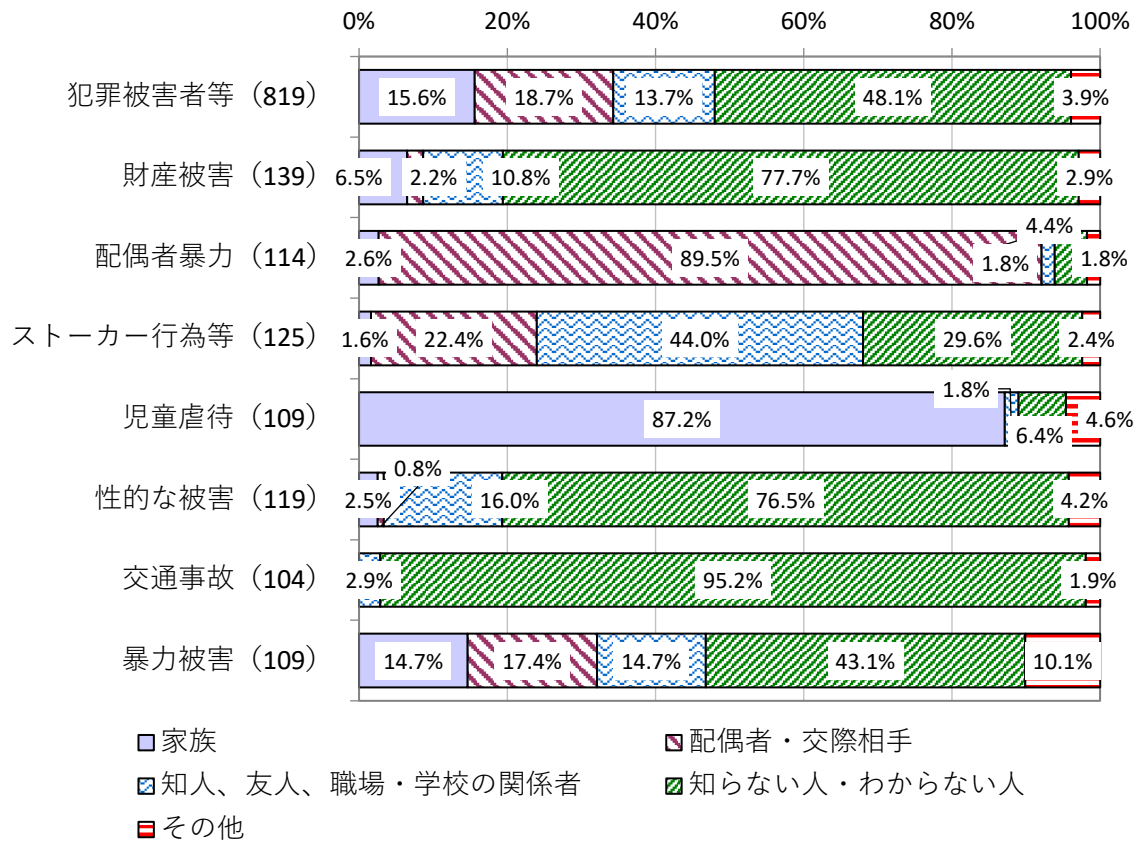
なお、分析に際しては、加害者を、「家族」（父、母、継父、継母、兄弟姉妹、子、祖父母）、「配偶者・交際相手」（配偶者（事実婚・パートナーを含む）、元配偶者（事実婚・パートナーを解消した方を含む）、交際相手、元交際相手）、「知人、友人、職場・学校の関係者」（職場、アルバイト先の関係者、通っていた学校の関係者（上司、同僚、部下、取引先の相手、学校の教員など）、知人、友人、SNS で出会った人）、「知らない人・わからない人」（全く無関係の人、知らない人、わからない）、「その他」（図表 7-2 注の再掲）に分類した。

（1）被害の特徴と加害者属性との関連

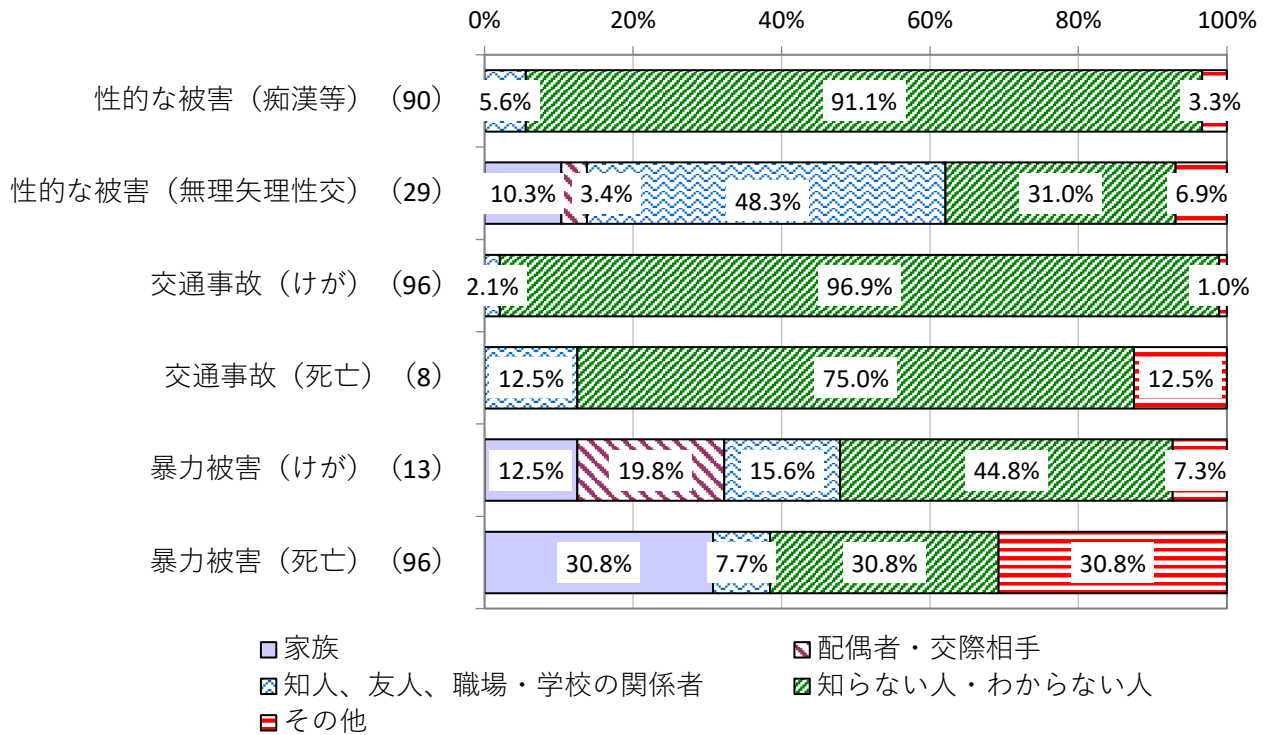
ア. 犯罪被害類型と加害者属性

加害者属性について、犯罪被害類型別にみると、交通事故、財産被害では「知らない人・わからない人」（それぞれ 95.2%、77.7%）、配偶者暴力では「配偶者・交際相手」（89.5%）、児童虐待では「家族」（87.2%）との回答比率が大半を占めている。ストーカーでは「知人、友人、職場・学校の関係者」（44.0%）との回答比率が最も高く、次いで「知らない人・わからない人」（29.6%）、「配偶者・交際相手」（22.4%）となっている。性的な被害では「知らない人・わからない人」（76.5%）との回答比率が最も高く、「知人、友人、職場・学校の関係者」（16.0%）も一定数みられる。暴力被害では「知らない人・わからない人」（43.1%）、「配偶者・交際相手」（17.4%）、「家族」「知人、友人、職場・学校の関係者」（それぞれ 14.7%）等、加害者構成が多様となっている（図表 8-1）。

図表 8-1 犯罪被害類型別、加害者属性【SC1/SC3、Q3】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

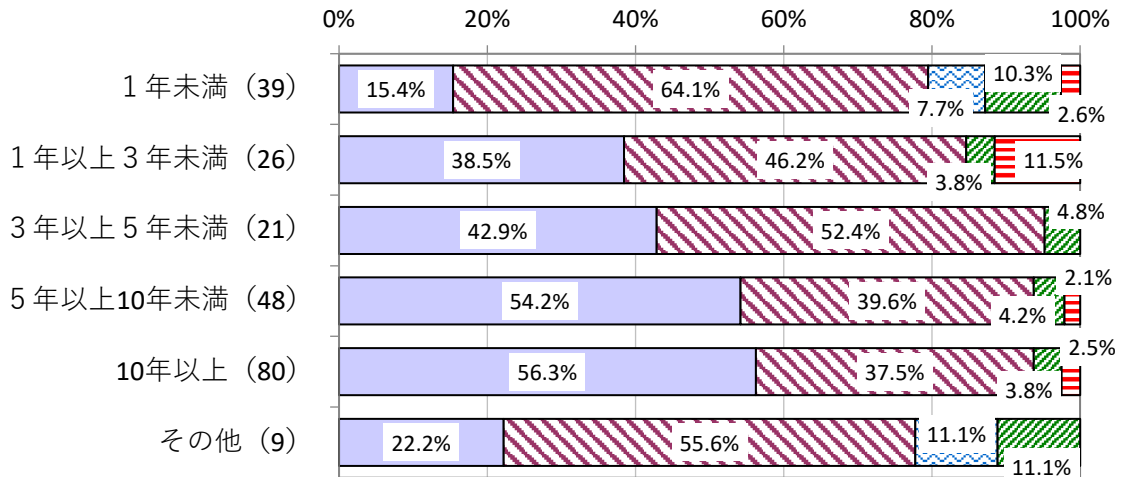


イ. 被害の継続期間と加害者属性

加害者属性について、被害の継続期間別にみると、配偶者暴力、児童虐待では、加害者が「家族」である場合に被害が長期化している（図表8-2＜配偶者暴力、児童虐待＞）。財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害については、図表8-2＜財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害＞のとおり。

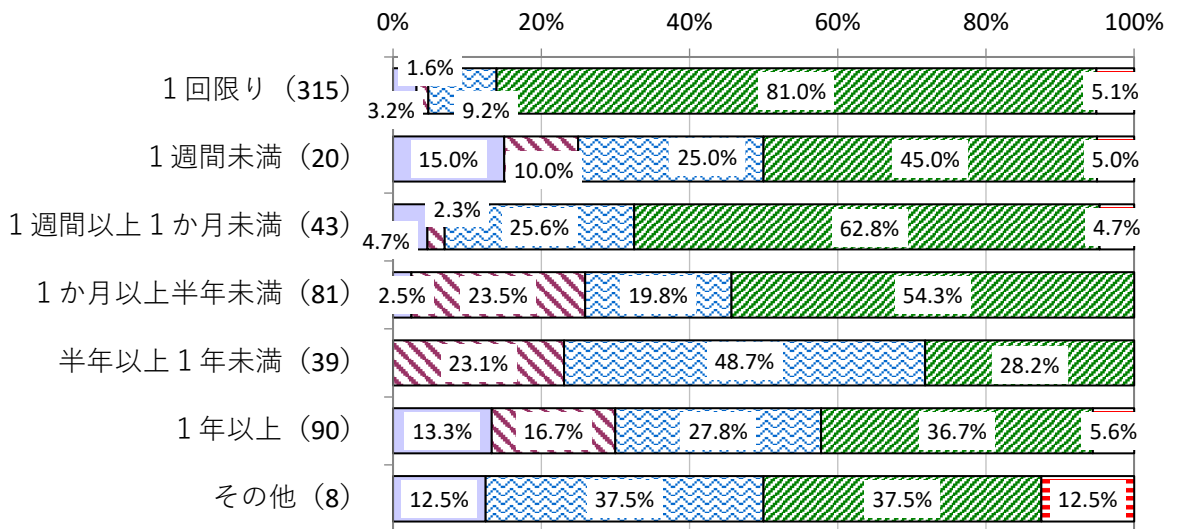
図表 8-2 被害の継続期間別、加害者属性【Q5、Q3】

＜配偶者暴力、児童虐待＞



■ 家族 ■ 配偶者・交際相手 ■ 知人、友人、職場・学校の関係者 ■ 知らない人・わからない人 ■ その他

＜財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害＞



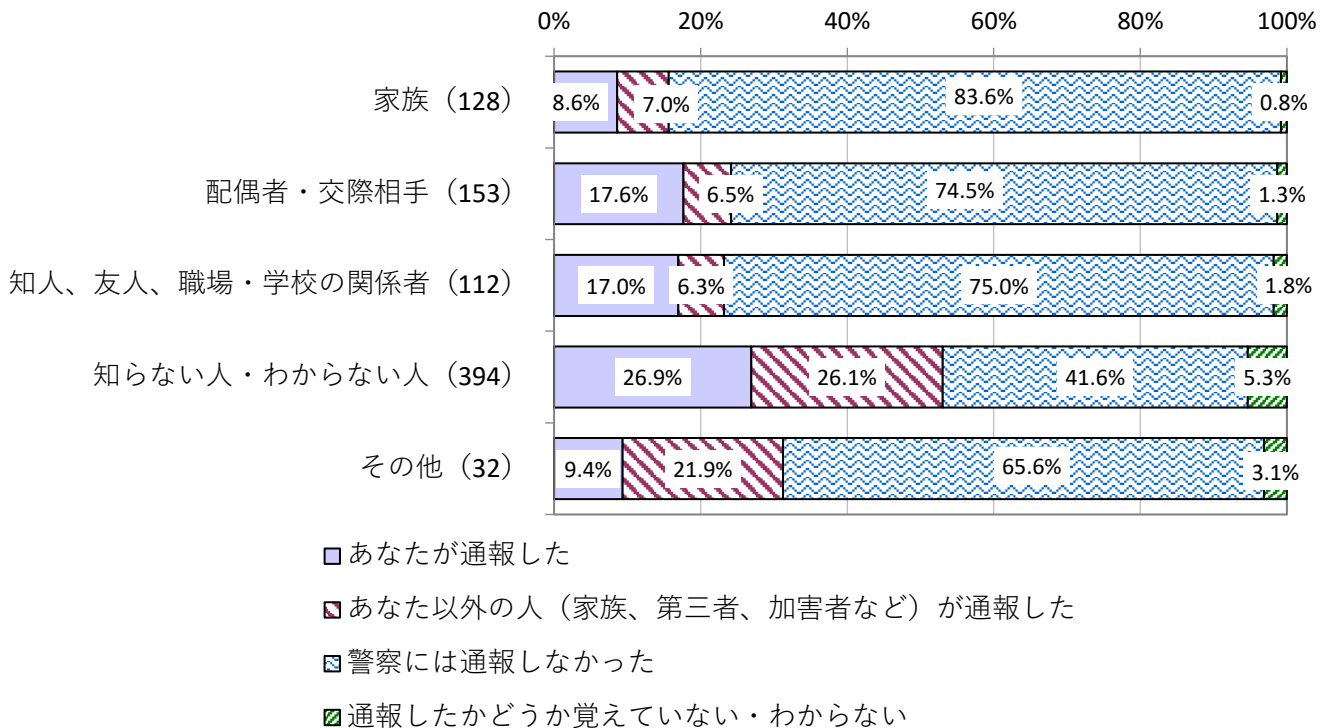
■ 家族 ■ 配偶者・交際相手 ■ 知人、友人、職場・学校の関係者 ■ 知らない人・わからない人 ■ その他

(2)加害者属性と被害者行動との関連

ア. 加害者属性と警察への通報状況

警察への通報状況について、加害者属性別にみると、警察へ通報した（「あなたが通報した」と「あなた以外の方が通報した」の和）との回答比率（＝警察への通報率）は、加害者が「家族」（15.6％）の場合に最も低く、次いで「知人、友人、職場・学校の関係者」（23.3％）、「配偶者・交際相手」（24.1％）、「知らない人・わからない人」（53.0％）となっている（図表8-3）。

図表 8-3 加害者属性別、警察への通報の有無【Q3、SC4】



イ. 加害者属性と相談状況

相談状況について、加害者属性別にみると、「家族」の場合に「相談経験なし」（72.7％）との回答比率が最も高くなっている（図表8-4）。

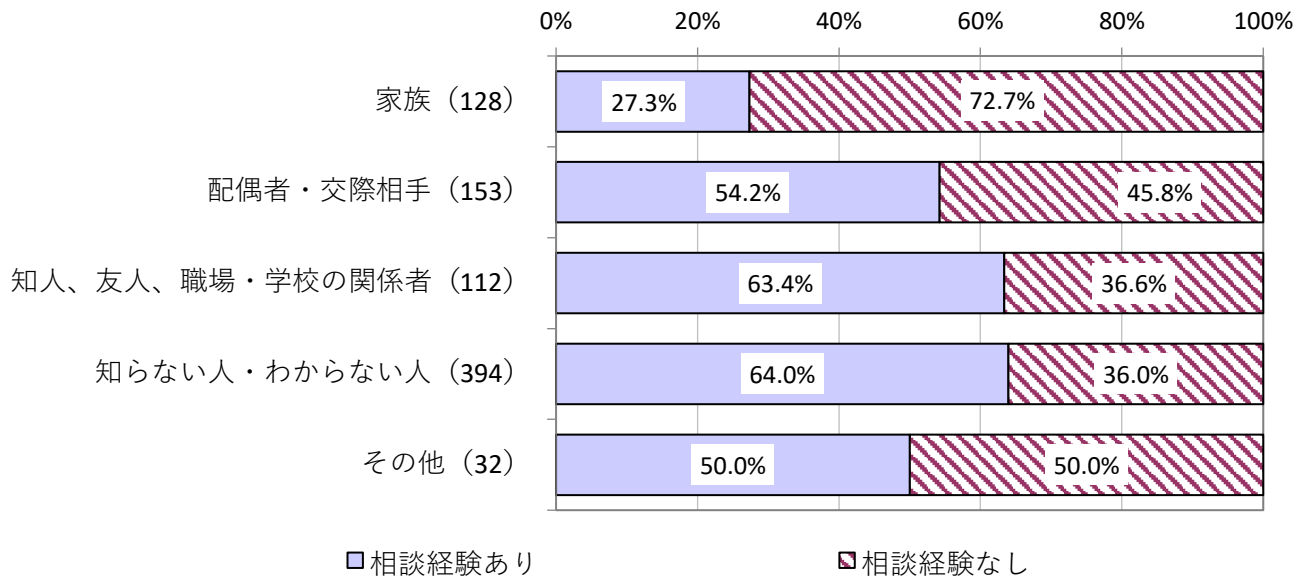
相談した相手については、加害者が「知人、友人、職場・学校の関係者」、「配偶者・交際相手」、「家族」の場合には「母」（それぞれ22.3％、20.3％、10.9％）、「知らない人・わからない人」の場合には「警察」（20.6％）が最も高くなっている（図表8-5）。

警察に通報・相談しなかった理由については、加害者が「家族」の場合には「低年齢であったため、相談することを思い至らなかった」（76.6％）、「配偶者・交際相手」の場合には「どうせとりあってもらえないと思ったから」（37.4％）、「知人、友人、職場・学校の関係者」「知らない人・わからない人」の場合には「警察に相談するほどの被害ではないと思ったから」（それぞれ34.9％、34.3％）との回答比率が最も高くなっている（図表8-6）。

どこにも（誰にも）相談しなかった理由としては、加害者が「家族」の場合には「低年齢であったため、相談することを思い至らなかった」（64.5％）、「配偶者・交際相手」の場合には「どこに相談すればよいかかわからなかった」「相談するほどのことではないと思った」（それぞれ32.9％）、「知人、友人、職場・学

校の関係者」の場合には「他人に知られたくなかった」「おおごとにしたくなかった」(同 26.8%)、「知らない人・わからない人」の場合には「相談するほどのことではないと思った」(23.9%) との回答比率が最も高くなっている(図表8-7)。

図表 8-4 加害者属性別、相談経験の有無【Q3、SC5】



図表 8-5 加害者属性別、初めて被害にあった際の相談相手・機関(複数回答)【Q3、SC5】

	全体	父	母	配偶者	兄弟姉妹	それ以外の家族・親族	勤務先の同僚・友人など	勤務先の上司など	学校などの友人	学校の先生・学生相談室・スクールカウンセラーなど	学校・勤務先以外の友人など
家族	128	9 (7.0%)	14 (10.9%)	2 (1.6%)	4 (3.1%)	4 (3.1%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	5 (3.9%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)
配偶者・交際相手	153	22 (14.4%)	31 (20.3%)	10 (6.5%)	18 (11.8%)	7 (4.6%)	13 (8.5%)	5 (3.3%)	9 (5.9%)	1 (0.7%)	7 (4.6%)
知人、友人、職場・学校の関係者	112	15 (13.4%)	25 (22.3%)	14 (12.5%)	6 (5.4%)	3 (2.7%)	11 (9.8%)	11 (9.8%)	14 (12.5%)	2 (1.8%)	4 (3.6%)
知らない人・わからない人	394	49 (12.4%)	72 (18.3%)	60 (15.2%)	18 (4.6%)	8 (2.0%)	30 (7.6%)	23 (5.8%)	21 (5.3%)	3 (0.8%)	9 (2.3%)
その他	32	5 (15.6%)	4 (12.5%)	4 (12.5%)	1 (3.1%)	2 (6.3%)	1 (3.1%)	3 (9.4%)	0 (0.0%)	1 (3.1%)	2 (6.3%)

	交際相手	弁護士・日本司法支援センター(法テラス)	地方公共団体の総合的対応窓口	児童相談所	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター	その他の行政機関・福祉機関の相談窓口	警察	民間の犯罪被害者支援団体	医療機関	その他	どこにも(誰にも)相談していない
家族	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	5 (3.9%)	0 (0.0%)	2 (1.6%)	2 (1.6%)	93 (72.7%)
配偶者・交際相手	1 (0.7%)	5 (3.3%)	2 (1.3%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	13 (8.5%)	3 (2.0%)	5 (3.3%)	4 (2.6%)	70 (45.8%)
知人、友人、職場・学校の関係者	3 (2.7%)	5 (4.5%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (11.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (36.6%)
知らない人・わからない人	16 (4.1%)	14 (3.6%)	2 (0.5%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	3 (0.8%)	81 (20.6%)	3 (0.8%)	12 (3.0%)	7 (1.8%)	142 (36.0%)
その他	1 (3.1%)	1 (3.1%)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.1%)	4 (12.5%)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	16 (50.0%)

図表 8-6 加害者属性別、警察に相談しなかった理由（複数回答）【Q3、Q8】

	全体	警察に相談 できることだ と思わな かったから	どうせとり あってもえ ないと思っ たから	手続などが 大変だと思 ったから・ 急いでおり 時間がな かったから	周囲の目が 気になるか ら	被害の話を するのにつ らかったから	相手が処罰 されましょ うかもしれ ないから	警察に相談 するほどの 被害ではな いと思っ たから	警察に相談 してから物 事がどのよ うに進むの か予想がで きないから	低年齢で あったため 、相談する ことを思 い至ら なかった	その他
家族	107	44 (41.1%)	25 (23.4%)	3 (2.8%)	11 (10.3%)	10 (9.3%)	7 (6.5%)	13 (12.1%)	8 (7.5%)	82 (76.6%)	6 (5.6%)
配偶者・交際相手	115	37 (32.2%)	43 (37.4%)	16 (13.9%)	20 (17.4%)	15 (13.0%)	10 (8.7%)	41 (35.7%)	25 (21.7%)	7 (6.1%)	9 (7.8%)
知人、友人、職場・学校の関係者	86	28 (32.6%)	27 (31.4%)	12 (14.0%)	21 (24.4%)	11 (12.8%)	7 (8.1%)	30 (34.9%)	14 (16.3%)	12 (14.0%)	7 (8.1%)
知らない人・わからない人	181	28 (15.5%)	44 (24.3%)	23 (12.7%)	16 (8.8%)	15 (8.3%)	0 (0.0%)	62 (34.3%)	18 (9.9%)	42 (23.2%)	22 (12.2%)
その他	22	9 (40.9%)	8 (36.4%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	2 (9.1%)	1 (4.5%)	4 (18.2%)	4 (18.2%)	10 (45.5%)	6 (27.3%)

※対象：SC 4（警察に通報したか）で「警察には通報しなかった」「通報したかどうか覚えていない・わからない」と回答し、かつ SC 5（相談した相手・機関）で「警察」と回答しなかった方（511人）のみ。

図表 8-7 加害者属性別、どこにも（誰にも）相談しなかった理由（複数回答）【Q3、Q11】

	全体	どこに相談す ればよいか わからなかつ た	自分が被害 にあっている ことに気がつ かなかった	相談するほ どのことでは ないと思っ た	自分で解決 できると思っ た	被害につい て誰かに話 すことが恥 ずかしくな った	他人に知ら れたくなかつ た	おおごとにし たくなかつ た
家族	93	24 (25.8%)	23 (24.7%)	10 (10.8%)	3 (3.2%)	7 (7.5%)	11 (11.8%)	12 (12.9%)
配偶者・交際相手	70	23 (32.9%)	5 (7.1%)	23 (32.9%)	16 (22.9%)	14 (20.0%)	12 (17.1%)	15 (21.4%)
知人、友人、職場・学校の関係者	41	9 (22.0%)	4 (9.8%)	9 (22.0%)	10 (24.4%)	5 (12.2%)	11 (26.8%)	11 (26.8%)
知らない人・わからない人	142	24 (16.9%)	10 (7.0%)	34 (23.9%)	13 (9.2%)	18 (12.7%)	13 (9.2%)	13 (9.2%)
その他	16	4 (25.0%)	3 (18.8%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	3 (18.8%)	3 (18.8%)

	言っても何も してくれない 役に立たな いと思っ た	加害者から の仕返しが 怖かった	加害者から 相談するな ど脅されて いた	自分が悪い と思っ た、自 分に責任 がある と思っ た	低年齢であ ったため、 相談 するこ とを思 い至ら なかつ た	特に理由 はない	その他
家族	17 (18.3%)	14 (15.1%)	0 (0.0%)	15 (16.1%)	60 (64.5%)	6 (6.5%)	2 (2.2%)
配偶者・交際相手	15 (21.4%)	10 (14.3%)	3 (4.3%)	7 (10.0%)	2 (2.9%)	5 (7.1%)	1 (1.4%)
知人、友人、職場・学校の関係者	5 (12.2%)	7 (17.1%)	1 (2.4%)	2 (4.9%)	3 (7.3%)	3 (7.3%)	1 (2.4%)
知らない人・わからない人	21 (14.8%)	5 (3.5%)	3 (2.1%)	8 (5.6%)	23 (16.2%)	32 (22.5%)	6 (4.2%)
その他	5 (31.3%)	4 (25.0%)	0 (0.0%)	3 (18.8%)	7 (43.8%)	2 (12.5%)	2 (12.5%)

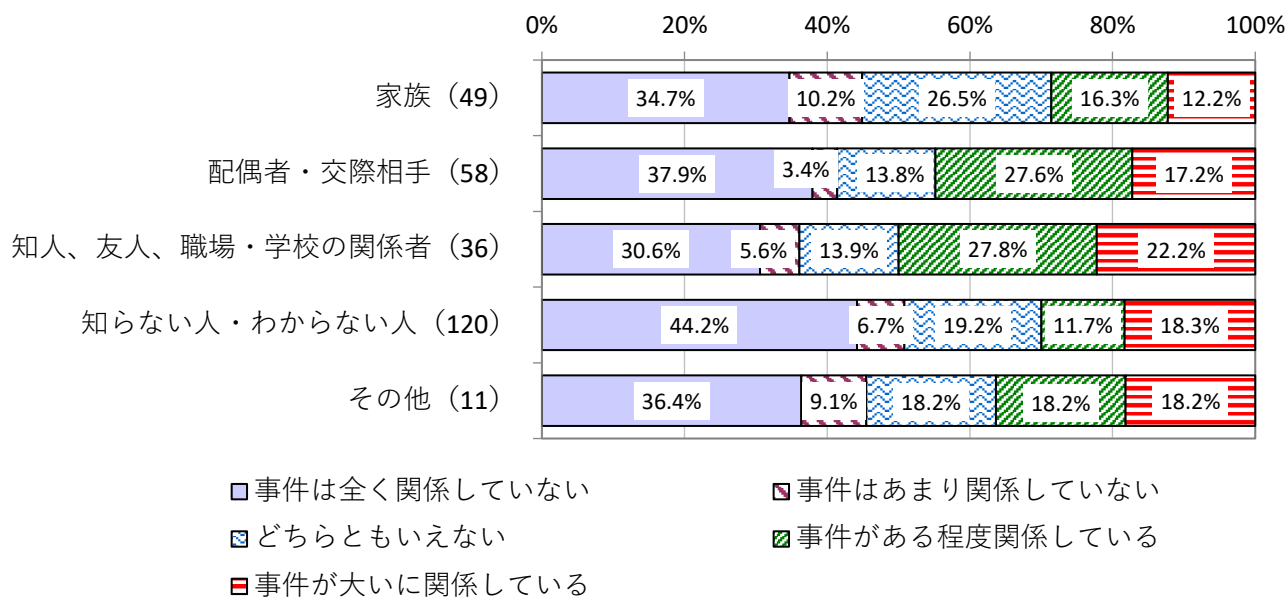
※対象：SC 5（相談した相手・機関）で「どこにも（誰にも）相談していない」と回答した方（362人）のみ。

(3)加害者属性と被害状況との関連

ア. 加害者属性と身体上の問題と事件との関連

身体上の問題と事件との関連について、加害者属性別にみると、「身体上の問題と事件が関連していると思う」（「事件がある程度関係している」と「事件が大いに関係している」の和）との回答比率は、加害者が「知人、友人、職場・学校の関係者」（50.0％）の場合に最も高く、次いで「配偶者・交際相手」（44.8％）となっている（図表8-8）。

図表 8-8 加害者属性別、身体上の問題と事件との関連【Q3、Q29】



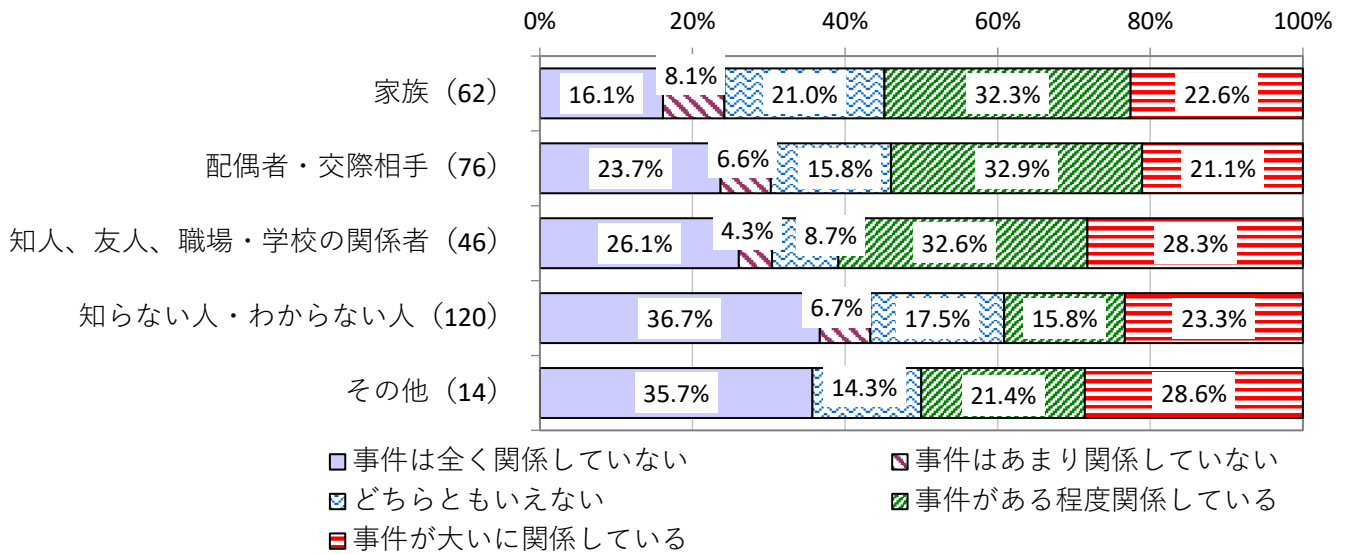
※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（274人）のみ。

イ. 加害者属性と精神的な問題と事件との関連

精神的な問題と事件との関連について、加害者属性別にみると、「精神的な問題と事件が関連していると思う」（「事件がある程度関係している」と「事件が大いに関係している」の和）との回答比率は、加害者が「知人、友人、職場・学校の関係者」（60.9%）の場合に最も高くなっている（図表8-9）。

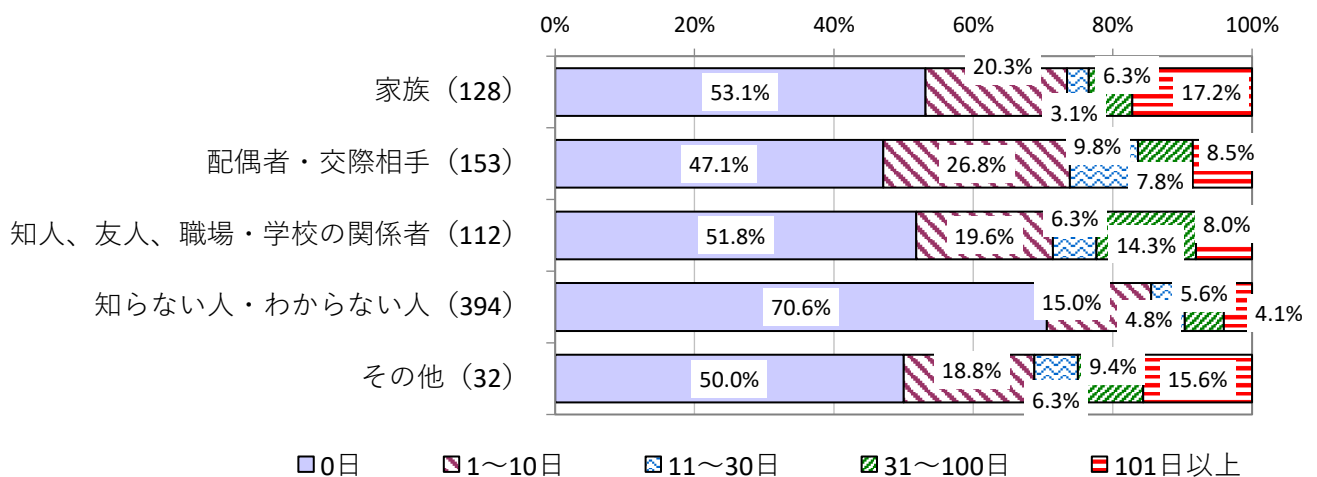
また、仕事や日常生活が行えなかった日数については、加害者が「家族」、「配偶者・交際相手」、「知人、友人、職場・学校の関係者」の場合に長くなっている（図表8-10）。

図表 8-9 加害者属性別、精神的な問題と事件との関連【Q3、Q32】



※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（318人）のみ。

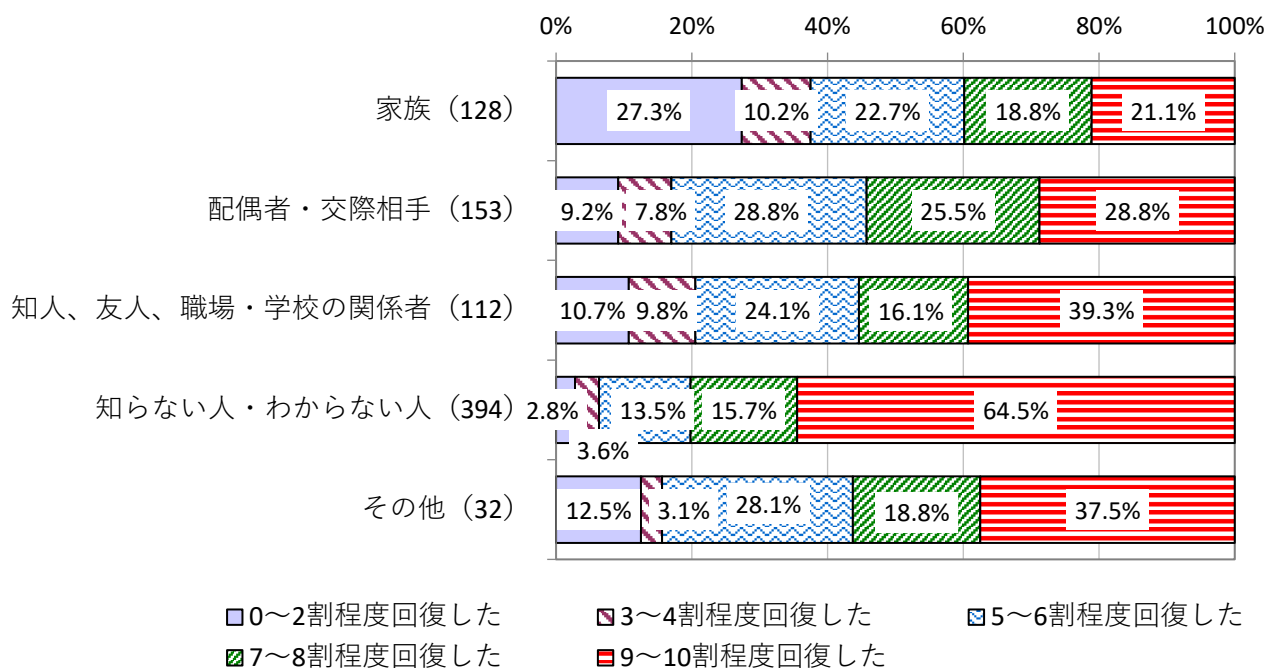
図表 8-10 加害者属性別、日常生活が行えなかった日数【Q3、Q35】



ウ. 加害者属性と被害からの回復状況

被害からの回復度について、加害者属性別にみると、半分以上回復した（「5～6割程度回復した」と「7～8割程度回復した」と「9～10割程度回復した」の和）との回答比率は、加害者が「知らない人・わからない人」（93.7%）の場合に最も高く、次いで「配偶者・交際相手」（83.1%）、「知人、友人、職場・学校の関係者等」（79.5%）となっており、「家族」（62.6%）の場合が最も低い（図表8-11）。

図表 8-11 加害者属性別、被害からの回復度【Q3、Q53】



2-9. 被害の構造に関する考察

被害の構造に関する考察として、犯罪等被害による身体上・精神的な被害の状況、被害の影響と身体上・精神的な問題との関連等について分析する。

(1) 犯罪等被害による身体上・精神的な被害の状況

犯罪等被害による身体上・精神的な被害の状況について、身体上の問題と事件との関連別に K6 の値をみると、重症精神障害相当の状態である 13 点以上の回答比率は、「事件が大いに関係している」が 45.9%、「事件がある程度関係している」が 46.0%となっている。また、UCLA の値をみると、10 点以上の回答比率は、「事件が大いに関係している」が 37.5%、「事件がある程度関係している」が 44.0%となっている。いずれも、「事件は全く関係していない」（それぞれ 29.9%、27.1%）、「事件はあまり関係していない」（同 22.3%、11.1%）との回答者と比して高くなっている（図表 9-1、9-2）。

精神的な問題と事件との関連別に K6 の値をみると、13 点以上の回答比率は、「事件が大いに関係している」が 60.0%となっており、UCLA の値をみると、10 点以上の回答比率は、「事件が大いに関係している」が 49.3%となっている。いずれも、「事件は全く関係していない」（同 40.5%、40.4%）、「事件はあまり関係していない」（同 40.0%、30.0%）との回答者と比して高くなっている（図表 9-3、9-4）。

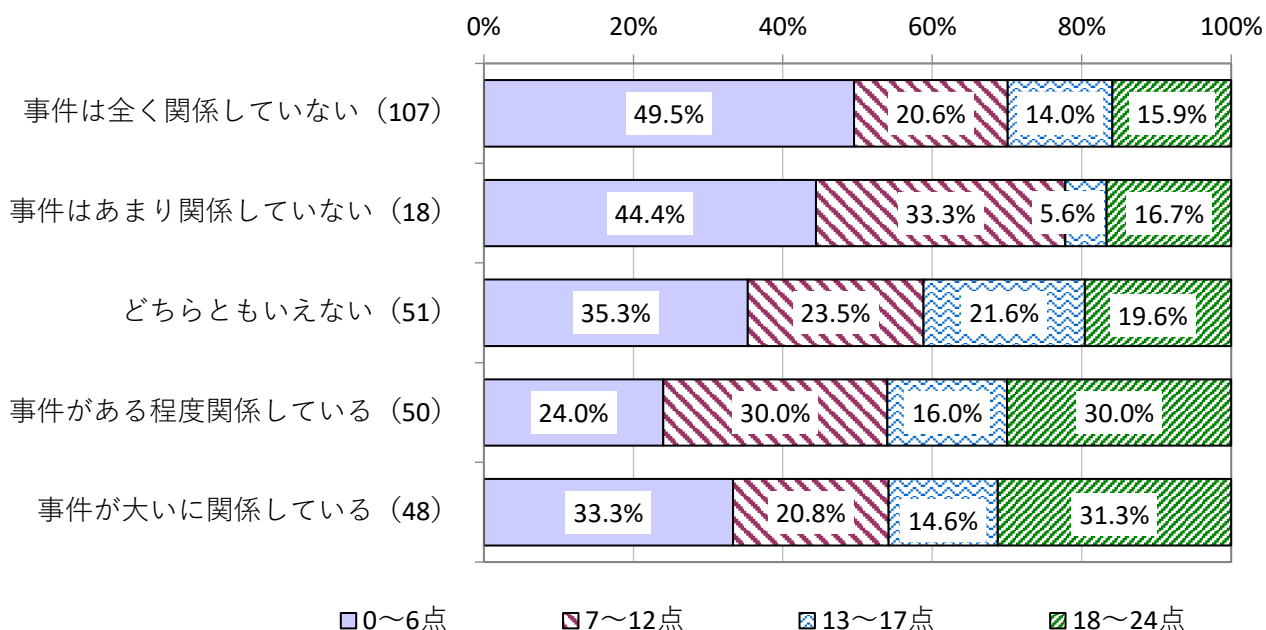
仕事や日常生活が行えなかった平均日数をみると、身体上の問題に関しては、「身体上の問題と事件が大いに関係している」との回答者が 75.7 日、「身体上の問題と事件がある程度関係している」との回答者が 66.5 日となっており、「身体上の問題と事件は全く関係していない」との回答者（35.2 日）、「身体上の問題と事件はあまり関係していない」との回答者（44.0 日）と比して高くなっている（図表 9-5）。

また、精神的な問題に関しては、「精神的な問題と事件が大いに関係している」との回答者は 87.3 日となっており、「精神的な問題と事件は全く関係していない」との回答者（41.9 日）、「精神的な問題と事件はあまり関係していない」との回答者（46.0 日）と比して高い数値となっている（図表 9-6）。

K6 の値別に仕事や日常生活が行えなかった平均日数をみると、K6 の値が「13～17 点」の場合では、犯罪被害者等が 65.2 日、一般対象者が 5.7 日、「18～24 点」の場合では、犯罪被害者等が 115.7 日、一般対象者が 109.7 日となっており、K6 の値の区分が同じ場合でも、犯罪被害者等は一般対象者と比較して仕事や日常生活が行えなかったとする日数が多い（図表 9-7）。

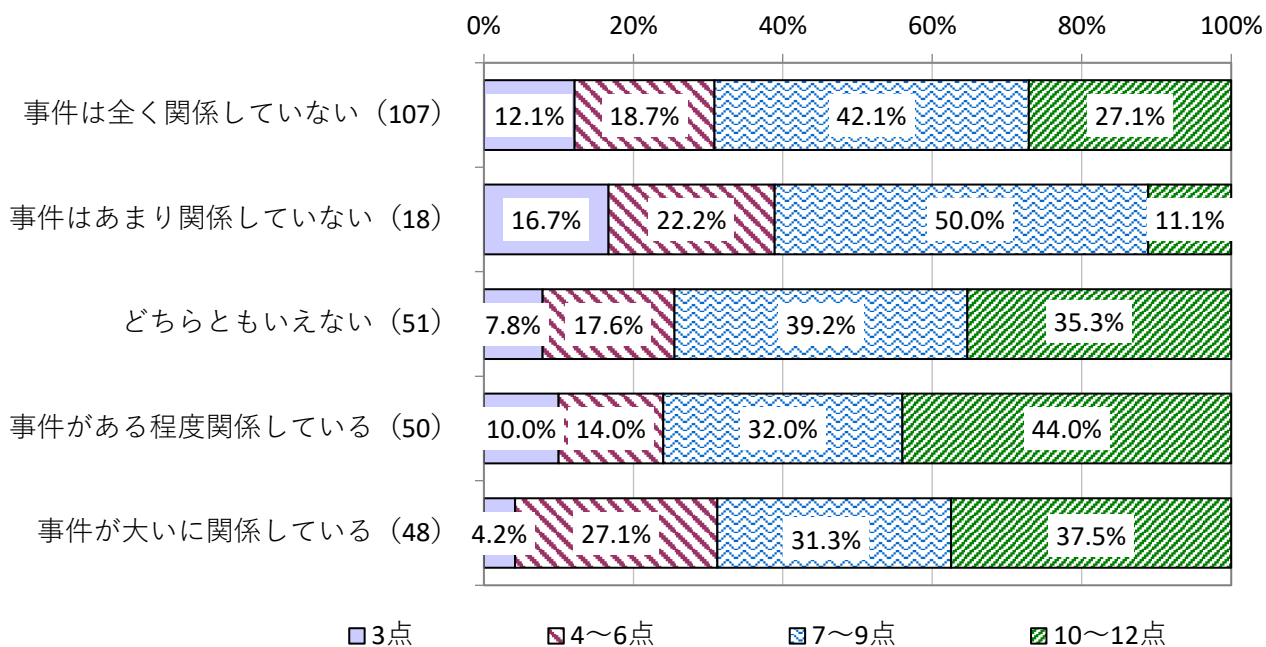
UCLA の値別に仕事や日常生活が行えなかった平均日数をみると、10 点以上の場合では、犯罪被害者等が 72.3 日、一般対象者が 36.2 日となっており、こちらも、UCLA の値の区分が同じ場合でも、犯罪被害者等は一般対象者と比較して仕事や日常生活が行えなかったとする日数が多い（図表 9-8）。

図表 9-1 身体上の問題と事件との関連別、K6 得点【Q29、Q34】



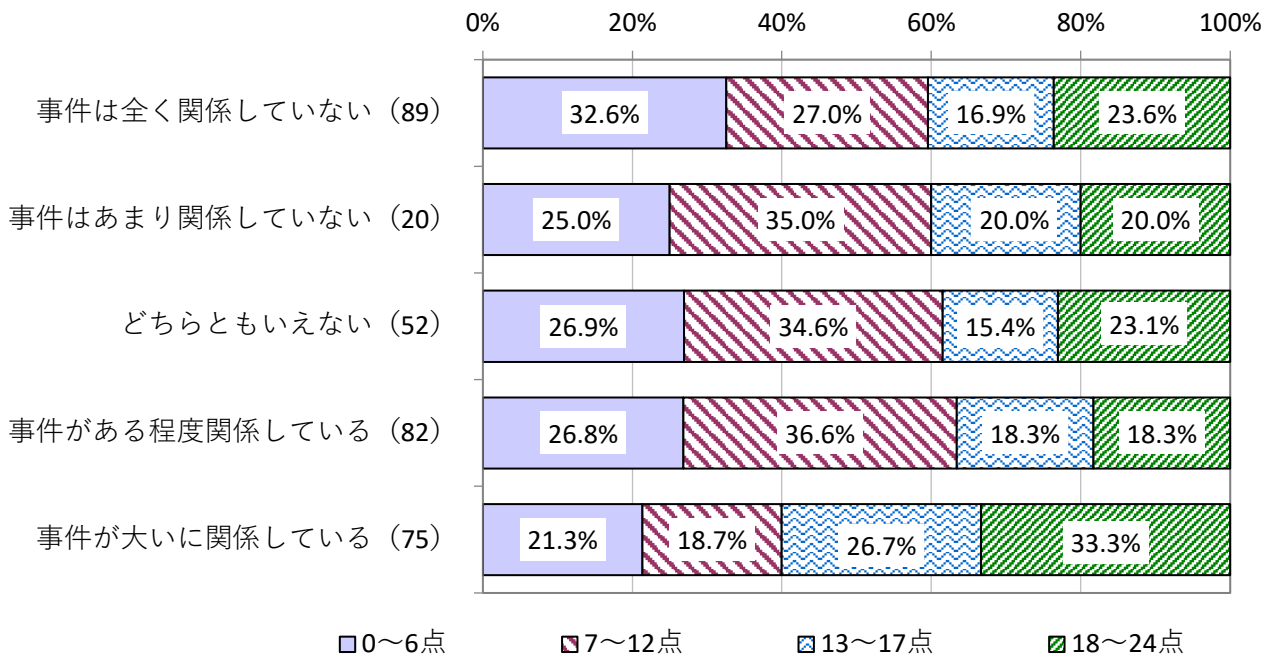
※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（274人）のみ。

図表 9-2 身体上の問題と事件との関連別、UCLA 得点【Q29、Q36】



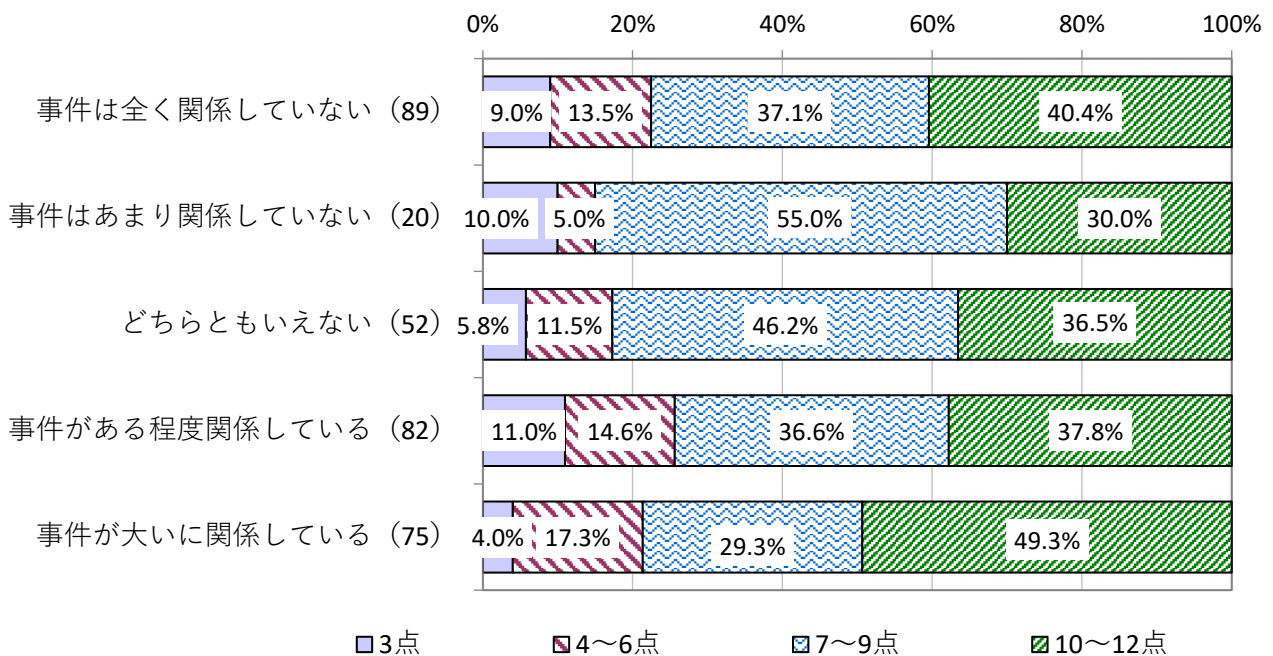
※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（274人）のみ。

図表 9-3 精神的な問題と事件との関連別、K6 得点【Q32、Q34】



※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（318人）のみ。

図表 9-4 精神的な問題と事件との関連別、UCLA 得点【Q32、Q36】



※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（318人）のみ。

図表 9-5 身体上の問題と事件との関連別、日常生活を行えなかった日数【Q29、Q35】

	平均日数
身体上の問題と事件は全く関係していない (N=107)	35.2日
身体上の問題と事件はあまり関係していない (N=18)	44.0日
どちらともいえない (N=51)	69.0日
身体上の問題と事件がある程度関係している (N=50)	66.5日
身体上の問題と事件が大いに関係している (N=48)	75.7日

※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（274人）のみ。

図表 9-6 精神的な問題と事件との関連別、日常生活を行えなかった日数【Q32、Q35】

	平均日数
精神的な問題と事件は全く関係していない (N=89)	41.9日
精神的な問題と事件はあまり関係していない (N=20)	46.0日
どちらともいえない (N=52)	68.6日
精神的な問題と事件がある程度関係している (N=82)	46.7日
精神的な問題と事件が大いに関係している (N=75)	87.3日

※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（318人）のみ。

図表 9-7 回答者属性別、K6 得点と日常生活を行えなかった平均日数【Q34、Q35/P1、P7】

犯罪被害者等		一般	
0～6点 (N=474)	6.2日	0～6点 (N=656)	2.5日
7～12点 (N=164)	24.7日	7～12点 (N=118)	8.8日
13～17点 (N=84)	65.2日	13～17点 (N=46)	5.7日
18～24点 (N=97)	115.7日	18～24点 (N=31)	109.7日

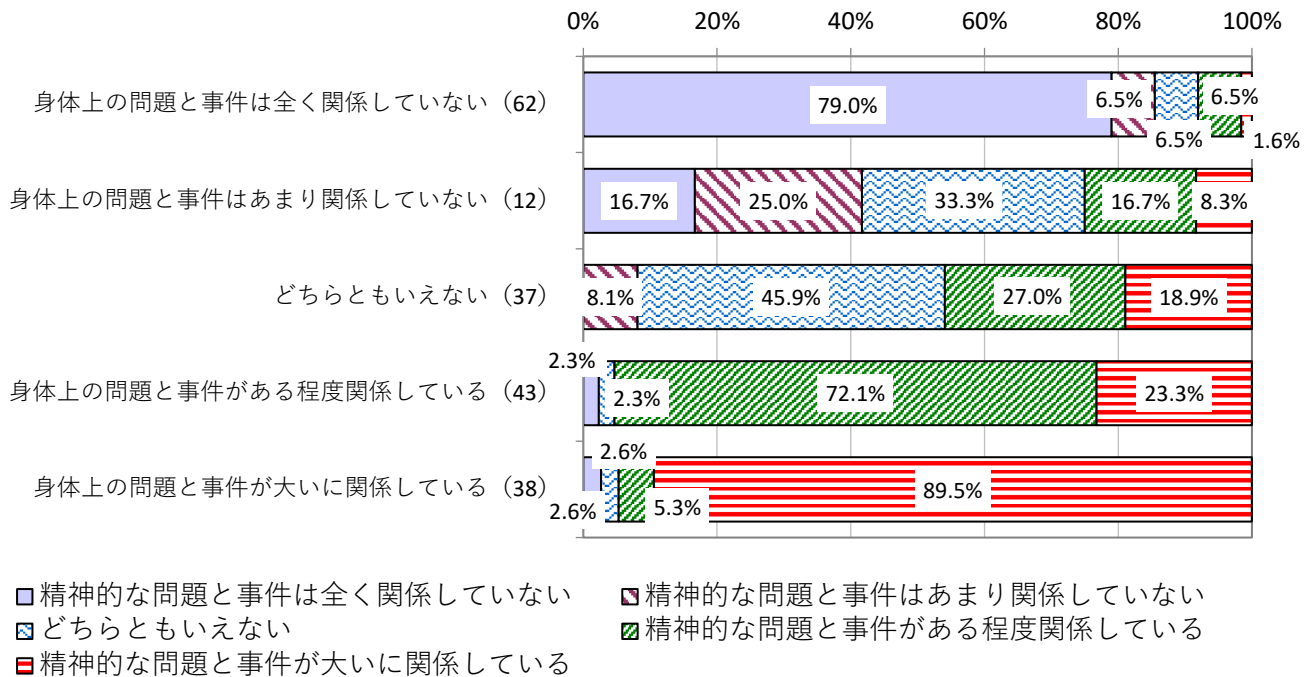
図表 9-8 回答者属性別、UCLA 得点と日常生活を行えなかった平均日数【Q36、Q35/P2、P7】

犯罪被害者等		一般	
3点 (N=115)	3.6日	3点 (N=205)	2.2日
4～6点 (N=197)	13.8日	4～6点 (N=280)	3.2日
7～9点 (N=297)	18.0日	7～9点 (N=265)	5.1日
10～12点 (N=210)	72.3日	10～12点 (N=101)	36.2日

(2)事件の影響と身体上・精神的な問題との関連

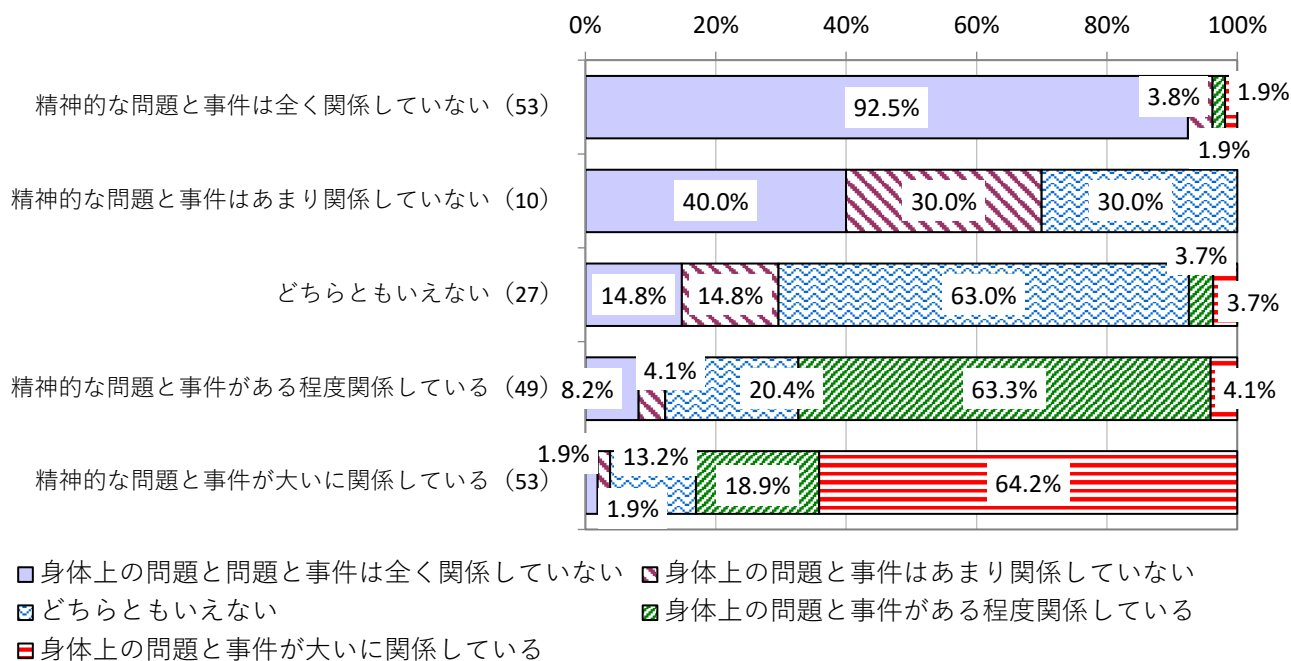
事件の影響と身体上・精神的な問題との関連については、「身体上の問題と事件が大いに関係している」「身体上の問題と事件がある程度関係している」との回答者は、「精神的な問題と事件が大いに関係している」「精神的な問題と事件がある程度関係している」との回答比率も高くなっている（逆も同様）（図表 9-9、9-10）。

図表 9-9 身体上の問題と事件との関連別、精神的な問題と事件との関連【Q29、Q32】



※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答し、かつ Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（192人）のみ。

図表 9-10 精神的な問題と事件との関連別、身体上の問題と事件との関連【Q32、Q29】



※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答し、かつ Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（192人）のみ。

2-10. 加害者による損害賠償状況

加害者による損害賠償状況として、受領した給付・支給・賠償の内容、訴訟・交渉等を行った場合における賠償状況、訴訟・交渉等を行っていない場合の賠償状況等について分析する。

(1) 受領した給付、支給、賠償の内容

事件に関連して受領した給付、支給、賠償の内容について、犯罪被害者等全体では79.9%が「いずれも受けていない」と回答しており、「加害者からの賠償」との回答比率は3.1%にとどまっている。個別の各給付、支給、賠償の回答比率は、高い順に「加害者側の自動車保険」(7.1%)、「その他の公的な給付・支給」「被害者側の保険」(それぞれ2.3%)、「労災保険」(2.2%)となっている。犯罪被害類型別でみると、「いずれも受けていない」との回答比率は、性的な被害(95.0%)、児童虐待(93.6%)、ストーカー(92.0%)、配偶者暴力(90.4%)で非常に高く、「加害者からの賠償」との回答比率は、性的な被害(0.8%)、児童虐待(0.9%)、ストーカー(1.6%)、配偶者暴力(1.8%)、財産被害(2.9%)で非常に低い。交通事故では、「加害者側の自動車保険」との回答比率が47.1%と最も高く、「いずれも受けていない」(23.1%)との回答比率が他の類型と比べて低くなっている(図表10-1)。

加害者の逮捕状況別にみると、「いずれも受けていない」との回答比率は、「捕まった」では48.9%、「捕まっていない」では88.1%と、加害者が捕まっていない場合の方が高くなっている。一方、個別の各給付、支給、賠償の回答比率は、多くの項目で加害者が捕まった場合の方が高くなっている(図表10-2)。

被害の時期別にみると、「いずれも受けていない」との回答比率が、「それ以前」では83.6%、「3～10年以内」では69.9%、「3年以内」では72.4%と、全ての時期で最も高くなっている。なお、被害が近年になるほど、例えば、現在、申請中や交渉中であるなどの理由から、給付、支給、賠償が未了の場合があると考えられる(図表10-3)。

図表 10-1 犯罪被害類型別、受領した給付、支給、賠償の内容(複数回答)【SC1/SC3、Q40】

	全体	犯罪被害者等給付金	地方公共団体からの見舞金	労災保険	その他の公的な給付・支給	加害者側の自動車保険	加害者側の保険	被害者側の保険	犯罪被害者支援基金による奨学金	その他の民間団体の給付・支給	加害者からの賠償	その他	いずれも受けていない	わからない
犯罪被害者等	819	8 (1.0%)	5 (0.6%)	18 (2.2%)	19 (2.3%)	58 (7.1%)	12 (1.5%)	19 (2.3%)	0 (0.0%)	2 (0.2%)	25 (3.1%)	5 (0.6%)	654 (79.9%)	36 (4.4%)
財産被害	139	3 (2.2%)	2 (1.4%)	4 (2.9%)	2 (1.4%)	4 (2.9%)	2 (1.4%)	3 (2.2%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	4 (2.9%)	1 (0.7%)	115 (82.7%)	7 (5.0%)
配偶者暴力	114	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	103 (90.4%)	6 (5.3%)
ストーカー行為等	125	3 (2.4%)	2 (1.6%)	4 (3.2%)	3 (2.4%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	115 (92.0%)	2 (1.6%)
児童虐待	109	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.8%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	102 (93.6%)	1 (0.9%)
性的な被害	119	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	113 (95.0%)	2 (1.7%)
交通事故	104	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (7.7%)	4 (3.8%)	49 (47.1%)	9 (8.7%)	11 (10.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (7.7%)	3 (2.9%)	24 (23.1%)	8 (7.7%)
暴力被害	109	2 (1.8%)	1 (0.9%)	2 (1.8%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	3 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (6.4%)	1 (0.9%)	82 (75.2%)	10 (9.2%)

【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

		全体	犯罪被害者等給付金	地方公共団体からの見舞金	労災保険	その他の公的な給付・支給	加害者側の自動車保険	加害者側の保険	被害者側の保険	犯罪被害救援基金による奨学金	その他の民間団体の給付・支給	加害者からの賠償	その他	いずれも受けていない	わからない
性的な被害	痴漢等	90	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	87 (96.7%)	1 (1.1%)
	無理矢理性交	29	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (6.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (89.7%)	1 (3.4%)
交通事故	けが	96	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (6.3%)	3 (3.1%)	48 (50.0%)	9 (9.4%)	9 (9.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (7.3%)	1 (1.0%)	22 (22.9%)	8 (8.3%)
	死亡	8	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	2 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	1 (25.0%)	2 (25.0%)	2 (0.0%)
暴力被害	けが	96	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.1%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	2 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (7.3%)	1 (1.0%)	75 (78.1%)	9 (9.4%)
	死亡	13	2 (15.4%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (53.8%)	1 (7.7%)

図表 10-2 加害者の逮捕状況、受領した給付、支給、賠償の内容（複数回答）【SC6、Q40】

	全体	犯罪被害者等給付金	地方公共団体からの見舞金	労災保険	その他の公的な給付・支給	加害者側の自動車保険	加害者側の保険	被害者側の保険	犯罪被害救援基金による奨学金	その他の民間団体の給付・支給	加害者からの賠償	その他	いずれも受けていない	わからない
捕まった	133	3 (2.3%)	3 (2.3%)	10 (7.5%)	3 (2.3%)	35 (26.3%)	5 (3.8%)	8 (6.0%)	0 (0.0%)	2 (1.5%)	17 (12.8%)	2 (1.5%)	65 (48.9%)	6 (4.5%)
捕まっていない	553	3 (0.5%)	2 (0.4%)	4 (0.7%)	11 (2.0%)	16 (2.9%)	5 (0.9%)	7 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (1.1%)	2 (0.4%)	487 (88.1%)	18 (3.3%)
捕まったかどうかわからない	133	2 (1.5%)	0 (0.0%)	4 (3.0%)	5 (3.8%)	7 (5.3%)	2 (1.5%)	4 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.5%)	1 (0.8%)	102 (76.7%)	12 (9.0%)

図表 10-3 被害の時期別、受領した給付、支給、賠償の内容（複数回答）【SC2、Q40】

	全体	犯罪被害者等給付金	地方公共団体からの見舞金	労災保険	その他の公的な給付・支給	加害者側の自動車保険	加害者側の保険	被害者側の保険	犯罪被害救援基金による奨学金	その他の民間団体の給付・支給	加害者からの賠償	その他	いずれも受けていない	わからない
3年以内	98	3 (3.1%)	2 (2.0%)	7 (7.1%)	2 (2.0%)	5 (5.1%)	3 (3.1%)	3 (3.1%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	5 (5.1%)	1 (1.0%)	71 (72.4%)	7 (7.1%)
3～10年以内	143	2 (1.4%)	2 (1.4%)	7 (4.9%)	6 (4.2%)	18 (12.6%)	4 (2.8%)	7 (4.9%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	7 (4.9%)	2 (1.4%)	100 (69.9%)	4 (2.8%)
それ以前	578	3 (0.5%)	1 (0.2%)	4 (0.7%)	11 (1.9%)	35 (6.1%)	5 (0.9%)	9 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (2.2%)	2 (0.3%)	483 (83.6%)	25 (4.3%)

(2) 訴訟・交渉等を行った場合における賠償状況

ア. 訴訟・交渉等の実施状況

加害者側との損害賠償に関する訴訟・交渉等の実施状況について、犯罪被害者等全体では88.0%が「訴訟や交渉などを行っていない」と回答しており、「上記を行った際、弁護士または司法書士に頼んだ」との回答比率は1.3%にとどまっている。個別の訴訟・交渉等の実施状況の回答比率は、高い順に「示談書・和解書を作成した」(4.9%)、「民事訴訟を利用した」(2.3%)となっている。犯罪被害類型別でみると、児童虐待、性的な被害、配偶者暴力、ストーカー、財産被害、暴力被害では、「訴訟や交渉などを行っていない」との回答比率が高い。交通事故では、「訴訟や交渉などを行っていない」(60.6%)との回答比率が他の類型と比べて低く、「示談書・和解書を作成した」(26.9%)が次いで高くなっている(図表10-4)。

加害者の逮捕状況別にみると、「訴訟や交渉などを行っていない」との回答比率は、「捕まった」では61.7%、「捕まっていない」では93.5%と、加害者が捕まっていない場合の方が高くなっている。一方、個別の訴訟・交渉等の実施状況の回答比率は、多くの項目で加害者が捕まった場合の方が高くなっている(図表10-5)。

被害の時期別にみると、「訴訟や交渉などを行っていない」との回答比率は、「それ以前」では91.5%、「3～10年以内」では81.8%、「3年以内」では76.5%と、近年になるほど低くなっている。個別の訴訟・交渉等の実施状況の回答比率は、多くの項目で近年になるほど高くなっている。なお、被害が近年になるほど、例えば、訴訟・交渉等を行うか検討中であるなどの理由から、訴訟・交渉等に至っていない場合があると考えられる（図表10-6）。

図表 10-4 犯罪被害類型別、訴訟・交渉等の実施状況（複数回答）【SC1/SC3、Q41】

	全体	民事訴訟 を利用し た	損害賠償 命令を利 用した	刑事和解 を利用し た	公正証書 を作成し た	示談書・ 和解書を 作成した	その他	交渉した が、合意 に至らな かった	上記を行っ た際、弁護 士または 司法書士 に頼んだ	訴訟や交 渉などを 行ってい ない
犯罪被害者等	819	19 (2.3%)	10 (1.2%)	10 (1.2%)	7 (0.9%)	40 (4.9%)	12 (1.5%)	16 (2.0%)	11 (1.3%)	721 (88.0%)
財産被害	139	6 (4.3%)	3 (2.2%)	3 (2.2%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	3 (2.2%)	122 (87.8%)
配偶者暴力	114	2 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	109 (95.6%)
ストーカー行為等	125	3 (2.4%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	3 (2.4%)	2 (1.6%)	5 (4.0%)	0 (0.0%)	113 (90.4%)
児童虐待	109	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	107 (98.2%)
性的な被害	119	1 (0.8%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	116 (97.5%)
交通事故	104	4 (3.8%)	2 (1.9%)	4 (3.8%)	0 (0.0%)	28 (26.9%)	4 (3.8%)	1 (1.0%)	6 (5.8%)	63 (60.6%)
暴力被害	109	2 (1.8%)	3 (2.8%)	2 (1.8%)	3 (2.8%)	6 (5.5%)	3 (2.8%)	5 (4.6%)	1 (0.9%)	91 (83.5%)

図表 10-5 加害者の逮捕状況、訴訟・交渉等の実施状況（複数回答）【SC6、Q41】

	全体	民事訴訟 を利用し た	損害賠償 命令を利 用した	刑事和解 を利用し た	公正証書 を作成し た	示談書・ 和解書を 作成した	その他	交渉した が、合意 に至らな かった	上記を行っ た際、弁護 士または 司法書士 に頼んだ	訴訟や交 渉などを 行ってい ない
捕まった	133	10 (7.5%)	8 (6.0%)	7 (5.3%)	4 (3.0%)	24 (18.0%)	5 (3.8%)	5 (3.8%)	6 (4.5%)	82 (61.7%)
捕まっていない	553	9 (1.6%)	1 (0.2%)	3 (0.5%)	2 (0.4%)	9 (1.6%)	5 (0.9%)	9 (1.6%)	3 (0.5%)	517 (93.5%)
捕まったかどうかわからない	133	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	7 (5.3%)	2 (1.5%)	2 (1.5%)	2 (1.5%)	122 (91.7%)

図表 10-6 被害の時期別、訴訟・交渉等の実施状況（複数回答）【SC2、Q41】

	全体	民事訴訟 を利用した	損害賠償 命令を利用した	刑事和解 を利用した	公正証書 を作成した	示談書・ 和解書を作成した	その他	交渉したが、合意 に至らなかった	上記を行 った際、 弁護士ま たは司法 書士に頼 んだ	訴訟や交 渉などを行 っていない
3年以内	98	8 (8.2%)	3 (3.1%)	4 (4.1%)	2 (2.0%)	6 (6.1%)	3 (3.1%)	5 (5.1%)	4 (4.1%)	75 (76.5%)
3～10年以内	143	3 (2.1%)	3 (2.1%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	10 (7.0%)	3 (2.1%)	5 (3.5%)	4 (2.8%)	117 (81.8%)
それ以前	578	8 (1.4%)	4 (0.7%)	4 (0.7%)	3 (0.5%)	24 (4.2%)	6 (1.0%)	6 (1.0%)	3 (0.5%)	529 (91.5%)

イ. 訴訟・交渉等を知った手段

訴訟・交渉等を知った手段については、「自分で調べた」(37.8%) が最も多く、次いで「弁護士から聞いた」(31.6%)、「警察から聞いた」(30.6%)、「家族・友人・知人から聞いた」(25.5%) となっている(図表 10-7)。

被害の時期別にみると、「それ以前」では「警察から聞いた」(32.7%)、「自分で調べた」(30.6%)、「3～10年以内」では「自分で調べた」「家族・友人・知人から聞いた」(それぞれ 42.3%)、「3年以内」では「弁護士から聞いた」(56.5%)、「自分で調べた」(47.8%) との回答比率が高くなっている(図表 10-8)。

図表 10-7 訴訟・交渉等を知った手段（複数回答）【Q42】

	全体	自分で調べた	家族・友人・知人から聞いた	弁護士から聞いた	警察から聞いた	検察から聞いた	日本司法支援センター(法テラス)から聞いた	地方公共団体の総合的対応窓口から聞いた	性犯罪・性暴力被害者のためのフリーストップ支援センターから聞いた	その他の行政機関・福祉機関の相談窓口から聞いた	民間の犯罪被害者支援団体から聞いた	加害者側や加害者側の弁護士から申入れがあった	その他
犯罪被害者等	98	37 (37.8%)	25 (25.5%)	31 (31.6%)	30 (30.6%)	7 (7.1%)	3 (3.1%)	5 (5.1%)	1 (1.0%)	3 (3.1%)	3 (3.1%)	8 (8.2%)	8 (8.2%)

※対象：Q41（訴訟や交渉などを行ったか）で「訴訟や交渉などを行っていない」と回答した方（721人）を除く。

図表 10-8 被害の時期別、訴訟・交渉等を知った手段（複数回答）【SC2、Q42】

	全体	自分で調べた	家族・友人・知人から聞いた	弁護士から聞いた	警察から聞いた	検察から聞いた	日本司法支援センター(法テラス)から聞いた	地方公共団体の総合的対応窓口から聞いた	性犯罪・性暴力被害者のためのフリーストップ支援センターから聞いた	その他の行政機関・福祉機関の相談窓口から聞いた	民間の犯罪被害者支援団体から聞いた	加害者側や加害者側の弁護士から申入れがあった	その他
3年以内	23	11 (47.8%)	3 (13.0%)	13 (56.5%)	9 (39.1%)	4 (17.4%)	0 (0.0%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)	3 (13.0%)	2 (8.7%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)
3～10年以内	26	11 (42.3%)	11 (42.3%)	7 (26.9%)	5 (19.2%)	1 (3.8%)	3 (11.5%)	2 (7.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (11.5%)	2 (7.7%)
それ以前	49	15 (30.6%)	11 (22.4%)	11 (22.4%)	16 (32.7%)	2 (4.1%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	3 (6.1%)	6 (12.2%)

※対象：Q41（訴訟や交渉などを行ったか）で「訴訟や交渉などを行っていない」と回答した方（721人）を除く。

ウ. 訴訟・交渉等による賠償額

訴訟・交渉等によって定まった加害者側の賠償額については、図表10-9のとおり。

図表 10-9 犯罪被害類型別、訴訟・交渉等による賠償額【SC1/SC3、Q43】

	全体	10万円未 満	10万円～ 99万円	100万円 ～999万 円	1,000万円 ～4,999万 円	5,000万円 ～9,999万 円	1億円以 上	賠償額が 定まらな かった	わからない
犯罪被害者等	82	7 (8.5%)	25 (30.5%)	21 (25.6%)	5 (6.1%)	1 (1.2%)	0 (0.0%)	9 (11.0%)	14 (17.1%)
財産被害	15	3 (20.0%)	5 (33.3%)	4 (26.7%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (13.3%)
配偶者からの暴力(DV)	4	0 (0.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)
ストーカー行為等	7	0 (0.0%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (28.6%)	0 (0.0%)
児童虐待	1	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
性的な被害	2	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)
交通事故	40	4 (10.0%)	9 (22.5%)	12 (30.0%)	3 (7.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (7.5%)	9 (22.5%)
暴力被害	13	0 (0.0%)	7 (53.8%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	3 (23.1%)	1 (7.7%)

※対象：Q41（訴訟や交渉などを行ったか）で「交渉したが、合意に至らなかった」「訴訟や交渉などを行っていない」と回答した方（737人）を除く。

エ. 賠償額が定まるまでの期間

賠償額が定まるまでの期間については、犯罪被害者等全体では「1か月以上半年未満」（30.1%）が最も多く、次いで「半年以上1年未満」（16.4%）となっている（図表10-10）。

図表 10-10 賠償額が定まるまでの期間【Q44】

	全体	2週間未 満	2週間以 上1か月 未満	1か月以 上半年未 満	半年以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 5年未満	5年以上	わからない
犯罪被害者等	73	4 (5.5%)	9 (12.3%)	22 (30.1%)	12 (16.4%)	7 (9.6%)	4 (5.5%)	2 (2.7%)	13 (17.8%)

※対象：Q43（訴訟・交渉等による賠償額）の対象者（82人）のうち、「賠償額が定まらなかった」と回答した方（9人）を除く。

オ. 賠償が支払われた割合

賠償額が定まったうち、加害者側から支払われた割合については、犯罪被害者等全体で半分以上支払われている（「51～70%」と「71～99%」と「100%」の和）との回答比率は32.2%、全く支払われていない（「0%」）との回答比率は18.6%となっている（図表10-11）。

図表 10-11 賠償が支払われた割合【Q45】

	全体	0%	1～10%	11～20%	21～50%	51～70%	71～99%	100%	わからない
犯罪被害者等	59	11 (18.6%)	1 (1.7%)	1 (1.7%)	3 (5.1%)	0 (0.0%)	4 (6.8%)	15 (25.4%)	24 (40.7%)

※対象：Q43（訴訟・交渉等による賠償額）の対象者（82人）のうち、「賠償額が定まらなかった」「わからない」と回答した方（23人）を除く。

カ. 賠償の支払に掛かった期間

加害者側からの賠償の支払に掛かった期間については、図表10-12のとおり。

図表 10-12 賠償の支払に掛かった期間【Q46】

	全体	2週間未満	2週間以上 1か月未満	1か月以上 半年未満	半年以上1 年未満	1年以上2 年未満	2年以上5 年未満	5年以上	わからない
犯罪被害者等	24	1 (4.2%)	3 (12.5%)	6 (25.0%)	4 (16.7%)	2 (8.3%)	4 (16.7%)	2 (8.3%)	2 (8.3%)

※対象：Q43（訴訟・交渉等による賠償額）の対象者（82人）のうち、「賠償額が定まらなかった」「わからない」と回答した方（23人）を除き、かつQ45（賠償が支払われた割合）で「わからない」と回答した方又は「加害者からの支払」に0%と回答した方（35人）を除く。

キ. 全額の賠償に至らない理由

全額の賠償に至らない理由については、図表10-13のとおり。

図表 10-13 全額の賠償に至らない理由（複数回答）【Q47】

	全体	加害者側に 資力がな かったから	加害者側に 賠償する意 思がなかつ た・途中か ら賠償する 意思がなくな ったから	加害者側 の所在が 分からず、 督促ができ なかったか ら	加害者が 刑務所に 入っている から	現在、分割 で支払われ ている	わからない	その他
犯罪被害者等	20	3 (15.0%)	5 (25.0%)	2 (10.0%)	3 (15.0%)	2 (10.0%)	10 (50.0%)	1 (5.0%)

※対象：Q43（訴訟・交渉等による賠償額）の対象者（82人）のうち、「賠償額が定まらなかった」「わからない」と回答した方（23人）を除き、かつQ45（賠償が支払われた割合）で「わからない」と回答した方又は「加害者からの支払」に100%と回答した方（39人）を除く。

【参考】被害の時期別、全額の賠償に至らない理由

	全体	加害者側に 資力がな かったから	加害者側に 賠償する意 思がなかつ た・途中か ら賠償する 意思がなくな ったから	加害者側 の所在が 分からず、 督促ができ なかったか ら	加害者が 刑務所に 入っている から	現在、分割 で支払われ ている	わからない	その他
3年以内	7	2 (28.6%)	3 (42.9%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)
3～10年以内	7	0 (0.0%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	4 (57.1%)	1 (14.3%)
それ以前	6	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (83.3%)	0 (0.0%)

(3) 訴訟・交渉等を行っていない場合の賠償状況**ア. 賠償の支払の有無**

訴訟・交渉等を行っていない、又は、合意に至らなかった場合の加害者側からの賠償の支払の有無について、犯罪被害者等全体では93.2%が「支払なし」と回答している。犯罪被害類型別で見ると、交通事故のみ「支払あり」(56.3%)が「支払なし」(43.8%)を上回っている(図表10-14)。

図表 10-14 犯罪被害類型別、賠償の支払の有無【SC1/SC3、Q48】

	全体	支払あり	支払なし
犯罪被害者等	737	50 (6.8%)	687 (93.2%)
財産被害	124	3 (2.4%)	121 (97.6%)
配偶者暴力	110	1 (0.9%)	109 (99.1%)
ストーカー行為等	118	2 (1.7%)	116 (98.3%)
児童虐待	108	1 (0.9%)	107 (99.1%)
性的な被害	117	1 (0.9%)	116 (99.1%)
交通事故	64	36 (56.3%)	28 (43.8%)
暴力被害	96	6 (6.3%)	90 (93.8%)

※対象：Q41（訴訟や交渉などを行ったか）で「交渉したが、合意に至らなかった」「訴訟や交渉などを行っていない」と回答した方（737人）のみ。

イ. 訴訟・交渉等を行わなかった理由

訴訟・交渉等を行わなかった理由について、犯罪被害者等全体では、「どのような手続をとればよいかわからなかったから」(32.5%)、「加害者側とこれ以上関わりたくないから」(27.6%)との回答比率が高くなっている。犯罪被害類型別にみると、これらのほか、財産被害、性的な被害では「加害者側の所在が分からなくなったから」、配偶者暴力では「加害者側に賠償する意思がなかったから」「加害者側に資力がなかったから」との回答比率も高くなっている(図表10-15)。

被害の時期別でみると、全ての時期で「どのような手続をとればよいかわからなかったから」「加害者側とこれ以上関わりたくないから」との回答比率が高くなっている(図表10-16)。

図表 10-15 犯罪被害類型別、訴訟・交渉等を行わなかった理由(複数回答)【SC1/SC3、Q49】

全体	加害者側に資力がなかったから	加害者側に賠償する意思がなかったから	加害者側の所在が分からなくなったから	加害者が刑務所に入っているから	加害者側とこれ以上関わりたくないから	手続などが大変だと思ったから	弁護士に頼む資力がなかったから	どのような手続をとればよいかわからなかったから	今後、賠償請求する予定	他に公的な給付・支給や民間団体からの給付・支給を受けたから	その他	
犯罪被害者等	721	66 (9.2%)	70 (9.7%)	82 (11.4%)	4 (0.6%)	199 (27.6%)	88 (12.2%)	59 (8.2%)	234 (32.5%)	2 (0.3%)	14 (1.9%)	151 (20.9%)
財産被害	122	8 (6.6%)	5 (4.1%)	26 (21.3%)	0 (0.0%)	14 (11.5%)	14 (11.5%)	5 (4.1%)	31 (25.4%)	1 (0.8%)	2 (1.6%)	39 (32.0%)
配偶者暴力	109	22 (20.2%)	29 (26.6%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	34 (31.2%)	12 (11.0%)	8 (7.3%)	32 (29.4%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	19 (17.4%)
ストーカー行為等	113	12 (10.6%)	11 (9.7%)	8 (7.1%)	2 (1.8%)	57 (50.4%)	16 (14.2%)	11 (9.7%)	32 (28.3%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	10 (8.8%)
児童虐待	107	3 (2.8%)	7 (6.5%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	27 (25.2%)	7 (6.5%)	15 (14.0%)	53 (49.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	24 (22.4%)
性的な被害	116	2 (1.7%)	3 (2.6%)	29 (25.0%)	0 (0.0%)	31 (26.7%)	20 (17.2%)	9 (7.8%)	41 (35.3%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	21 (18.1%)
交通事故	63	8 (12.7%)	1 (1.6%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)	9 (14.3%)	9 (14.3%)	2 (3.2%)	13 (20.6%)	1 (1.6%)	5 (7.9%)	22 (34.9%)
暴力被害	91	11 (12.1%)	14 (15.4%)	13 (14.3%)	2 (2.2%)	27 (29.7%)	10 (11.0%)	9 (9.9%)	32 (35.2%)	0 (0.0%)	4 (4.4%)	16 (17.6%)

※対象：Q41(訴訟や交渉などを行ったか)で「訴訟や交渉などを行っていない」と回答した方(721人)のみ。

図表 10-16 被害の時期別、訴訟・交渉等を行わなかった理由(複数回答)【SC2、Q49】

全体	加害者側に資力がなかったから	加害者側に賠償する意思がなかったから	加害者側の所在が分からなくなったから	加害者が刑務所に入っているから	加害者側とこれ以上関わりたくないから	手続などが大変だと思ったから	弁護士に頼む資力がなかったから	どのような手続をとればよいかわからなかったから	今後、賠償請求する予定	他に公的な給付・支給や民間団体からの給付・支給を受けたから	その他	
3年以内	75	13 (17.3%)	13 (17.3%)	4 (5.3%)	0 (0.0%)	18 (24.0%)	11 (14.7%)	7 (9.3%)	25 (33.3%)	2 (2.7%)	1 (1.3%)	10 (13.3%)
3~10年以内	117	18 (15.4%)	18 (15.4%)	14 (12.0%)	2 (1.7%)	30 (25.6%)	17 (14.5%)	11 (9.4%)	30 (25.6%)	0 (0.0%)	4 (3.4%)	20 (17.1%)
それ以前	529	35 (6.6%)	39 (7.4%)	64 (12.1%)	2 (0.4%)	151 (28.5%)	60 (11.3%)	41 (7.8%)	179 (33.8%)	0 (0.0%)	9 (1.7%)	121 (22.9%)

※対象：Q41(訴訟や交渉などを行ったか)で「訴訟や交渉などを行っていない」と回答した方(721人)のみ。

2-11. 回復状況とその影響要因

被害からの主観的な回復度を基に、回復に及ぼす要因とその影響等について分析する。

(1) 事件との関係

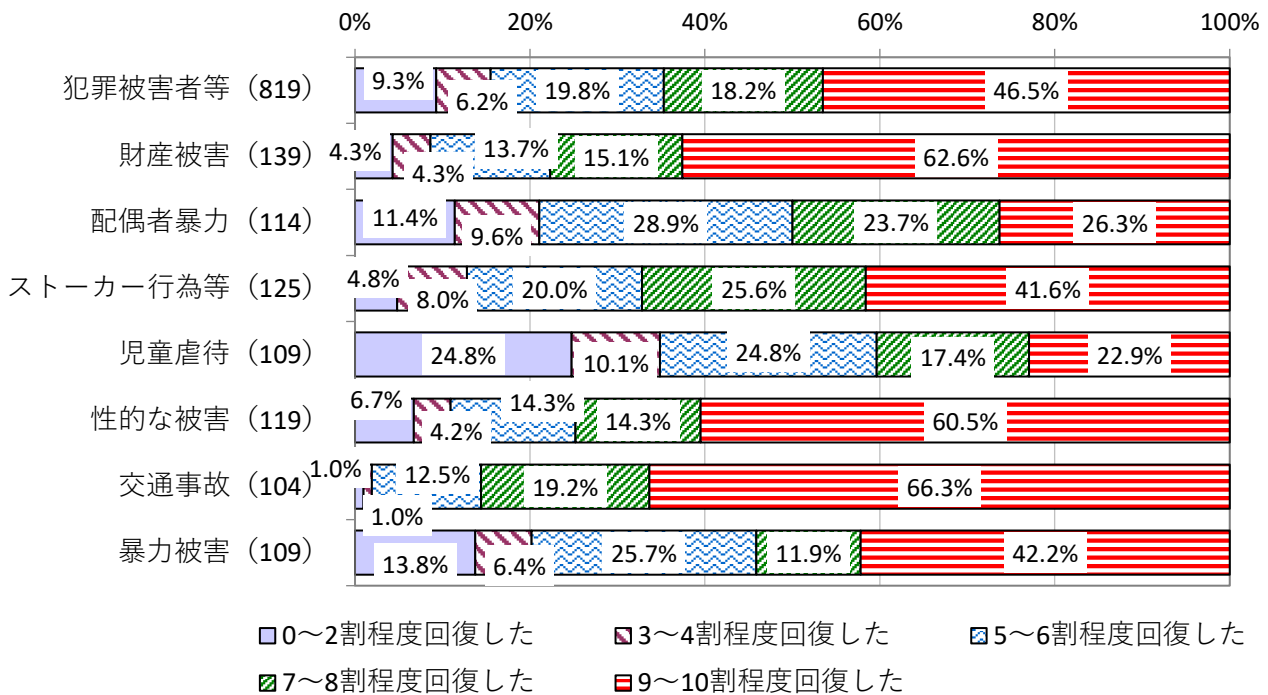
被害からの回復度（犯罪被害者等の主観的意見）について、犯罪被害類型別にみると、半分以上回復した（「5～6割程度回復した」と「7～8割程度回復した」と「9～10割程度回復した」の和）との回答比率は、交通事故（98.0%）が最も高く、財産被害（91.4%）、性的な被害（89.1%）が続いており、最も低いのは児童虐待（65.1%）である。また、児童虐待、暴力被害、配偶者暴力では、「0～2割程度回復した」との回答比率がそれぞれ24.8%、13.8%、11.4%と、他の類型に比べて高くなっている（図表11-1）。

被害の継続期間別にみると、配偶者暴力、児童虐待では、半分以上回復したとの回答比率は、「10年以上」が58.8%であるのに対し、「1年未満」が94.9%と高くなっている。また、財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害では、半分以上回復したとの回答比率は、「1年以上」の場合が73.3%であるのに対し、「1回限り」の場合は93.1%と高くなっている（図表11-2）。

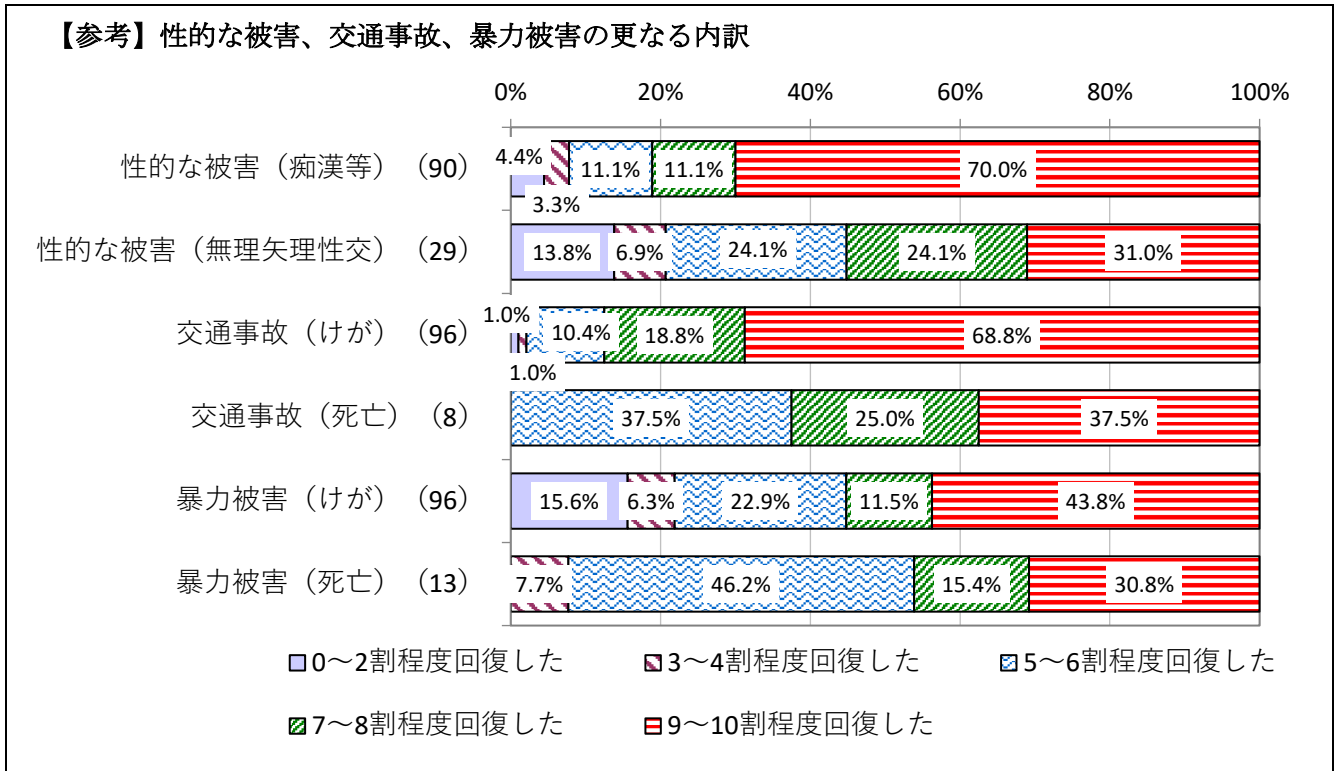
被害の時期別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「3年以内」では66.3%、「3～10年以内」では85.4%、「それ以前」では87.4%と、被害から期間が経過するほど高くなっている（図表11-3）。

被害時の年齢別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、0～6歳（61.5%）、7～12歳（77.3%）が他の年齢に比べて低く、19～22歳（98.7%）、16～18歳（97.9%）が他の年齢と比べて高くなっている（図表11-4）。

図表 11-1 犯罪被害類型別、被害からの回復度【SC1/SC3、Q53】

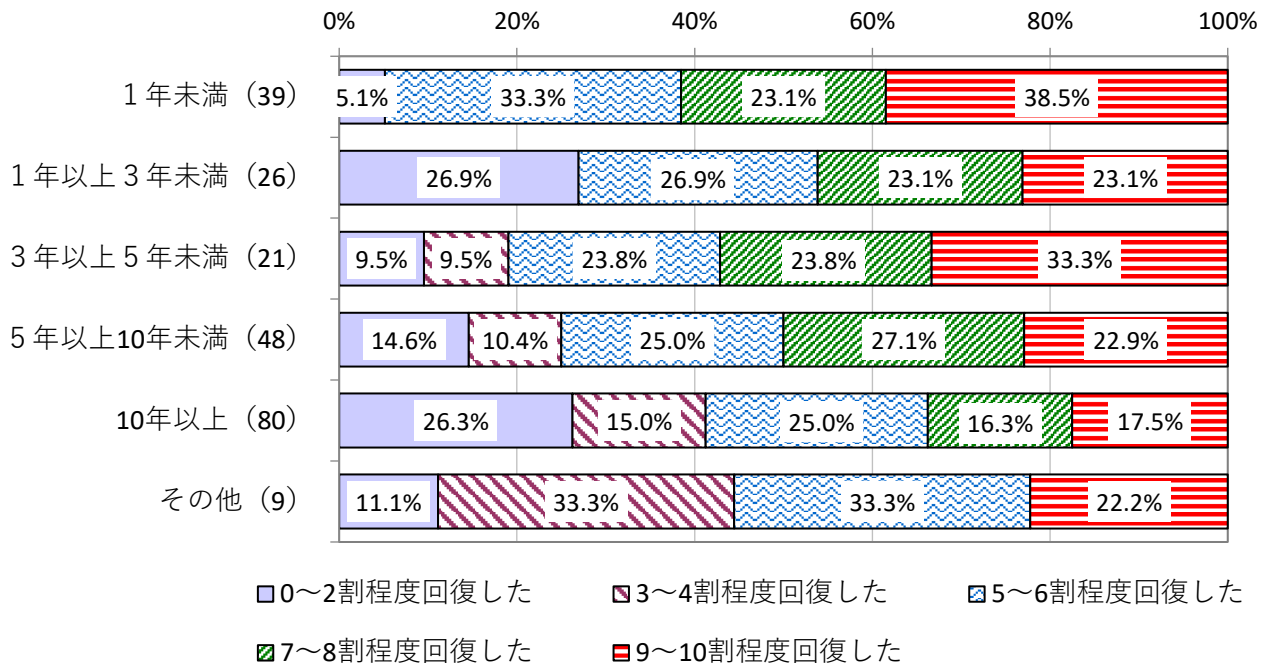


※図表4-20の再掲

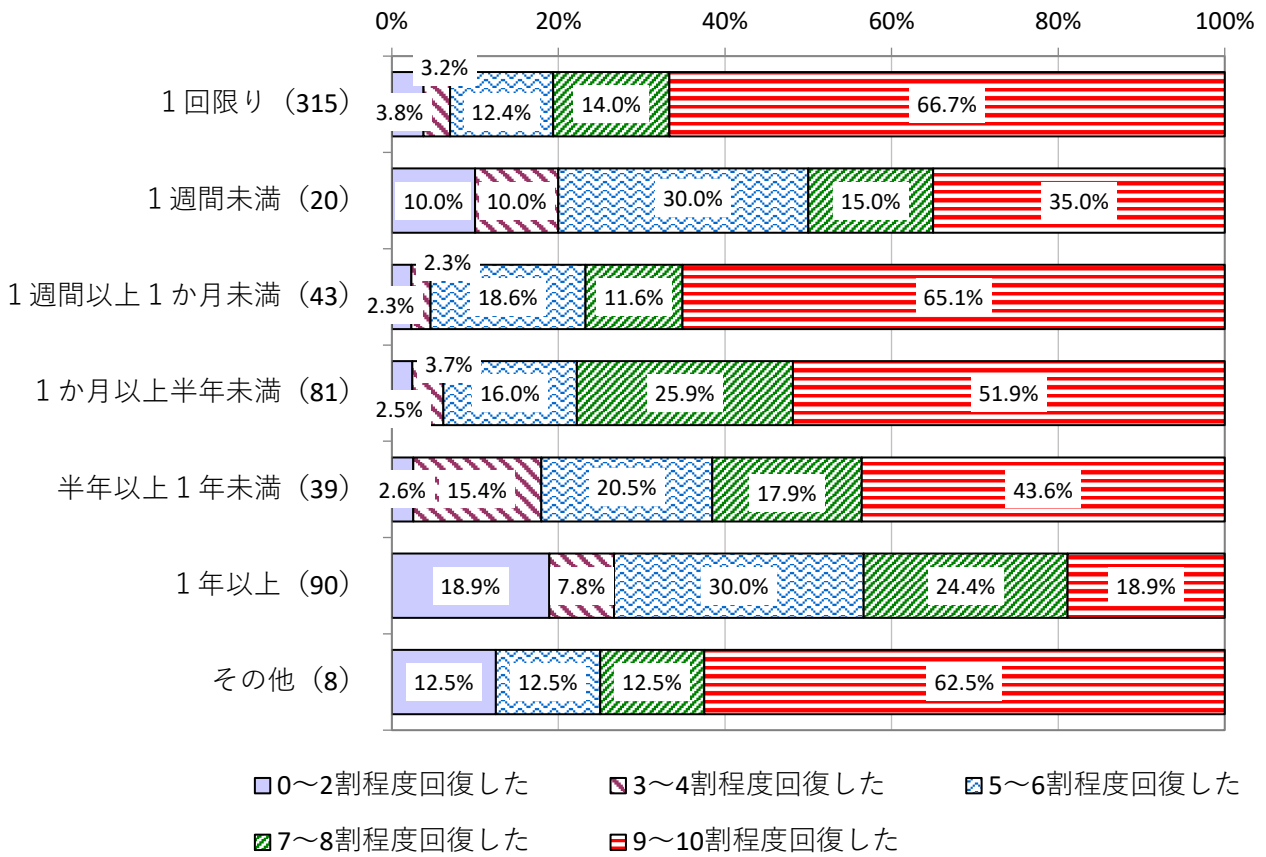


図表 11-2 被害の継続期間別、被害からの回復度【Q5、Q53/Q5-2、Q53】

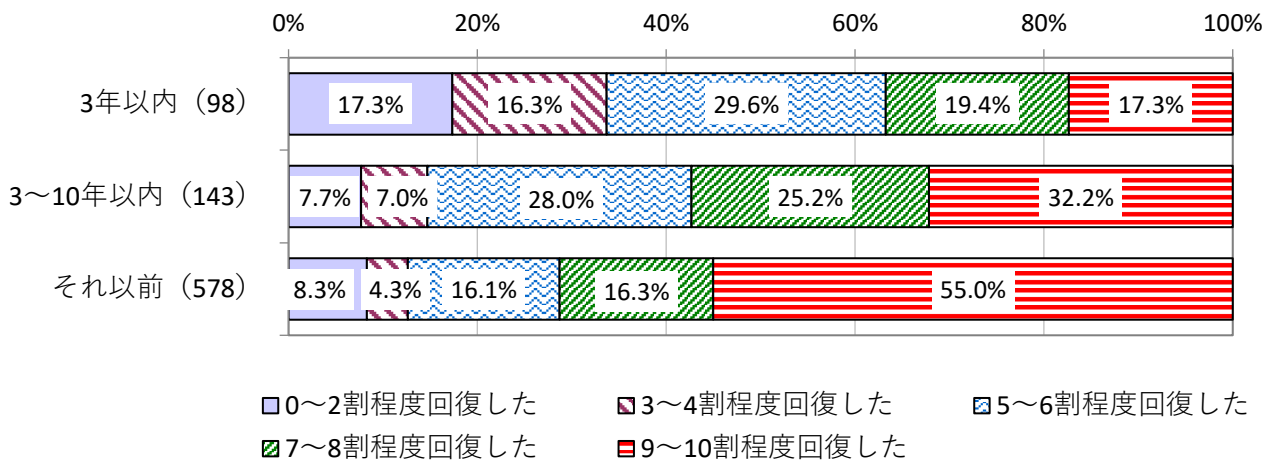
<配偶者暴力、児童虐待>



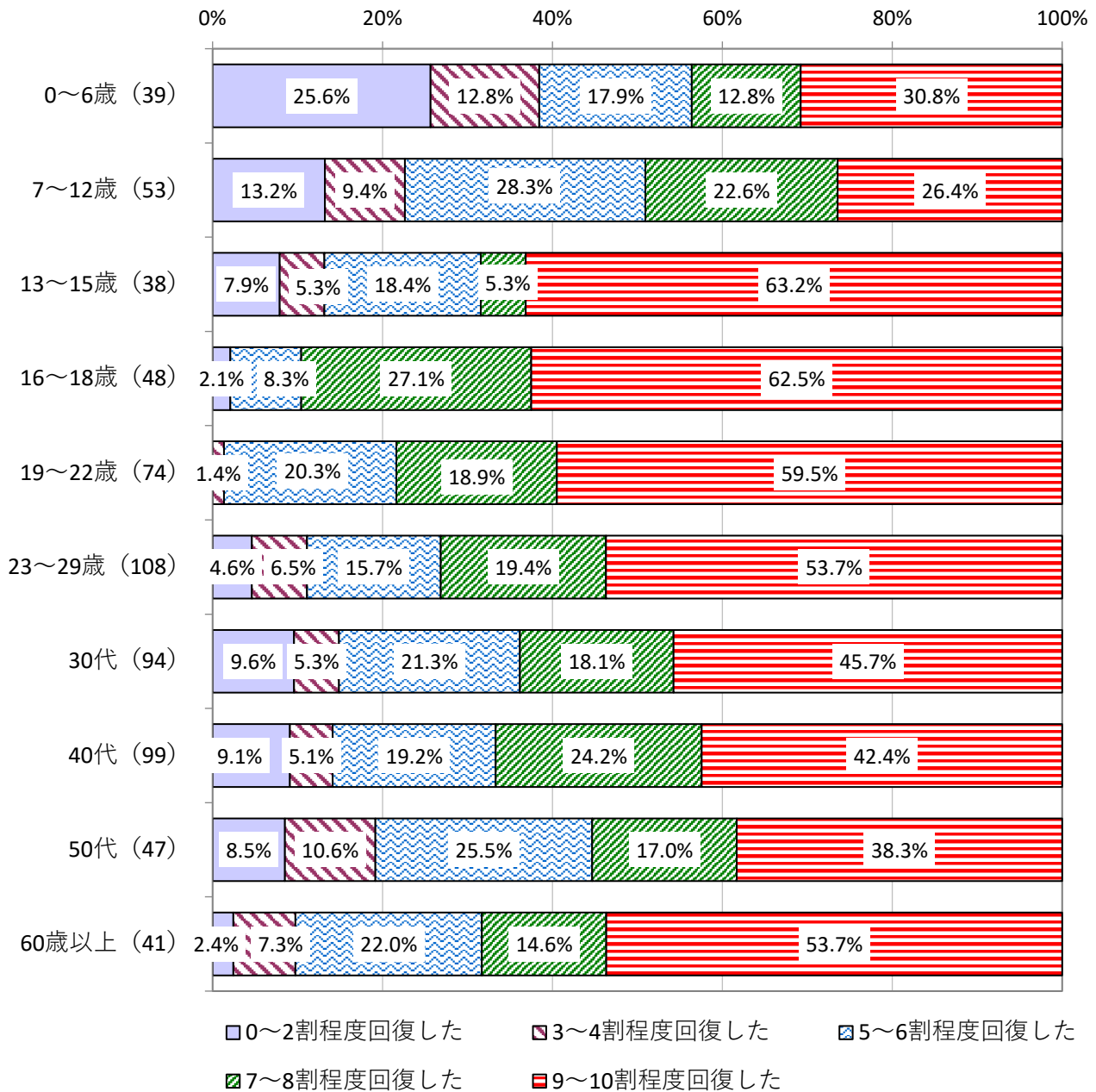
<財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害>



図表 1 1-3 被害の時期別、被害からの回復度【SC2、Q53】



図表 11-4 被害時の年齢別、被害からの回復度【Q1、Q53】



(2)加害者との関係

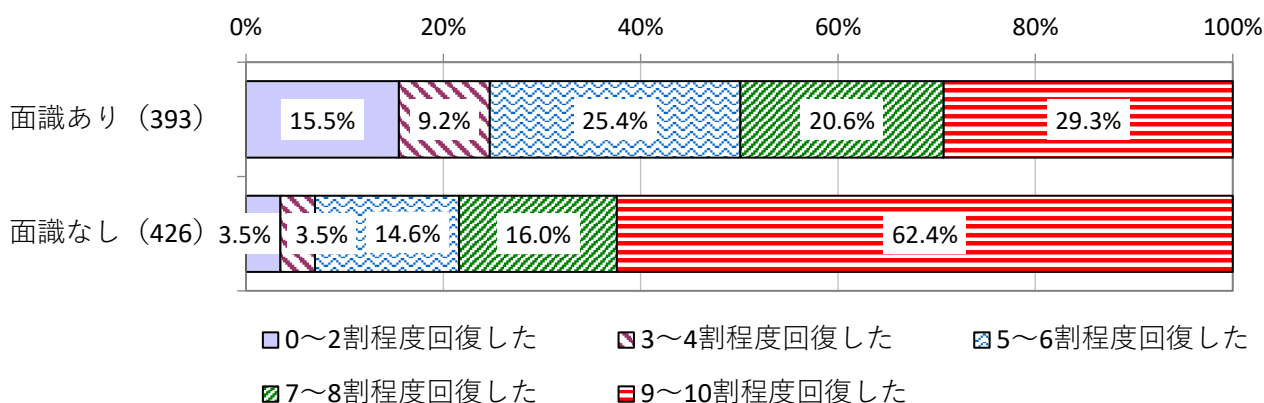
被害からの回復度について、加害者との関係別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、加害者が「わからない」(95.0%)、「全く無関係の人、知らない人」「交際相手、元交際相手」(それぞれ 93.3%)等において高い。一方、「父」(63.2%)、「母」(66.7%)等では比較的低くなっている(図表 11-5)。

加害者との面識の有無別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「面識あり」の場合は 75.3%であるのに対し、「面識なし」の場合は 93.0%となっている(図表 11-6)。

図表 11-5 加害者と被害者の関係別、被害からの回復度【Q3、Q53】

	全体	0～2割程度回復した	3～4割程度回復した	5～6割程度回復した	7～8割程度回復した	9～10割程度回復した
父	68	15 (22.1%)	10 (14.7%)	9 (13.2%)	15 (22.1%)	19 (27.9%)
母	33	9 (27.3%)	2 (6.1%)	13 (39.4%)	6 (18.2%)	3 (9.1%)
継父	4	3 (75.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
継母	5	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)
母の交際相手	0	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
父の交際相手	2	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
兄弟姉妹	10	4 (40.0%)	0 (0.0%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)	2 (20.0%)
子	2	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)
祖父母	4	1 (25.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)
配偶者、元配偶者	108	12 (11.1%)	11 (10.2%)	29 (26.9%)	25 (23.1%)	31 (28.7%)
交際相手、元交際相手	45	2 (4.4%)	1 (2.2%)	15 (33.3%)	14 (31.1%)	13 (28.9%)
職場、アルバイト先の関係者、 通っていた学校の関係者	53	6 (11.3%)	5 (9.4%)	10 (18.9%)	9 (17.0%)	23 (43.4%)
知人、友人	43	3 (7.0%)	4 (9.3%)	10 (23.3%)	7 (16.3%)	19 (44.2%)
SNSで出会った人	16	3 (18.8%)	2 (12.5%)	7 (43.8%)	2 (12.5%)	2 (12.5%)
全く無関係の人、知らない人	315	8 (2.5%)	13 (4.1%)	36 (11.4%)	55 (17.5%)	203 (64.4%)
わからない	79	3 (3.8%)	1 (1.3%)	17 (21.5%)	7 (8.9%)	51 (64.6%)
その他	32	4 (12.5%)	1 (3.1%)	9 (28.1%)	6 (18.8%)	12 (37.5%)

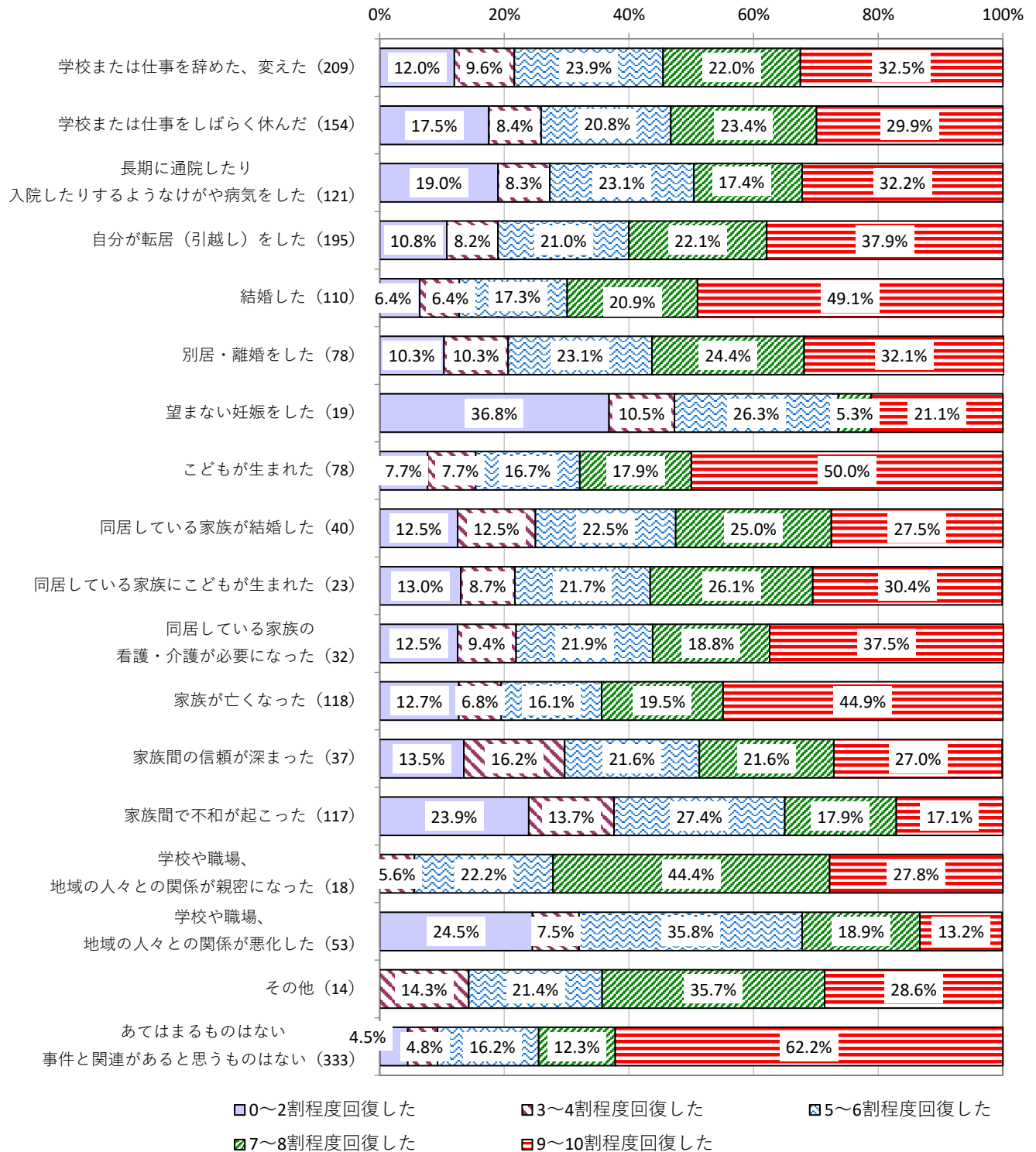
図表 11-6 加害者との面識の有無別、被害からの回復度【Q3、Q53】



(3)生活上の変化との関係

被害からの回復度について、生活上の変化別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「学校や職場、地域の人々との関係が親密になった」(94.4%)、「結婚した」(87.3%)、「こどもが生まれた」(84.6%)、「自分が転居(引越し)をした」(81.0%)等の場合に高くなっている(図表11-7)。

図表 11-7 生活上の変化別、被害からの回復度【Q50、Q53】

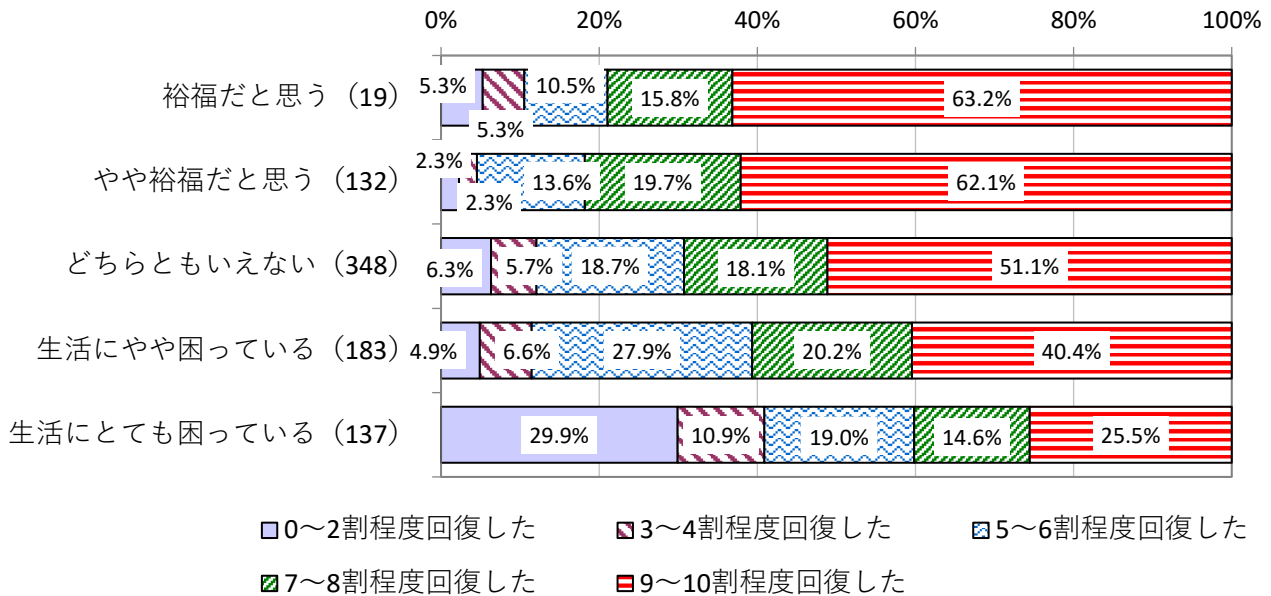


(4)経済的状況との関係

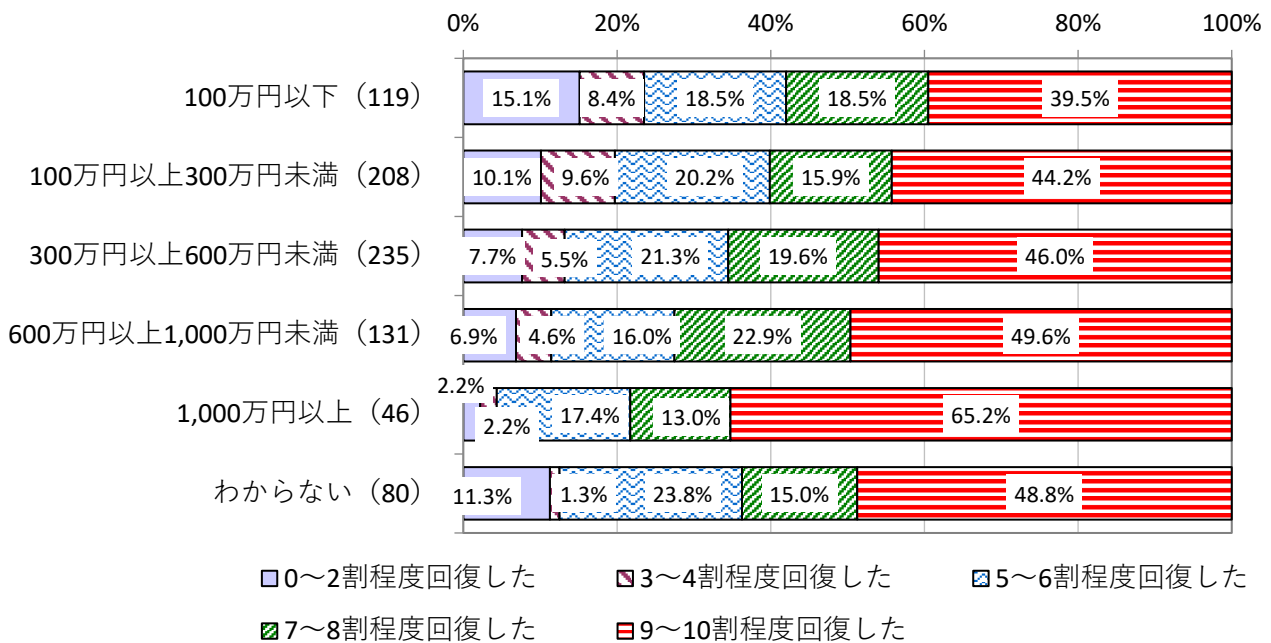
被害からの回復度について、経済的状況に関する意識別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「生活にとっても困っている」場合は59.1%であり、他の場合と比べて低くなっている（図表11-8）。

現在の年収水準（世帯年収）別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「100万円以下」が76.5%であるのに対し、「1,000万円以上」は95.6%と、年収が高くなるにつれて高くなっている（図表11-9）。

図表 11-8 経済的状況に関する意識別、被害からの回復度【Q37、Q53】



図表 11-9 現在の年収水準（世帯年収）別、被害からの回復度【Q39、Q53】



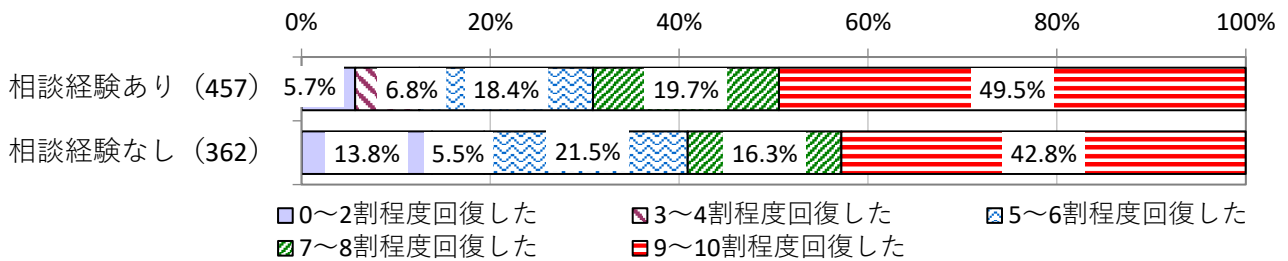
(5) 周囲の人々や支援者等との接触の関係

被害からの回復度について、被害にあった際の相談の有無別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「相談経験あり」の場合が 87.6%であるのに対し、「相談経験なし」の場合は 80.6%となっている（図表 11-10）。

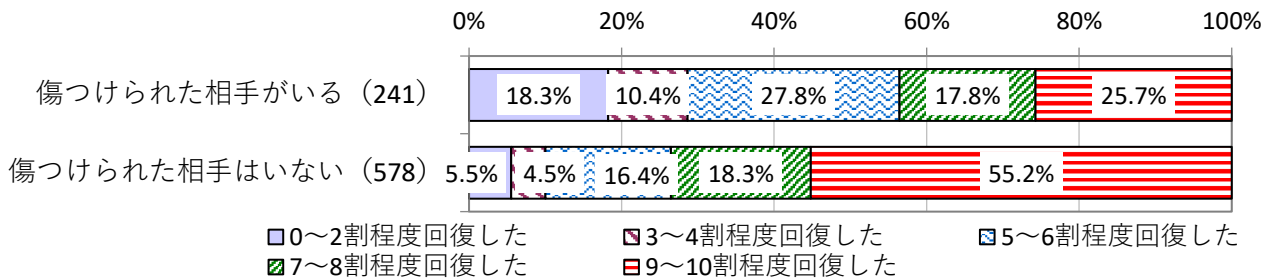
事件後に受けた言動等で傷つけられた経験の有無別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「傷つけられた相手がいる」場合が 71.3%であるのに対し、「傷つけられた相手はいない」場合は 89.9%となっている（図表 11-11）。

事件後に受けた言動等で支えられた経験の有無別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「支えられた相手がいる」場合が 87.6%であるのに対し、「支えられた相手はいない」場合は 81.7%となっている。他方、7割以上回復した（「7～8割程度回復した」と「9～10割程度回復した」の和）との回答比率は、「支えられた相手がいる」場合（63.3%）と「支えられた相手はいない」場合（66.0%）に大きな差異は見受けられない（図表 11-12）。

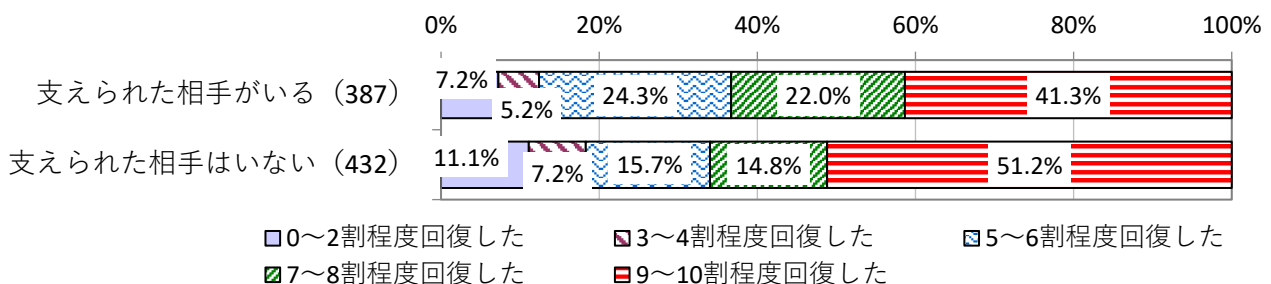
図表 11-10 相談の有無別、被害からの回復度【SC5、Q53】



図表 11-11 事件後に受けた言動等で傷つけられた経験の有無別、被害からの回復度【Q62、Q53】



図表 11-12 事件後に受けた言動等で支えられた経験の有無別、被害からの回復度【Q62、Q53】



2-12. 支援・制度の利用状況とニーズ

支援・制度の利用状況とニーズとして、犯罪被害者等が支援を受けた／制度を利用した機関・団体とその満足度、被害直後と現在の支援ニーズ、地方公共団体に設置されている総合的対応窓口の認知・利用状況等について分析する。

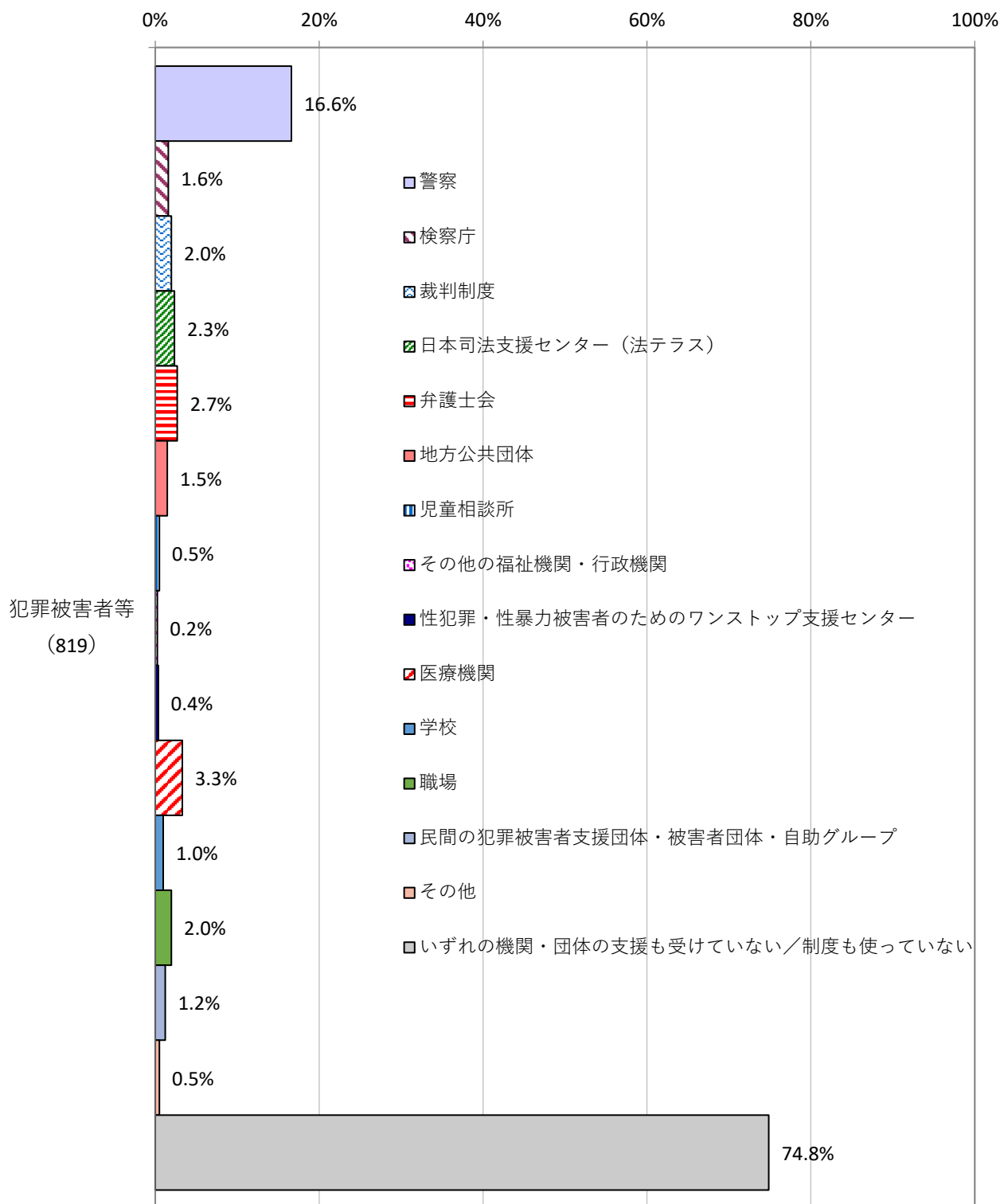
(1) 支援を受けた／制度を利用した機関・団体

回答者や家族が支援を受けた／制度を利用したことがある機関・団体については、「いずれの機関・団体の支援も受けていない／制度も使っていない」との回答比率が74.8%と最も高く、次いで「警察」(16.6%)、「医療機関」(3.3%)、「弁護士会」(2.7%)となっている(図表1 2-1)。

犯罪被害類型別にみると、「いずれの機関・団体の支援も受けていない／制度も使っていない」との回答比率は児童虐待(90.8%)が最も高く、次いで性的な被害(89.9%)、配偶者暴力(77.2%)となっている。また、支援を受けた／制度を利用した回答者の中では、全ての類型で「警察」との回答比率が最も高くなっている(図表1 2-2)。

被害の時期別にみると、「いずれの機関・団体の支援も受けていない／制度も使っていない」との回答比率が、「それ以前」では82.0%、「3～10年以内」では58.7%、「3年以内」では56.1%と、近年になるほど低くなっている。また、多くの機関・団体において、支援を受けた／制度を利用したとの回答比率が近年になるほど高くなっている(図表1 2-3)。

図表 12-1 支援を受けた／制度を利用した機関・団体（複数回答）【Q58】



図表 1 2-2 犯罪被害類型別、支援を受けた／制度を利用した機関・団体（複数回答）【SC1/SC3、Q58】

	全体	警察	検察庁	裁判制度	日本司法支援センター (法テラス)	弁護士会	地方公共団体	児童相談所
犯罪被害者等	819	136 (16.6%)	13 (1.6%)	16 (2.0%)	19 (2.3%)	22 (2.7%)	12 (1.5%)	4 (0.5%)
財産被害	139	40 (28.8%)	4 (2.9%)	3 (2.2%)	6 (4.3%)	2 (1.4%)	3 (2.2%)	1 (0.7%)
配偶者暴力	114	12 (10.5%)	1 (0.9%)	7 (6.1%)	5 (4.4%)	3 (2.6%)	4 (3.5%)	1 (0.9%)
ストーカー行為等	125	18 (14.4%)	2 (1.6%)	3 (2.4%)	3 (2.4%)	2 (1.6%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)
児童虐待	109	4 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)
性的な被害	119	6 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)
交通事故	104	24 (23.1%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	10 (9.6%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)
暴力被害	109	32 (29.4%)	5 (4.6%)	3 (2.8%)	3 (2.8%)	3 (2.8%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)

	その他の福祉機関・行政機関	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター	医療機関	学校	職場	民間の犯罪被害者支援団体・被害者団体・自助グループ	その他	いずれの機関・団体の支援も受けていない／制度も使っていない
犯罪被害者等	2 (0.2%)	3 (0.4%)	27 (3.3%)	8 (1.0%)	16 (2.0%)	10 (1.2%)	4 (0.5%)	613 (74.8%)
財産被害	1 (0.7%)	0 (0.0%)	3 (2.2%)	1 (0.7%)	3 (2.2%)	2 (1.4%)	1 (0.7%)	90 (64.7%)
配偶者暴力	0 (0.0%)	1 (0.9%)	3 (2.6%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	88 (77.2%)
ストーカー行為等	0 (0.0%)	1 (0.8%)	3 (2.4%)	3 (2.4%)	4 (3.2%)	3 (2.4%)	0 (0.0%)	96 (76.8%)
児童虐待	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	99 (90.8%)
性的な被害	0 (0.0%)	1 (0.8%)	4 (3.4%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	107 (89.9%)
交通事故	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (6.7%)	0 (0.0%)	6 (5.8%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	67 (64.4%)
暴力被害	1 (0.9%)	0 (0.0%)	6 (5.5%)	1 (0.9%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	66 (60.6%)

図表 12-3 被害の時期別、支援を受けた／制度を利用した機関・団体（複数回答）【SC2、Q58】

	全体	警察	検察庁	裁判制度	日本司法 支援セン ター(法テラ ス)	弁護士会	地方公共 団体	児童相談 所
3年以内	98	27 (27.6%)	6 (6.1%)	6 (6.1%)	8 (8.2%)	5 (5.1%)	4 (4.1%)	2 (2.0%)
3～10年以内	143	36 (25.2%)	3 (2.1%)	3 (2.1%)	6 (4.2%)	5 (3.5%)	5 (3.5%)	0 (0.0%)
それ以前	578	73 (12.6%)	4 (0.7%)	7 (1.2%)	5 (0.9%)	12 (2.1%)	3 (0.5%)	2 (0.3%)

	その他の福 祉機関・行 政機関	性犯罪・性 暴力被害 者のための ワンストップ 支援セン ター	医療機関	学校	職場	民間の犯 罪被害者 支援団体・ 被害者団 体・自助グ ループ	その他	いずれの機 関・団体の 支援も受け ていない/ 制度も使っ ていない
3年以内	1 (1.0%)	1 (1.0%)	6 (6.1%)	1 (1.0%)	6 (6.1%)	4 (4.1%)	0 (0.0%)	55 (56.1%)
3～10年以内	0 (0.0%)	1 (0.7%)	6 (4.2%)	4 (2.8%)	6 (4.2%)	2 (1.4%)	1 (0.7%)	84 (58.7%)
それ以前	1 (0.2%)	1 (0.2%)	15 (2.6%)	3 (0.5%)	4 (0.7%)	4 (0.7%)	3 (0.5%)	474 (82.0%)

(2)支援を受けた／制度を利用した機関・団体への満足度

回答者や家族が支援を受けた／制度を利用したことがある機関・団体の対応への満足度については、図表1 2-4のとおり。

図表 1 2-4 支援を受けた／制度を利用した機関・団体への満足度【Q59】

	全体	満足した	やや満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	満足しなかった
警察	136	18 (13.2%)	34 (25.0%)	40 (29.4%)	18 (13.2%)	26 (19.1%)
検察庁	13	2 (15.4%)	5 (38.5%)	4 (30.8%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)
裁判制度	16	1 (6.3%)	8 (50.0%)	6 (37.5%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)
日本司法支援センター(法テラス)	19	3 (15.8%)	3 (15.8%)	8 (42.1%)	2 (10.5%)	3 (15.8%)
弁護士会	22	4 (18.2%)	7 (31.8%)	6 (27.3%)	4 (18.2%)	1 (4.5%)
地方公共団体	12	1 (8.3%)	1 (8.3%)	5 (41.7%)	2 (16.7%)	3 (25.0%)
児童相談所	4	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)
その他の福祉機関・行政機関	2	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)
性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター	3	0 (0.0%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)
医療機関	27	4 (14.8%)	13 (48.1%)	4 (14.8%)	5 (18.5%)	1 (3.7%)
学校	8	0 (0.0%)	3 (37.5%)	3 (37.5%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)
職場	16	3 (18.8%)	8 (50.0%)	4 (25.0%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)
民間の犯罪被害者支援団体・被害者団体・自助グループ	10	1 (10.0%)	4 (40.0%)	4 (40.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)
その他	4	0 (0.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)

(3)被害直後と現在の支援ニーズ

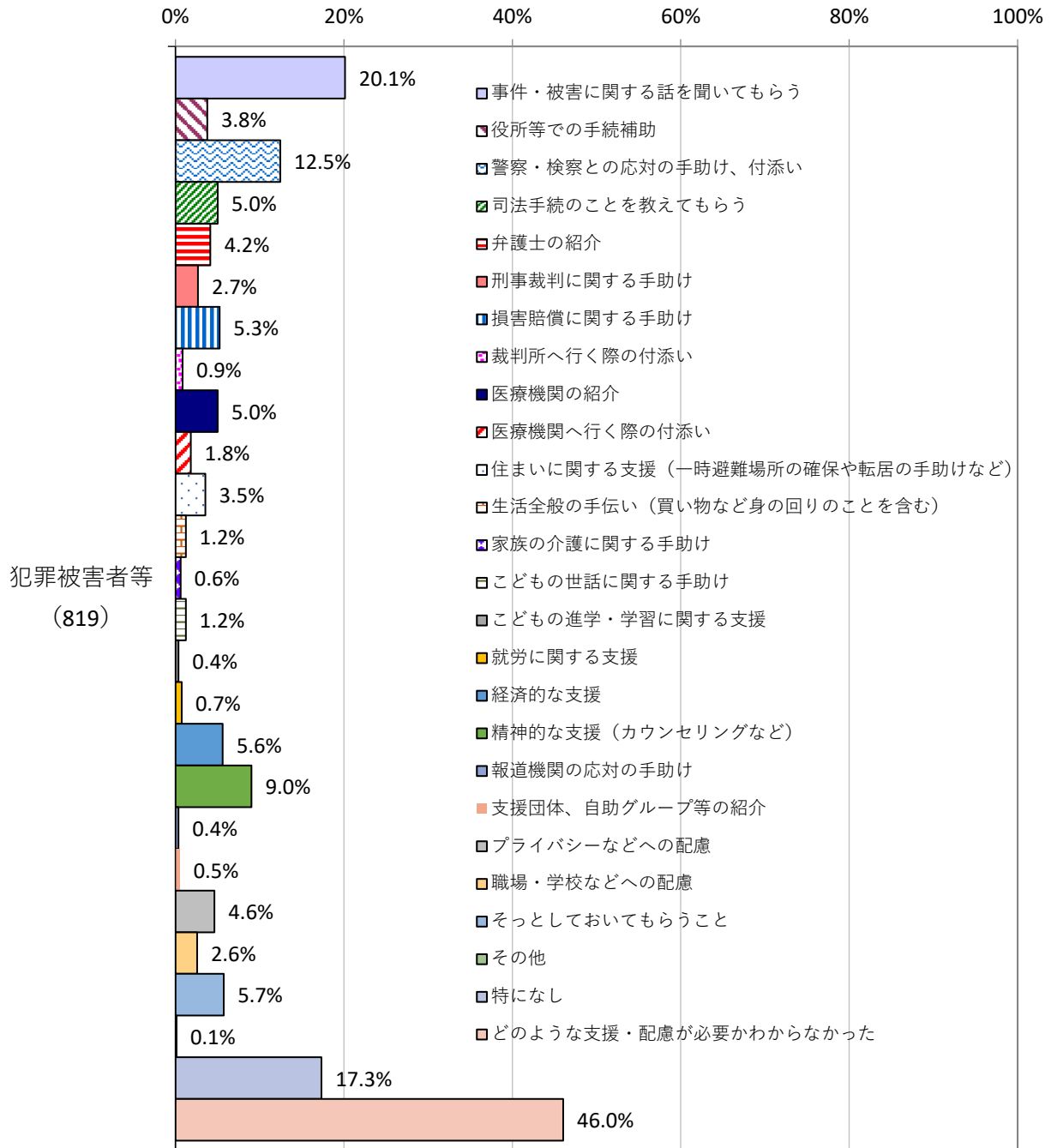
回答者や家族が被害直後に必要とした、また現在必要としている支援・配慮については、双方とも「どのような支援・配慮が必要かわからなかった」との回答比率がそれぞれ46.0%、43.6%と最も高くなっている。具体的な支援・配慮の中では、被害直後では「事件・被害に関する話を聞いてもらう」(20.1%)が最も高く、「警察・検察との応対の手助け、付添い」(12.5%)、「精神的な支援(カウンセリングなど)」(9.0%)が続いている。現在では「特になし」(29.2%)が最も高く、「事件・被害に関する話を聞いてもらう」(8.8%)、「精神的な支援(カウンセリングなど)」(8.4%)が続いている(図表1 2-5)。

被害の時期別にみると、被害直後と現在ともに、「どのような支援・配慮が必要かわからなかった」との回答比率が、近年になるほど低くなっている。また、「事件・被害に関する話を聞いてもらう」「警察・検察との応対の手助け、付添い」「精神的な支援(カウンセリングなど)」等との回答比率は、近年になるほど高くなっている(図表1 2-6)。

図表 12-5 被害を受けた直後、現在において必要な支援等（複数回答）【Q61】

<被害を受けた直後>

・犯罪被害者等全体



<被害を受けた直後>

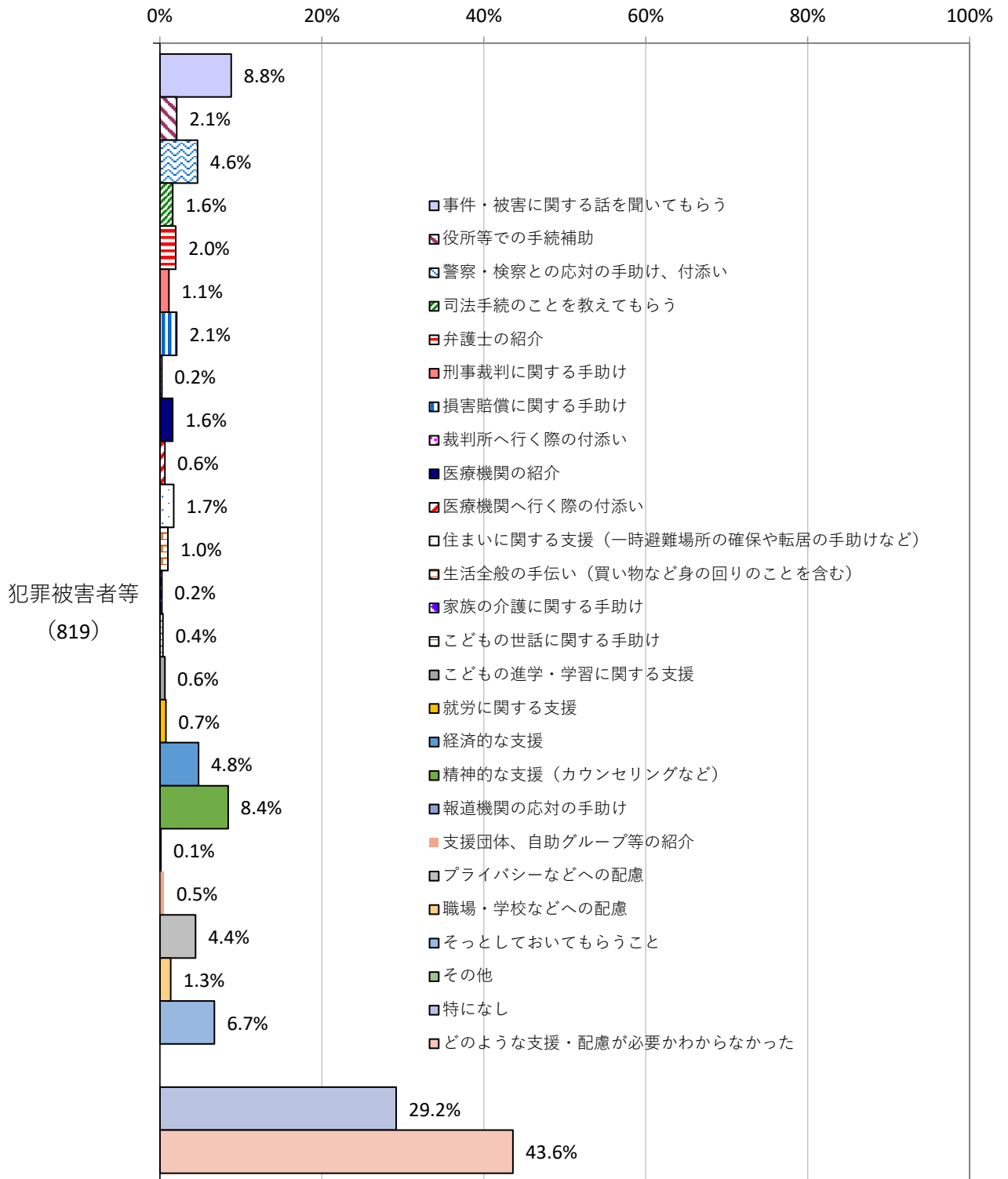
・7 類型別

全体	事件・被害に関する話を聞いてもらう	役所等での手続補助	警察・検察との対応の助け、付添い	司法手続のことを教えてもらう	弁護士の紹介	刑事裁判に関する手助け	損害賠償に関する手助け	裁判所へ行く際の付添い	医療機関の紹介	医療機関へ行く際の付添い	住まいに関する支援(一時避難場所の確保や転居の手助けなど)	生活全般の手伝い(買い物などの身の回りのことを含む)	家族の介護に関する手助け
犯罪被害者等	819 (20.1%)	165 (3.8%)	31 (12.5%)	102 (5.0%)	41 (4.2%)	34 (2.7%)	22 (5.3%)	43 (0.9%)	7 (5.0%)	41 (1.8%)	15 (3.5%)	29 (1.2%)	10 (0.6%)
財産被害	139 (27.3%)	38 (3.6%)	5 (16.5%)	23 (5.8%)	8 (3.6%)	5 (2.9%)	4 (7.9%)	11 (0.7%)	1 (2.2%)	3 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (1.4%)	2 (0.7%)
配偶者暴力	114 (19.3%)	22 (4.4%)	5 (2.6%)	3 (8.8%)	10 (6.1%)	7 (1.8%)	2 (3.5%)	4 (0.0%)	0 (4.4%)	5 (0.9%)	1 (4.4%)	5 (0.0%)	0 (0.0%)
ストーカー行為等	125 (30.4%)	38 (2.4%)	3 (16.8%)	21 (4.0%)	5 (5.6%)	7 (4.8%)	6 (4.8%)	6 (1.6%)	2 (3.2%)	4 (1.8%)	2 (5.6%)	7 (2.4%)	3 (0.8%)
児童虐待	109 (12.8%)	14 (1.8%)	2 (7.3%)	8 (2.8%)	3 (3.7%)	4 (2.8%)	4 (4.6%)	5 (0.0%)	0 (3.7%)	4 (1.8%)	2 (8.3%)	9 (0.9%)	1 (0.9%)
性的な被害	119 (14.3%)	17 (1.7%)	2 (7.6%)	9 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (2.5%)	3 (1.7%)	2 (0.8%)	1 (3.4%)	4 (0.0%)	0 (1.7%)	2 (0.0%)	0 (0.0%)
交通事故	104 (11.5%)	12 (6.7%)	7 (15.4%)	16 (5.8%)	6 (6.7%)	7 (0.0%)	0 (8.7%)	9 (0.0%)	0 (10.6%)	11 (4.8%)	5 (0.0%)	0 (3.8%)	4 (1.0%)
暴力被害	109 (22.0%)	24 (6.4%)	7 (20.2%)	22 (7.3%)	8 (2.8%)	3 (3.7%)	4 (5.5%)	6 (2.8%)	3 (9.2%)	10 (3.7%)	4 (4.6%)	5 (0.0%)	0 (0.9%)

子どもの世話に関する手助け	子どもの進学・学習に関する支援	就労に関する支援	経済的な支援	精神的な支援(カウンセリングなど)	報道機関の対応の手助け	支援団体、自助グループ等の紹介	プライバシーなどへの配慮	職場・学校などへの配慮	そっとしてもらおうこと	その他	特になし	どのような支援・配慮が必要かわからなかった
犯罪被害者等	10 (1.2%)	3 (0.4%)	6 (0.7%)	46 (5.6%)	74 (9.0%)	3 (0.4%)	4 (0.5%)	38 (4.6%)	21 (2.6%)	47 (5.7%)	1 (0.1%)	142 (17.3%)
財産被害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (4.3%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	3 (2.2%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	32 (23.0%)
配偶者暴力	6 (5.3%)	1 (0.9%)	2 (1.8%)	8 (7.0%)	15 (13.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.6%)	1 (0.9%)	7 (6.1%)	0 (0.0%)	19 (16.7%)
ストーカー行為等	2 (1.6%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	3 (2.4%)	15 (12.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	9 (7.2%)	6 (4.8%)	10 (8.0%)	0 (0.0%)	15 (12.0%)
児童虐待	1 (0.9%)	1 (0.9%)	2 (1.8%)	14 (12.8%)	17 (15.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (8.3%)	2 (1.8%)	7 (6.4%)	0 (0.0%)	12 (11.0%)
性的な被害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	7 (5.9%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	6 (5.0%)	4 (3.4%)	11 (9.2%)	0 (0.0%)	21 (17.6%)
交通事故	1 (1.0%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)	7 (6.7%)	6 (5.8%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	3 (2.9%)	2 (1.9%)	3 (2.9%)	0 (0.0%)	25 (24.0%)
暴力被害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (6.4%)	13 (11.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	5 (4.6%)	5 (4.6%)	9 (8.3%)	0 (0.0%)	18 (16.5%)

<現在>

・犯罪被害者等全体



<現在>

・7類型別

全体	事件・被害に関する話を聞いてもらう	役所等での手続補助	警察・検察との対応の助け、付添い	司法手続のことを教えてもらう	弁護士を紹介	刑事裁判に関する手助け	損害賠償に関する手助け	裁判所へ行く際の付添い	医療機関の紹介	医療機関へ行く際の付添い	住まいに関する支援(一時避難場所の確保や転居の手助けなど)	生活全般の手伝い(買い物など身の回りのことを含む)	家族の介護に関する手助け
犯罪被害者等	819 (8.9%)	72 (2.1%)	17 (4.6%)	38 (4.6%)	13 (1.6%)	16 (2.0%)	9 (1.1%)	17 (2.1%)	2 (0.2%)	13 (1.6%)	5 (0.6%)	14 (1.7%)	8 (1.0%)
財産被害	139 (12.9%)	18 (2.2%)	3 (6.5%)	9 (2.9%)	4 (2.2%)	3 (2.2%)	2 (1.4%)	5 (3.6%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)	2 (0.0%)
配偶者暴力	114 (6.1%)	7 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.9%)
ストーカー行為等	125 (12.0%)	15 (1.6%)	2 (1.6%)	11 (8.8%)	4 (3.2%)	5 (4.0%)	4 (3.2%)	3 (2.4%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	4 (3.2%)	2 (1.6%)
児童虐待	109 (11.0%)	12 (2.8%)	3 (3.7%)	4 (3.7%)	2 (1.8%)	3 (2.8%)	1 (0.9%)	3 (2.8%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	6 (5.5%)	1 (0.9%)
性的な被害	119 (5.0%)	6 (1.7%)	2 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	3 (2.5%)	1 (0.8%)	0 (0.8%)	1 (0.8%)
交通事故	104 (3.8%)	4 (2.9%)	3 (4.8%)	5 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.9%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)
暴力被害	109 (9.2%)	10 (2.8%)	3 (6.4%)	7 (6.4%)	2 (1.8%)	3 (2.8%)	0 (0.9%)	2 (1.8%)	1 (0.9%)	3 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

子どもの世話に関する手助け	子どもの進学・学習に関する支援	就労に関する支援	経済的な支援	精神的な支援(カウンセリングなど)	報道機関の対応の手助け	支援団体、自助グループ等の紹介	プライバシーなどへの配慮	職場・学校などへの配慮	そっとしておいてもらうこと	その他	特になし	どのような支援・配慮が必要かわからなかった
犯罪被害者等	3 (0.4%)	5 (0.6%)	6 (0.7%)	39 (4.8%)	69 (8.4%)	1 (0.1%)	4 (0.5%)	36 (4.4%)	11 (1.3%)	55 (6.7%)	0 (0.0%)	239 (29.2%)
財産被害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (3.6%)	4 (2.9%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	6 (4.3%)	1 (0.7%)	4 (2.9%)	0 (0.0%)	51 (39.6%)
配偶者暴力	3 (2.6%)	4 (3.5%)	1 (0.9%)	8 (7.0%)	16 (14.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.6%)	1 (0.9%)	9 (7.9%)	0 (0.0%)	30 (26.3%)
ストーカー行為等	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	3 (2.4%)	12 (9.6%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	9 (7.2%)	4 (3.2%)	17 (13.6%)	0 (0.0%)	26 (20.8%)
児童虐待	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	10 (9.2%)	19 (17.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (7.3%)	2 (1.8%)	9 (8.3%)	0 (0.0%)	21 (19.3%)
性的な被害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	2 (1.7%)	6 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (5.9%)	2 (1.7%)	7 (5.9%)	0 (0.0%)	35 (29.4%)
交通事故	0 (0.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	7 (6.7%)	5 (4.8%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	41 (39.4%)
暴力被害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	4 (3.7%)	7 (6.4%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	7 (6.4%)	0 (0.0%)	35 (32.1%)

図表 12-6 被害の時期別、被害を受けた直後、現在において必要な支援等
(複数回答)【SC2、Q61】

<被害を受けた直後>

全体	事件・被害に関する話を聞いてもらう	役所等での手続補助	警察・検察との対応の助け、付添い	司法手続のことを教えてもらう	弁護士を紹介	刑事裁判に関する手助け	損害賠償に関する手助け	裁判所へ行く際の付添い	医療機関の紹介	医療機関へ行く際の付添い	住まいに関する支援(一時避難場所の確保や転居の手助けなど)	生活全般の手伝い(買い物など身の回りのことを含む)	家族の介護に関する手助け
3年以内	98 (37.8%)	37 (6.1%)	6 (21.4%)	21 (11.2%)	11 (9.2%)	9 (3.1%)	3 (7.1%)	7 (2.0%)	2 (5.1%)	5 (2.0%)	2 (2.0%)	2 (1.0%)	1 (1.0%)
3~10年以内	143 (29.4%)	42 (8.4%)	12 (20.3%)	29 (8.4%)	12 (7.7%)	11 (4.2%)	6 (7.7%)	11 (1.4%)	2 (7.0%)	10 (2.1%)	3 (2.8%)	4 (1.4%)	2 (0.7%)
それ以前	578 (14.9%)	86 (2.2%)	13 (9.0%)	52 (3.1%)	18 (3.1%)	14 (2.4%)	13 (4.3%)	25 (0.5%)	3 (4.5%)	26 (1.7%)	10 (4.0%)	23 (1.2%)	7 (0.5%)

子どもの世話に関する手助け	子どもの進学・学習に関する支援	就労に関する支援	経済的な支援	精神的な支援(カウンセリングなど)	報道機関の対応の手助け	支援団体、自助グループ等の紹介	プライバシーなどへの配慮	職場・学校などへの配慮	そっとしておいてもらうこと	その他	特になし	どのような支援・配慮が必要かわからなかった
3年以内	2 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (5.1%)	15 (15.3%)	2 (2.0%)	0 (0.0%)	6 (6.1%)	3 (3.1%)	7 (7.1%)	0 (0.0%)	11 (11.2%)
3~10年以内	3 (2.1%)	2 (1.4%)	1 (0.7%)	5 (3.5%)	15 (10.5%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)	9 (6.3%)	5 (3.5%)	8 (5.6%)	0 (0.0%)	14 (9.9%)
それ以前	5 (0.9%)	1 (0.2%)	5 (0.9%)	36 (6.2%)	44 (7.6%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)	23 (4.0%)	13 (2.2%)	32 (5.5%)	1 (0.2%)	117 (49.8%)

<現在>

	全体	事件・被害に関する話を聞いてもらう	役所等での手続補助	警察・検察との対応の助け、付添い	司法手続のことを教えてもらう	弁護士の紹介	刑事裁判に関する手助け	損害賠償に関する手助け	裁判所へ行く際の付添い	医療機関への紹介	医療機関へ行く際の付添い	住まいに関する支援(一時避難場所の確保や転居の手助けなど)	生活全般の手伝い(買物の回りのことを含む)	家族の介護に関する手助け
3年以内	98	21 (21.4%)	6 (6.1%)	9 (9.2%)	4 (4.1%)	4 (4.1%)	2 (2.0%)	6 (6.1%)	0 (0.0%)	4 (4.1%)	2 (2.0%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)
3~10年以内	143	18 (12.6%)	3 (2.1%)	10 (7.0%)	3 (2.1%)	4 (2.8%)	2 (1.4%)	3 (2.1%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	3 (2.1%)	2 (1.4%)	1 (0.7%)
それ以前	578	33 (5.7%)	8 (1.4%)	19 (3.3%)	6 (1.0%)	8 (1.4%)	5 (0.9%)	8 (1.4%)	1 (0.2%)	8 (1.4%)	2 (0.3%)	10 (1.7%)	5 (0.9%)	1 (0.2%)

	こどもの世話に関する手助け	こどもの進学・学習に関する支援	就労に関する支援	経済的な支援	精神的な支援(カウンセリングなど)	報道機関の対応の手助け	支援団体、自助グループ等の紹介	プライバシーなどへの配慮	職場・学校などへの配慮	そっとしておいてもらうこと	その他	特になし	どのような支援・配慮が必要かわからなかった
3年以内	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (7.1%)	15 (15.3%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)	7 (7.1%)	3 (3.1%)	8 (8.2%)	0 (0.0%)	14 (14.3%)	38 (38.8%)
3~10年以内	0 (0.0%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	6 (4.2%)	12 (8.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (4.9%)	2 (1.4%)	9 (6.3%)	0 (0.0%)	30 (21.0%)	62 (43.4%)
それ以前	2 (0.3%)	3 (0.5%)	6 (1.0%)	26 (4.5%)	42 (7.3%)	0 (0.0%)	3 (0.5%)	22 (3.8%)	6 (1.0%)	38 (6.6%)	0 (0.0%)	195 (33.7%)	257 (44.5%)

(4)総合的対応窓口の認知・利用状況

ア. 総合的対応窓口の認知度

犯罪被害者等における総合的対応窓口の認知状況については、認知度（「被害にあったのちに知った」と「被害にあう前から知っていた」の和）は15.6%であった（図表12-7）。

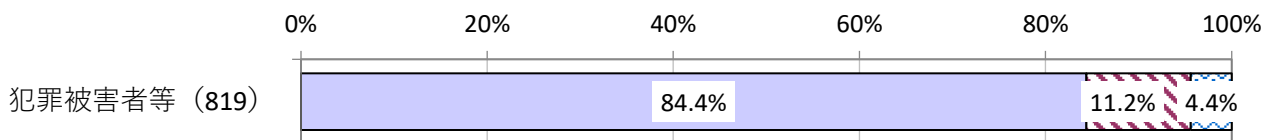
回答者の性別ごとにみると、男性の認知度は16.7%、女性の認知度は14.5%である（図表12-8）。

回答者の年齢層別にみると、若年層と高齢層で認知度が高く、壮年層で低い傾向がみられる（図表12-9）。

被害の時期別にみると、「それ以前」（12.1%）、「3～10年以内」（19.6%）、「3年以内」（30.6%）と、近年になるほど認知度が高くなっている（図表12-10）。

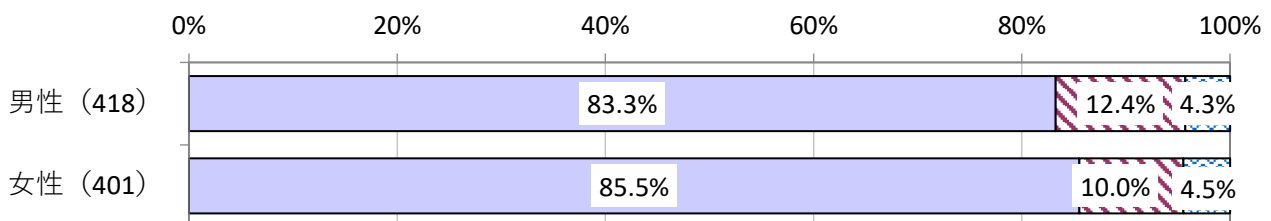
なお、一般対象者における総合的対応窓口の認知度は、2.8%となっている（図表12-11）。

図表 12-7 総合的対応窓口の認知の有無【Q54】



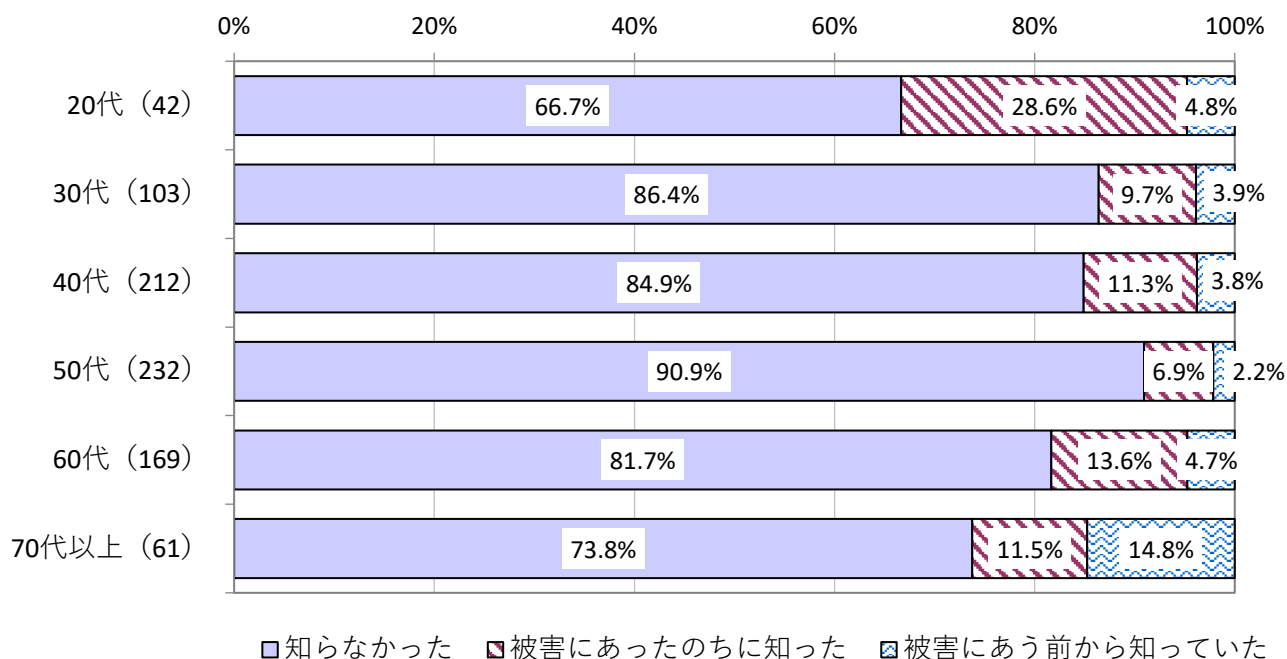
□ 知らなかった ■ 被害にあったのちに知った ▨ 被害にあう前から知っていた

図表 12-8 性別、総合的対応窓口の認知の有無【F1、Q54】

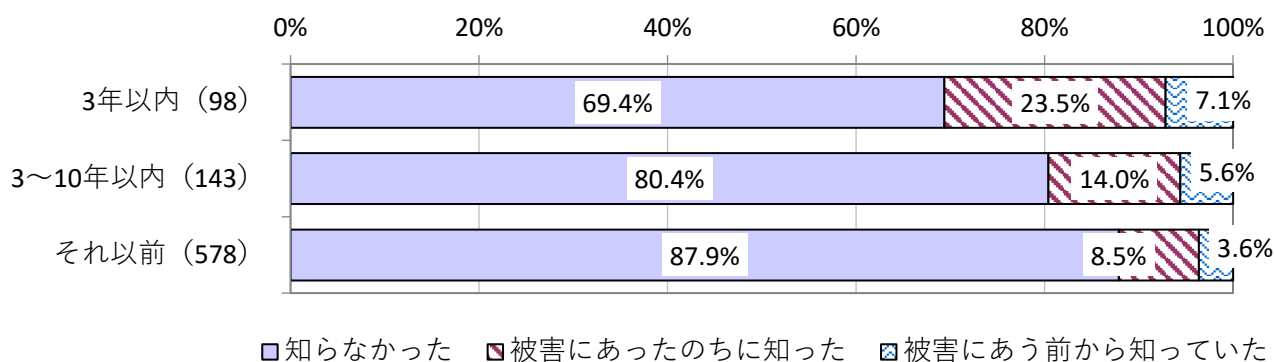


□ 知らなかった ■ 被害にあったのちに知った ▨ 被害にあう前から知っていた

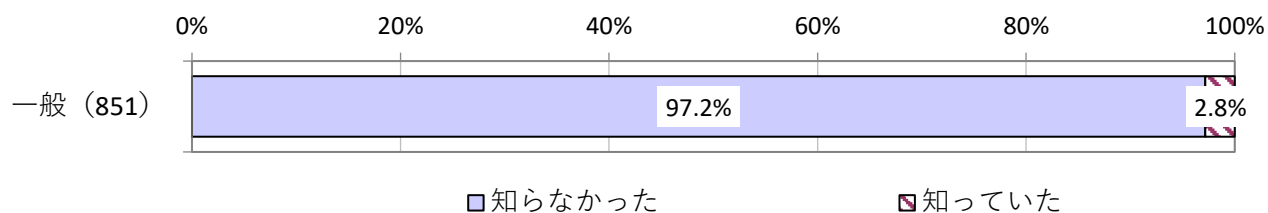
図表 1 2-9 年齢層別、総合的対応窓口の認知の有無【F2、Q54】



図表 1 2-10 被害の時期別、総合的対応窓口の認知の有無【SC2、Q54】



図表 1 2-11 一般対象者、総合的対応窓口の認知の有無【P8】



イ. 総合的対応窓口を知ったきっかけ

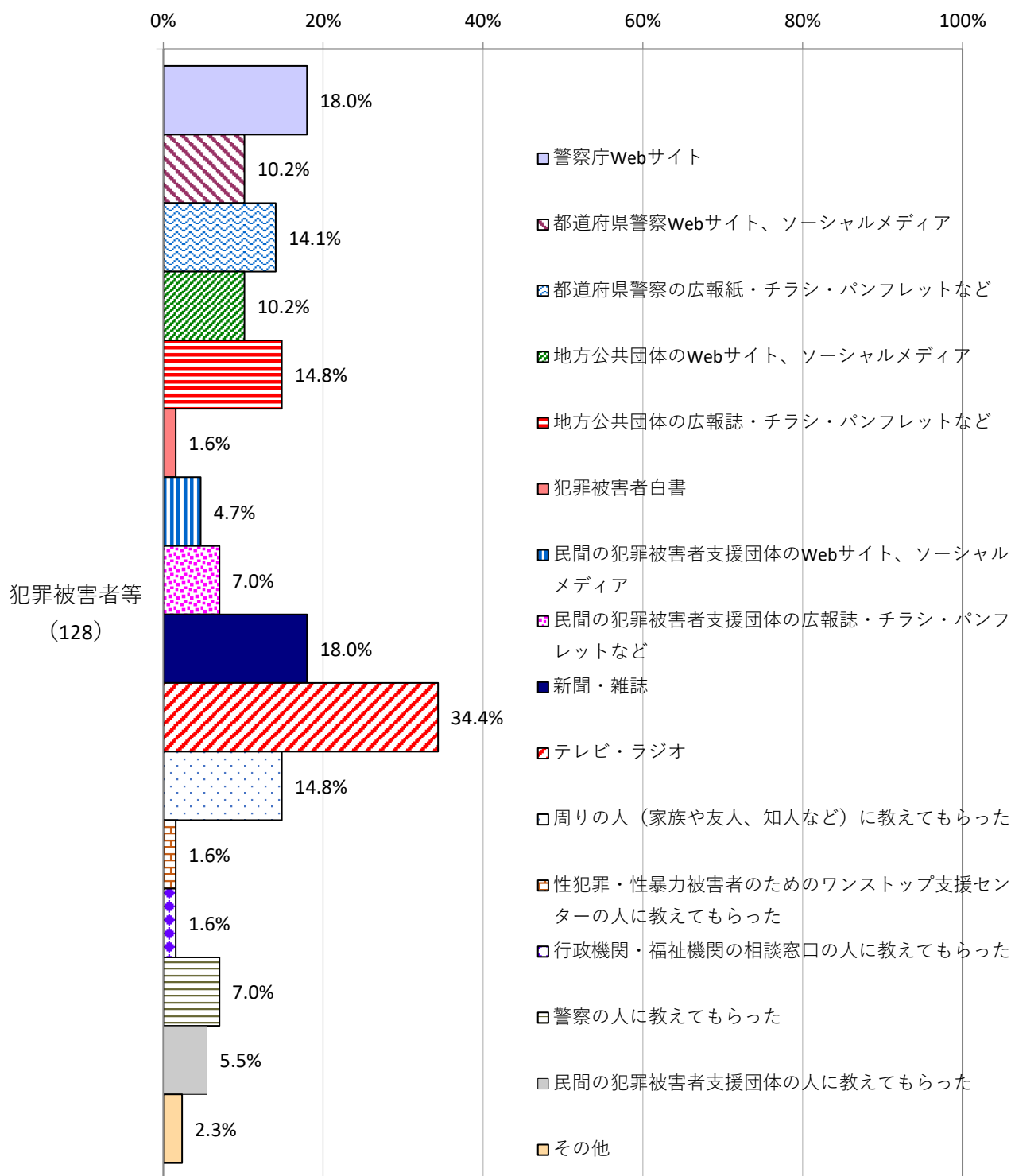
犯罪被害者等の総合的対応窓口を知ったきっかけについては、「テレビ・ラジオ」(34.4%)との回答比率が最も高く、次いで「警察庁 Web サイト」「新聞・雑誌」(それぞれ 18.0%)となっている(図表 1 2-1 2)。

回答者の性別ごとにみると、「警察庁 Web サイト」との回答比率は男性(27.1%)が女性(6.9%)を 20.2 ポイント、「テレビ・ラジオ」との回答比率は女性(37.9%)が男性(31.4%)を 6.5 ポイント上回っている(図表 1 2-1 3)。

被害の時期別にみると、「警察庁 Web サイト」「都道府県警察の広報紙・チラシ・パンフレットなど」「地方公共団体の Web サイト、ソーシャルメディア」との回答比率は、近年になるほど高くなっている(図表 1 2-1 4)。

回答者の年齢層別については、図表 1 2-1 5 のとおり。

図表 12-12 総合的対応窓口を知ったきっかけ（複数回答）【Q55】



※対象：Q54（「総合的対応窓口」の認知の有無）で「知らなかった」と回答した方（691人）を除く。

図表 12-13 性別、総合的対応窓口を知ったきっかけ（複数回答）【F1、Q55】

	全体	警察庁Web サイト	都道府県警 察Webサイ ト、ソーシ ャルメデア	都道府県警 察の広報 紙・チラシ パンフレッ トなど	地方公共団 体のWebサ イト、ソー シャルメデア	地方公共団 体の広報 誌・チラシ パンフレッ トなど	犯罪被害者 白書	民間の犯罪 被害者支援 団体のWeb サイト、ソー シャルメデア	民間の犯罪 被害者支援 団体の広報 誌・チラシ パンフレッ トなど
男性	70	19 (27.1%)	10 (14.3%)	12 (17.1%)	10 (14.3%)	11 (15.7%)	1 (1.4%)	3 (4.3%)	4 (5.7%)
女性	58	4 (6.9%)	3 (5.2%)	6 (10.3%)	3 (5.2%)	8 (13.8%)	1 (1.7%)	3 (5.2%)	5 (8.6%)

	新聞・雑誌	テレビ・ラジ オ	周りの人(家 族や友人、 知人など)に 教えてもらっ た	性犯罪・性 暴力被害者 のためのワ ンストップ支 援センター の人に教え てもらった	行政機関・ 福祉機関の 相談窓口の 人に教えて もらった	警察の人に 教えてもらっ た	民間の犯罪 被害者支援 団体の人に 教えてもらっ た	その他
男性	17 (24.3%)	22 (31.4%)	11 (15.7%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	5 (7.1%)	3 (4.3%)	1 (1.4%)
女性	6 (10.3%)	22 (37.9%)	8 (13.8%)	1 (1.7%)	2 (3.4%)	4 (6.9%)	4 (6.9%)	2 (3.4%)

※対象：Q54（「総合的対応窓口」の認知の有無）で「知らなかった」と回答した方（691人）を除く。

図表 12-14 被害の時期別、総合的対応窓口を知ったきっかけ（複数回答）【SC2、Q55】

	全体	警察庁Web サイト	都道府県警 察Webサイ ト、ソーシ ャルメデア	都道府県警 察の広報 紙・チラシ パンフレッ トなど	地方公共団 体のWebサ イト、ソー シャルメデア	地方公共団 体の広報 誌・チラシ パンフレッ トなど	犯罪被害者 白書	民間の犯罪 被害者支援 団体のWeb サイト、ソー シャルメデア	民間の犯罪 被害者支援 団体の広報 誌・チラシ パンフレッ トなど
3年以内	30	11 (36.7%)	4 (13.3%)	5 (16.7%)	6 (20.0%)	4 (13.3%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)
3～10年以内	28	9 (32.1%)	6 (21.4%)	4 (14.3%)	4 (14.3%)	7 (25.0%)	0 (0.0%)	3 (10.7%)	3 (10.7%)
それ以前	70	3 (4.3%)	3 (4.3%)	9 (12.9%)	3 (4.3%)	8 (11.4%)	1 (1.4%)	3 (4.3%)	5 (7.1%)

	新聞・雑誌	テレビ・ラジ オ	周りの人(家 族や友人、 知人など)に 教えてもらっ た	性犯罪・性 暴力被害者 のためのワ ンストップ支 援センター の人に教え てもらった	行政機関・ 福祉機関の 相談窓口の 人に教えて もらった	警察の人に 教えてもらっ た	民間の犯罪 被害者支援 団体の人に 教えてもらっ た	その他
3年以内	3 (10.0%)	6 (20.0%)	3 (10.0%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	3 (10.0%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)
3～10年以内	5 (17.9%)	6 (21.4%)	4 (14.3%)	1 (3.6%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)	3 (10.7%)	0 (0.0%)
それ以前	15 (21.4%)	32 (45.7%)	12 (17.1%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	6 (8.6%)	3 (4.3%)	3 (4.3%)

※対象：Q54（「総合的対応窓口」の認知の有無）で「知らなかった」と回答した方（691人）を除く。

図表 12-15 年齢層別、総合的対応窓口を知ったきっかけ（複数回答）【F2、Q55】

	全体	警察庁Web サイト	都道府県警 察Webサイ ト、ソーシ ャルメデア	都道府県警 察の広報 紙・チラシ パンフレッ トなど	地方公共団 体のWebサ イト、ソー シャルメデ ィア	地方公共団 体の広報 誌・チラシ パンフレッ トなど	犯罪被害者 白書	民間の犯罪 被害者支援 団体のWeb サイト、ソー シャルメデ ィア	民間の犯 罪被害者 支援団体 の広報誌・ チラシ・パ ンフレッ トなど
20代	14	5 (35.7%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)
30代	14	5 (35.7%)	5 (35.7%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)
40代	32	5 (15.6%)	4 (12.5%)	6 (18.8%)	3 (9.4%)	6 (18.8%)	0 (0.0%)	2 (6.3%)	4 (12.5%)
50代	21	5 (23.8%)	1 (4.8%)	1 (4.8%)	3 (14.3%)	6 (28.6%)	0 (0.0%)	2 (9.5%)	1 (4.8%)
60代	31	2 (6.5%)	2 (6.5%)	5 (16.1%)	2 (6.5%)	3 (9.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.2%)
70代以上	16	1 (6.3%)	0 (0.0%)	4 (25.0%)	2 (12.5%)	4 (25.0%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

	新聞・雑誌	テレビ・ラジ オ	周りの人(家 族や友人、 知人など)に 教えてもらっ た	性犯罪・性 暴力被害者 のためのフ ンストップ支 援センター の人に教え てもらった	行政機関・ 福祉機関の 相談窓口の 人に教えて もらった	警察の人に 教えてもらっ た	民間の犯罪 被害者支援 団体の人に 教えてもらっ た	その他
20代	0 (0.0%)	2 (14.3%)	2 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (14.3%)	3 (21.4%)	0 (0.0%)
30代	2 (14.3%)	1 (7.1%)	4 (28.6%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	2 (14.3%)	0 (0.0%)
40代	3 (9.4%)	9 (28.1%)	3 (9.4%)	0 (0.0%)	1 (3.1%)	2 (6.3%)	1 (3.1%)	3 (9.4%)
50代	5 (23.8%)	8 (38.1%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)
60代	7 (22.6%)	16 (51.6%)	5 (16.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (6.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
70代以上	6 (37.5%)	8 (50.0%)	4 (25.0%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	3 (18.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

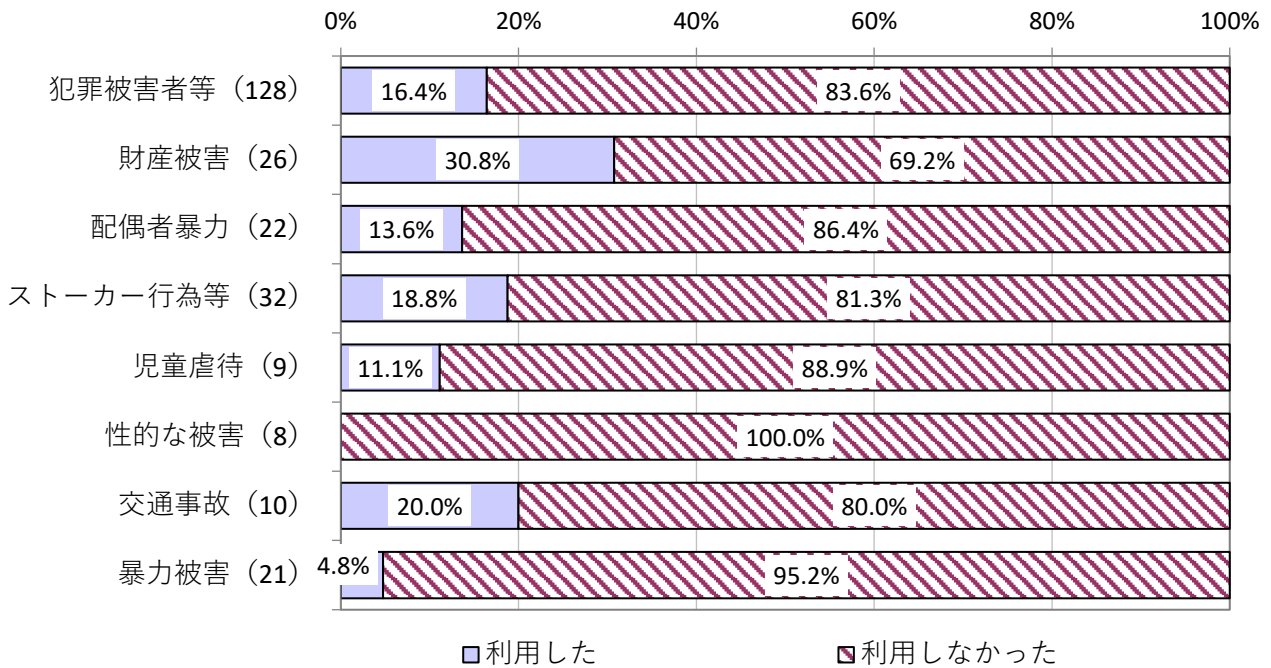
※対象：Q54（「総合的対応窓口」の認知の有無）で「知らなかった」と回答した方（691人）を除く。

ウ. 総合的対応窓口の利用の有無

総合的対応窓口の利用の有無について、犯罪被害者等全体では、窓口を知っていた方のうち、16.4%が利用したと回答している（図表12-16）。

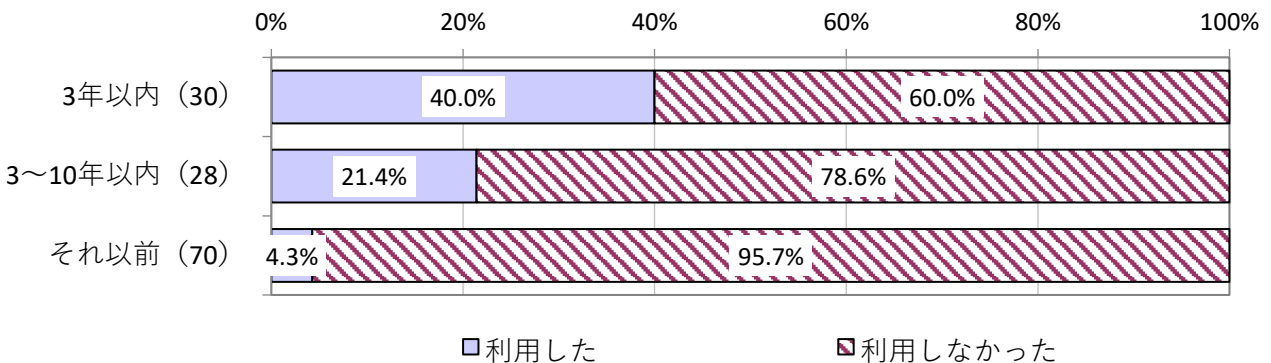
被害の時期別にみると、「それ以前」では4.3%、「3～10年以内」では21.4%、「3年以内」では40.0%と、近年になるほど利用率が高くなっている（図表12-17）。

図表 12-16 犯罪被害類型別、総合的対応窓口の利用の有無【SC1/SC3、Q56】



※対象：Q54（「総合的対応窓口」の認知の有無）で「知らなかった」と回答した方（691人）を除く。

図表 12-17 被害の時期別、総合的対応窓口の利用の有無【SC2、Q56】



※対象：Q54（「総合的対応窓口」の認知の有無）で「知らなかった」と回答した方（691人）を除く。

エ. 総合的対応窓口を利用しなかった理由

総合的対応窓口を利用しなかった理由について、犯罪被害者等全体としては、「窓口相談するほどの被害ではないと思ったから」(35.5%)との回答比率が最も高く、次いで「窓口相談すると物事がどのように進むのか予想ができないから」(20.6%)、「どうせとりあってももらえないと思ったから」(18.7%)となっている(図表12-18)。

被害の時期別にも、全ての時期で「窓口相談するほどの被害ではないと思ったから」との回答比率が最も高くなっている(図表12-19)。

図表 12-18 犯罪被害類型別、総合的対応窓口を利用しなかった理由(複数回答)【SC1/SC3、Q57】

	全体	窓口相談するほどの被害ではないと思ったから	窓口相談すると物事がどのように進むのか予想ができないから	窓口がどこにあるかわからなかったから	低年齢であったため、相談することを思い至らなかった	他の機関による相談・支援で足りたため、相談する必要がなかった	どうせとりあってももらえないと思ったから	手続などが大変だと思ったから	周囲の目が気になるから	被害の話をするのがつらかったから	その他
犯罪被害者等	107	38 (35.5%)	22 (20.6%)	14 (13.1%)	10 (9.3%)	7 (6.5%)	20 (18.7%)	14 (13.1%)	14 (13.1%)	15 (14.0%)	7 (6.5%)
財産被害	18	11 (61.1%)	4 (22.2%)	2 (11.1%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	3 (16.7%)	4 (22.2%)	2 (11.1%)	2 (11.1%)	0 (0.0%)
配偶者暴力	19	9 (47.4%)	4 (21.1%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	2 (10.5%)	3 (15.8%)	2 (10.5%)	3 (15.8%)	3 (15.8%)	0 (0.0%)
ストーカー行為等	26	8 (30.8%)	9 (34.6%)	4 (15.4%)	2 (7.7%)	0 (0.0%)	8 (30.8%)	3 (11.5%)	5 (19.2%)	3 (11.5%)	1 (3.8%)
児童虐待	8	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (37.5%)	0 (0.0%)	3 (37.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)
性的な被害	8	2 (25.0%)	2 (25.0%)	3 (37.5%)	3 (37.5%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	2 (25.0%)	0 (0.0%)
交通事故	8	3 (37.5%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	2 (25.0%)	0 (0.0%)	2 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)
暴力被害	20	5 (25.0%)	2 (10.0%)	3 (15.0%)	1 (5.0%)	1 (5.0%)	2 (10.0%)	2 (10.0%)	3 (15.0%)	3 (15.0%)	3 (15.0%)

※対象：Q54(「総合的対応窓口」の認知の有無)で「知らなかった」と回答した方(691人)を除き、かつQ56(「総合的対応窓口」の利用の有無)で「利用した」と回答した方(21人)を除く。

図表 12-19 被害の時期別、総合的対応窓口を利用しなかった理由(複数回答)【SC2、Q57】

	全体	窓口相談するほどの被害ではないと思ったから	窓口相談すると物事がどのように進むのか予想ができないから	窓口がどこにあるかわからなかったから	低年齢であったため、相談することを思い至らなかった	他の機関による相談・支援で足りたため、相談する必要がなかった	どうせとりあってももらえないと思ったから	手続などが大変だと思ったから	周囲の目が気になるから	被害の話をするのがつらかったから	その他
3年以内	18	8 (44.4%)	4 (22.2%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (27.8%)	1 (5.6%)	6 (33.3%)	3 (16.7%)	0 (0.0%)
3~10年以内	22	9 (40.9%)	8 (36.4%)	3 (13.6%)	1 (4.5%)	2 (9.1%)	3 (13.6%)	1 (4.5%)	3 (13.6%)	3 (13.6%)	0 (0.0%)
それ以前	67	21 (31.3%)	10 (14.9%)	10 (14.9%)	9 (13.4%)	5 (7.5%)	12 (17.9%)	12 (17.9%)	5 (7.5%)	9 (13.4%)	7 (10.4%)

※対象：Q54(「総合的対応窓口」の認知の有無)で「知らなかった」と回答した方(691人)を除き、かつQ56(「総合的対応窓口」の利用の有無)で「利用した」と回答した方(21人)を除く。

2-13. 犯罪被害者等からのコメント(自由回答)

犯罪被害者等からのコメント（自由回答）から、身体的・精神的な被害の影響及び支援・制度に対する要望等について重要事項を列記する。

(1)犯罪被害類型別、身体的・精神的な被害の影響

身体的・精神的な被害の影響について、犯罪被害者等から寄せられた自由記述形式での回答を以下に整理する。

<財産被害の被害者>

身も心もボロボロになった、思い出すと怖くなる、精神的なショックは計り知れなかった、記憶にはいつまでも残ってしまう、あのときの損失がなければ老後の人生がもっと楽しかったと思うし自尊心が傷つけられることもなかったなどの意見がみられた。

<配偶者暴力の被害者>

相手から日常的に傷つけられているものの離婚に応じてくれず報復的な暴力衝動が沸き起こる、現状から脱出し生き延びなければと思い離婚することができたがそうでなければ自死を選んでいたと思う、相手と離れて落ち着いたが心の傷は癒えることはないなどの意見がみられた。

<ストーカー行為等の被害者>

SNS をブロックしたくても報復が怖くてできない、ニュース等で同じような境遇で被害にあっている人を見ると心が痛くなるなどの意見がみられた。

<児童虐待の被害者>

現在も毎日それを思い出し恐怖に怯えイライラする、精神的に大きく傷つき高齢になった今も快復していない、妄想や幻聴が残る、他者の些細な言動に過敏に反応してしまう、いまだに許せない、人間不信になった、大人になるほど幼少期のトラウマにより精神的状況が悪くなっているように感じるなどの意見がみられた。

<性的な被害の被害者>

混雑する場所に行くと緊張で動悸が起こる、事件時の衝動は大きく思い出したくもないが忘れることもできない、男性が苦手、今でも鮮明に思い出すことは避けているなどの意見がみられた。

<交通事故の被害者>

大きな損失であり気持ちの穴埋めの方法がわからない、早く忘れたい、スポーツ全般が好きだったが走れなくなった、事故時のショックが非常に辛いなどの意見がみられた。

<暴力被害の被害者>

身体に後遺症が残っている、いまだに暴力を受けた夢を見る、PTSD を発症した、事件当時の精神的な傷は癒えることはない、加害者が怖く事件当時に住んでいた場所から移住して長期間経過したが今でも不安がある、思い出したら辛くなるなどの意見がみられた。

(2) 支援・制度に対する要望等

犯罪被害者等への支援・制度に対する意見・要望について、犯罪被害者等から寄せられた自由記述形式での回答を以下に整理する。

ア. 犯罪被害に関する情報やその対処法の周知

自分が受けた行為が犯罪被害に当たると思わなかった経験を踏まえ、犯罪被害に関する情報を周知してほしいという意見が複数みられた。また、学校教育に犯罪被害に関する知識や被害を受けた際の対処法等を取り入れてほしいという意見もあった。

イ. 相談・支援内容の充実

相手からの報復を恐れるあまり相談・通報ができなかった経験を踏まえ、匿名性のある相談方法を求める意見や、相談後における被害者の安全確保を求める意見がみられた。

また、精神的被害への対処法として、気軽に話を聞いてもらえる場所や環境が必要との意見があった。

さらに、カウンセリングの受診を希望したが高額で断念した、財産被害において加害者が分からず泣き寝入りするしかなかった、加害者が判明しても相手に支払能力がなく損害賠償請求ができなかったといった経済的な問題に関する意見もみられた。

ウ. 専門機関・人材の充実

専門家や専門能力を有する職員に対応してほしい、専門家の養成に力を入れてほしい、学校を通じて相談できる仕組みがほしいという意見がみられた。

エ. 犯罪被害の未然防止

犯罪被害を未然に防止するため、近年増加しているストーカー行為等や SNS を介した財産犯罪に対する対策の充実を求める声は複数みられた。また、夜間パトロールや防犯カメラの充実を求める意見もあった。

第3章 付属資料(アンケート調査票)

3-1. スクリーニング調査票

本調査は、犯罪による被害を受けた方がおかれた状況などについて調査し、調査の結果を踏まえて、よりよい施策（例えば、犯罪被害を受けた方が一人で困難を抱え込まずに適切な支援を受けられるための効果的な施策など）を検討することなどを目的に、警察庁が実施するものです。

本調査では、あなたご自身またはご家族が過去に経験された犯罪被害等についておたずねします。質問の途中で、気持ちが落ち込む、体調がすぐれなくなるなどのことがありましたら、いつでも回答をやめることができます。本調査へのご協力は任意であり、ご協力の有無、また、ご回答の内容によって、あなたに何らかの不利益が生じることは一切ありません。

本アンケートへの回答内容は、個人が特定されない形で集計・分析・報告され、個人情報を警察庁が知ることはございません。調査結果は政府による犯罪被害者等のための施策の企画・立案などに活用されます。本調査が上記目的以外（例えば捜査）に使われることは一切ございません。

以上の内容をご確認の上、以降の質問に回答をお願いいたします。

(ひとつだけ)

○1	上記を確認し、アンケートに回答する
○2	アンケートには回答しない

F 1

あなたの性別をお答えください。

(ひとつだけ)

○1	男性
○2	女性
○3	上記にあてはまらない

F 2

あなたの年齢をお答えください。

歳

F 3

あなたの婚姻状況をお知らせください。

(ひとつだけ)

○1	未婚
○2	既婚（離別・死別含む）

F 4

あなたはお子様がいらっしゃいますか。

(ひとつだけ)

○1	はい
○2	いいえ

第3章 付属資料（アンケート調査票）

F5

あなたの職業をお知らせください。
（ひとつだけ）

○1	会社勤務（一般社員）
○2	会社勤務（管理職）
○3	会社経営（経営者・役員）
○4	公務員・教職員・非営利団体職員
○5	派遣社員・契約社員
○6	自営業（商工サービス）
○7	SOHO
○8	農林漁業
○9	専門職（弁護士・税理士など・医療関連）
○10	パート・アルバイト
○11	専業主婦・主夫
○12	学生
○13	無職
○14	その他職業

F6

あなたのお住まいの地域をお答えください。
（ひとつだけ）

1	北海道
2	青森県
3	岩手県
4	宮城県
5	秋田県
6	山形県
7	福島県
8	茨城県
9	栃木県
10	群馬県
11	埼玉県
12	千葉県
13	東京都
14	神奈川県
15	新潟県
16	富山県

17	石川県
18	福井県
19	山梨県
20	長野県
21	岐阜県
22	静岡県
23	愛知県
24	三重県
25	滋賀県
26	京都府
27	大阪府
28	兵庫県
29	奈良県
30	和歌山県
31	鳥取県
32	島根県

33	岡山県
34	広島県
35	山口県
36	徳島県
37	香川県
38	愛媛県
39	高知県
40	福岡県
41	佐賀県
42	長崎県
43	熊本県
44	大分県
45	宮崎県
46	鹿児島県
47	沖縄県

SC1

あなたは今まで以下に示すような出来事があったことがありますか。
(それぞれひとつずつ)

	あ る	な い
a)窃盗 以下のような形で、他人に金品を盗まれたことがありますか。 ・スリ ・置き引き ・車上荒らし ・空き巣 など	○1	○2
b)詐欺 以下のような形で、他人にだまされ、金品を奪われたり、損害を与えられたりしたことがありますか。 ・架空料金請求詐欺 ・オレオレ詐欺（振込詐欺） ・フィッシング詐欺* ・ロマンス詐欺 など	○1	○2
c)強盗・恐喝等 以下のような形で、他人に金品を奪われたことがありますか。 ・住居や店舗に押し入られる ・ひったくり ・カツアゲ など	○1	○2
d)配偶者からの暴力（DV） 配偶者（夫や妻のこと。事実婚の関係にある方を含む）から以下のような暴力や心身に悪影響を及ぼす言動をされたことがありますか。 ・殴られる、蹴られる、物を投げつけられる、突き飛ばされる ・人格を否定するような暴言、交友関係や行き先・電話・メール・SNSなどの細かい監視、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫 ・生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害される ・嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像などを見せられる、避妊に協力しない など	○1	○2
e)ストーカー行為等 以下のような、あなたに好意あるいはそれが満たされなかったことに対する恨みを持つ特定の他者からのつきまとい行為により、身の安全や心の平穏が著しく害される不安を覚えたことがありますか。 ・望んでいない面会・交際・復縁を要求された ・謝罪、金銭など、応じなくてもよいことを要求された ・暴言や脅迫を受けた ・自宅や職場などに大量のメールやメッセージを送付されたり、連続の電話をされたりした ・自宅・職場・学校へ押しかけられたり、待ち伏せされたりした ・見ている、監視していると告げられた ・望んでいないプレゼントや嫌がらせをするための物を送付された ・中傷する文書をまかれたり、貼り紙をされたりした など	○1	○2

第3章 付属資料（アンケート調査票）

<p>f)児童虐待 18歳になるまでの間に、同居する保護者から以下のような虐待を受けたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あざや傷ができるような暴力を振るわれた ・性的な行為や接触をされた、あるいはさせられた ・1日以上食事を与えてもらえなかったり、長時間屋外に放置されたりした ・繰り返し大声で怒鳴られたり、話しかけても無視されたりした ・自分の目の前で父親または母親がその配偶者または親族に暴力を振るった など 	○1	○2
<p>g)性的な被害（痴漢など） 以下のような形で、痴漢などの被害にあったことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痴漢、盗撮、のぞき、露出にあった 	○1	○2
<p>h)性的な被害（無理矢理にされたまたは同意のない性交など） 以下のような形で、無理矢理または同意なく性行為をされたり、性的な接触をされたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無理矢理にまたは同意なく性交をされた（肛門性交、口腔性交、陰茎を除く身体の一部または物を挿入する場合を含む） ・無理矢理にまたは同意なく性的に身体を触られた、触らせられた 	○1	○2
<p>i)交通事故（死亡した場合以外） 交通事故で治るまでに1週間以上かかるけがを負ったことがありますか。</p>	○1	○2
<p>j)交通事故（死亡した場合） 交通事故でご家族が死亡されたことがありますか。</p>	○1	○2
<p>k)暴力被害（殺人未遂も含む） 「d)配偶者からの暴力（DV）」及び「f)児童虐待」以外の暴力により、治るまでに1週間以上かかるけがを負ったことがありますか。</p>	○1	○2
<p>l)殺人等 以下のような暴力犯罪（「j）交通事故（死亡した場合）」を除く）で、ご家族が死亡されたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺人 ・傷害致死 ・強盗致死 など 	○1	○2
<p>m)その他の犯罪</p>	○1	○2

* フィッシング詐欺：実在のサービスや企業をかたり、偽のメールやSMS（携帯電話のショートメッセージ）で偽のサイトに誘導し、IDやパスワードなどの情報を盗んだり、マルウェアに感染させたりする手口

※a～mのいずれにも該当しなかった方はスクリーニング調査終了→一般対象者調査へ

SC2

<SC1でa~lにつき「被害経験の有無」で1つでも「1 ある」と回答した方>

前問で回答いただいた出来事があったのはいつのことですか。同じ分類の被害に何度もあっている方は、最も深刻であった被害の時期についてお答えください。
(それぞれひとつずつ)

	過 去 3 年 以 内	1 過 0 去 年 3 以 内 か ら	そ れ 以 前
a)窃盗 以下のような形で、他人に金品を盗まれたことがありますか。 ・スリ ・置き引き ・車上荒らし ・空き巣 など	○1	○2	○3
b)詐欺 以下のような形で、他人にだまされ、金品を奪われたり、損害を与えられたりしたことがありますか。 ・架空料金請求詐欺 ・オレオレ詐欺（振込詐欺） ・フィッシング詐欺* ・ロマンス詐欺 など	○1	○2	○3
c)強盗・恐喝等 以下のような形で、他人に金品を奪われたことがありますか。 ・住居や店舗に押し入られる ・ひったくり ・カツアゲ など	○1	○2	○3
d)配偶者からの暴力（DV） 配偶者（夫や妻のこと。事実婚の関係にある方を含む）から以下のような暴力や心身に悪影響を及ぼす言動をされたことがありますか。 ・殴られる、蹴られる、物を投げつけられる、突き飛ばされる ・人格を否定するような暴言、交友関係や行き先・電話・メール・SNSなどの細かい監視、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫 ・生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害される ・嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像などを見せられる、避妊に協力しない など	○1	○2	○3
e)ストーカー行為等 以下のような、あなたに好意あるいはそれが満たされなかったことに対する恨みを持つ特定の他者からのつきまとい行為により、身の安全や心の平穏が著しく害される不安を覚えたことがありますか。 ・望んでいない面会・交際・復縁を要求された ・謝罪、金銭など、応じなくてもよいことを要求された ・暴言や脅迫を受けた ・自宅や職場などに大量のメールやメッセージを送付されたり、連続の電話をされたりした ・自宅・職場・学校へ押しかけられたり、待ち伏せされたりした ・見ている、監視していると告げられた ・望んでいないプレゼントや嫌がらせをするための物を送付された ・中傷する文書をまかれたり、貼り紙をされたりした など	○1	○2	○3

第3章 付属資料（アンケート調査票）

<p>f)児童虐待 18歳になるまでの間に、同居する保護者から以下のような虐待を受けたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あざや傷ができるような暴力を振るわれた ・性的な行為や接触をされた、あるいはさせられた ・1日以上食事を与えてもらえなかったり、長時間屋外に放置されたりした ・繰り返し大声で怒鳴られたり、話しかけても無視されたりした ・自分の目の前で父親または母親がその配偶者または親族に暴力を振るった など 	○1	○2	○3
<p>g)性的な被害（痴漢など） 以下のような形で、痴漢などの被害にあったことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痴漢、盗撮、のぞき、露出にあった 	○1	○2	○3
<p>h)性的な被害（無理矢理にされたまたは同意のない性交など） 以下のような形で、無理矢理または同意なく性行為をされたり、性的な接触をされたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無理矢理にまたは同意なく性交をされた（肛門性交、口腔性交、陰茎を除く身体の一部または物を挿入する場合を含む） ・無理矢理にまたは同意なく性的に身体を触られた、触らせられた 	○1	○2	○3
<p>i)交通事故（死亡した場合以外） 交通事故で治るまでに1週間以上かかるけがを負ったことがありますか。</p>	○1	○2	○3
<p>j)交通事故（死亡した場合） 交通事故でご家族が死亡されたことがありますか。</p>	○1	○2	○3
<p>k)暴力被害（殺人未遂も含む） 「d)配偶者からの暴力（DV）」及び「f)児童虐待」<u>以外</u>の暴力により、治るまでに1週間以上かかるけがを負ったことがありますか。</p>	○1	○2	○3
<p>l)殺人等 以下のような暴力犯罪（「j）交通事故（死亡した場合）」を除く）で、ご家族が死亡されたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺人 ・傷害致死 ・強盗致死 など 	○1	○2	○3
<p>m)その他の犯罪</p>	○1	○2	○3

* フィッシング詐欺：実在のサービスや企業をかたり、偽のメールやSMS（携帯電話のショートメッセージ）で偽のサイトに誘導し、IDやパスワードなどの情報を盗んだり、マルウェアに感染させたりする手口

SC3

<SC1でa~lにつき「被害経験の有無」で「1 ある」を複数回答した方>

選択した被害の分類のうち、あなたにとって最も深刻なもの/深刻だったものはどれですか/どれでしたか。

(ひとつだけ)

	刻 刻 最 だ な も っ も 被 た の 害 も / が の 深 深
a)窃盗 以下のような形で、他人に金品を盗まれたことがありますか。 ・スリ ・置き引き ・車上荒らし ・空き巣 など	○1
b)詐欺 以下のような形で、他人にだまされ、金品を奪われたり、損害を与えられたりしたことがありますか。 ・架空料金請求詐欺 ・オレオレ詐欺（振込詐欺） ・フィッシング詐欺* ・ロマンス詐欺 など	○2
c)強盗・恐喝等 以下のような形で、他人に金品を奪われたことがありますか。 ・住居や店舗に押し入られる ・ひったくり ・カツアゲ など	○3
d)配偶者からの暴力（DV） 配偶者（夫や妻のこと。事実婚の関係にある方を含む）から以下のような暴力や心身に悪影響を及ぼす言動をされたことがありますか。 ・殴られる、蹴られる、物を投げつけられる、突き飛ばされる ・人格を否定するような暴言、交友関係や行き先・電話・メール・SNSなどの細かい監視、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫 ・生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害される ・嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像などを見せられる、避妊に協力しない など	○4
e)ストーカー行為等 以下のような、あなたに好意あるいはそれが満たされなかったことに対する恨みを持つ特定の他者からのつきまとい行為により、身体の安全や心の平穏が著しく害される不安を覚えたことがありますか。 ・望んでいない面会・交際・復縁を要求された ・謝罪、金銭など、応じなくてもよいことを要求された ・暴言や脅迫を受けた ・自宅や職場などに大量のメールやメッセージを送付されたり、連続の電話をされたりした ・自宅・職場・学校へ押しかけられたり、待ち伏せされたりした ・見ている、監視していると告げられた ・望んでいないプレゼントや嫌がらせをするための物を送付された ・中傷する文書をまかれたり、貼り紙をされたりした など	○5

第3章 付属資料（アンケート調査票）

<p>f)児童虐待 18歳になるまでの間に、同居する保護者から以下のような虐待を受けたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あざや傷ができるような暴力を振るわれた ・性的な行為や接触をされた、あるいはさせられた ・1日以上食事を与えてもらえなかったり、長時間屋外に放置されたりした ・繰り返し大声で怒鳴られたり、話しかけても無視されたりした ・自分の目の前で父親または母親がその配偶者または親族に暴力を振るった など 	○6
<p>g)性的な被害（痴漢など） 以下のような形で、痴漢などの被害にあったことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痴漢、盗撮、のぞき、露出にあった 	○7
<p>h)性的な被害（無理矢理にされたまたは同意のない性交など） 以下のような形で、無理矢理または同意なく性行為をされたり、性的な接触をされたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無理矢理にまたは同意なく性交をされた（肛門性交、口腔性交、陰茎を除く身体の一部または物を挿入する場合を含む） ・無理矢理にまたは同意なく性的に身体を触られた、触らせられた 	○8
<p>i)交通事故（死亡した場合以外） 交通事故で治るまでに1週間以上かかるけがを負ったことがありますか。</p>	○9
<p>j)交通事故（死亡した場合） 交通事故でご家族が死亡されたことがありますか。</p>	○10
<p>k)暴力被害（殺人未遂も含む） 「d)配偶者からの暴力（DV）」及び「f)児童虐待」以外の暴力により、治るまでに1週間以上かかるけがを負ったことがありますか。</p>	○11
<p>l)殺人等 以下のような暴力犯罪（「j）交通事故（死亡した場合）」を除く）で、ご家族が死亡されたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺人 ・傷害致死 ・強盗致死 など 	○12
<p>m)その他の犯罪</p>	○13

* フィッシング詐欺：実在のサービスや企業をかたり、偽のメールやSMS（携帯電話のショートメッセージ）で偽のサイトに誘導し、IDやパスワードなどの情報を盗んだり、マルウェアに感染させたりする手口

<SC1でa~IIにつき「被害経験の有無」で「1 ある」を1つだけ回答した方及びSC3を回答した方>

以下の問は、【ご自身/ご家族】があわれた、【選択した犯罪被害類型】についてお答えください。
 なお、加害者が複数いる場合は、その犯罪で中心的な役割を果たしたとあなたが考える1名についてお答えください。

SC4

<SC1でa~IIにつき「被害経験の有無」で「1 ある」を1つだけ回答した方及びSC3を回答した方>

【ご自身/ご家族】の受けた被害について、あなたや他の人は警察に通報しましたか。
 (ひとつだけ)

<input type="radio"/> 1	あなたが通報した
<input type="radio"/> 2	あなた以外の人（家族、第三者、加害者など）が通報した
<input type="radio"/> 3	警察には通報しなかった
<input type="radio"/> 4	通報したかどうか覚えていない・わからない

SC5

<SC4と同じ方>

最初に被害にあった際、被害に関して、誰かに相談しましたか。相談した人や機関をお選びください。

(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	父
<input type="checkbox"/> 2	母
<input type="checkbox"/> 3	配偶者*1（事実婚・パートナーを含む）
<input type="checkbox"/> 4	兄弟姉妹
<input type="checkbox"/> 5	それ以外の家族・親族
<input type="checkbox"/> 6	勤務先の同僚・友人など
<input type="checkbox"/> 7	勤務先の上司など
<input type="checkbox"/> 8	学校などの友人
<input type="checkbox"/> 9	学校の先生・学生相談室・スクールカウンセラーなど
<input type="checkbox"/> 10	学校・勤務先以外の友人など
<input type="checkbox"/> 11	交際相手
<input type="checkbox"/> 12	弁護士・日本司法支援センター（法テラス）
<input type="checkbox"/> 13	地方公共団体の総合的対応窓口*2
<input type="checkbox"/> 14	児童相談所
<input type="checkbox"/> 15	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター
<input type="checkbox"/> 16	その他の行政機関・福祉機関の相談窓口
<input type="checkbox"/> 17	警察
<input type="checkbox"/> 18	民間の犯罪被害者支援団体
<input type="checkbox"/> 19	医療機関
<input type="checkbox"/> 20	その他（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 21	どこにも（誰にも）相談していない

*1 配偶者：夫・妻

*2 地方公共団体の総合的対応窓口：全国の都道府県・市区町村に設置されている、犯罪被害により生じた生活上の困りごとなどの相談を受ける窓口

SC6

<SC4と同じ方>

加害者は捕まりましたか。

(ひとつだけ)

<input type="radio"/> 1	捕まった
<input type="radio"/> 2	捕まっていない
<input type="radio"/> 3	捕まったかどうかわからない

3-2. 犯罪被害者等調査票

【ご自身/ご家族】が過去にあわれた、【選択した犯罪被害類型】のことについてお伺いします。
以降の設問は、その犯罪被害等についてお答えください。
なお、加害者が複数いる場合は、その犯罪で中心的な役割を果たしたとあなたが考える1名についてお答えください。

Q1

【ご自身/ご家族】がその犯罪被害等にあわれたとき、あなたは何歳でしたか。被害が長期にわたって続いている場合には、被害が始まった時の年齢をお答えください。

（いくつでも）

<input type="radio"/> 1	() 歳
<input type="radio"/> 2	わからない

Q2

<犯罪被害類型が交通事故（死亡）、暴力被害（死亡）の方>

犯罪被害等により亡くなった方は、あなたからみてどのような関係の方でしたか。

（いくつでも）

<input type="checkbox"/> 1	配偶者*（事実婚・パートナーを含む）
<input type="checkbox"/> 2	父
<input type="checkbox"/> 3	母
<input type="checkbox"/> 4	継父（母の交際相手を含む）
<input type="checkbox"/> 5	継母（父の交際相手を含む）
<input type="checkbox"/> 6	兄弟姉妹
<input type="checkbox"/> 7	子
<input type="checkbox"/> 8	祖父母
<input type="checkbox"/> 9	孫
<input type="checkbox"/> 10	その他（具体的に：)

* 配偶者：夫・妻

Q3

加害者についておたずねします。加害者は、【ご自身/ご家族】からみてどのような関係の方でしたか。
(ひとつだけ)

○1	父
○2	母
○3	継父
○4	継母
○5	母の交際相手
○6	父の交際相手
○7	兄弟姉妹
○8	子
○9	祖父母
○10	配偶者*（事実婚・パートナーを含む）、元配偶者（事実婚・パートナーを解消した方を含む）
○11	交際相手、元交際相手
○12	職場、アルバイト先の関係者、通っていた学校の関係者（上司、同僚、部下、取引先の相手、学校の教員など）
○13	知人、友人
○14	SNSで出会った人
○15	全く無関係の人、知らない人
○16	わからない
○17	その他（具体的に： ）

* 配偶者：夫・妻

Q4

<Q3で「わからない」以外を選択した方>

加害者の性別についておたずねします。
(ひとつだけ)

○1	男性
○2	女性
○3	わからない

Q5

<犯罪被害類型が配偶者暴力、児童虐待の方>

【選択した犯罪被害類型】について、その被害はどのくらい長く続きましたか。
(ひとつだけ)

○1	1年未満
○2	1年以上3年未満
○3	3年以上5年未満
○4	5年以上10年未満
○5	10年以上
○6	その他（具体的に： ）

第3章 付属資料（アンケート調査票）

Q5-2

<犯罪被害類型が財産被害、ストーカー行為等、性的な被害、交通事故、暴力被害の方>

【選択した犯罪被害類型】について、その被害はどのくらい長く続きましたか。

（ひとつだけ）

○1	1回限り
○2	1週間未満
○3	1週間以上1か月未満
○4	1か月以上半年未満
○5	半年以上1年未満
○6	1年以上
○7	その他（具体的に： ）

Q6

【ご自身/ご家族】が最初に被害にあったとき、あなたはどのような仕事をされていたか。また、学校に通っていましたか。

（ひとつだけ）

○1	未就学児・児童生徒・学生
○2	会社員などフルタイムの仕事
○3	パートやアルバイト
○4	自営業
○5	専業主婦・主夫、無職
○6	その他（具体的に： ）
○7	覚えていない

Q7

【ご自身/ご家族】が最初に被害にあったとき、あなたは誰かと同居していましたか。

（いくつでも）

<input type="checkbox"/> 1	配偶者*（事実婚・パートナーを含む）
<input type="checkbox"/> 2	交際相手
<input type="checkbox"/> 3	父
<input type="checkbox"/> 4	母
<input type="checkbox"/> 5	継父（母の交際相手を含む）
<input type="checkbox"/> 6	継母（父の交際相手を含む）
<input type="checkbox"/> 7	兄弟姉妹
<input type="checkbox"/> 8	祖父母
<input type="checkbox"/> 9	その他の人（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 10	同居家族はいなかった

* 配偶者：夫・妻

■ 犯罪被害にあった時の通報・相談についておたずねします。

Q8

<SC4で「3 警察には通報しなかった」、「4 通報したかどうか覚えていない・わからない」と回答した方で、SC5で「17 警察」と回答しなかった方>
 これまでの設問で「警察には通報しなかった」、「警察に通報したか覚えていない・わからない」、「警察に相談しなかった」と回答した方におたずねします。警察に相談しなかった理由を教えてください。

(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	警察に相談できることだと思わなかったから
<input type="checkbox"/> 2	どうせとりあってもらえないと思ったから
<input type="checkbox"/> 3	手続などが大変だと思ったから・急いでおり時間がなかったから
<input type="checkbox"/> 4	周囲の目が気になるから
<input type="checkbox"/> 5	被害の話をするのがつらかったから
<input type="checkbox"/> 6	相手が処罰されてしまうかもしれないから
<input type="checkbox"/> 7	警察に相談するほどの被害ではないと思ったから
<input type="checkbox"/> 8	警察に相談してから物事がどのように進むのか予想ができないから
<input type="checkbox"/> 9	低年齢であったため、相談することを思い至らなかった
<input type="checkbox"/> 10	その他（具体的に： ）

Q9

<SC5で「21 どこにも（誰にも）相談していない」以外を複数回答した方>

先にご回答いただいた、犯罪被害等にあつてから相談した人や機関のうち、最初に相談した人や機関をお選びください。

(ひとつだけ)

<input type="radio"/> 1	父
<input type="radio"/> 2	母
<input type="radio"/> 3	配偶者*1（事実婚・パートナーを含む）
<input type="radio"/> 4	兄弟姉妹
<input type="radio"/> 5	それ以外の家族・親族
<input type="radio"/> 6	勤務先の同僚・友人など
<input type="radio"/> 7	勤務先の上司など
<input type="radio"/> 8	学校などの友人
<input type="radio"/> 9	学校の先生・学生相談室・スクールカウンセラーなど
<input type="radio"/> 10	学校・勤務先以外の友人など
<input type="radio"/> 11	交際相手
<input type="radio"/> 12	弁護士・日本司法支援センター（法テラス）
<input type="radio"/> 13	地方公共団体の総合的対応窓口*2
<input type="radio"/> 14	児童相談所
<input type="radio"/> 15	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター
<input type="radio"/> 16	その他の行政機関・福祉機関の相談窓口
<input type="radio"/> 17	警察
<input type="radio"/> 18	民間の犯罪被害者支援団体
<input type="radio"/> 19	医療機関
<input type="radio"/> 20	その他【SC5の「その他」の回答を表示】

*1 配偶者：夫・妻

*2 地方公共団体の総合的対応窓口：全国の都道府県・市区町村に設置されている、犯罪被害により生じた生活上の困りごとなどの相談を受ける窓口

第3章 付属資料（アンケート調査票）

Q10

<SC5で「21 どこにも（誰にも）相談していない」以外を回答した方>

【ご自身/ご家族】が犯罪被害等にあつてから最初に相談するまでに要した期間を教えてください。
（ひとつだけ）

<input type="radio"/> 1	1時間未満
<input type="radio"/> 2	1時間以上1日未満
<input type="radio"/> 3	1日以上1週間未満
<input type="radio"/> 4	1週間以上1か月未満
<input type="radio"/> 5	1か月以上6か月未満
<input type="radio"/> 6	6か月以上1年未満
<input type="radio"/> 7	1年以上3年未満
<input type="radio"/> 8	3年以上
<input type="radio"/> 9	わからない

Q10-2

<Q10で「3年以上」と回答した方>

前問で「3年以上」との回答になりましたが、具体的な期間を教えてください。

年 か月

Q11

<SC5で「21 どこにも（誰にも）相談していない」と回答した方>

【ご自身/ご家族】が犯罪被害等にあつてから、どこにも（誰にも）相談しなかった理由を以下から選択してください。
（いくつでも）

<input type="checkbox"/> 1	どこに相談すればよいかわからなかった
<input type="checkbox"/> 2	自分が被害にあっていることに気付かなかった
<input type="checkbox"/> 3	相談するほどのことではないと思った
<input type="checkbox"/> 4	自分で解決できると思った
<input type="checkbox"/> 5	被害について誰かに話すことが恥ずかしかった
<input type="checkbox"/> 6	他人に知られたくなかった
<input type="checkbox"/> 7	おおごとにしたくなかった
<input type="checkbox"/> 8	言っても何もしてくれない・役に立たないと思った
<input type="checkbox"/> 9	加害者からの仕返しが怖かった
<input type="checkbox"/> 10	加害者から相談するなと脅されていた
<input type="checkbox"/> 11	自分が悪いと思った、自分に責任があると思った
<input type="checkbox"/> 12	低年齢であったため、相談することを思い至らなかった
<input type="checkbox"/> 13	特に理由はない
<input type="checkbox"/> 14	その他（具体的に： <input type="text"/> ）

Q12

<SC4で「3 警察には通報しなかった」、「4 通報したかどうか覚えていない・わからない」と回答した方で、SC5で「17 警察」と回答しなかった方>

あなたは、警察にどのような対応・取組があれば、被害を相談しやすくなると思いますか。

（いくつでも）

<input type="checkbox"/> 1	希望する性別の職員に対応してもらえること
<input type="checkbox"/> 2	周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること
<input type="checkbox"/> 3	メールやソーシャルメディア（X（旧Twitter）やLINEなど）で相談できること
<input type="checkbox"/> 4	相談窓口の場所や時間が日頃から広報・周知されること
<input type="checkbox"/> 5	相談窓口が近くにあること
<input type="checkbox"/> 6	夜間や休日でも相談できること
<input type="checkbox"/> 7	相談した後でカウンセリングも受けられること
<input type="checkbox"/> 8	その他（具体的に： <input type="text"/> ）
<input type="checkbox"/> 9	思いつくことはない

Q13

<SC5で「12 弁護士・日本司法支援センター（法テラス）」、「13 地方公共団体の総合的対応窓口」、「14 児童相談所」、
「15 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」、「16 その他の行政機関・福祉機関の相談窓口」、
「18 民間の犯罪被害者支援団体」、「19 医療機関」と回答しなかった方>

あなたは、地方公共団体や民間の相談機関・団体などにどのような対応・取組があれば、被害を相談しやすくなると思いますか。
(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	希望する性別の職員に対応してもらえること
<input type="checkbox"/> 2	周りの人に知られずに相談できること（個室での対応など）、プライバシーが守られること
<input type="checkbox"/> 3	メールやソーシャルメディア（X（旧Twitter）やLINEなど）で相談できること
<input type="checkbox"/> 4	相談窓口の場所や時間が日頃から広報・周知されること
<input type="checkbox"/> 5	相談窓口が近くにあること
<input type="checkbox"/> 6	夜間や休日でも相談できること
<input type="checkbox"/> 7	相談した後でカウンセリングも受けられること
<input type="checkbox"/> 8	無料で相談できること
<input type="checkbox"/> 9	その他（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 10	思いつくことはない

■ 児童虐待の被害についておたずねします。

Q14

<犯罪被害類型が児童虐待の方>

あなた以外に、加害者から暴力を振るわれるなどの被害にあっている人はいましたか。
(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	父
<input type="checkbox"/> 2	母
<input type="checkbox"/> 3	継父（母の交際相手を含む）
<input type="checkbox"/> 4	継母（父の交際相手を含む）
<input type="checkbox"/> 5	兄弟姉妹
<input type="checkbox"/> 6	祖父母
<input type="checkbox"/> 7	その他（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 8	いなかった

Q15

<犯罪被害類型が児童虐待の方>

あなたに対する虐待に気づいていた方はいましたか（相談した方を含む）。
(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	父
<input type="checkbox"/> 2	母
<input type="checkbox"/> 3	継父・継母（母・父の交際相手を含む）
<input type="checkbox"/> 4	兄弟姉妹
<input type="checkbox"/> 5	おじ・おば
<input type="checkbox"/> 6	祖父母
<input type="checkbox"/> 7	友人・友人の家族
<input type="checkbox"/> 8	学校や塾などの先生
<input type="checkbox"/> 9	近所の人
<input type="checkbox"/> 10	児童相談所の職員
<input type="checkbox"/> 11	警察官
<input type="checkbox"/> 12	その他の人（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 13	気づいていた人はいない

Q16

<Q15で「1 父」～「12 その他の人」のいずれかを回答した方>

あなたに対する虐待に気づいていた方のうち、虐待をやめさせるため、介入（加害者に対して暴力をやめるよう働きかけたり、公的機関に相談してくれたりすること）してくれた方はいましたか。
（いくつでも）

<input type="checkbox"/> 1	父
<input type="checkbox"/> 2	母
<input type="checkbox"/> 3	継父・継母（母・父の交際相手を含む）
<input type="checkbox"/> 4	兄弟姉妹
<input type="checkbox"/> 5	おじ・おば
<input type="checkbox"/> 6	祖父母
<input type="checkbox"/> 7	友人・友人の家族
<input type="checkbox"/> 8	学校や塾などの先生
<input type="checkbox"/> 9	近所の人
<input type="checkbox"/> 10	児童相談所の職員
<input type="checkbox"/> 11	警察官
<input type="checkbox"/> 12	その他の人【Q15の「その他の人」の回答を表示】
<input type="checkbox"/> 13	介入してくれた人はいない

■【配偶者からの暴力（DV）/ストーカー行為等】の被害についておたずねします。

Q17

<犯罪被害類型が配偶者暴力、ストーカー行為等の方>

あなたは、被害後、自分を守るための措置として以下のようなことをしましたか。
（いくつでも）

<input type="checkbox"/> 1	あなた自身が相手に働きかけた
<input type="checkbox"/> 2	あなた以外の人（警察や行政を除きます。）に相手に働きかけてもらった
<input type="checkbox"/> 3	電話番号やメールアドレスを変えた
<input type="checkbox"/> 4	SNSの自分のアカウントを変更・削除した
<input type="checkbox"/> 5	SNSの相手のアカウントをブロックした
<input type="checkbox"/> 6	通学または通勤時間を変えた
<input type="checkbox"/> 7	通学または通勤経路を変えた
<input type="checkbox"/> 8	学校または仕事を辞めた、変えた
<input type="checkbox"/> 9	学校または仕事をしばらく休んだ（休学、休職）
<input type="checkbox"/> 10	実家や友人宅、シェルターなどに避難した
<input type="checkbox"/> 11	転居をした
<input type="checkbox"/> 12	別居・離婚をした
<input type="checkbox"/> 13	その他（具体的に：_____）
<input type="checkbox"/> 14	上記のような自衛のための措置はとっていない

Q18

<Q17の回答者のうち、SC4で「1 あなたが通報した」、「2 あなた以外の人（第三者、加害者など）が通報した」と回答した方
又はSC5で「13 地方公共団体の総合的対応窓口」、「14 児童相談所」、「15 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」、
「16 その他の行政機関・福祉機関の相談窓口」、「17 警察」と回答した方>

警察や行政に通報・相談したことによって、加害者に対して次のようなことがありましたか。

(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	警察が加害者を呼び出して警告した
<input type="checkbox"/> 2	警察が加害者を逮捕・検挙した
<input type="checkbox"/> 3	ストーカー規制法に基づく書面（文書）警告が行われた
<input type="checkbox"/> 4	ストーカー規制法に基づく禁止命令が行われた
<input type="checkbox"/> 5	配偶者暴力防止法に基づく保護命令が行われた
<input type="checkbox"/> 6	その他の対応が行われた（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 7	上記のような措置を希望したが、これらの対応は行われなかった
<input type="checkbox"/> 8	上記のような措置は希望しなかった
<input type="checkbox"/> 9	どのような対応が行われたかはわからない

Q19

<Q18で「1 警察が加害者を呼び出して警告した」～「6 その他の対応が行われた」と回答した方>

警察や行政が対応した後の、加害者の状況を教えてください。

(ひとつだけ)

<input type="radio"/> 1	懲役刑の判決を受けて刑務所に服役した
<input type="radio"/> 2	懲役刑の判決を受けたが執行猶予が付いた
<input type="radio"/> 3	罰金刑を科された
<input type="radio"/> 4	その他（具体的に： ）
<input type="radio"/> 5	特に何もなかった
<input type="radio"/> 6	わからない

Q20

<Q18で「8 上記のような措置は希望しなかった」と回答した方>

警察や行政に通報・相談したが、警告、逮捕・検挙、ストーカー規制法に基づく書面（文書）警告、ストーカー規制法に基づく禁止命令
または配偶者暴力防止法に基づく保護命令等の対応をとることを希望しなかった理由を教えてください。

(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	加害者からの仕返しが怖かったから
<input type="checkbox"/> 2	手続などが大変だと思ったから
<input type="checkbox"/> 3	周囲の目が気になるから・大ごとにしたくなかったから
<input type="checkbox"/> 4	相手との人間関係を終わらせたくなかったから
<input type="checkbox"/> 5	これらの措置をとるほどの被害ではないと思ったから
<input type="checkbox"/> 6	これらの措置をとってから物事がどのように進むのか予想ができないから
<input type="checkbox"/> 7	知らなかったから、そういうものがあると言われなかったから
<input type="checkbox"/> 8	その他（具体的に： ）

第3章 付属資料（アンケート調査票）

Q21

※Q18で「1 警察が加害者を呼び出して警告した」～「6 その他の対応が行われた」と回答した方

【警察や行政に通報・相談して何らかの対応が行われた後に、】あなたは同じ加害者から再び何らかの被害（以下「再被害」という）を受ける不安をどの程度感じましたか。

※Q18で「7 上記のような措置を希望したが、これらの対応は行われなかった」～「9 どのような対応が行われたかはわからない」と回答した方

【警察や行政に通報・相談をした後に、】あなたは同じ加害者から再び何らかの被害（以下「再被害」という）を受ける不安をどの程度感じましたか。（ひとつだけ）

○1	全く感じなかった
○2	ほとんど感じなかった
○3	ある程度感じた
○4	大いに感じた

Q22

※Q18で「1 警察が加害者を呼び出して警告した」～「6 その他の対応が行われた」と回答した方

【警察や行政に通報・相談して何らかの対応が行われた後に、】あなたは再被害を受けたことがありますか。

※Q18で「7 1～6の措置を希望したが、これらの対応は行われなかった」～「9 どのような対応が行われたかはわからない」と回答した方

【警察や行政に通報・相談をした後に、】あなたは再被害を受けたことがありますか。

（ひとつだけ）

○1	ある
○2	ない

Q23

<Q22で「1 ある」と回答した方>

警察や行政に通報・相談して何らかの対応が行われた後に、再被害を受けるまでの期間を教えてください。

（ひとつだけ）

○1	1日未満
○2	1日以上1週間未満
○3	1週間以上1か月未満
○4	1か月以上6か月未満
○5	6か月以上1年未満
○6	1年以上3年未満
○7	3年以上
○8	わからない

Q24

<Q23でと同じ方>

再被害を受けた回数を教えてください。

（ひとつだけ）

○1	1回
○2	2回
○3	3回以上5回未満
○4	5回以上10回未満
○5	10回以上

Q25

※Q18で「1 警察が加害者を呼び出して警告した」～「6 その他の対応が行われた」と回答した方

【警察や行政に通報・相談して何らかの対応が行われた後に、】あなたは、再被害を受けるおそれについて、誰かに相談しましたか。相談した人や機関をお選びください。

※Q18で「7 1～6の措置を希望したが、これらの対応は行われなかった」～「9 どのような対応が行われたかはわからない」と回答した方

【警察や行政に通報・相談をした後に、】あなたは、再被害を受けるおそれについて、誰かに相談しましたか。相談した人や機関をお選びください。
(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	父
<input type="checkbox"/> 2	母
<input type="checkbox"/> 3	継父（母の交際相手を含む）
<input type="checkbox"/> 4	継母（父の交際相手を含む）
<input type="checkbox"/> 5	配偶者*（事実婚・パートナーを含む）
<input type="checkbox"/> 6	兄弟姉妹
<input type="checkbox"/> 7	子
<input type="checkbox"/> 8	それ以外の家族・親族
<input type="checkbox"/> 9	勤務先の同僚・友人など
<input type="checkbox"/> 10	勤務先の上司など
<input type="checkbox"/> 11	学校などの友人
<input type="checkbox"/> 12	学校の先生・学生相談室・スクールカウンセラーなど
<input type="checkbox"/> 13	学校・勤務先以外の友人など
<input type="checkbox"/> 14	交際相手
<input type="checkbox"/> 15	弁護士・日本司法支援センター（法テラス）
<input type="checkbox"/> 16	地方公共団体の総合的対応窓口
<input type="checkbox"/> 17	児童相談所
<input type="checkbox"/> 18	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター
<input type="checkbox"/> 19	その他の行政機関・福祉機関の相談窓口（具体的機関名： ）
<input type="checkbox"/> 20	警察
<input type="checkbox"/> 21	民間の犯罪被害者支援団体
<input type="checkbox"/> 22	医療機関
<input type="checkbox"/> 23	その他（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 24	どこにも（誰にも）相談していない

* 配偶者：夫・妻

再被害について不安を感じた場合には、すみやかに最寄りの警察にご相談ください。

■被害によるけがの状況についておたずねします。

Q26

<犯罪被害類型が交通事故（死亡）、暴力被害（死亡）以外の方>

あなたは事件によって身体にけがを負いましたか。全治1か月以上のけがを負った場合は、その治療期間も教えてください。

※複数のけがをされた場合には、最も長く治療された期間についてお答えください。

※現在も治療を続けていらっしゃる方は、これまでの治療期間をお答えください。

(ひとつだけ)

<input type="radio"/> 1	全治1か月以上のけがを負った
<input type="radio"/> 2	全治1か月未満のけがを負った
<input type="radio"/> 3	けがは負っていない
<input type="radio"/> 4	わからない・覚えていない

第3章 付属資料（アンケート調査票）

Q26-2

<Q26で「1 全治1か月以上のけがを負った」と回答した方>

前問で「全治1か月以上のけがを負った」との回答になりましたが、けがの治癒に要した具体的な期間を教えてください。

年 か月

Q27

<犯罪被害類型が交通事故（死亡）、暴力被害（死亡）以外の方>

あなたは事件によって負ったけがによる後遺症はありますか。

（ひとつだけ）

<input type="radio"/> 1	後遺障害等級の認定がなされた後遺症がある
<input type="radio"/> 2	後遺障害等級の認定はなされていないが、後遺障害がある
<input type="radio"/> 3	後遺障害はない

■あなたの身体状態や精神状態についておたずねします。

Q28

あなたは過去30日の間に、なんらかの身体上の問題を感じましたか。

（ひとつだけ）

<input type="radio"/> 1	感じなかった
<input type="radio"/> 2	感じた

Q29

<Q28で「2 感じた」と回答した方>

その身体上の問題は、どの程度事件と関係があると思いますか。事件との関係の度合いをお答えください。

（ひとつだけ）

<input type="radio"/> 1	事件は全く関係していない
<input type="radio"/> 2	事件はあまり関係していない
<input type="radio"/> 3	どちらともいえない
<input type="radio"/> 4	事件がある程度関係している
<input type="radio"/> 5	事件が大いに関係している

Q30

<Q28で「2 感じた」と回答した方>

その身体上の問題に対して、どのように対処されていますか。

（いくつでも）

<input type="checkbox"/> 1	医療機関に通った（訪問診療を含む）
<input type="checkbox"/> 2	医療機関には通っていないが、市販の薬を服用、湿布した
<input type="checkbox"/> 3	その他（具体的に： <input type="text"/> ）
<input type="checkbox"/> 4	特に何もしていない

Q31

あなたは過去30日の間に、なんらかの精神的な問題や悩みを感じましたか。
(ひとつだけ)

○1	感じなかった
○2	感じた

Q32

<Q31で「2 感じた」と回答した方>

その精神的な問題や悩みは、どの程度事件と関係があると思いますか。事件との関係の度合いをお答えください。
(ひとつだけ)

○1	事件は全く関係していない
○2	事件はあまり関係していない
○3	どちらともいえない
○4	事件がある程度関係している
○5	事件が大いに関係している

Q33

<Q31で「2 感じた」と回答した方>

その精神的な問題や悩みに対して、どのように対処されていますか。
(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	医療機関（精神科以外も含む）に通った（訪問診療を含む）
<input type="checkbox"/> 2	公的機関や民間団体において、カウンセリングを受けたり相談をしたりした
<input type="checkbox"/> 3	自助グループに参加した
<input type="checkbox"/> 4	家族や知人に相談した
<input type="checkbox"/> 5	その他（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 6	特に何もしていない

Q34

過去30日の間に、どれくらいの頻度で次のことがありましたか。
(それぞれひとつずつ)

	全 く な い	少 し だ け	と き ど き	た い て い	い つ も
神経過敏に感じましたか	○1	○2	○3	○4	○5
絶望的だと感じましたか	○1	○2	○3	○4	○5
そわそわ落ち着かなく感じましたか	○1	○2	○3	○4	○5
気分が沈み込んで、何が起っても気が晴れないように感じましたか	○1	○2	○3	○4	○5
何をしても骨折りだと感じましたか	○1	○2	○3	○4	○5
自分は価値のない人間だと感じましたか	○1	○2	○3	○4	○5

第3章 付属資料（アンケート調査票）

Q35

この1年間に、心身の不調などによって、あなたの仕事や日常生活が行えなくなったと感じた日が何日ありましたか。枠内におおよその日数をお答えください。

全くなかった場合には「0」と記入してください。

おおよそ 日

Q36

それぞれの項目について、あなたはどれくらいの頻度で感じているかお答えください。

（それぞれひとつずつ）

	決してない	ほとんどない	時々ある	常にある
自分には人との付き合いがないと感じることがありますか	○1	○2	○3	○4
自分を取り残されていると感じることがありますか	○1	○2	○3	○4
自分は他の人たちから孤立していると感じることはありますか	○1	○2	○3	○4

■被害による経済的な影響についてお伺いします。

Q37

あなたは現在の自分の生活についてどのように感じていますか。

（ひとつだけ）

○1	裕福だと思う
○2	やや裕福だと思う
○3	どちらともいえない
○4	生活にやや困っている
○5	生活にとっても困っている

Q38

【ご自身/ご家族】が被害にあう前、あなたの年収はおおよそどのくらいでしたか。ご家族と同居されている場合は、世帯としての年収をお答えください。

（ひとつだけ）

○1	100万円以下
○2	100万円以上300万円未満
○3	300万円以上600万円未満
○4	600万円以上1,000万円未満
○5	1,000万円以上
○6	わからない

Q39

現在の、あなたの年収はおおよそどの程度ですか。ご家族と同居されている場合は、世帯としての年収をお答えください。
(ひとつだけ)

<input type="radio"/> 1	100万円以下
<input type="radio"/> 2	100万円以上300万円未満
<input type="radio"/> 3	300万円以上600万円未満
<input type="radio"/> 4	600万円以上1,000万円未満
<input type="radio"/> 5	1,000万円以上
<input type="radio"/> 6	わからない

Q40

あなたは、事件から現在までの間に、事件に関連して、以下に示すような給付、支給、賠償などを受けましたか。
(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	犯罪被害者等給付金*1
<input type="checkbox"/> 2	地方公共団体からの見舞金*2
<input type="checkbox"/> 3	労災保険（労働者災害補償保険）
<input type="checkbox"/> 4	その他の公的な給付・支給（障害年金、遺族年金、生活保護など）
<input type="checkbox"/> 5	加害者側の自動車保険（自賠償保険を含む）
<input type="checkbox"/> 6	加害者側の保険（自動車保険の場合を除く）
<input type="checkbox"/> 7	被害者側の保険（生命保険、傷害保険など）
<input type="checkbox"/> 8	犯罪被害救済基金による奨学金
<input type="checkbox"/> 9	その他の民間団体の給付・支給（民間の犯罪被害者支援団体からの給付金など）
<input type="checkbox"/> 10	加害者からの賠償
<input type="checkbox"/> 11	その他（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 12	いずれも受けていない
<input type="checkbox"/> 13	わからない

*1 犯罪被害者等給付金：死亡・障害・重傷病を伴う犯罪被害について、犯罪被害者や御遺族に対し警察から支給される給付金

*2 地方公共団体からの見舞金：犯罪被害者またはその家族、遺族に対して、地方公共団体から、直接資金提供を行うもの

Q41

あなたは、加害者側*1との間の賠償に関し、訴訟や交渉などを行いましたか。行ったものをお答えください。
(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	民事訴訟を利用した
<input type="checkbox"/> 2	損害賠償命令*2を利用した
<input type="checkbox"/> 3	刑事和解*3を利用した
<input type="checkbox"/> 4	公正証書*4を作成した
<input type="checkbox"/> 5	示談書・和解書*5を作成した
<input type="checkbox"/> 6	その他（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 7	交渉したが、合意に至らなかった
<input type="checkbox"/> 8	<u>上記を行った際、弁護士または司法書士に頼んだ</u>
<input type="checkbox"/> 9	訴訟や交渉などを行っていない

*1 加害者側：加害者本人のほか、加害者の親族、加害者の雇用主、加害者の加入していた保険会社を含みます。

*2 損害賠償命令：刑事事件を担当した裁判所が、有罪の言渡しをした後、引き続き損害賠償請求についての審理も行い、加害者に損害の賠償を命じることができる制度

*3 刑事和解：加害者と被害者等の間で、犯罪から生じた損害などに関する民事上の請求について、裁判外で和解（示談）が成立した場合に、事件を審理している刑事の裁判所に申し立て、裁判所にその合意の内容を公判調書に記載してもらう制度

*4 公正証書：私人（個人または会社その他の法人）からの囑託により、公証人がその権限に基づいて作成する文書

*5 示談書・和解書：私人間の紛争を、裁判によらず、当事者間の話し合いで解決し、合意した事項や内容について記載されている文書

第3章 付属資料（アンケート調査票）

Q42

<Q41で「1 民事訴訟を提起した」～「7 交渉したが、合意に至らなかった」を選択した方>

訴訟や交渉などができることは、どのような手段で知りましたか。

（いくつでも）

<input type="checkbox"/> 1	自分で調べた
<input type="checkbox"/> 2	家族・友人・知人から聞いた
<input type="checkbox"/> 3	弁護士から聞いた
<input type="checkbox"/> 4	警察から聞いた
<input type="checkbox"/> 5	検察から聞いた
<input type="checkbox"/> 6	日本司法支援センター（法テラス）から聞いた
<input type="checkbox"/> 7	地方公共団体の総合的対応窓口から聞いた
<input type="checkbox"/> 8	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターから聞いた
<input type="checkbox"/> 9	その他の行政機関・福祉機関の相談窓口から聞いた
<input type="checkbox"/> 10	民間の犯罪被害者支援団体から聞いた
<input type="checkbox"/> 11	加害者側や加害者側の弁護士から申入れがあった
<input type="checkbox"/> 12	その他（具体的に： ）

Q43

<Q41で「1 民事訴訟を提起した」～「6 その他」を選択した方>

訴訟や交渉などで定まった賠償額（既払い金を含む）は、次のどれにあたりますか。

（ひとつだけ）

<input type="radio"/> 1	10万円未満
<input type="radio"/> 2	10万円～99万円
<input type="radio"/> 3	100万円～999万円
<input type="radio"/> 4	1,000万円～4,999万円
<input type="radio"/> 5	5,000万円～9,999万円
<input type="radio"/> 6	1億円以上
<input type="radio"/> 7	賠償額が定まらなかった
<input type="radio"/> 8	わからない

Q44

<Q43と同じ方>

訴訟や交渉などで賠償額が定まるまでに、事件からどれくらいの期間がかかりましたか。

（ひとつだけ）

<input type="radio"/> 1	2週間未満
<input type="radio"/> 2	2週間以上1か月未満
<input type="radio"/> 3	1か月以上半年未満
<input type="radio"/> 4	半年以上1年未満
<input type="radio"/> 5	1年以上2年未満
<input type="radio"/> 6	2年以上5年未満
<input type="radio"/> 7	5年以上
<input type="radio"/> 8	わからない

Q45

<Q43と同じ方>

加害者側*からの実際の賠償は、訴訟や交渉などで定まった額のうち、どれくらい支払がありましたか。枠内におおよその割合を%でお答えください。

※%は整数（小数点以下は四捨五入）でお答えください。

※内訳についてわかる場合は、②～④をお答えください。

例：交渉で定まった額は1億円で、加害者側から9,000万円（加害者本人から1,000万円、加害者の加入していた保険会社から8,000万円）の支払があった場合

加害者側からの支払 ① おおよそ () % 上記例の場合：90%

上記の内訳：加害者本人、加害者の親族、加害者の雇用主からの支払 ② おおよそ () % 上記例の場合：10%

：加害者の加入していた保険会社からの支払 ③ おおよそ () % 上記例の場合：80%

：その他からの支払（ご自身の保険などは除きます） ④ おおよそ () % 上記例の場合：0%

わからない

(参考) 自動計算式 ※必要に応じてご利用ください。

・訴訟や交渉などで定まった額：() 円

・加害者側からの支払額：() 円

　　うち、加害者本人、加害者の親族、加害者の雇用主からの支払額：() 円

　　　　加害者の加入していた保険会社からの支払額：() 円

　　　　その他からの支払額：() 円

① おおよそ () %

② おおよそ () %

③ おおよそ () %

④ おおよそ () %

* 加害者側：加害者本人のほか、加害者の親族、加害者の雇用主、加害者の加入していた保険会社を含みます。

Q46

<Q45①で「0%」以外の回答をした方>

※Q45①で「100」%と回答した方

【訴訟や交渉などで損害賠償額が定まってから、全額の賠償が支払われるまでに、】どのくらいの期間がかかりましたか。

※Q45①で「100」%未満（0%を除く）と回答した方

【加害者側*から最後に賠償の一部が支払われてから、】どのくらいの期間が経過していますか。

（ひとつだけ）

○1	2週間未満
○2	2週間以上1か月未満
○3	1か月以上半年未満
○4	半年以上1年未満
○5	1年以上2年未満
○6	2年以上5年未満
○7	5年以上
○8	わからない

* 加害者側：加害者本人のほか、加害者の親族、加害者の雇用主、加害者の加入していた保険会社を含みます。

第3章 付属資料（アンケート調査票）

Q47

<Q45①で「100」%未満と回答した方>

加害者側*からの賠償の支払が全額に至っていない理由をお答えください。
(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	加害者側に資力がなかったから
<input type="checkbox"/> 2	加害者側に賠償する意思がなかった・途中から賠償する意思がなくなったから
<input type="checkbox"/> 3	加害者側の所在が分からず、督促ができなかったから
<input type="checkbox"/> 4	加害者が刑務所に入っているから
<input type="checkbox"/> 5	現在、分割で支払われている
<input type="checkbox"/> 6	わからない
<input type="checkbox"/> 7	その他（具体的に： ）

* 加害者側：加害者本人のほか、加害者の親族、加害者の雇用主、加害者の加入していた保険会社を含みます。

Q48

<Q41で「7 交渉したが、合意に至らなかった」又は「9 訴訟や交渉などを行っていない」を選択した方>

加害者側*から何らかの賠償の支払がありましたか。
(ひとつだけ)

<input type="radio"/> 1	支払あり
<input type="radio"/> 2	支払なし

* 加害者側：加害者本人のほか、加害者の親族、加害者の雇用主、加害者の加入していた保険会社を含みます。

Q49

<Q41で「9 訴訟や交渉などを行っていない」を選択した方>

加害者側*との間で賠償に関する訴訟や交渉などを行わなかった理由をお答えください。
(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	加害者側に資力がなかったから
<input type="checkbox"/> 2	加害者側に賠償する意思がなかったから
<input type="checkbox"/> 3	加害者側の所在が分からなくなったから
<input type="checkbox"/> 4	加害者が刑務所に入っているから
<input type="checkbox"/> 5	加害者側とこれ以上関わりたくないから
<input type="checkbox"/> 6	手続などが大変だと思ったから
<input type="checkbox"/> 7	弁護士に頼む資力がなかったから
<input type="checkbox"/> 8	どのような手続をとればよいかわからなかったから
<input type="checkbox"/> 9	今後、賠償請求する予定
<input type="checkbox"/> 10	他に公的な給付・支給や民間団体からの給付・支給を受けたから
<input type="checkbox"/> 11	その他（具体的に： ）

* 加害者側：加害者本人のほか、加害者の親族、加害者の雇用主、加害者の加入していた保険会社を含みます。

■事件後から現在までの、生活の変化についておたずねします。

Q50

事件にあつと、生活上の変化が起こることがよくあります。事件後から現在まで、あなたの生活には以下のような出来事がありましたか。

※回答上の注意

- ・経験した出来事については、「経験した」を選択してください。
- ・経験した出来事が事件と関連していると思う場合は、「事件と関連があると思う」を選択してください。
- ・あてはまるものがない／事件と関連があると思うものはない場合は、「あてはまるものはない／事件と関連があると思うものはない」の項目において、「経験した」と「事件と関連があると思う」の両方を選択してください。

	経験した	事件と関連がある
学校または仕事を辞めた、変えた	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1
学校または仕事をしばらく休んだ（休学、休職）	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2
長期に通院したり入院したりするようなかげや病気をした	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 3
自分が転居（引越し）をした	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4
結婚した	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 5
別居・離婚をした	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 6
望まない妊娠をした	<input type="checkbox"/> 7	<input type="checkbox"/> 7
子どもが生まれた	<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 8
同居している家族が結婚した	<input type="checkbox"/> 9	<input type="checkbox"/> 9
同居している家族に子どもが生まれた	<input type="checkbox"/> 10	<input type="checkbox"/> 10
同居している家族の看護・介護が必要になった	<input type="checkbox"/> 11	<input type="checkbox"/> 11
家族が亡くなった	<input type="checkbox"/> 12	<input type="checkbox"/> 12
家族間の信頼が深まった	<input type="checkbox"/> 13	<input type="checkbox"/> 13
家族間で不和が起こった	<input type="checkbox"/> 14	<input type="checkbox"/> 14
学校や職場、地域の人々との関係が親密になった	<input type="checkbox"/> 15	<input type="checkbox"/> 15
学校や職場、地域の人々との関係が悪化した	<input type="checkbox"/> 16	<input type="checkbox"/> 16
その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/> 17	<input type="checkbox"/> 17
あてはまるものはない／事件と関連があると思うものはない	<input type="checkbox"/> 18	<input type="checkbox"/> 18

Q51

事件直後と比較して、以下のような状況について、現在どのように変わったと思いますか。

（それぞれひとつずつ）

	悪化した	やや悪化した	変わらない	少し回復した	回復した	わからない
身体的な状況	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
精神的な状況	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
経済的な状況	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6

第3章 付属資料（アンケート調査票）

Q52

<Q51で「1 身体的な状況」、「2 精神的な状況」、「3 経済的な状況」でそれぞれ「悪化した」、「やや悪化した」と回答した方>
 悪化した状況についてどのようなことで悪化したとお考えですか。
 （それぞれひとつずつ）

	よ っ て に 悪 化 し た 問 題 に	化 し た 以 外 の 出 来 事 で 悪	わ か ら な い
身体的な状況	○1	○2	○3
精神的な状況	○1	○2	○3
経済的な状況	○1	○2	○3

Q53

あなたは現在、事件による被害から、ご自分がどのくらい回復したと感じていますか。
 1を「全く回復していない」、10は「もとおおり回復した」として、もっともあてはまるものを選んでください。
 （ひとつだけ）

○1	1. 全く回復していない
○2	2
○3	3
○4	4
○5	5. 半分くらい回復した
○6	6
○7	7
○8	8
○9	9
○10	10. もとおおり回復した

■事件後に受けた支援や使った制度についてお伺いします。

Q54

あなたは、地方公共団体（都道府県や市区町村）に犯罪被害者等への総合的な対応を行う窓口（「総合的対応窓口」）があることを知っていますか。
 （ひとつだけ）

○1	知らなかった
○2	被害にあったのちに知った
○3	被害にあう前から知っていた

Q55

<Q54で「2 被害にあったのちに知った」、「3 被害にあう前から知っていた」と回答した方>

あなたはそうした窓口を何によって知りましたか。

(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	警察庁Webサイト
<input type="checkbox"/> 2	都道府県警察Webサイト、ソーシャルメディア (X (旧Twitter)、Facebook、Instagramなど)
<input type="checkbox"/> 3	都道府県警察の広報紙・チラシ・パンフレットなど
<input type="checkbox"/> 4	地方公共団体のWebサイト、ソーシャルメディア (X (旧Twitter)、Facebook、Instagramなど)
<input type="checkbox"/> 5	地方公共団体の広報誌・チラシ・パンフレットなど
<input type="checkbox"/> 6	犯罪被害者白書
<input type="checkbox"/> 7	民間の犯罪被害者支援団体のWebサイト、ソーシャルメディア (X (旧Twitter)、Facebook、Instagramなど)
<input type="checkbox"/> 8	民間の犯罪被害者支援団体の広報誌・チラシ・パンフレットなど
<input type="checkbox"/> 9	新聞・雑誌 (Webも含まれます。)
<input type="checkbox"/> 10	テレビ・ラジオ
<input type="checkbox"/> 11	周りの人 (家族や友人、知人など) に教えてもらった
<input type="checkbox"/> 12	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの人に教えてもらった
<input type="checkbox"/> 13	行政機関・福祉機関の相談窓口の人に教えてもらった (具体的機関名: _____)
<input type="checkbox"/> 14	警察の人に教えてもらった
<input type="checkbox"/> 15	民間の犯罪被害者支援団体の人に教えてもらった
<input type="checkbox"/> 16	その他 (具体的に: _____)

Q56

<Q54で「2 被害にあったのちに知った」、「3 被害にあう前から知っていた」と回答した方>

あなたはそうした窓口を実際に利用しましたか。

(ひとつだけ)

<input type="radio"/> 1	利用した
<input type="radio"/> 2	利用しなかった

Q57

<Q56で「2 利用しなかった」と回答した方>

利用しなかった理由を教えてください。

(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	窓口相談するほどの被害ではないと思ったから
<input type="checkbox"/> 2	窓口相談すると物事がどのように進むのか予想ができないから
<input type="checkbox"/> 3	窓口がどこにあるかわからなかったから
<input type="checkbox"/> 4	低年齢であったため、相談することを思い至らなかった
<input type="checkbox"/> 5	他の機関による相談・支援で足りたため、相談する必要がなかった
<input type="checkbox"/> 6	どうせとりあってもらえないと思ったから
<input type="checkbox"/> 7	手続などが大変だと思ったから
<input type="checkbox"/> 8	周囲の目が気になるから
<input type="checkbox"/> 9	被害の話をするのがつらかったから
<input type="checkbox"/> 10	その他 (具体的に: _____)

第3章 付属資料（アンケート調査票）

Q58

あなたまたはご家族は、今回の被害に対処するために、次のような機関や団体の支援を受けたり、制度を使ったりしましたか。
各機関や団体の支援・制度の内容については下表を参照ください。

（いくつでも）

<input type="checkbox"/> 1	警察
<input type="checkbox"/> 2	検察庁
<input type="checkbox"/> 3	裁判制度
<input type="checkbox"/> 4	日本司法支援センター（法テラス（民事法律扶助協会など含む））
<input type="checkbox"/> 5	弁護士会
<input type="checkbox"/> 6	地方公共団体
<input type="checkbox"/> 7	児童相談所
<input type="checkbox"/> 8	その他の福祉機関・行政機関（具体的機関名： ）
<input type="checkbox"/> 9	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター
<input type="checkbox"/> 10	医療機関
<input type="checkbox"/> 11	学校
<input type="checkbox"/> 12	職場
<input type="checkbox"/> 13	民間の犯罪被害者支援団体・被害者団体・自助グループ
<input type="checkbox"/> 14	その他（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 15	いずれの機関・団体の支援も受けていない／制度も使っていない

【各機関・団体による支援・制度の例】

機関・団体	支援・制度例
警察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事件発生直後からの付添い（各種捜査手続における補助、自宅への送迎、家族への連絡、病院への付添いなど） ・ 「被害者の手引」による各種支援内容や刑事手続に関する情報提供 ・ 加害者に関する情報（捜査、検挙、処分状況）の提供（被害者連絡制度） ・ 地域警察官による被害者訪問・連絡活動 ・ 相談・カウンセリング ・ 犯罪被害給付制度 ・ 公費負担制度（犯罪被害に係る初診料、診断書料、カウンセリング費用など） ・ 身辺警戒やパトロールなどによる身の安全の確保（再被害防止）
検察庁	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「被害者支援員」による法廷への付添いや各種手続の補助 ・ 「被害者ホットライン」による相談や問合せ ・ 公判期日、裁判結果などに関する情報提供（被害者等通知制度） ・ 冒頭陳述の内容を記載した書面の交付
裁判制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刑事裁判における被害者参加制度 ・ 優先的に裁判を傍聴できる制度 ・ 証人尋問でのビデオリンク・遮へい措置 ・ 公判記録の閲覧・コピー（確定後も含む） ・ 刑事和解制度 ・ 民事損害賠償請求制度（民事訴訟） ・ ADR（仲裁、調停、和解あっせん）
日本司法支援センター（法テラス）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刑事手続の仕組みや、損害の回復や苦痛の軽減を図るための制度に関する情報の提供 ・ 犯罪被害者支援を行っている機関・団体の案内（紹介、取次ぎなど） ・ 被害者支援の経験や理解のある弁護士の紹介 ・ 民事法律扶助制度（弁護士費用の立替えなど） ・ DV等被害者法律相談援助制度 ・ 被害者参加人のための国選弁護制度 ・ 被害者参加旅費等支給制度
弁護士会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「犯罪被害者支援窓口」における相談
地方公共団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的対応窓口における相談 ・ 見舞金・貸付金の支給 ・ 公営住宅への優先入居 ・ 転居費用・家賃の補助 ・ 家事・育児・介護などの生活支援 ・ 社会保障・福祉制度（障害者福祉・生活保護など）
児童相談所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談 ・ 一時保護 ・ 家族支援
その他の福祉機関・行政機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハローワークによる就労支援
性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター	<p>※性犯罪・性暴力被害に関する相談に限る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談 ・ 病院、警察などへの付添い ・ カウンセリングなどの心理的ケア ・ 弁護士などによる法律相談・弁護士の紹介 ・ 司法制度や行政手続の説明、手続補助
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高額療養費制度*1 ・ 自立支援医療制度*2
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクールカウンセラーや教職員による心のケア ・ 被害者または加害者の転校などの配慮
職場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休暇の取得などの配慮 ・ 職場復帰のための支援
民間の犯罪被害者支援団体・被害者団体・自助グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談 ・ 病院、警察などへの付添い ・ カウンセリングなどの心理的ケア ・ 弁護士などによる法律相談・弁護士の紹介 ・ 司法制度や行政手続の説明、手続補助 ・ 自助グループへの参加

*1 高額療養費制度：医療費の家計負担が重くならないよう、医療機関や薬局の窓口で支払う医療費が1か月で上限額を超えた場合、その超えた額を支給する制度

*2 自立支援医療制度：心身の障害を除去・軽減するための医療について、医療費の自己負担額を軽減する公費負担医療制度

第3章 付属資料（アンケート調査票）

Q59

<Q58で「1 警察」～「14 その他」と回答した方>

支援を受けた／制度を使った機関や団体の対応に対してどのくらい満足されましたか。以下のそれぞれの機関や団体についてお答えください。
（それぞれひとつずつ）

	満足した	やや満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	満足しなかった
警察	○1	○2	○3	○4	○5
検察庁	○1	○2	○3	○4	○5
裁判制度	○1	○2	○3	○4	○5
日本司法支援センター（法テラス（民事法律扶助協会など含む））	○1	○2	○3	○4	○5
弁護士会	○1	○2	○3	○4	○5
地方公共団体	○1	○2	○3	○4	○5
児童相談所	○1	○2	○3	○4	○5
その他の福祉機関・行政機関【Q58の具体的な機関名の回答表示】	○1	○2	○3	○4	○5
性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター	○1	○2	○3	○4	○5
医療機関	○1	○2	○3	○4	○5
学校	○1	○2	○3	○4	○5
職場	○1	○2	○3	○4	○5
民間の犯罪被害者支援団体・被害者団体・自助グループ	○1	○2	○3	○4	○5
その他【Q58の「その他」の回答表示】	○1	○2	○3	○4	○5

Q60

<Q59と同じ方>

前問において、【警察/検察庁/裁判制度/日本司法支援センター（法テラス（民事法律扶助協会など含む））/弁護士会/地方公共団体/児童相談所 /その他の福祉機関・行政機関/性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター/医療機関/学校/職場 /民間の犯罪被害者支援団体・被害者団体・自助グループ/その他】の対応について、
【満足した/やや満足した/どちらともいえない/あまり満足しなかった/満足しなかった】を選択した理由を記載ください。

- 警察
- 検察庁
- 裁判制度
- 日本司法支援センター（法テラス（民事法律扶助協会など含む））
- 弁護士会
- 地方公共団体
- 児童相談所
- その他の福祉機関・行政機関【Q58の具体的な機関名の回答表示】
- 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター
- 医療機関
- 学校
- 職場
- 民間の犯罪被害者支援団体・被害者団体・自助グループ
- その他【Q58の「その他」の回答表示】

Q61

事件後、あなたまたはご家族はどのような支援・配慮を必要としましたか、または現在必要としていますか。
「被害を受けた直後」と「現在」それぞれについて特に重要だと思うものをそれぞれ最大5つまでお答えください。
(各たて列でそれぞれ5つまで)

		被害を受けた直後	現在
相談等支援	事件・被害に関する話を聞いてもらう	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1
	役所等での手続補助	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2
法的関係支援	警察・検察との対応の手助け、付添い	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 3
	司法手続のことを教えてもらう	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4
	弁護士の紹介	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 5
	刑事裁判に関する手助け	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 6
	損害賠償に関する手助け	<input type="checkbox"/> 7	<input type="checkbox"/> 7
医療関係支援	裁判所へ行く際の付添い	<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 8
	医療機関の紹介	<input type="checkbox"/> 9	<input type="checkbox"/> 9
医療関係支援	医療機関へ行く際の付添い	<input type="checkbox"/> 10	<input type="checkbox"/> 10
	住まいに関する支援（一時避難場所の確保や転居の手助けなど）	<input type="checkbox"/> 11	<input type="checkbox"/> 11
住居・生活関係支援	生活全般の手伝い（買い物など身の回りのことを含む）	<input type="checkbox"/> 12	<input type="checkbox"/> 12
	家族の介護に関する手助け	<input type="checkbox"/> 13	<input type="checkbox"/> 13
	こどもの世話に関する手助け	<input type="checkbox"/> 14	<input type="checkbox"/> 14
	こどもの進学・学習に関する支援	<input type="checkbox"/> 15	<input type="checkbox"/> 15
	就労に関する支援	<input type="checkbox"/> 16	<input type="checkbox"/> 16
経済的支援	経済的な支援	<input type="checkbox"/> 17	<input type="checkbox"/> 17
精神的支援	精神的な支援（カウンセリングなど）	<input type="checkbox"/> 18	<input type="checkbox"/> 18
その他の支援	報道機関の対応の手助け	<input type="checkbox"/> 19	<input type="checkbox"/> 19
	支援団体、自助グループ等の紹介	<input type="checkbox"/> 20	<input type="checkbox"/> 20
配慮	プライバシーなどへの配慮	<input type="checkbox"/> 21	<input type="checkbox"/> 21
	職場・学校などへの配慮	<input type="checkbox"/> 22	<input type="checkbox"/> 22
その他	そっとしておいてもらうこと	<input type="checkbox"/> 23	<input type="checkbox"/> 23
	その他（具体的に： ）	<input type="checkbox"/> 24	<input type="checkbox"/> 24
	特になし	<input type="checkbox"/> 25	<input type="checkbox"/> 25
	どのような支援・配慮が必要かわからなかった	<input type="checkbox"/> 26	<input type="checkbox"/> 26

■事件後に関わった人から受けた言動についておたずねします。

Q62

事件後に、以下の人々の言動や態度によってあなたの気持ちにどのような変化が生じましたか。
（各行でそれぞれいくつでも）

	傷つけられた	たは気生持ちになっか変化	た的精神的支え・情緒	がちこれら関わり
家族、親族	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
友人、知人	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
同じ職場、学校などに通っている人	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
学校や塾の先生	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
近所、地域の人	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
警察官・警察職員	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
検察官・検察庁職員	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
裁判官・裁判所職員	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
弁護士（加害者関係者の弁護人を除く）	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
日本司法支援センター（法テラス）の職員	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターのスタッフ	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
地方公共団体の職員（都道府県や市区町村の窓口職員など）	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
児童相談所のスタッフ	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
医療機関のスタッフ（医師、看護師、事務職員など）	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
民間団体の人（犯罪被害者支援団体、被害者団体、自助グループ）	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
報道関係者	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
世間の声（インターネット上の書き込みや投書、電話など）	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
加害者関係者（加害者本人・家族、弁護人など）	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4

■最後に、事件のこと、事件後から現在までの心境や状況の変化、必要な支援などについておたずねします。

Q63

アンケートに書ききれなかったことがございましたら、ご自由にお書きください。

最後までご回答いただき、誠にありがとうございました。
皆さまからいただいた回答内容は、個人が特定されないように調査結果をまとめ、
政府による犯罪被害者等のための施策の企画・立案などに向けた重要なお意見として、活用させていただきます。

気分が不安定になった方や誰かに相談をしたい気持ちになった方は、以下のリンクをご参照ください。

- 気分が不安定になり、気持ちを落ち着ける方法を知りたい方
・ 不安との付き合い方（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所HP）
: <https://www.ncnp.go.jp/nimh/behavior/anxiety/index.html> ※ページ下部参照

- 気分が不安定になり、こころの健康に関する情報を知りたい方
・ こころの情報サイト（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所HP）
: <https://kokoro.ncnp.go.jp>

- 誰かに相談したい気持ちになった方
・ 被害者支援センター（公益社団法人全国被害者支援ネットワークHP）
: <https://www.nnvs.org/shien/list/>

- 受けたDV被害について相談が必要な方（相談しようと思った方）
・ DV関係相談窓口（内閣府男女共同参画局HP）
: https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/soudankikan/01.html

- 現在も被害にあわれていたり、相談を希望される方
・ 都道府県警察の被害相談窓口（警察庁犯罪被害者等施策HP）
: <https://www.npa.go.jp/higaisya/ichiran/index.html>

- その他、犯罪被害に関する各種窓口
・ 相談窓口（警察庁犯罪被害者等施策HP）
: <https://www.npa.go.jp/hanzaihigai/soudan/index.html>

3-3. 一般対象者調査票

■あなたの身体状態や精神状態についておたずねします。

P1

過去30日の間に、どれくらいの頻度で次のことがありましたか。
（それぞれひとつずつ）

	全 く な い	少 し だ け	と き ど き	た い て い	い つ も
神経過敏に感じましたか	○1	○2	○3	○4	○5
絶望的だと感じましたか	○1	○2	○3	○4	○5
そわそわ、落ち着かなく感じましたか	○1	○2	○3	○4	○5
気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか	○1	○2	○3	○4	○5
何をしても骨折りだと感じましたか	○1	○2	○3	○4	○5
自分は価値のない人間だと感じましたか	○1	○2	○3	○4	○5

P2

それぞれの項目について、あなたはどれくらいの頻度で感じているかお答えください。
（それぞれひとつずつ）

	決 し て な い	ほ と ん ど な い	時 々 あ る	常 に あ る
自分には人との付き合いがないと感じることがありますか	○1	○2	○3	○4
自分は取り残されていると感じることがありますか	○1	○2	○3	○4
自分は他の人たちから孤立していると感じることはありますか	○1	○2	○3	○4

P3

あなたは過去30日の間に、なんらかの身体上の問題を感じましたか。
（ひとつだけ）

○1	感じなかった
○2	感じた

P4

<P3で「2 感じた」と回答した方>

その身体上の問題を、どのように対処されていますか。
（いくつでも）

<input type="checkbox"/> 1	医療機関に通った（訪問診療を含む）
<input type="checkbox"/> 2	医療機関には通っていないが、市販の薬を服用、湿布した
<input type="checkbox"/> 3	その他（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 4	特に何もしていない

P5

あなたは過去30日の間に、なんらかの精神的な問題や悩みを感じましたか。
(ひとつだけ)

<input type="radio"/> 1	感じなかった
<input type="radio"/> 2	感じた

P6

<P5で「2 感じた」と回答した方>

その精神的な問題や悩みを、どのように対処されていますか。
(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	医療機関（精神科以外も含む）に通った（訪問診療を含む）
<input type="checkbox"/> 2	公的機関や民間団体において、カウンセリングを受けたり相談をしたりした
<input type="checkbox"/> 3	自助グループに参加した
<input type="checkbox"/> 4	家族や知人に相談した
<input type="checkbox"/> 5	その他（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 6	特に何もしていない

P7

この1年間に、心身の不調などによって、あなたの仕事や日常生活が行えなくなったと感じた日が何日ありましたか。
枠内におおよその日数をお答えください。
全くなかった場合には「0」と記入してください。

おおよそ 日

P8

あなたは、地方公共団体（都道府県や市区町村）に犯罪被害者等への総合的な対応を行う窓口（「総合的対応窓口」）があることを知っていますか。
また、知っていた場合は知るに至った経緯をお答えください。
(ひとつだけ)

<input type="radio"/> 1	知らなかった
<input type="radio"/> 2	知っていた（経緯： ）

第3章 付属資料（アンケート調査票）

■あなたの生活の変化についておたずねします。

P9

最近5年間程度の間、あなたの生活には以下のような出来事はありましたか。
(いくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	学校または仕事を辞めた、変えた
<input type="checkbox"/> 2	学校または仕事をしばらく休んだ（休学、休職）
<input type="checkbox"/> 3	長期に通院したり入院したりするようないけがや病気をした
<input type="checkbox"/> 4	自分が転居（引越し）をした
<input type="checkbox"/> 5	結婚した
<input type="checkbox"/> 6	別居・離婚をした
<input type="checkbox"/> 7	望まない妊娠をした
<input type="checkbox"/> 8	子どもが生まれた
<input type="checkbox"/> 9	同居している家族が結婚した
<input type="checkbox"/> 10	同居している家族に子どもが生まれた
<input type="checkbox"/> 11	同居している家族の看護・介護が必要になった
<input type="checkbox"/> 12	家族が亡くなった
<input type="checkbox"/> 13	家族間の信頼が深まった
<input type="checkbox"/> 14	家族間で不和が起こった
<input type="checkbox"/> 15	学校や職場、地域の人々との関係が親密になった
<input type="checkbox"/> 16	学校や職場、地域の人々との関係が悪化した
<input type="checkbox"/> 17	その他（具体的に： ）
<input type="checkbox"/> 18	あてはまるものはない

■あなたの経済状況についておたずねします。

P10

あなたは現在の自分の生活についてどのように感じていますか。
(ひとつだけ)

<input type="radio"/> 1	裕福だと思う
<input type="radio"/> 2	やや裕福だと思う
<input type="radio"/> 3	どちらともいえない
<input type="radio"/> 4	生活にやや困っている
<input type="radio"/> 5	生活にとっても困っている

P11

現在の、あなたの年収はおおよそどの程度ですか。ご家族と同居されている場合は、世帯としての年収をお答えください。
(ひとつだけ)

<input type="radio"/> 1	100万円以下
<input type="radio"/> 2	100万円以上300万円未満
<input type="radio"/> 3	300万円以上600万円未満
<input type="radio"/> 4	600万円以上1,000万円未満
<input type="radio"/> 5	1,000万円以上
<input type="radio"/> 6	わからない

最後までご回答いただき、誠にありがとうございました。